

Ⅲ. 調査結果の詳細

1. 家庭生活における男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識）について

問1 「男は仕事、女は家庭」といった性別によって男女の役割を固定する考え方（固定的性別役割分担意識）についてあなたの考えを教えてください。○は1つだけ

『賛成派』 全体 27.4% 男性 31.3% 女性 24.1% ⇒ 男性の方が高い
 『反対派』 全体 60.8% 男性 57.8% 女性 63.4% ⇒ 女性の方が高い

※「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせて『賛成派』, 「反対する」と「どちらかといえば賛成しない」を合わせて『反対派』とする。

【全体】

「賛成する」が5.6%, 「どちらかといえば賛成する」が21.8%で『賛成派』は27.4%, 「反対する」が21.7%, 「どちらかといえば賛成しない」が39.1%で『反対派』は60.8%で、『反対派』が33.4ポイント高く、大きく上回っている。

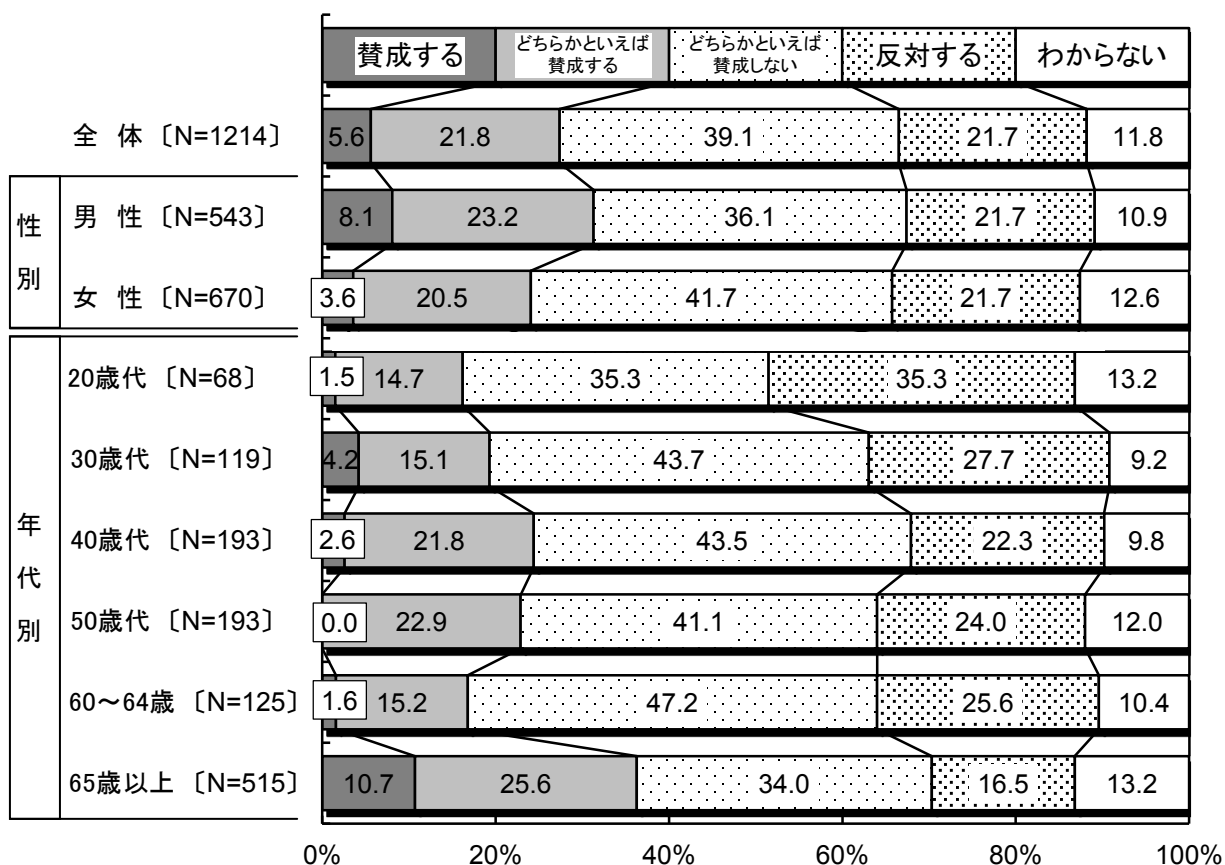
【性別】

男性は『賛成派』が31.3%, 『反対派』が57.8%, 女性は『賛成派』が24.1%, 『反対派』が63.4%で、いずれも『反対派』が大きく上回っている。

【年代別】

60～64歳は『反対派』が72.8%と最も高く、次いで30歳代で71.4%, 20歳代で70.6%と続く。どの年代も『反対派』が『賛成派』を上回っているが、65歳以上はその差が14.2ポイントと小さい。

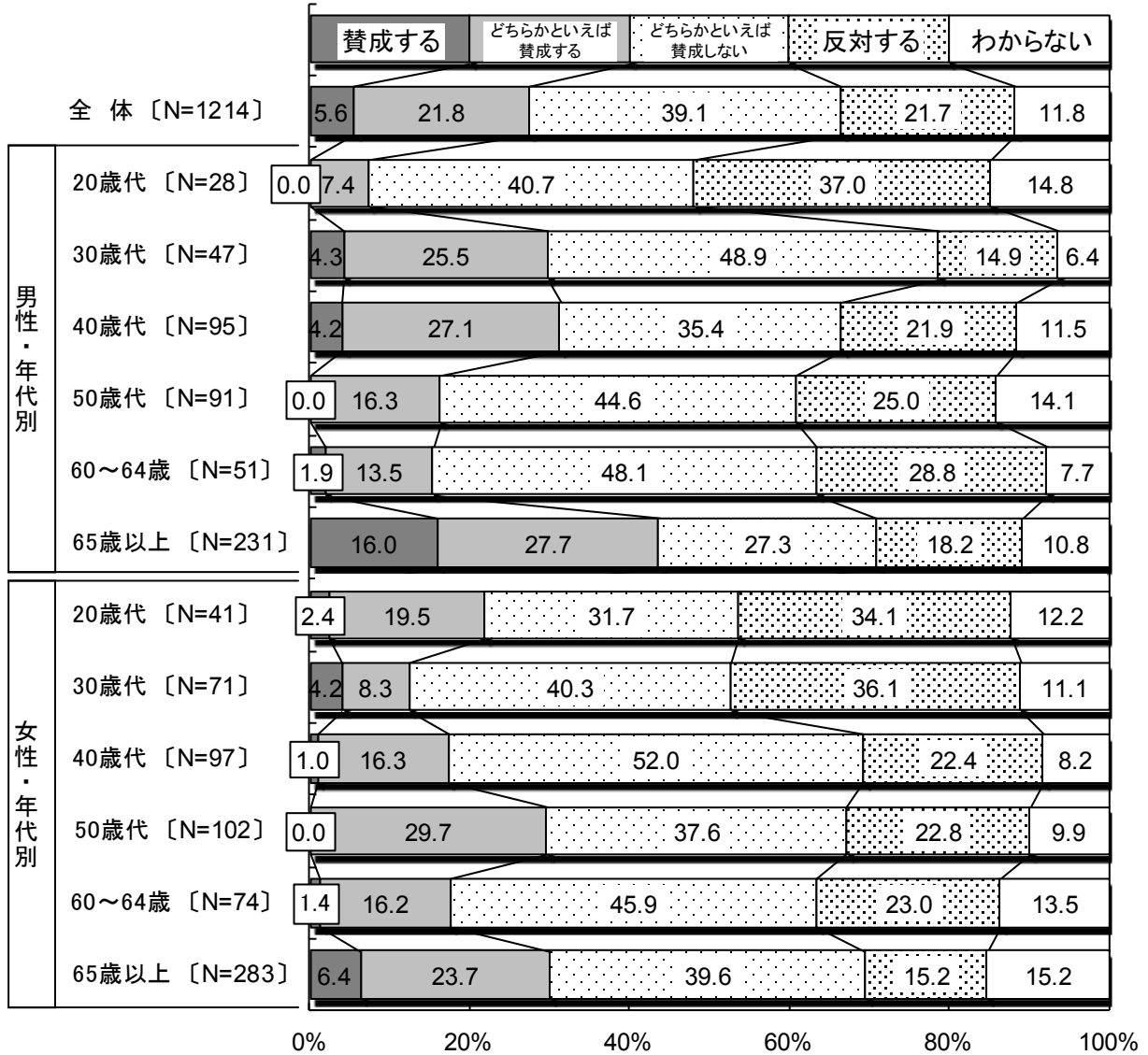
1-1 図 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔全体・性別・年代別〕



【性・年代別】

すべての年代で『反対派』が『賛成派』を上回っており、男性20歳代では、『反対派』が77.7%と最も高い。ただし、男性65歳以上については『賛成派』と『反対派』の差は1.8ポイントに留まっており、有意に『反対派』が『賛成派』上回っているとは言えない。

1-2 図 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔性・年代別〕



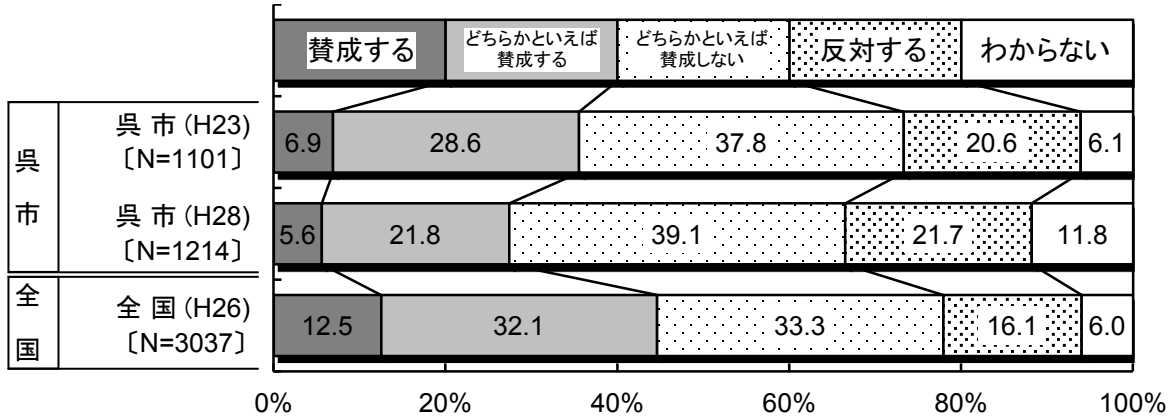
<参考> 全国調査結果，呉市の過去の調査結果との比較

【全体】

平成23年実施の呉市調査結果と比較すると、「どちらかといえば賛成する」が28.6%から21.8%に低下し、『賛成派』は平成23年調査結果の35.5%から27.4%に8.1ポイント減少している。

全国調査の『賛成派』は44.6%であり，全国調査に比べて『賛成派』が少ない。

◆「男は仕事，女は家庭」という考え方について 全国との比較【全体】

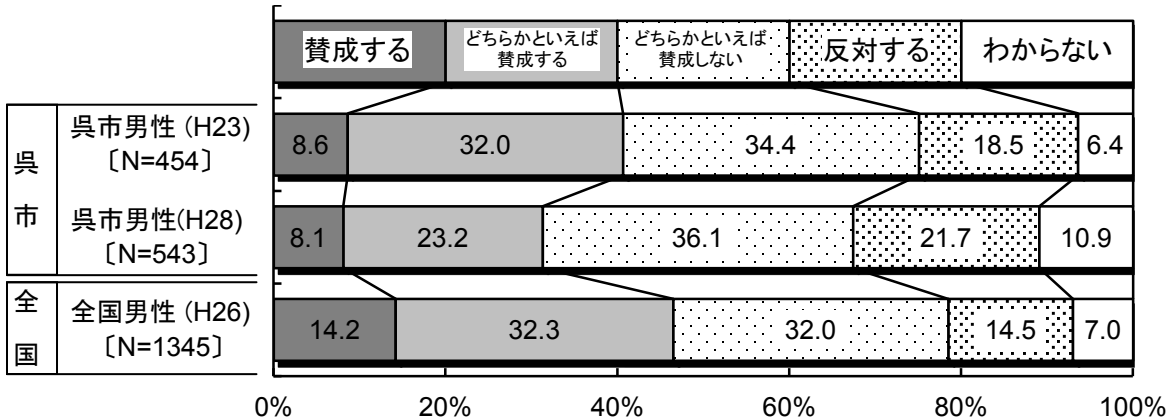


【性別】

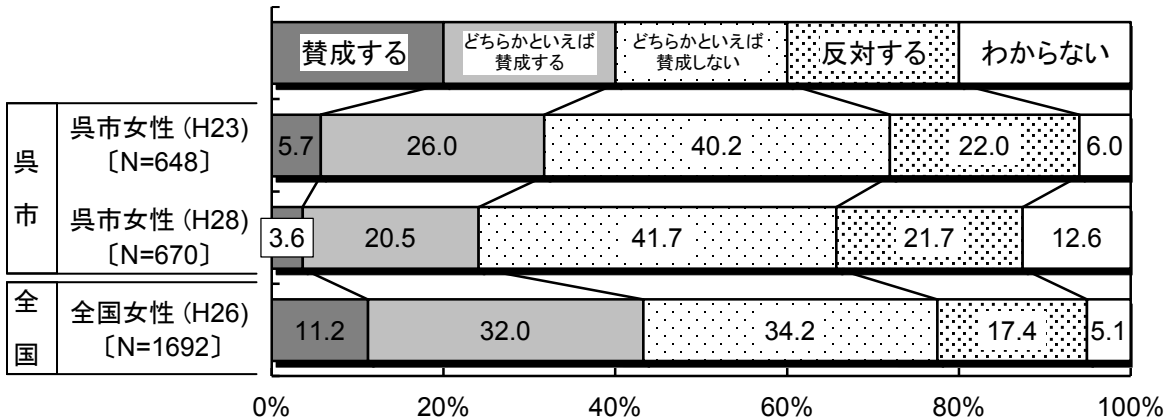
平成23年実施の呉市調査結果と比較すると，男女とも「どちらかといえば賛成する」が減少し，「わからない」が増加している。

全国調査との比較では，男女とも全国調査に比べて『賛成派』が少ない。

◆「男は仕事，女は家庭」という考え方について 全国との比較【性別・男性】



◆「男は仕事，女は家庭」という考え方について 全国との比較【性別・女性】



(2-1) 家庭での役割分担について

問2-1 あなたの家庭の役割分担は、どのようにしていますか。
それぞれについて1～6のいずれかに○

「主に夫」⇒「生活費を得ること」

「主に妻」⇒「炊事」「学校行事への参加」「洗濯」「育児」「家計の管理」「掃除」

「主に夫」「夫・妻で半々」が高い⇒「重大事項の決定（高額な商品の購入など）」

■「主に妻」が最も高い

ア 炊事(かたづけを含む)	83.1%
コ P T A活動等の学校行事への参加	82.2%
ウ 洗濯	80.4%
エ 育児(乳幼児の世話)	78.7%
ク 家計の管理	75.8%
イ 掃除	69.4%
オ 介護・看護	55.3%
ケ 自治会等の地域活動への参加	50.1%

■「主に夫」が最も高い

カ 生活費を得ること 64.7%

■「主に夫」「夫・妻で半々」が高い

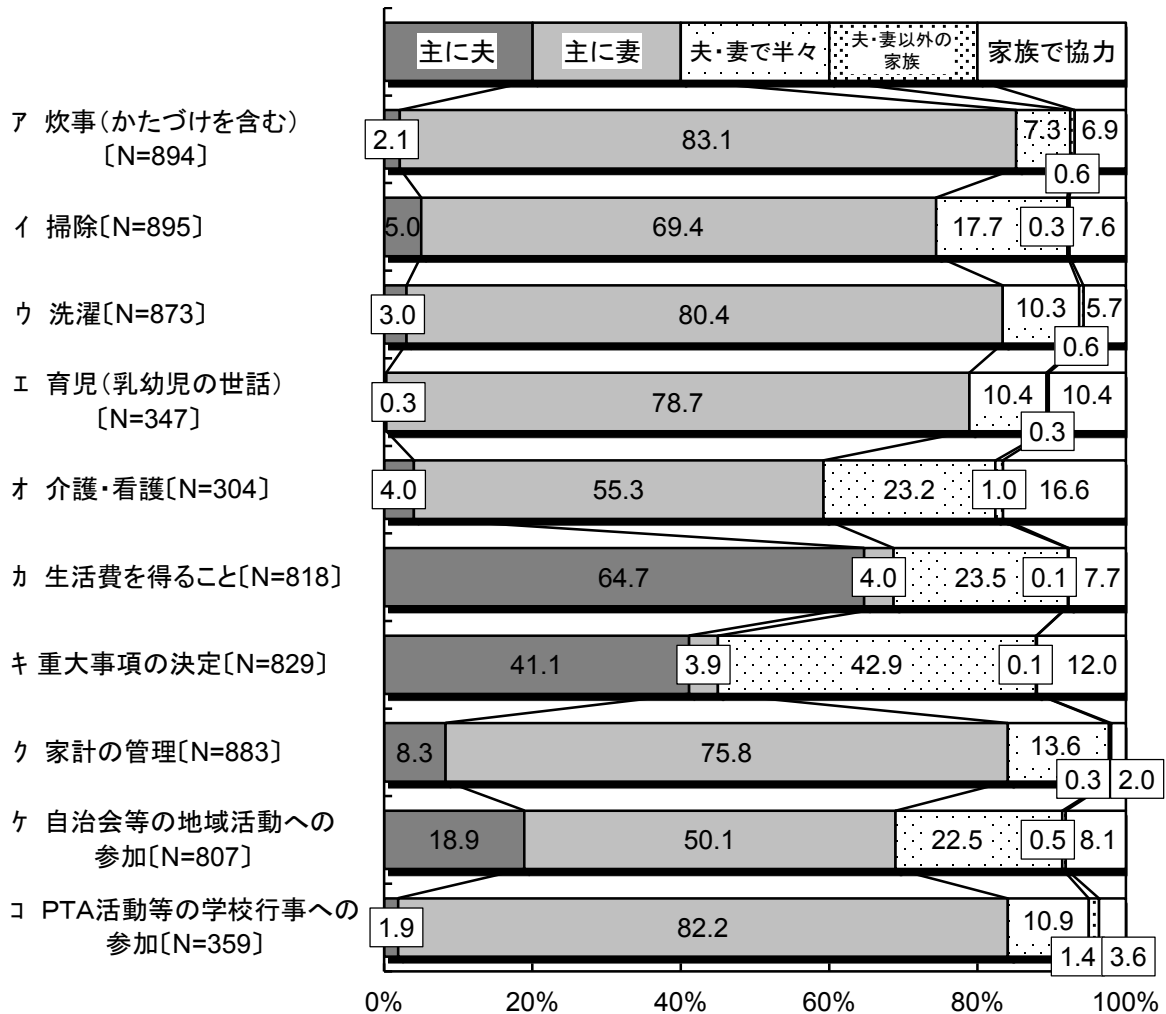
キ 重大事項の決定
(高額な商品や土地・家屋の購入など)

※「主に夫」：41.1%，

※「夫・妻で半々」：42.9%

現在結婚している方のみ

2(1)-1図 家庭の役割分担について〔全体〕



ア 炊事（かたづけを含む）

「主に妻」が83.1%で最も高い

【全体】

「主に妻」が83.1%と最も高く、「夫・妻で半々」が7.3%、「家族で協力」が6.9%で続いている。

【性別】

「主に妻」は、女性が87.7%で、男性の76.9%より10.8ポイント高い。

「夫・妻で半々」は、男性が11.1%で女性の4.4%より6.7ポイント高い。

【年代別】

60～64歳と20歳代は、「家族で協力」がそれぞれ13.9%、12.0%で他の年代より高い。

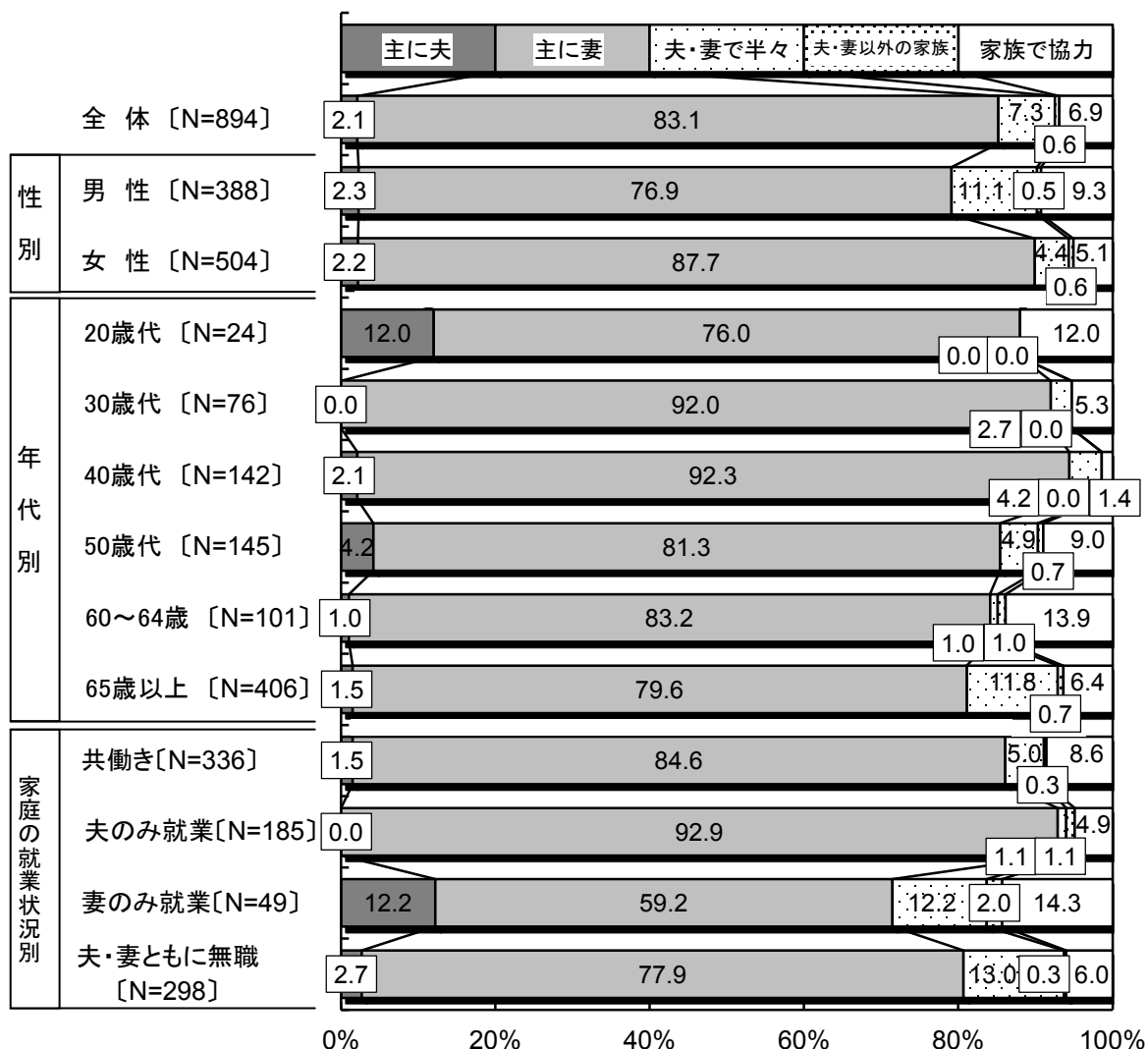
【家庭の就業状況別】

夫のみ就業家庭と共働き家庭は、「主に妻」がそれぞれ92.9%と84.6%で他の就業家庭より高い。夫・妻ともに無職家庭と妻のみ就業家庭は、「夫・妻で半々」がそれぞれ13.0%と12.2%で他の就業家庭より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-2図 家庭の役割分担について ア 炊事(かたづけを含む)

〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



イ 掃除

「主に妻」が 69.4%で最も高い

【全体】

「主に妻」が69.4%と最も高く、「夫・妻で半々」が17.7%、「家族で協力」が7.6%で続いている。

【性別】

「主に妻」は、女性が74.8%で男性の62.6%より12.2ポイント高い。

「夫・妻で半々」は、男性が21.3%で女性の14.7%より6.6ポイント高い。

【年代別】

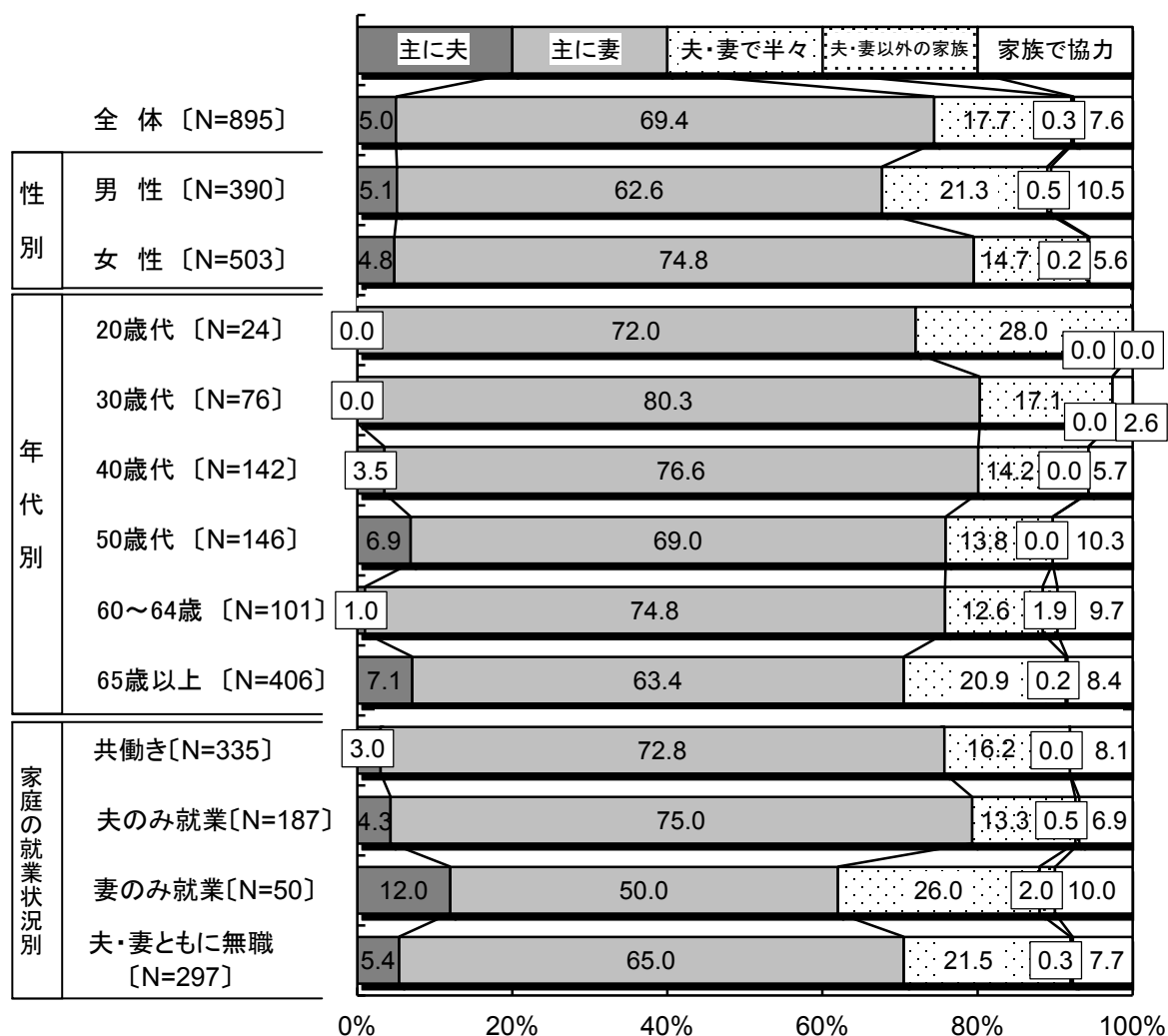
20歳代と65歳以上では、「夫・妻以外の家族」が、それぞれ28.0%と20.9%と他の年代より高い。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「主に妻」が50.0%で他の就業家庭より低く、「夫・妻で半々」が26.0%と、他の就業家庭より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-3図 家庭の役割分担について イ 掃除〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



ウ 洗濯

「主に妻」が80.4%で最も高い

【全体】

「主に妻」が80.4%と最も高く、「夫・妻で半々」が10.3%で続いている。

【性別】

「主に妻」が女性84.6%で男性の75.1%より9.5ポイント高い。

「夫・妻で半々」は、男性が15.2%で女性の6.6%より8.6ポイント高い。

【年代別】

30歳代では、「夫・妻で半々」が17.1%と他の年代より高い。

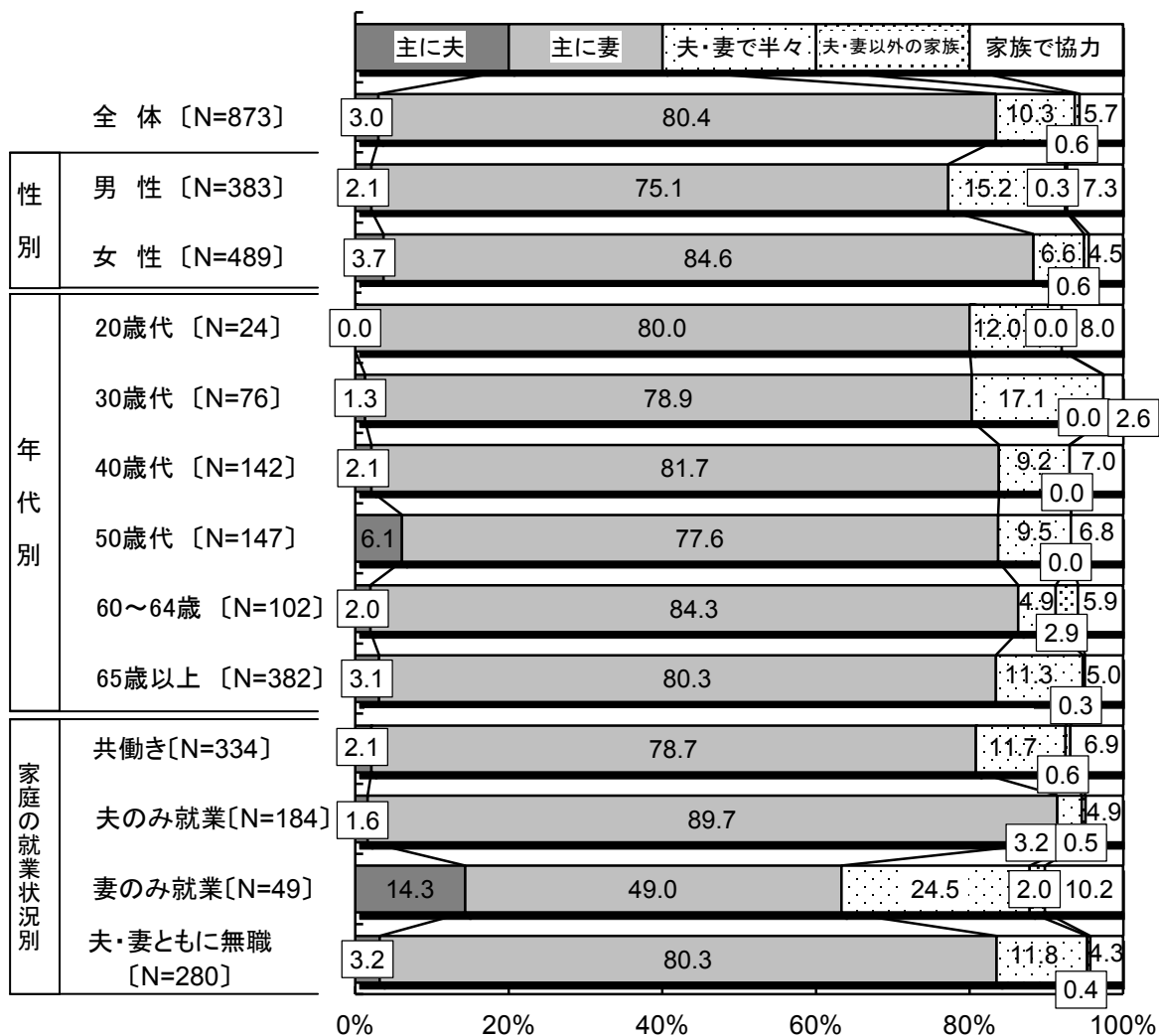
【家庭の就業状況別】

夫のみ就業家庭が89.7%、夫・妻ともに無職家庭が80.3%、共働き家庭が78.7%の順に、「主に妻」が高い。

妻のみ就業家庭は、「主に夫」が14.3%、「夫・妻で半々」が24.5%と他の就業家庭より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-4図 家庭の役割分担について ウ 洗濯【全体・性別・年代別・家庭の就業状況別】



エ 育児（乳幼児の世話）

「主に妻」が78.7%で最も高い

【全体】

「主に妻」が78.7%と最も高く、「夫・妻で半々」が10.4%で続いている。

【性別】

「夫・妻で半々」は、男性が16.5%で女性の6.5%より10.0ポイント高い。

【年代別】

20歳代、40歳代は、「夫・妻で半々」がそれぞれ21.1%、16.7%と、他の年代より高い。

【家庭の就業状況別】

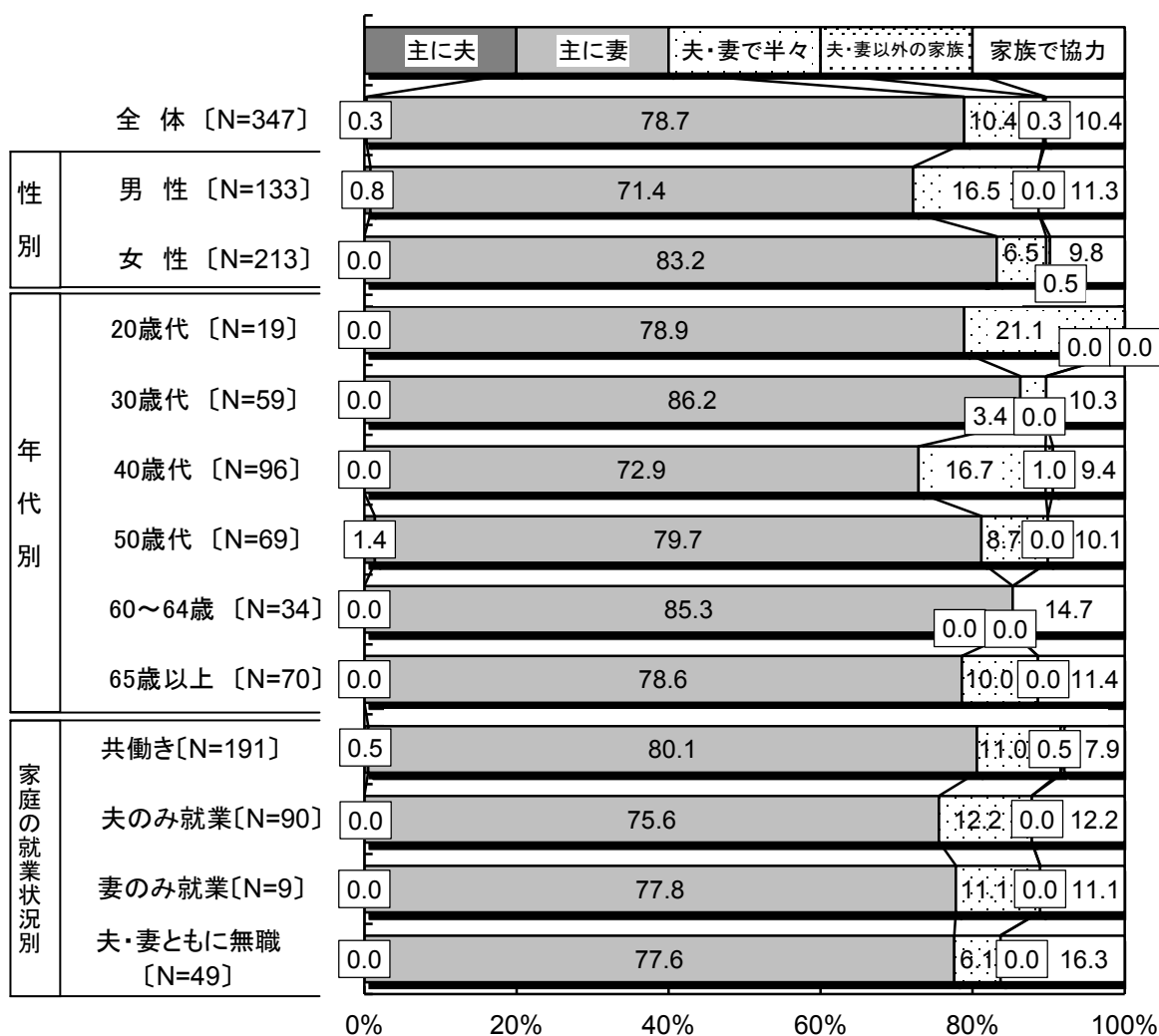
夫・妻ともに無職家庭は「家族で協力」が16.3%と、他の就業家庭より高い。

※妻のみ就業、その他は、標本数が少ないので参考掲載、分析の対象からは除外。

現在結婚している方のみ

2(1)-5図 家庭の役割分担について エ 育児（乳幼児の世話）

〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



オ 介護・看護

「主に妻」が55.3%で最も高い

【全体】

「主に妻」が55.3%と最も高く、「夫・妻で半々」が23.2%、「家族で協力」が16.6%で続いている。

【性別】

「夫・妻で半々」は、男性が28.1%で女性の20.2%より7.9ポイント高い。

【年代別】

30歳代では、「主に妻」「夫・妻以外の家族」がそれぞれ75.0%、18.8%で他の年代より高く、「夫・妻で半々」は6.3%で他の年代より低い。

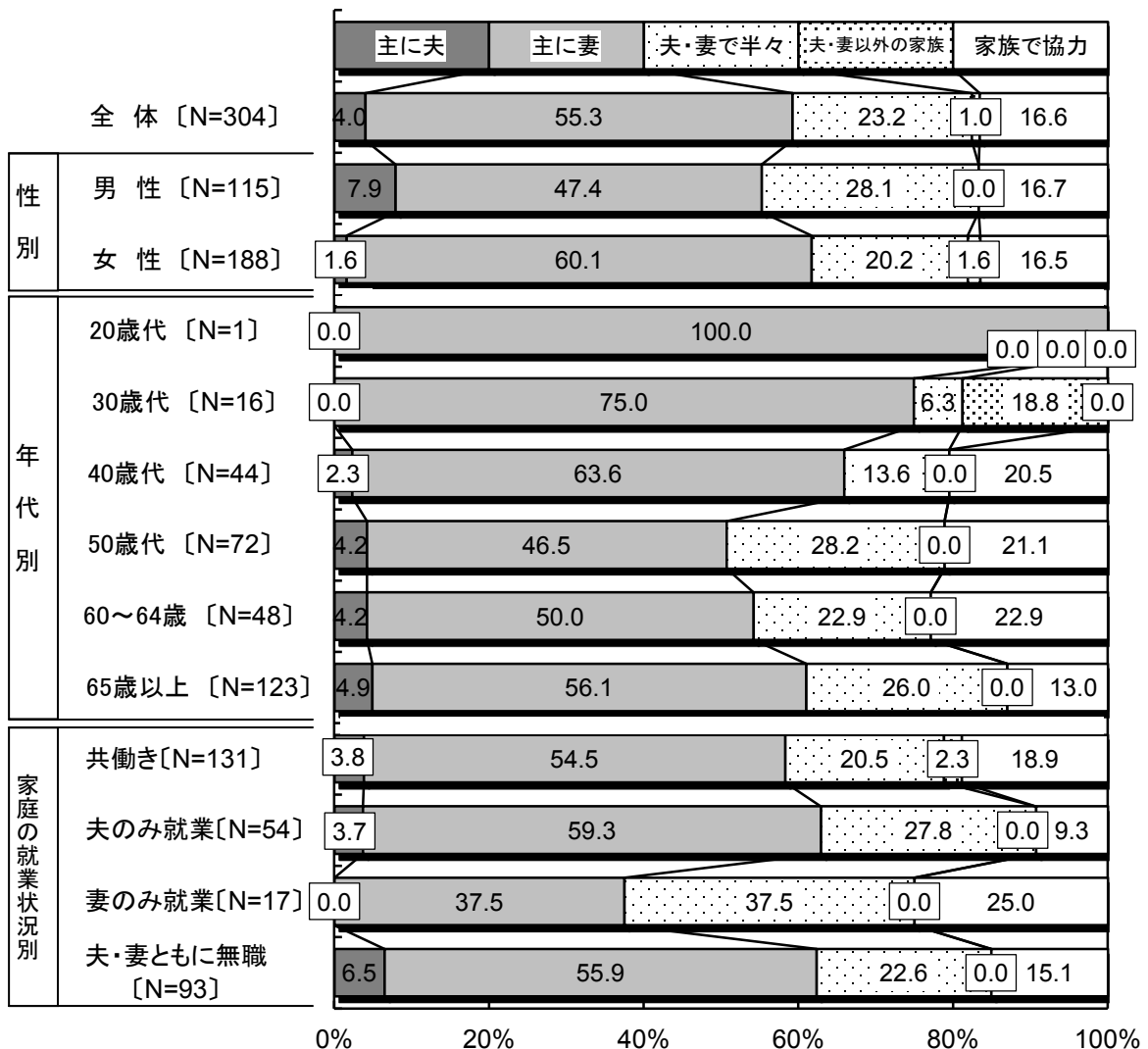
※20歳代は、標本数が少ないので参考掲載、分析の対象からは除外。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「主に妻」が37.5%で他の就業状況より低い。また、「夫・妻で半々」が37.5%で他の就業家庭より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-6図 家庭の役割分担について オ 介護・看護 [全体・性別・年代別・家庭の就業状況別]



カ 生活費を得ること

「主に夫」が64.7%で最も高い

【全体】

「主に夫」が64.7%と最も高く、「夫・妻で半々」が23.5%が続いている。

【性別】

「家族で協力」は、男性が11.0%で女性の5.0%より6.0ポイント高い。

【年代別】

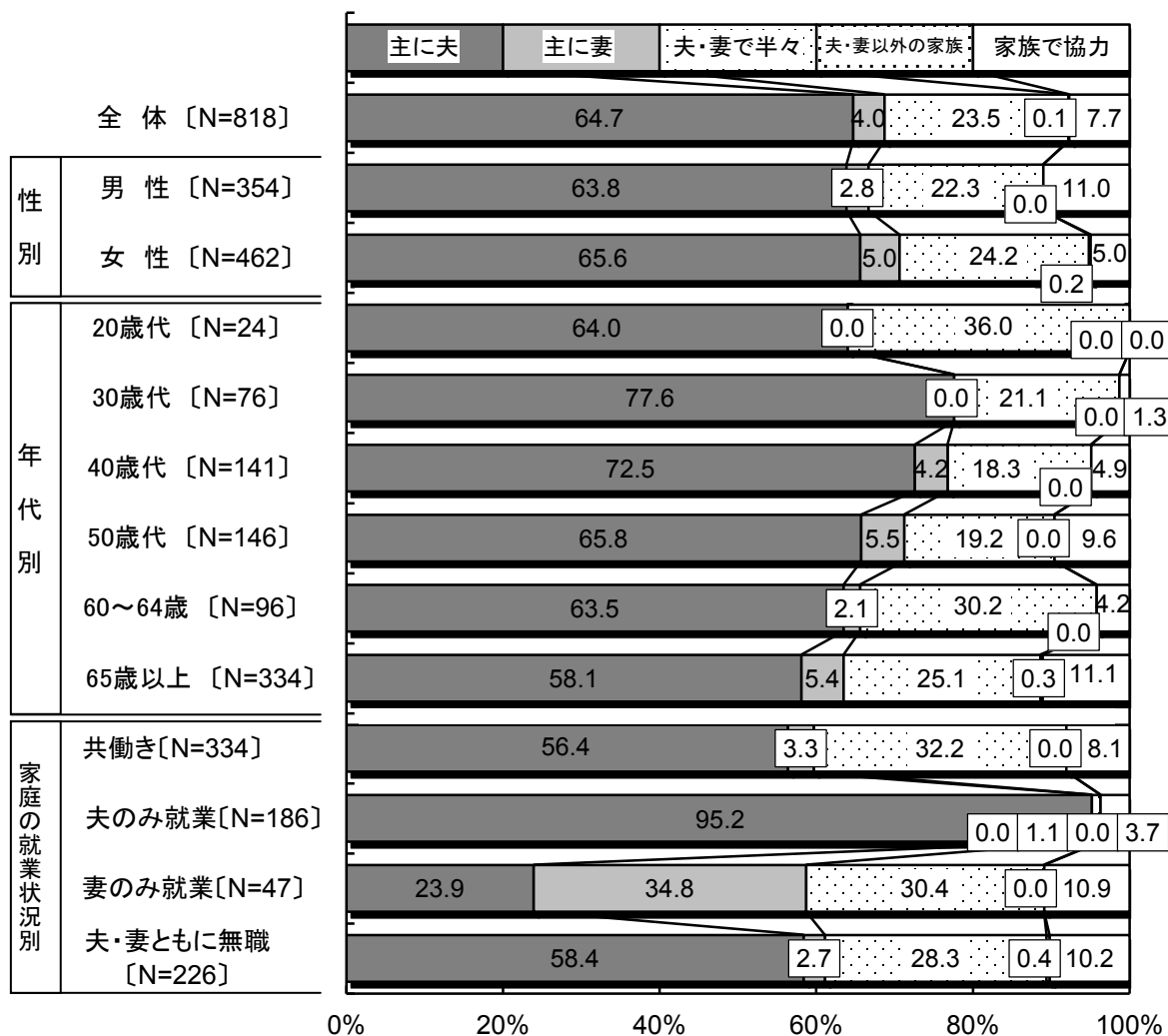
30歳代は、「主に夫」が77.6%で他の年代より高く、年代が上がるほど「主に夫」の比率は低くなっている。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭を除き、「主に夫」が高い。妻のみ就業家庭では、「主に妻」が34.8%と最も高く、「夫・妻で半々」が30.4%、「主に夫」が23.9%が続いている。

現在結婚している方のみ

2(1)-7図 家庭の役割分担について カ 生活費を得ること〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



キ 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）

「夫・妻で半々」と「主に夫」が共に約40%で高い

【全体】

「夫・妻で半々」が42.9%、「主に夫」が41.1%と共に高く、「家族で協力」が12.0%で続いている。

【性別】

「主に夫」は、女性が45.7%で男性の35.7%より10.0ポイント高い。

【年代別】

20歳代、30歳代は、「夫・妻で半々」が50%以上で他の年代より高く、また「主に夫」が他の年代より低い。

30歳代から50歳代までは、「主に夫」が年代代が上がるほど高くなり、その後は低くなっている。

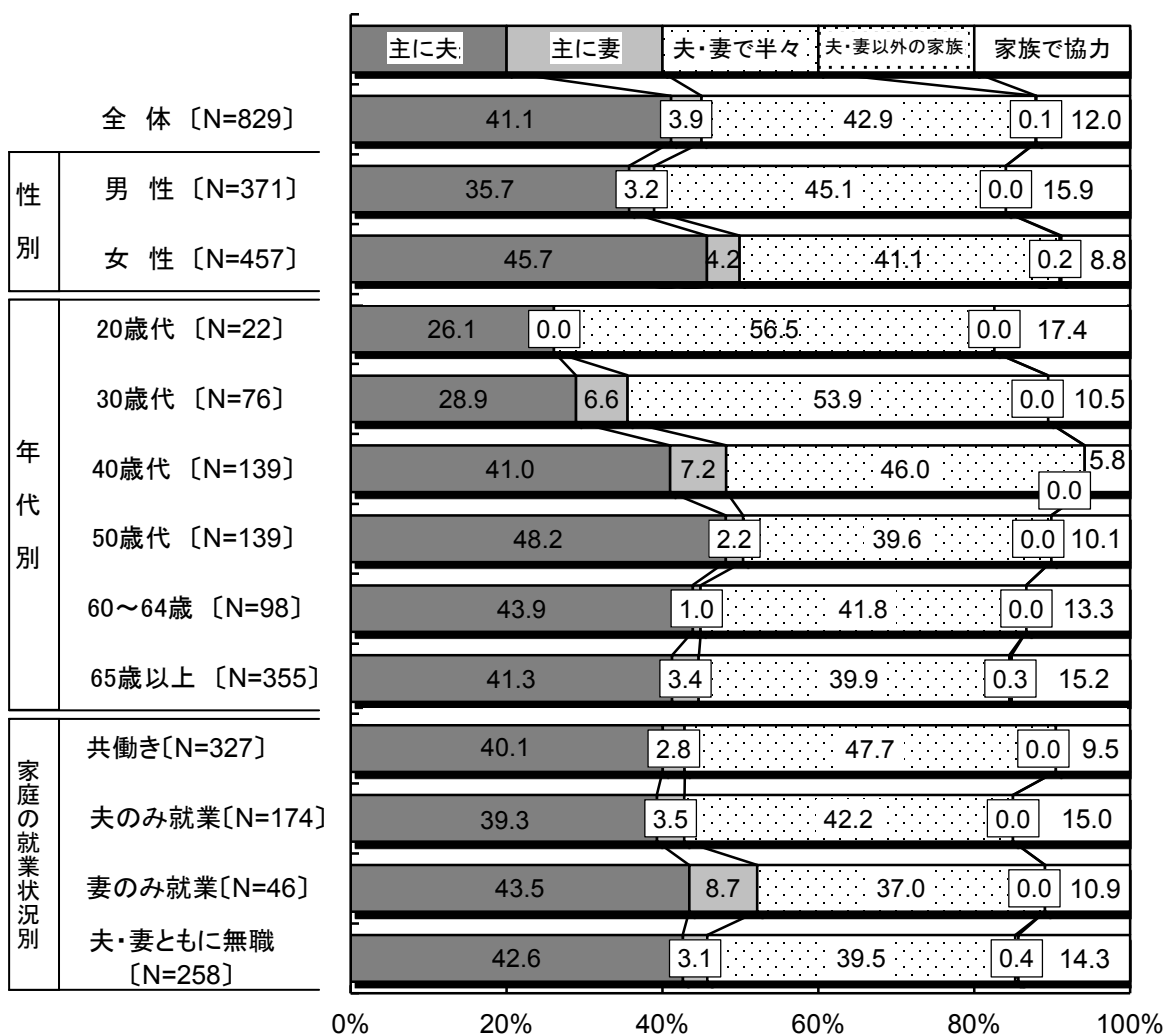
【家庭の就業状況別】

共働き家庭では、「夫・妻で半々」が47.7%で他の年代より高い。

現在結婚している方のみ

2(1)-8図 家庭の役割分担について キ 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）

〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



ク 家計の管理

「主に妻」が75.8%で最も高い

【全体】

「主に妻」が75.8%と最も高く、「夫・妻で半々」が13.6%、「主に夫」が8.3%が続いている。

【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

30歳代は、「主に妻」が85.3%で他の年代より高い。

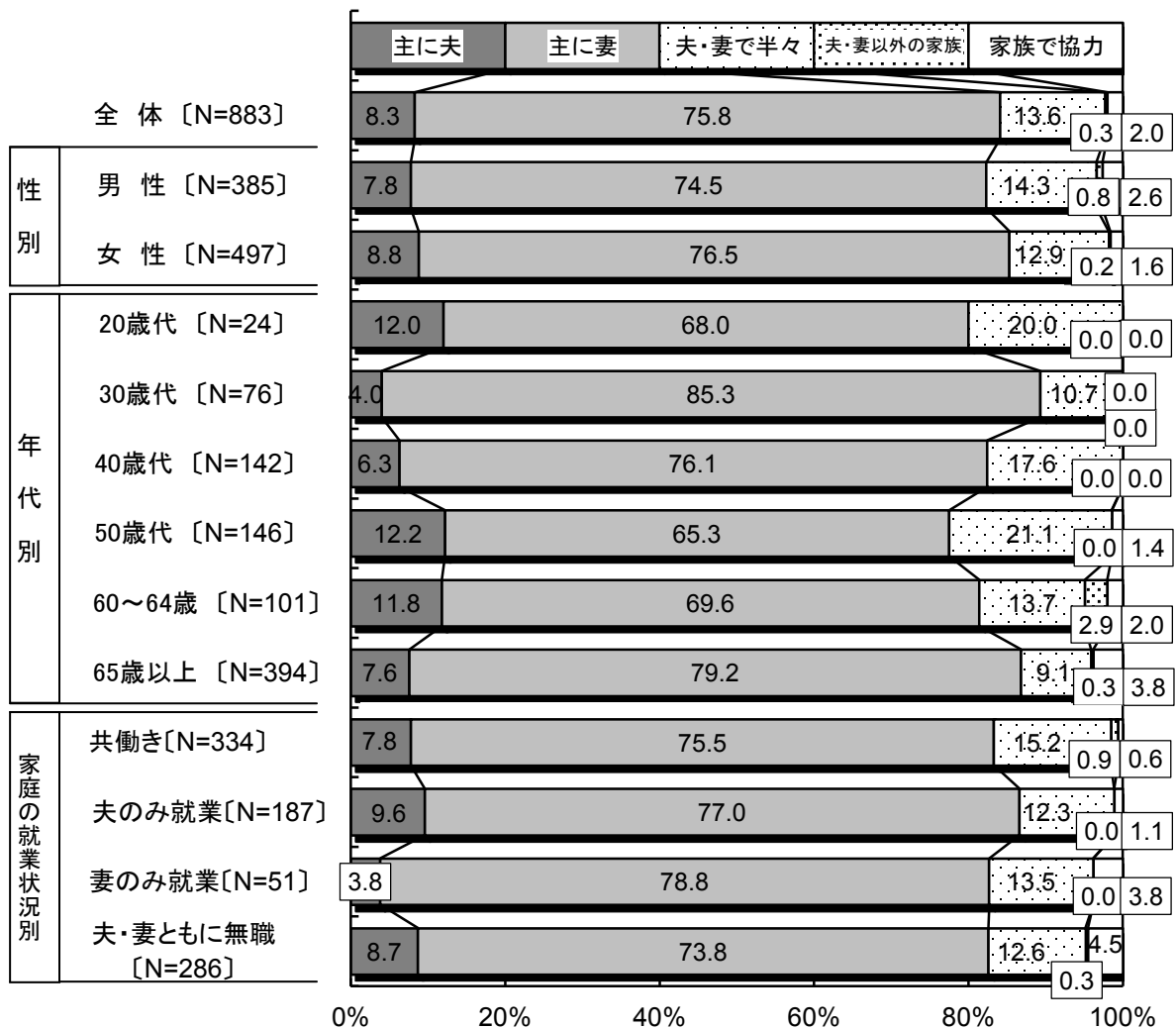
20歳代と50歳代は、「夫・妻で半々」がそれぞれ20.0%、21.1%で他の年代より高い。

【家庭の就業状況別】

特に大きな差異はない。

現在結婚している方のみ

2(1)-9図 家庭の役割分担について ク 家計の管理〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



ケ 自治会等の地域活動への参加

「主に妻」が50.1%で最も高い

【全体】

「主に妻」が50.1%と最も高く、「夫・妻で半々」が22.5%、「主に夫」が18.9%で続いている。

【性別】

「主に妻」は、女性が53.9%で男性の45.0%より8.9ポイント高い。

【年代別】

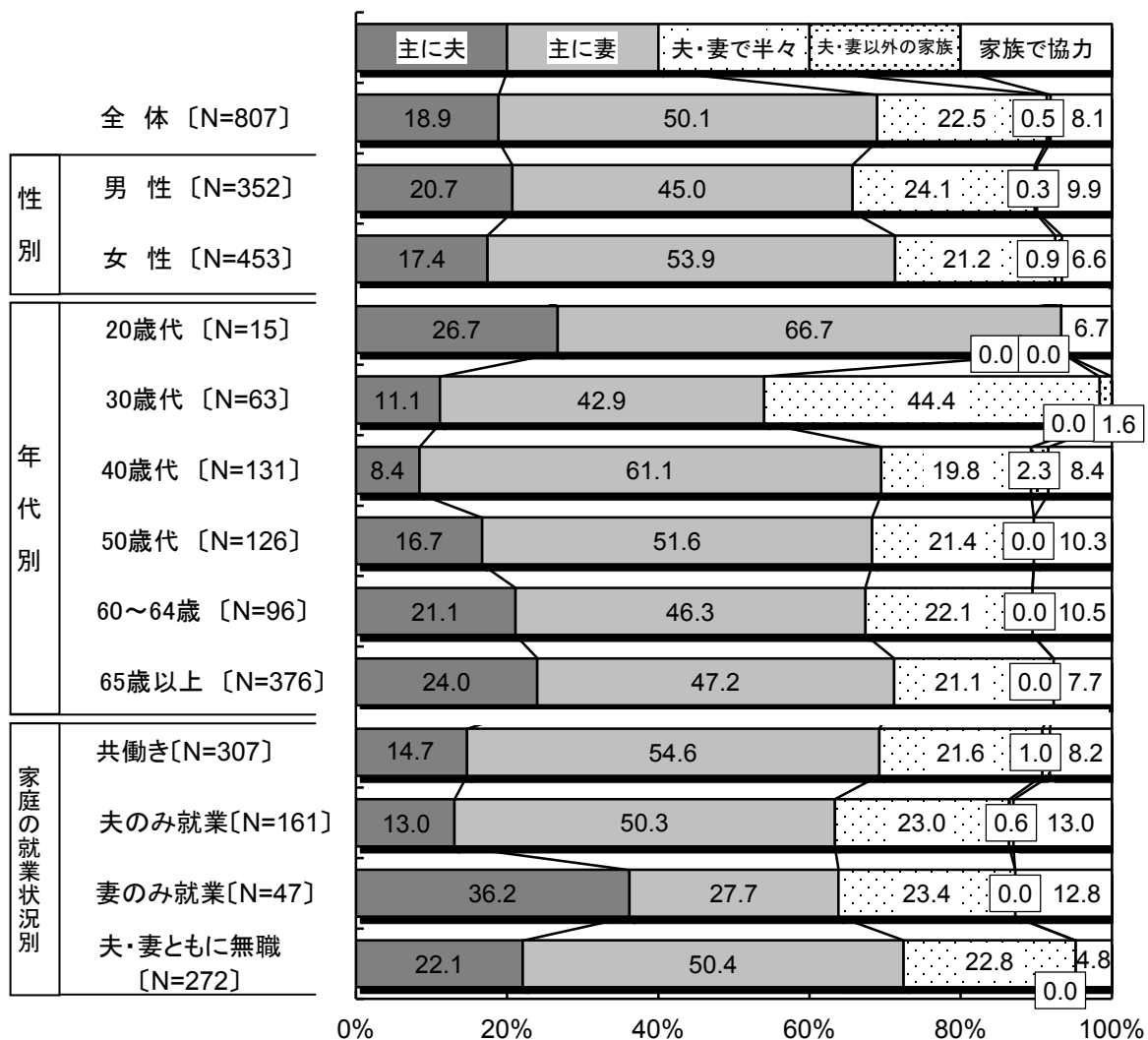
30歳代は、「夫・妻で半々」が44.4%で他の年代より高く、「主に妻」が42.9%で他の年代より低い。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「主に夫」が36.2%で他の就業家庭より高く、「主に妻」が27.7%で他の就業家庭より低い。

現在結婚している方のみ

2(1)-10図 家庭の役割分担について ケ 自治会等の地域活動への参加
【全体・性別・年代別・家庭の就業状況別】



コ P T A活動等の学校行事への参加

「主に妻」が82.2%で最も高い

【全体】

「主に妻」が82.2%と最も高く、「夫・妻で半々」が10.9%が続いている。

【性別】

「主に妻」は、女性が85.5%で男性の77.2%より8.3ポイント高い。

【年代別】

30歳代は、「夫・妻で半々」が16.3%で他の年代より高い。

65歳以上は、「主に夫」と「夫・妻以外の家族」が共に4.9%で他の年代より若干高い。

※20歳代は、標本数が少ないので参考掲載、分析の対象からは除外。

【家庭の就業状況別】

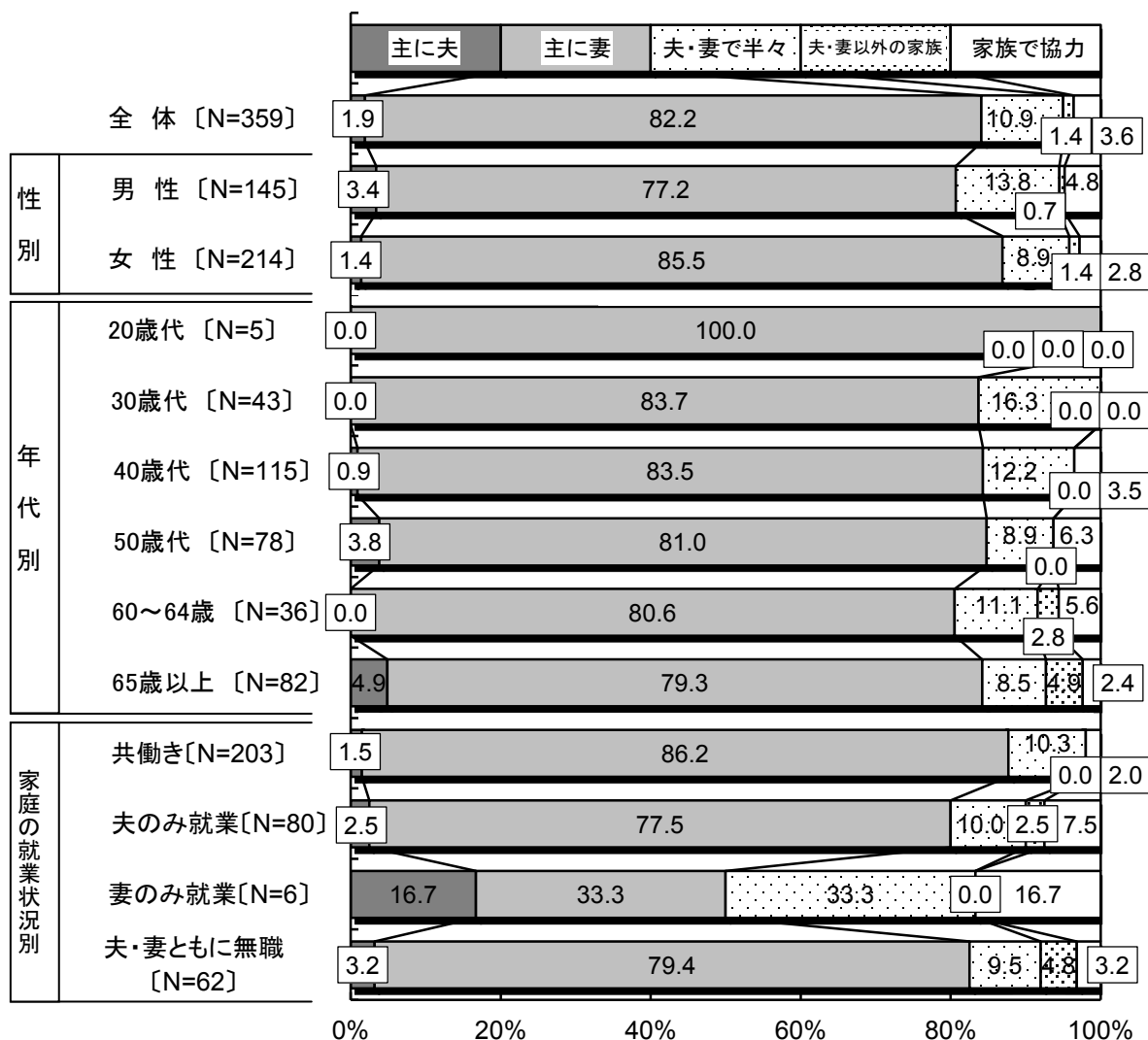
共働き家庭では、「主に妻」が86.2%で他の就業家庭より高い。

夫・妻ともに無職家庭は、「夫・妻以外の家族」が4.8%で他の就業家庭より若干高い。

※妻のみ就業家庭は、標本数が少ないので参考掲載、分析の対象からは除外。

現在結婚している方のみ

2(1)-11図 家庭の役割分担について コ P T A活動等の学校行事への参加
[全体・性別・年代別・家庭の就業状況別]



(2-2) 家庭での役割分担に対する満足度について

問2-2 あなたは家庭での役割分担について、どのように感じていますか。○は1つだけ

『満足層』 全体 78.9% 男性 93.0% 女性 67.8% ⇒ 男性の方が高い
 『不満層』 全体 21.0% 男性 7.1% 女性 32.2% ⇒ 女性の方が高い

※「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせて『満足層』, 「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせて『不満層』とする。

【全体】

「満足している」が33.6%, 「どちらかといえば満足している」が45.3%で『満足層』は78.9%, 「不満である」が4.4%, 「どちらかといえば不満である」が16.6%で『不満層』は21.0%となっており, 『満足層』が57.9ポイント高く, 大きく上回っている。

【性別】

男女とも『満足層』が『不満層』を大きく上回っているが, 特に男性は『満足層』が93.0%で女性の67.8%より25.2ポイント高い。女性は『不満層』が32.2%で男性の7.1%より25.1ポイント高い。また, 男性は, 「満足している」が48.9%で女性の21.5%より27.4ポイント高い。

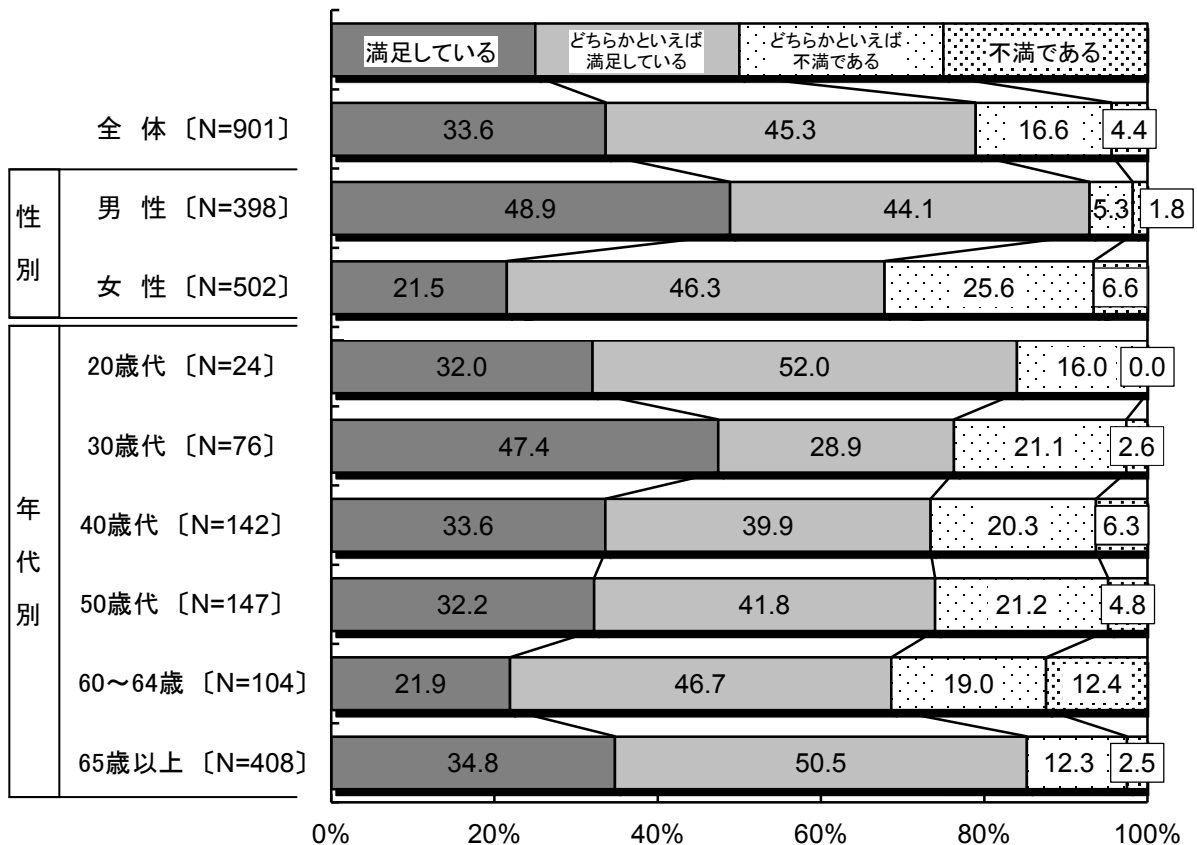
【年代別】

65歳以上は, 『満足層』が85.3%と最も高く, 次いで20歳代で84.0%と続く。

30歳代は, 「満足している」が47.4%で他の年代より高く, 60~64歳では21.9%で他の年代より低い。

現在結婚している方のみ

2(2)-1図 家庭生活での役割分担に対する満足度について〔全体・性別・年代別〕



【性・年代別】

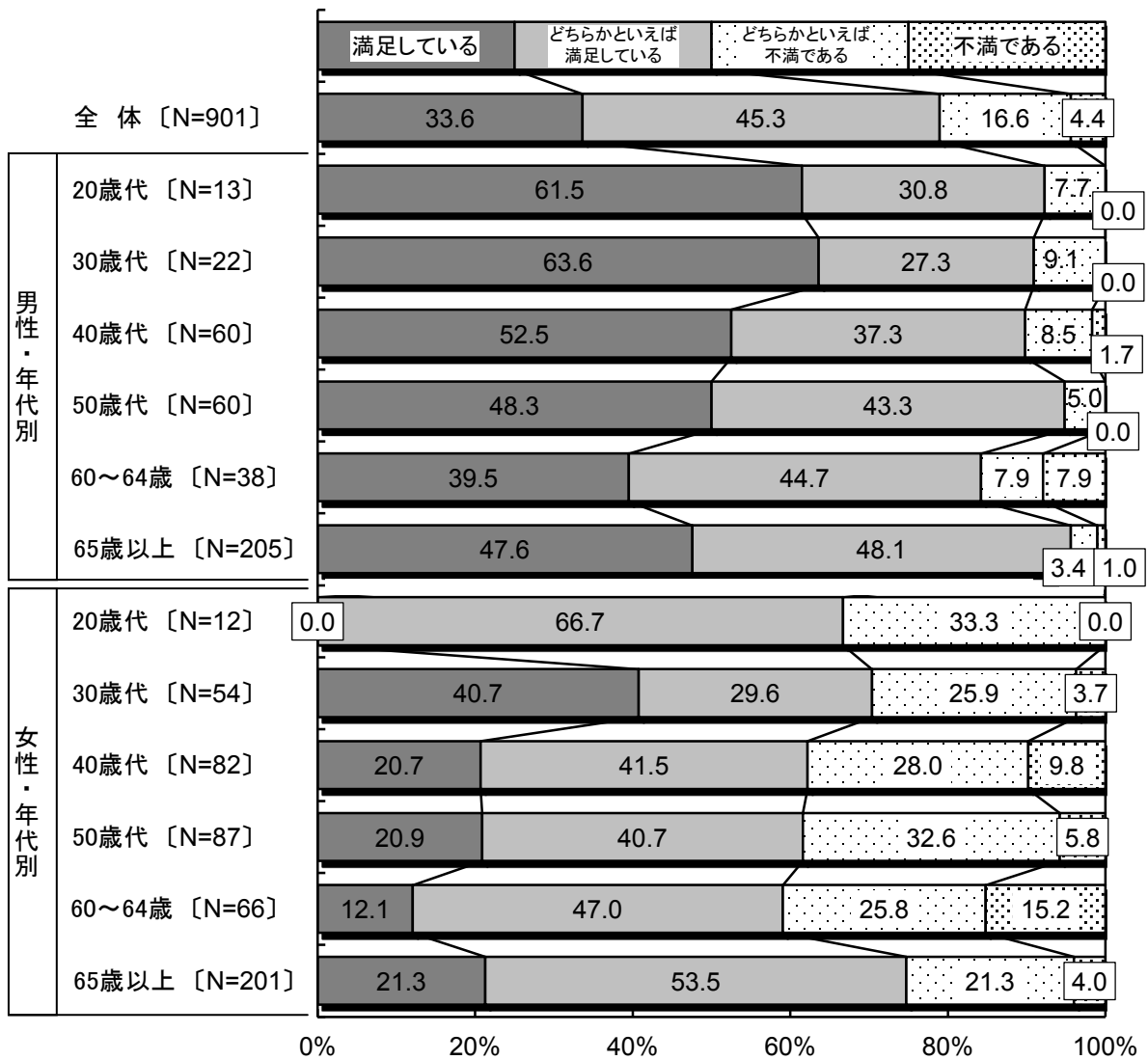
どの年代においても、男性の方が女性より満足度合いが高く、また、女性の方が不満度合いが高い。男性20歳代、男性30歳代は、「満足している」が60%以上で他の年代より高い。また、男性60～64歳は、『不満層』が15.8%で他の男性の年代に比べて高い。

女性30歳代は、「満足している」が40.7%で他の年代に比べて高い。

女性60～64歳は、『不満層』が41.0%で他の年代に比べて高い

現在結婚している方のみ

2(2)-2 図 家庭生活での役割分担に対する満足度について〔性・年代別〕



2. 職場における男女共同参画について

(3) 一般的に女性が職業をもつことについて

問3 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのように思いますか。

○は1つだけ

『家事優先型』 33.2%, 『再就職型』 29.3%, 『職業継続型』 19.9%

- ※『専業主婦型 (家事専念型)』 女性は職業をもたない方がよい
- 『結婚退職型』 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 『出産退職型』 子どもができるまでは職業をもち、子どもができたら辞める方がよい
- 『職業継続型』 結婚・出産に関わらず、ずっとフルタイムで職業を続ける方がよい
- 『再就職型』 子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 『家事優先型』 家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい

【全体】

『家事優先型』が33.2%で最も高く、『再就職型』が29.3%、『職業継続型』が19.9%、『出産退職型』が4.9%と続いている。

【性別】

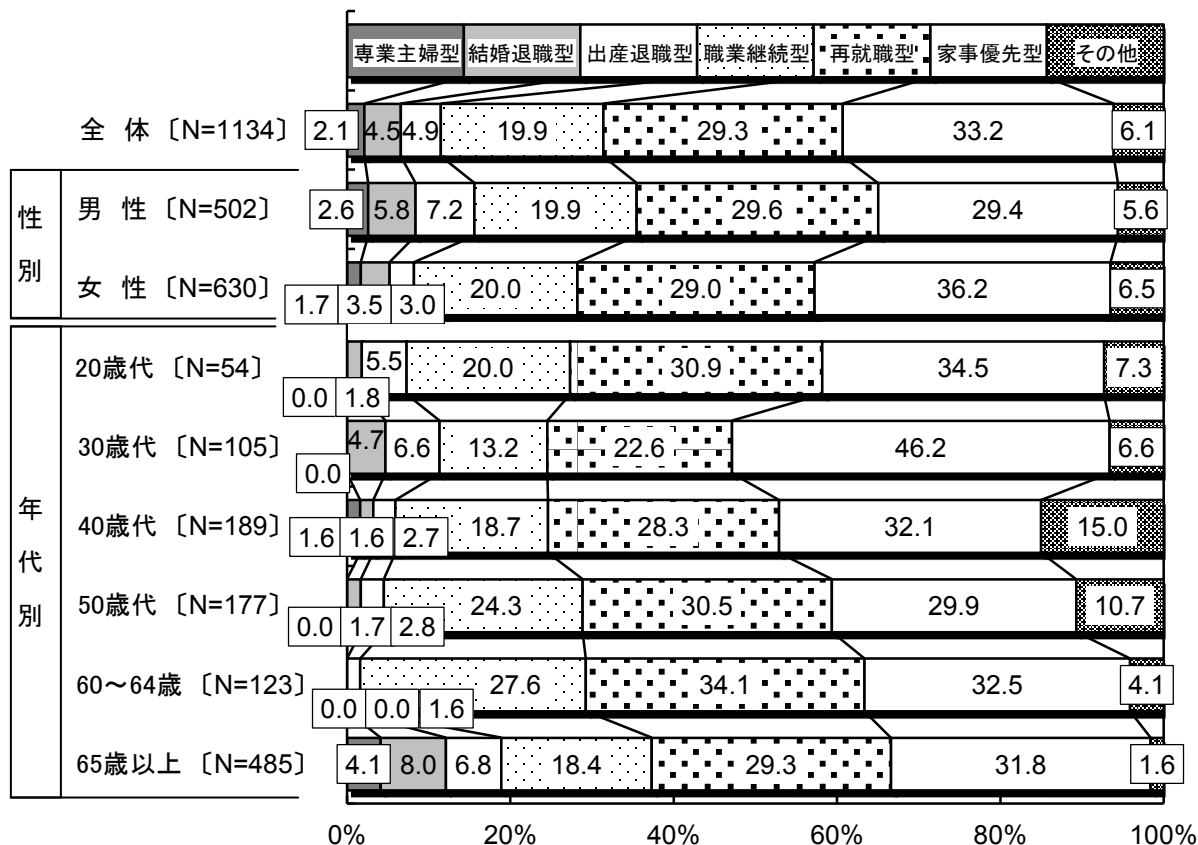
男性は、『出産退職型』が7.2%で、女性の3.0%より4.2ポイント高い。

女性は、『家事優先型』が36.2%で男性の29.4%より6.8ポイント高い。

【年代別】

30歳代は『家事優先型』が46.2%と他の年代に比べて高い。また、60～64歳は『職業継続型』が27.6%と他の年代に比べて高い。

3-1図 女性が職業をもつことについて〔全体・性別・年代別〕

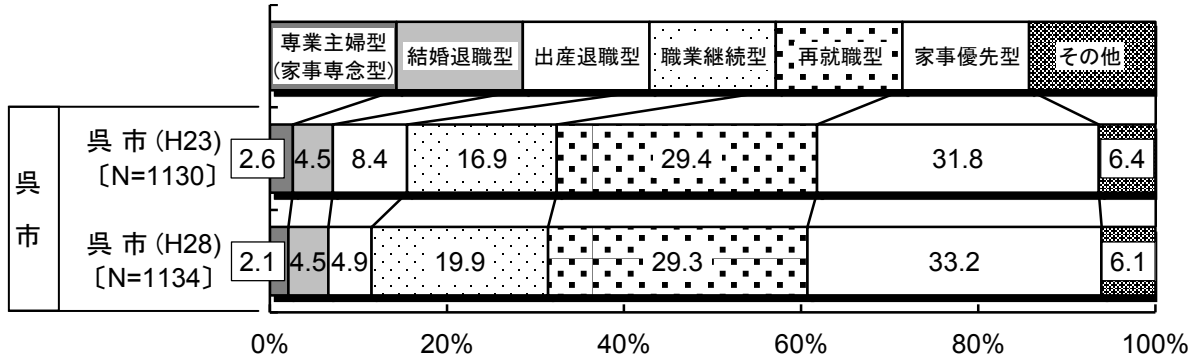


<参考> 全国調査結果，呉市の過去の調査結果との比較

【全体・呉市の過去調査結果との比較】

平成23年実施の呉市調査結果と比較すると顕著な変化はないが、『出産退職型』が3.5ポイント減少し、『職業継続型』が3.0ポイント増加している。

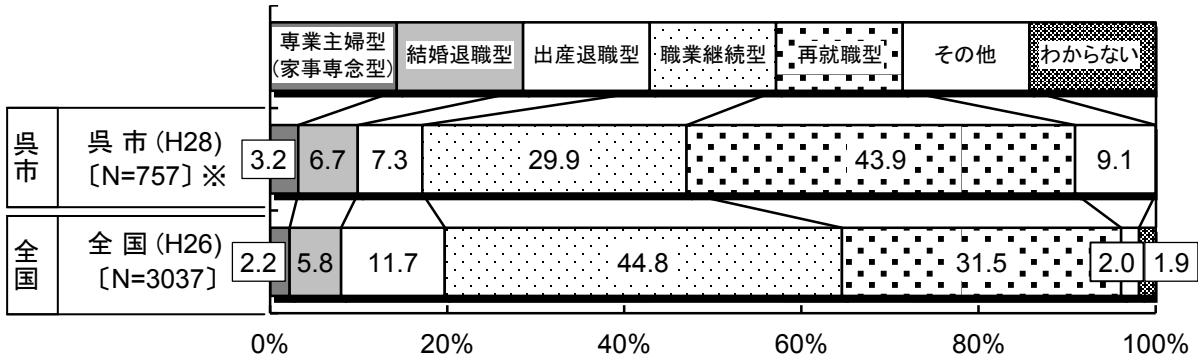
◆女性が職業をもつことについて 呉市過去調査との比較〔全体〕



【全体・全国調査結果との比較】

全国調査には『家事優先型』の意の選択肢がないため、『家事優先型』を含まず集計した結果と今回の調査を比較すると，全国調査と比較して『職業継続型』は低く，『再就職型』は高い。

◆女性が職業をもつことについて 全国との比較〔全体〕

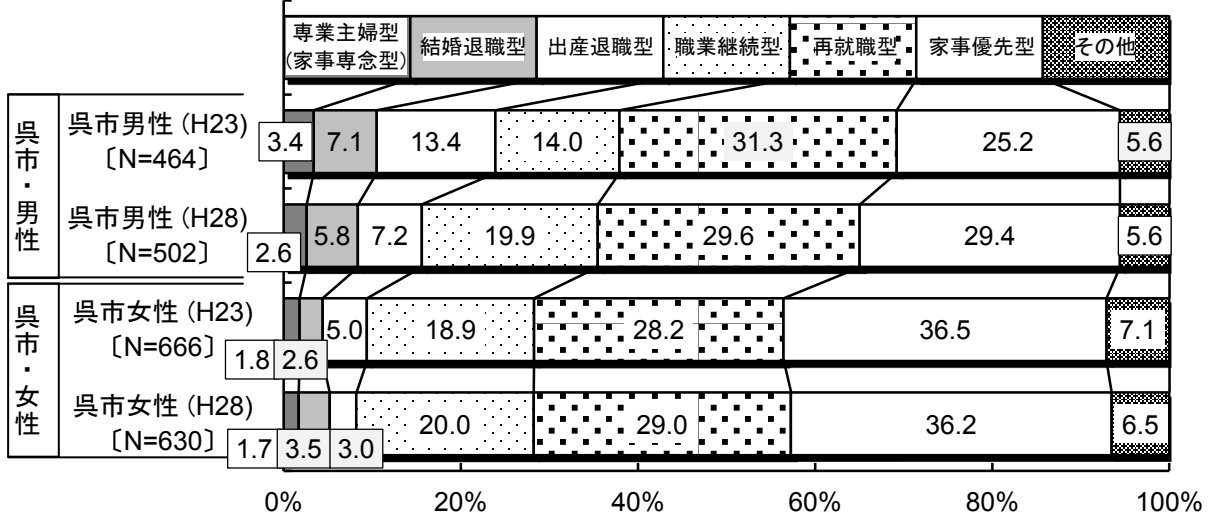


※全国調査には『家事優先型』の意の選択肢がないため、『家事優先型』を含まずに，平成28年の呉市調査を集計した。

【性別・呉市の過去調査結果との比較】

平成23年実施の呉市調査結果と比較すると、男性は『職業継続型』、『家事優先型』が増加し、『出産退職型』が減少している。女性については平成23年と平成28年で特に大きな差異はない。

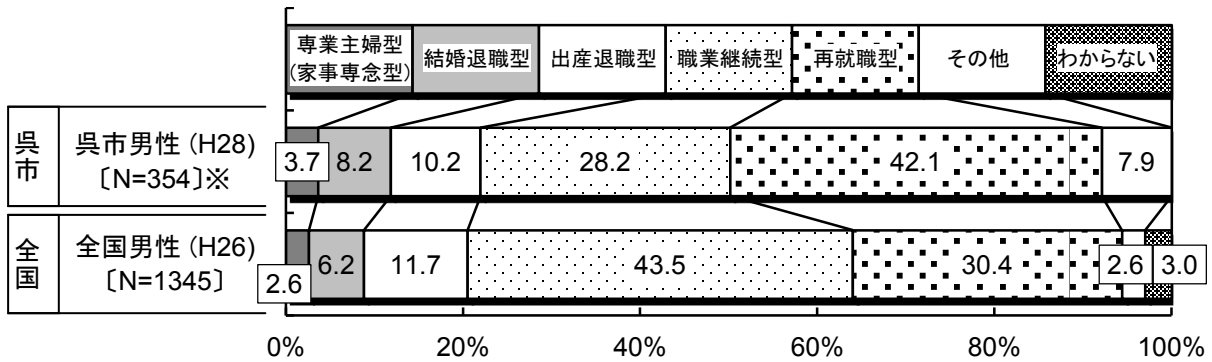
◆女性が職業をもつことについて 呉市過去調査との比較〔性別〕



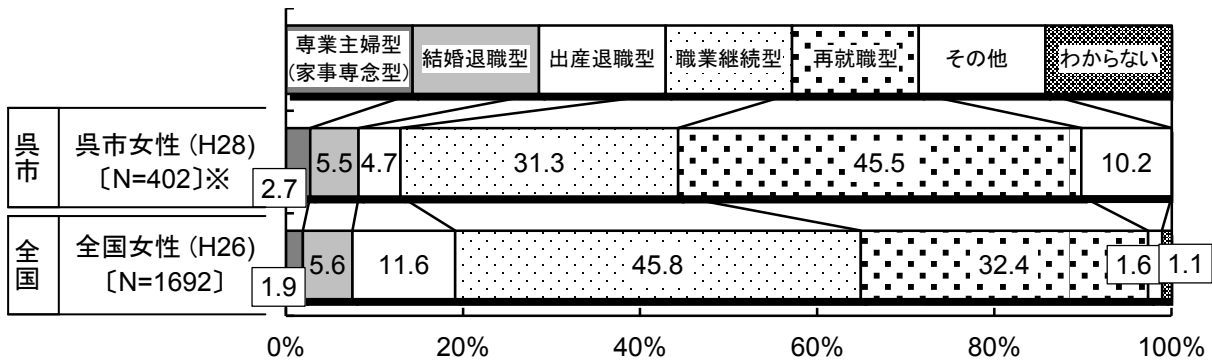
【性別・全国調査結果との比較】

男性、女性とも全国調査と比較して『職業継続型』は低く、『再就職型』は高い。

◆女性が職業をもつことについて 全国との比較〔性別・男性〕



◆女性が職業をもつことについて 全国との比較〔性別・女性〕



※全国調査には『家事優先型』の意の選択肢がないため、『家事優先型』を含まずに、平成28年の呉市調査を集計した。

(4) 雇用者の職場の現状について〔複数回答〕

問4 あなたの職場の現状にあてはまることは、次のうちどれですか。○はいくつでも

「あてはまるものはない」	62.2%
「仕事の内容・分担に男女差がある」	21.8%
「募集・採用・配属に男女差がある」	16.9%

【全体】

「あてはまるものはない」が62.2%と最も高く、「仕事の内容・分担に男女差がある」が21.8%、「募集・採用・配属に男女差がある」が16.9%、「能力・成果の評価に男女差がある」が9.8%で続いている。

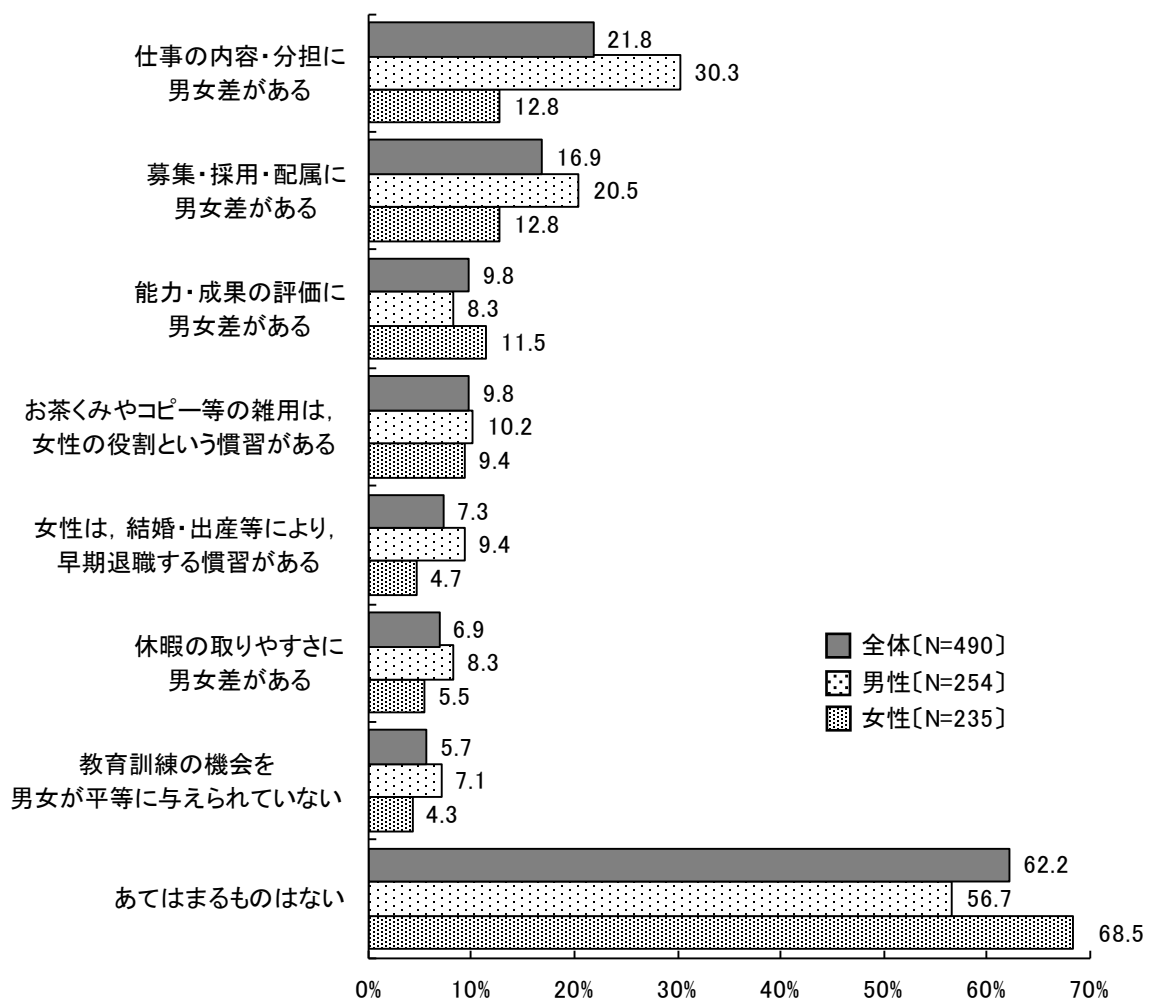
【性別】

男性は、「仕事の内容・分担に男女差がある」が30.3%、「募集・採用・配属に男女差がある」が20.5%で女性に比べて高い。

女性は、「あてはまるものはない」が68.5%で男性の56.7%に比べて11.8ポイント高い。

お勤めしている方のみ

4-1図 雇用者の職場の現状について〔全体・性別〕



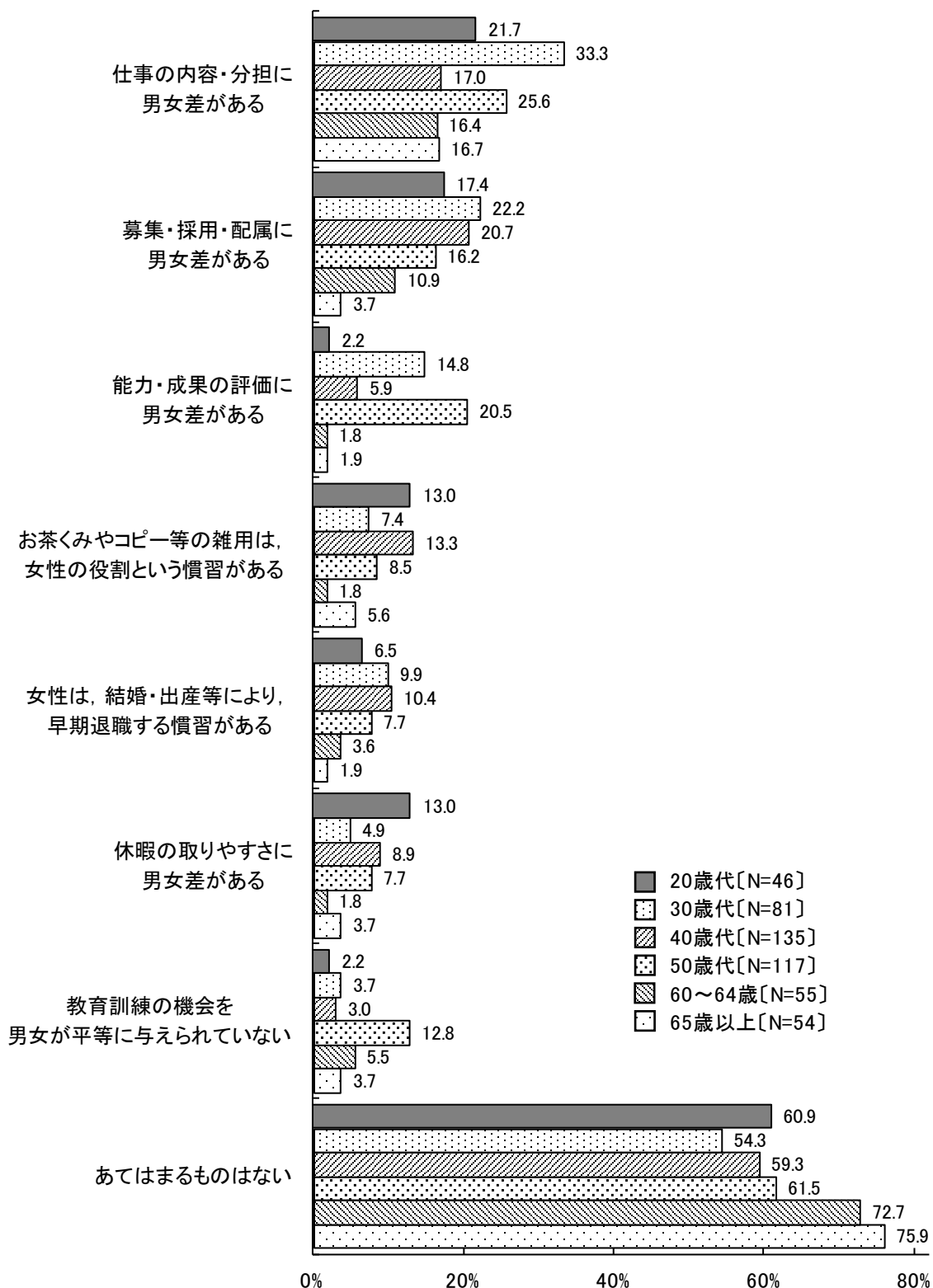
【年代別】

30歳代は「仕事の内容・分担に男女差がある」が33.3%、「募集・採用・配属に男女差がある」が22.2%で他の年代より高い。

50歳代は「能力・成果の評価に男女差がある」が20.5%、「教育訓練の機会を男女が平等に与えられていない」が12.8%で、他の年代より高い。

お勤めしている方のみ

4-2図 雇用者の職場の現状について〔年代別〕



(5-1) 管理職への昇進意向について

問5-1 あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか。○は1つだけ

『昇進意向あり』 全体 34.3% 男性 45.2% 女性 22.8% ⇒ 男性の方が高い
 『昇進意向なし』 全体 65.7% 男性 54.8% 女性 77.2% ⇒ 女性の方が高い

※「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」を合わせて『昇進意向あり』, 「昇進したくない」と「どちらかといえば昇進したくない」を合わせて『昇進意向なし』とする。

【全体】

「どちらかといえば昇進したくない」が34.3%で最も高く, 「昇進したくない」の31.4%と合わせた『昇進意向なし』が65.7%を占める。「どちらかといえば昇進したい」, 「昇進したい」を合わせた『昇進意向あり』は34.3%で, 『昇進意向なし』が『昇進意向あり』を31.4ポイント上回っている。

【性別】

男性は『昇進意向あり』が45.2%, 『昇進意向なし』が54.8%と昇進意向の差が9.6ポイントとなっているが, 女性は『昇進意向あり』が22.8%と男性より22.4ポイント低く, 『昇進意向なし』が77.2%で, 男性の54.8%より22.4ポイント高くなっている。

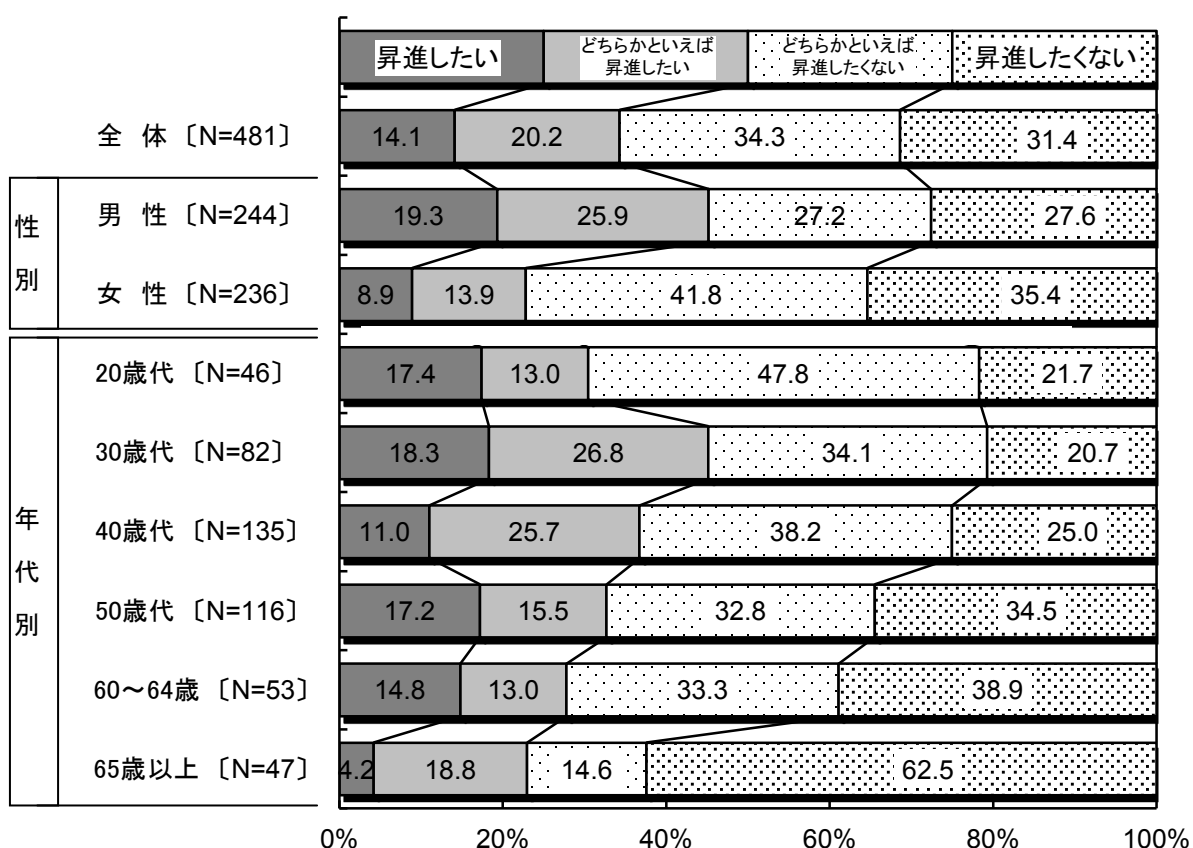
【年代別】

30歳代は, 『昇進意向あり』が45.1%で他の年代より高い。

20歳代は, 「どちらかといえば昇進したくない」が47.8%で他の年代より高く, 65歳以上は, 「昇進したくない」が62.5%で他の年代より高い。

お勤めしている方のみ

5(1)-1図 管理職への昇進意向について〔全体・性別・年代別〕



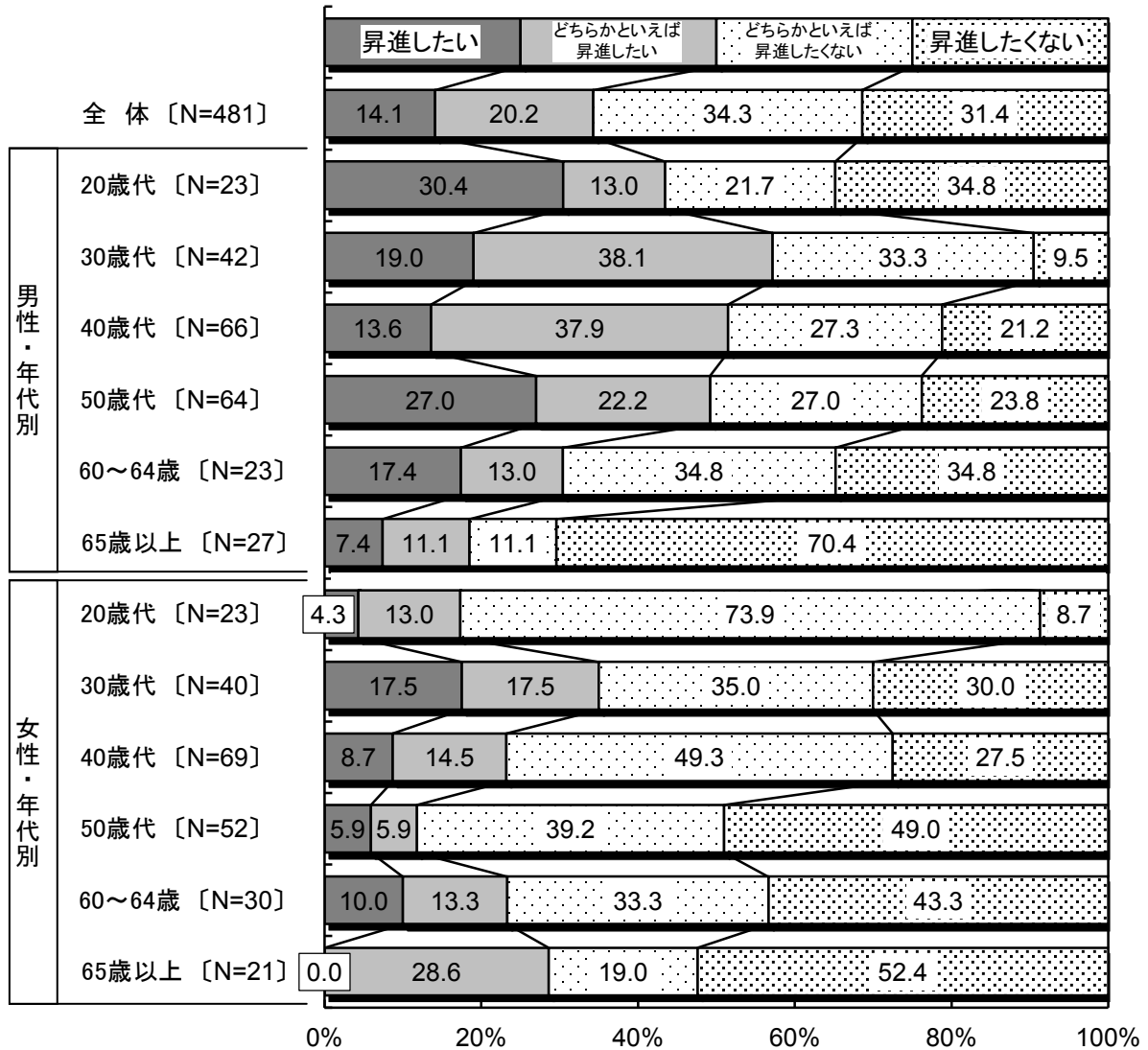
【性・年代別】

男性20歳代では、「昇進したい」が30.4%で最も高く、男性30歳代、男性40歳代は『昇進意向あり』が50%を上回っているが、他の年代では『昇進意向なし』が50%を上回っている。

女性20歳代は「どちらかといえば昇進したくない」が73.9%と最も高い。女性30歳代は『昇進意向なし』が65.0%と低く、女性50歳代は『昇進意向なし』が88.2%と高くなっている。

お勤めしている方のみ

5(1)-2図 管理職への昇進意向について〔性・年代別〕



(5-2) 管理職への昇進意向に必要な状況について

問5-2 どのような状況が整えられたら昇進したいと思いますか。○は1つだけ

「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」	42.8%
「長時間労働がなければ」	34.5%
「休業・休暇がとりやすければ」	30.9%

【全体】

「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が42.8%で最も高く、「長時間労働がなければ」が34.5%、「休業・休暇がとりやすければ」が30.9%、「給与額が自分の希望に合うなら」が26.0%、「どのような状況でも昇進したいと思わない」が21.1%で続いている。

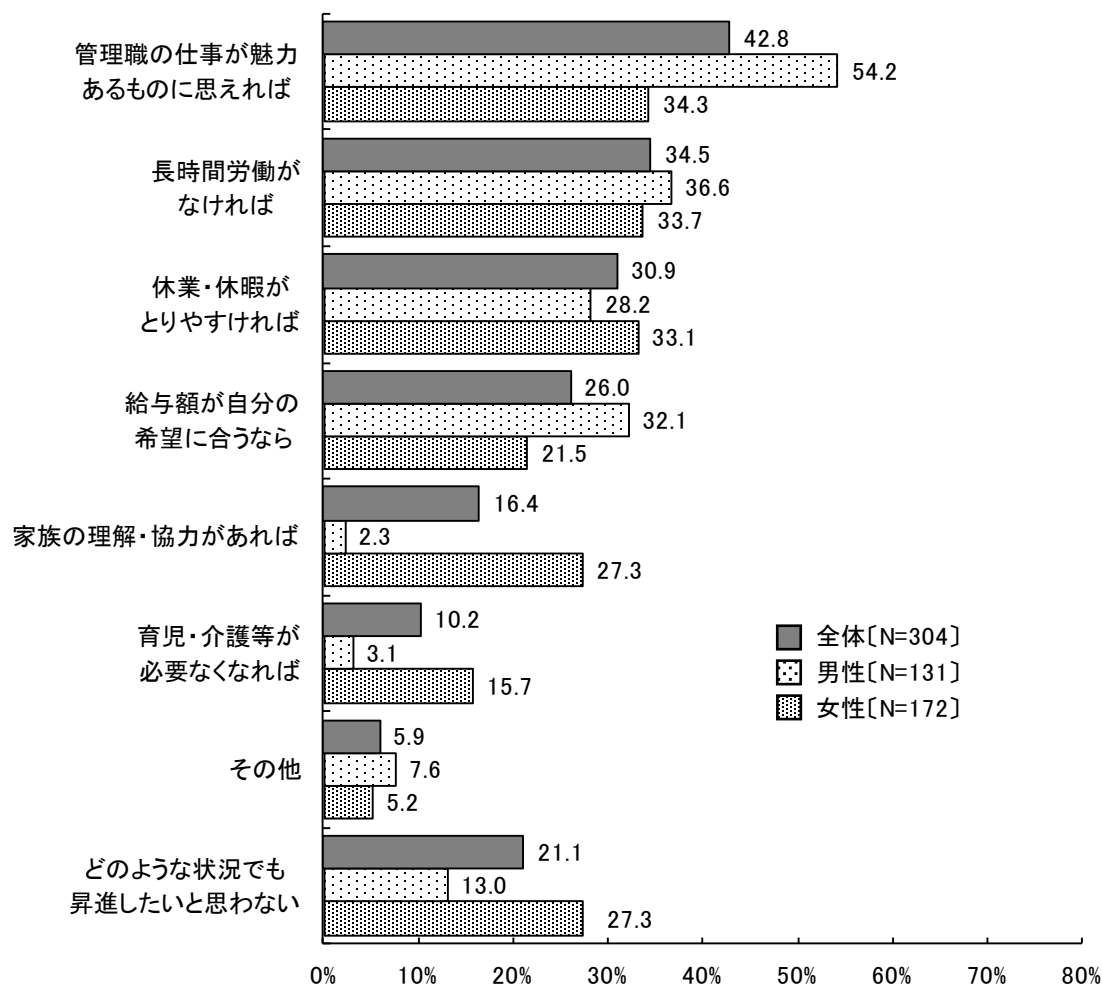
【性別】

男性は、「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が54.2%で女性の34.3%より19.9ポイント高い。

女性は「家族の理解・協力があれば」が27.3%で男性の2.3%に比べて25.0ポイント高く、「育児・介護等が必要なくなれば」が15.7%で男性の3.1%に比べて12.6ポイント高い。

問5-1で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を選択した方のみ

5(2)-1図 管理職への昇進意向に必要な状況について〔全体・性別〕



【性・年代別】

男性20歳代は、「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」と「長時間労働がなければ」が共に53.8%で最も高く、「長時間労働がなければ」については他の年代に比べて高い。また、男性のすべての年代、女性20歳代、女性40歳代、50歳代についても「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が最も高い。

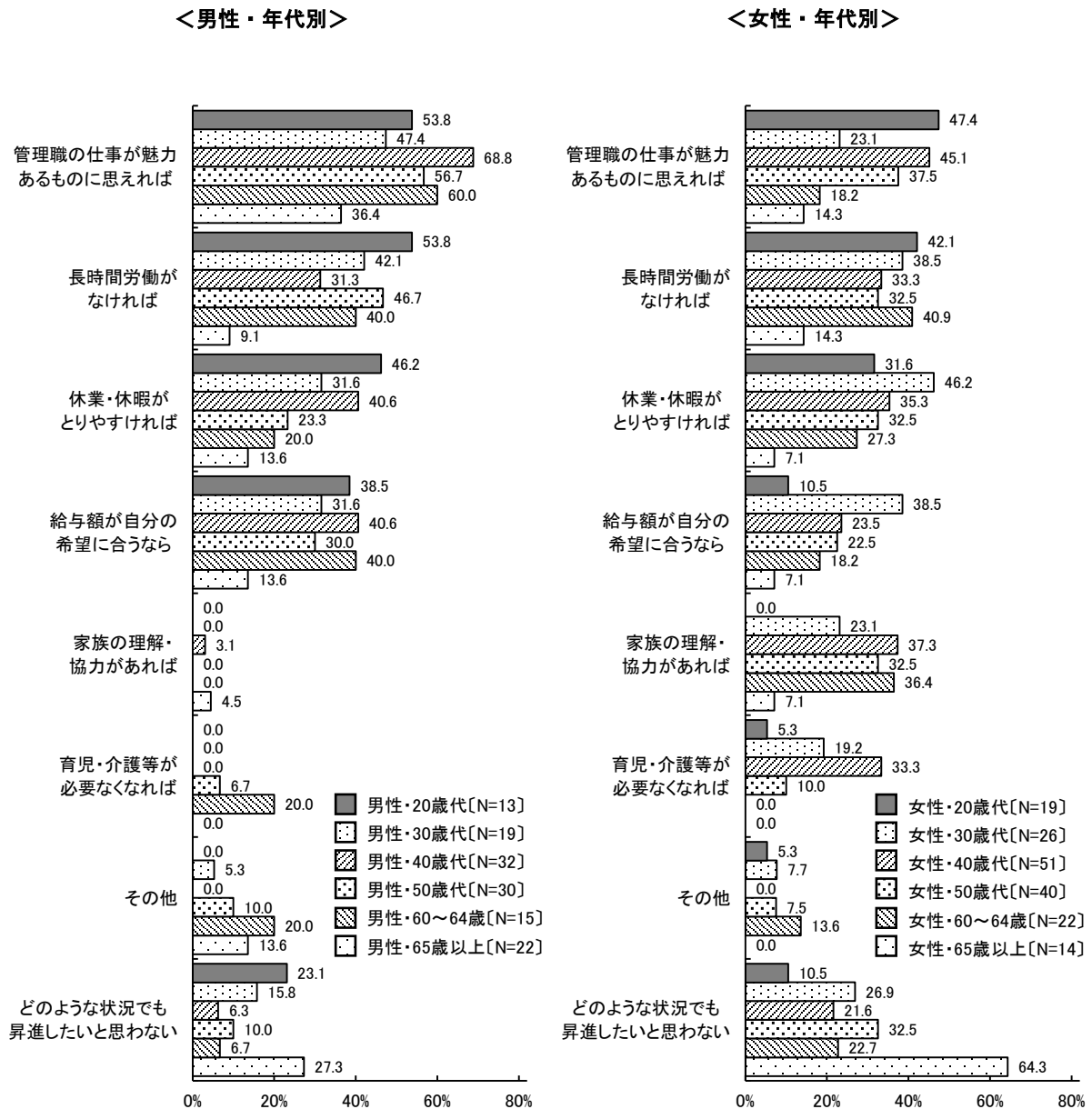
男性20歳代、男性40歳代、女性30歳代は「休業・休暇がとりやすければ」がそれぞれ46.2%、40.6%、46.2%で他の年代に比べて高い。

女性65歳以上は、「どのような状況でも昇進したいと思わない」が64.3%と他の年代に比べて著しく高い。

「家族の理解・協力があれば」は30歳代から60～64歳代の各年代で女性が男性より23.1から36.4ポイント高く差が大きい。

問 5-1 で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を選択した方のみ

5(2)-2図 どのような状況が整えられたら昇進したいと思うか〔性・年代別〕



(6) 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについて〔複数回答〕

問6 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。〇はいくつでも

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」	78.6%
「男性の家事参加への理解・意識改革」	53.7%
「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」	52.7%

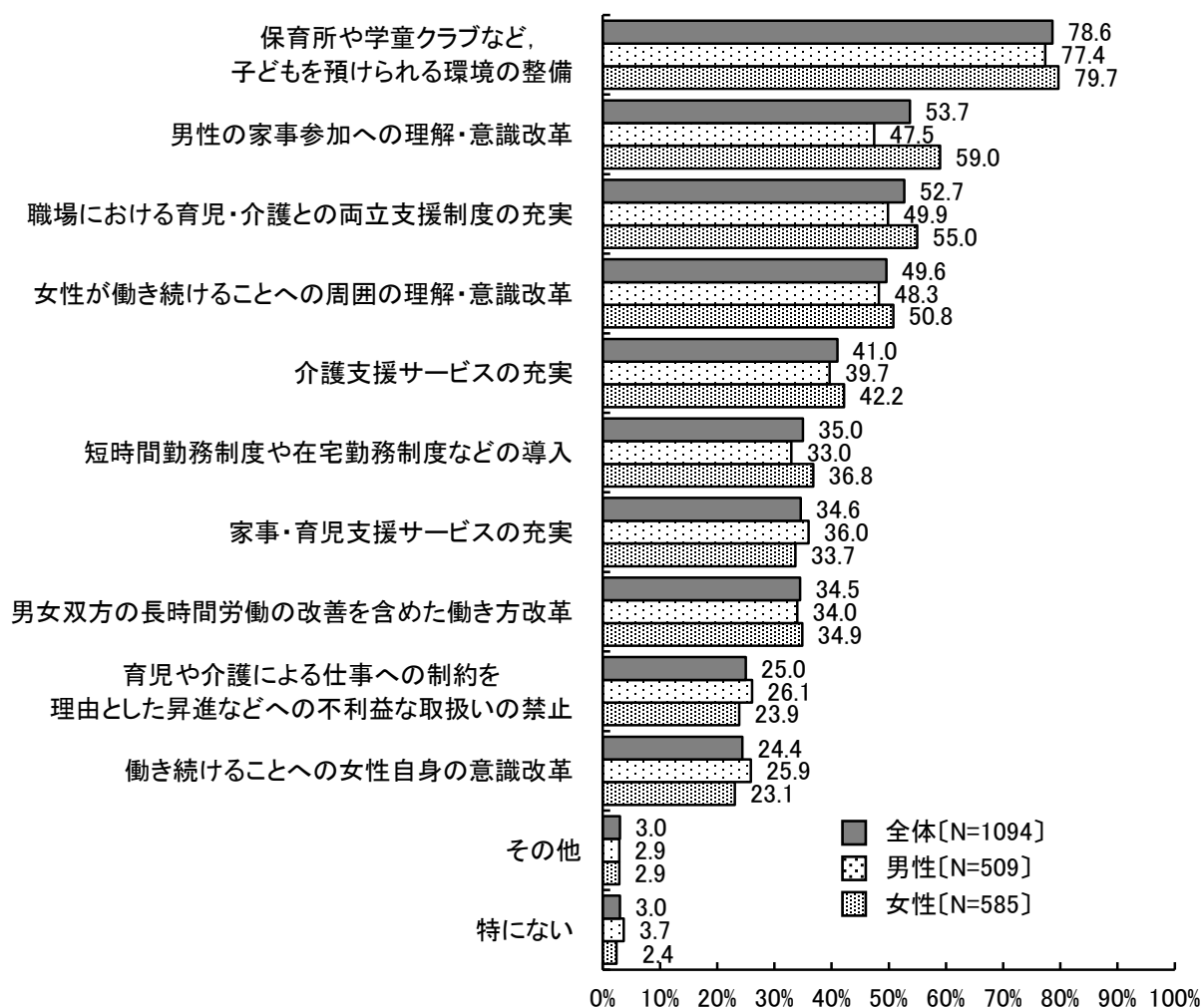
【全体】

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が78.6%と最も高く、「男性の家事参加への理解・意識改革」が53.7%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が52.7%で続いている。

【性別】

女性は「男性の家事参加への理解・意識改革」が59.0%で、男性の47.5%に比べて11.5ポイント高い。また、女性は「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が55.0%と、男性の49.9%に比べて5.1ポイント高い。

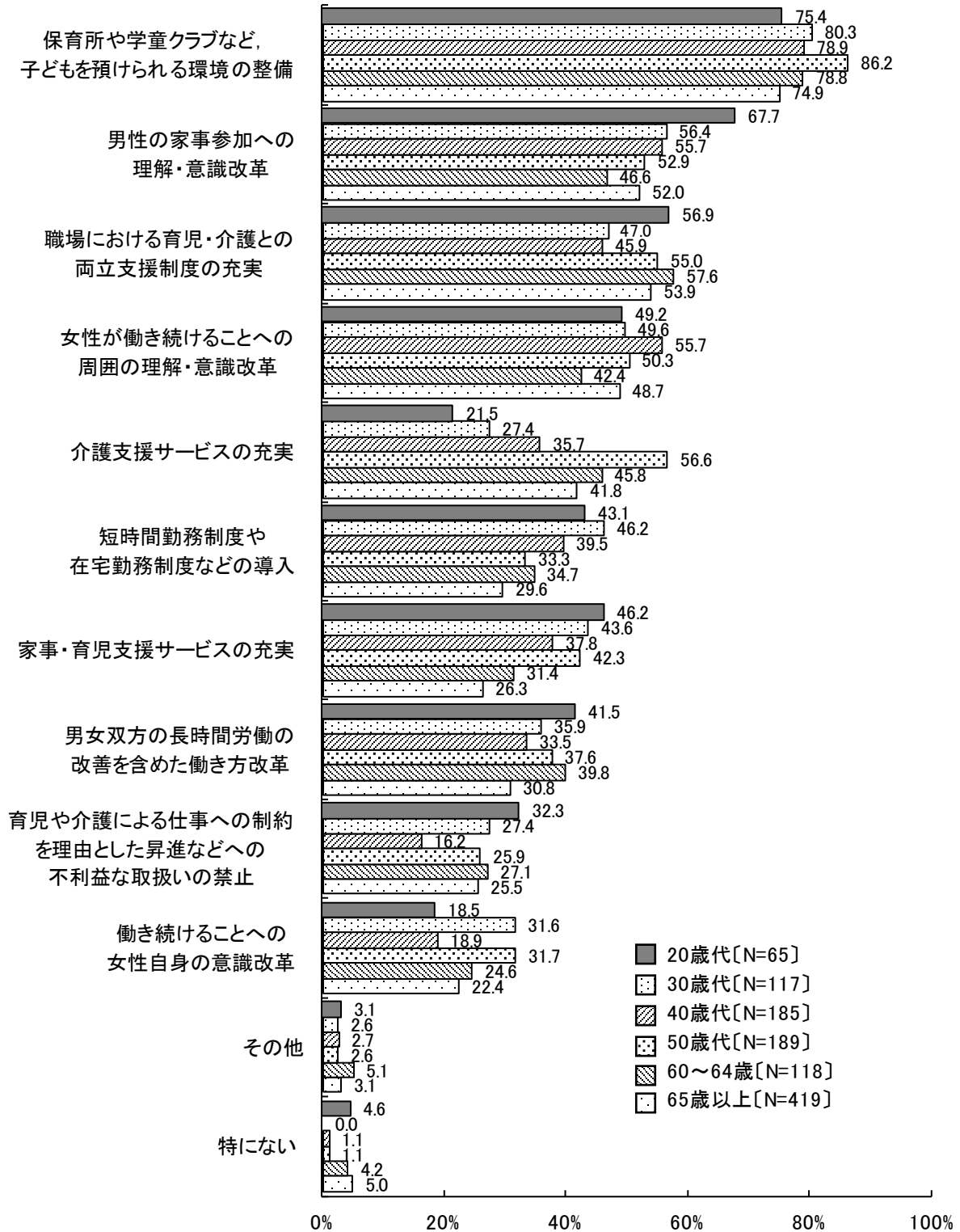
6-1図 女性が出産後も働き続けるために必要なこと〔全体・性別〕



【年代別】

すべての年代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高い。
 20歳代は「男性の家事参加への理解・意識改革」が67.7%で、他の年代に比べて高い。
 50歳代は「介護支援サービスの充実」が56.6%で、他の年代に比べて高い。

6-2図 女性が出産後も働き続けるために必要なこと〔年代別〕



(7) 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔複数回答〕

問7 育児・介護休業制度は、男女がともに取得できる制度ですが、男性の利用者が少ないのが現状です。その理由は何だと思えますか。○はいくつでも

「職場に迷惑がかかると思うから」	65.8%
「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」	50.6%
「収入減になるから」	45.6%
「制度利用後の待遇面が心配だから」	44.0%
「仕事が忙しくて利用できない」	40.7%

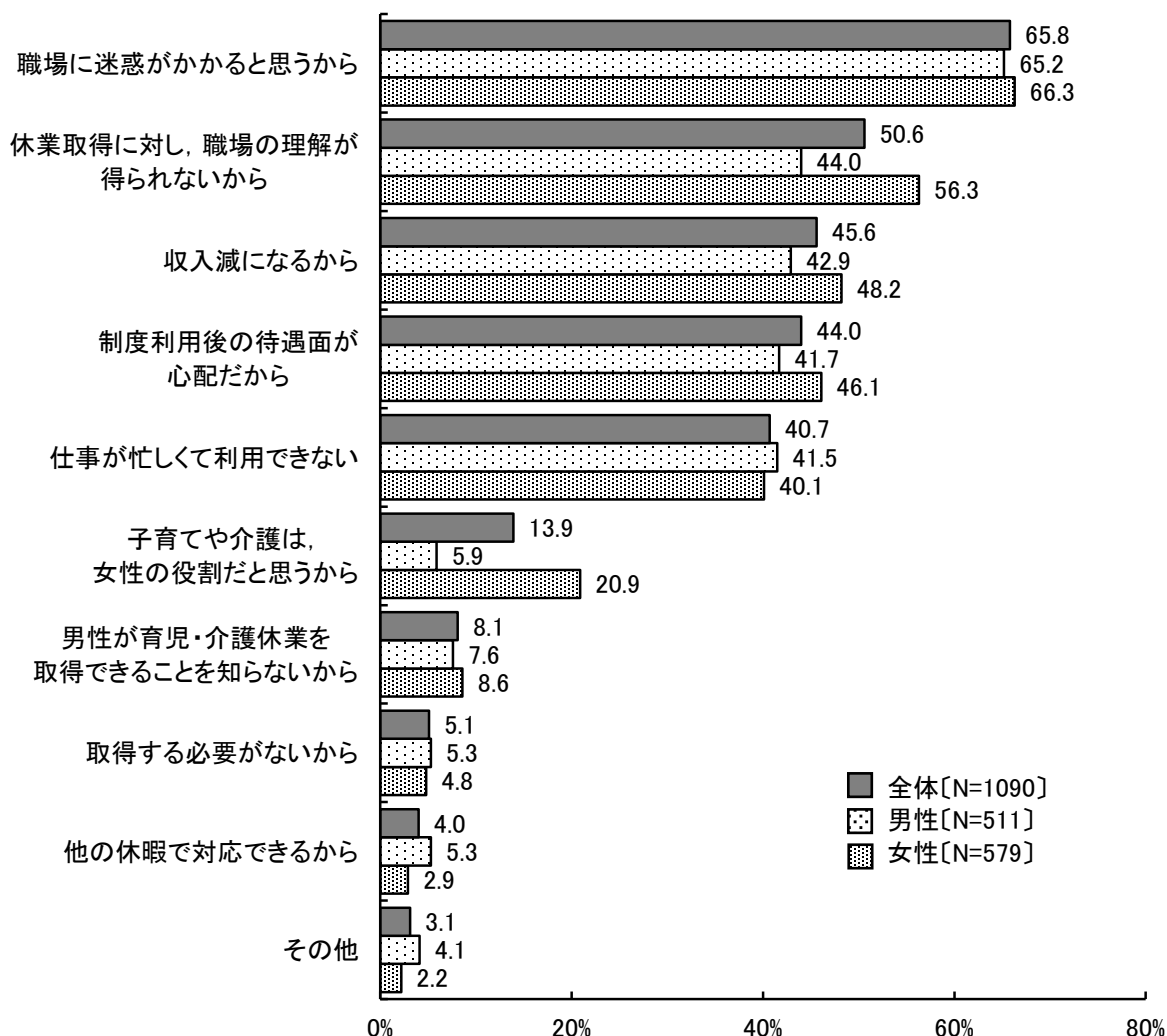
【全体】

「職場に迷惑がかかると思うから」が65.8%と最も高く、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が50.6%、「収入減になるから」が45.6%、「制度利用後の待遇面が心配だから」が44.0%、「仕事が忙しくて利用できない」が40.7%と続いている。

【性別】

女性は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が56.3%、「収入減になるから」が48.2%、「制度利用後の待遇面が心配だから」が46.1%、「子育てや介護は、女性の役割だと思うから」が20.9%で男性に比べて高い。

7-1図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔全体・性別〕

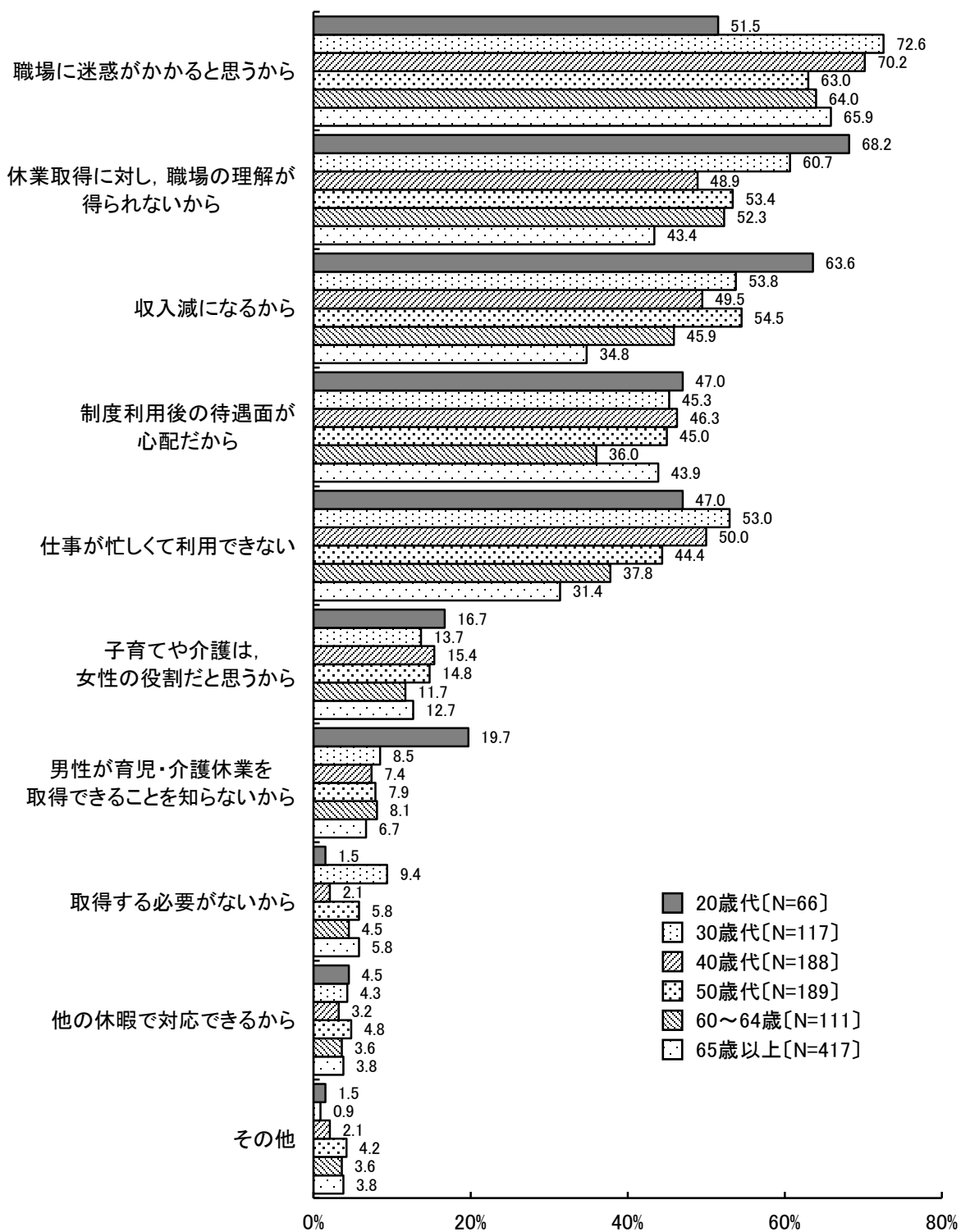


【年代別】

30歳代、40歳代は、「職場に迷惑がかかると思うから」が70%以上で他の年代に比べて高い。

20歳代は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が68.2%、「収入減になるから」が63.6%、「男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから」が19.7%で他の年代に比べて高い。30歳代は、「仕事が忙しくて利用できない」が53.0%で他の年代に比べて高い。

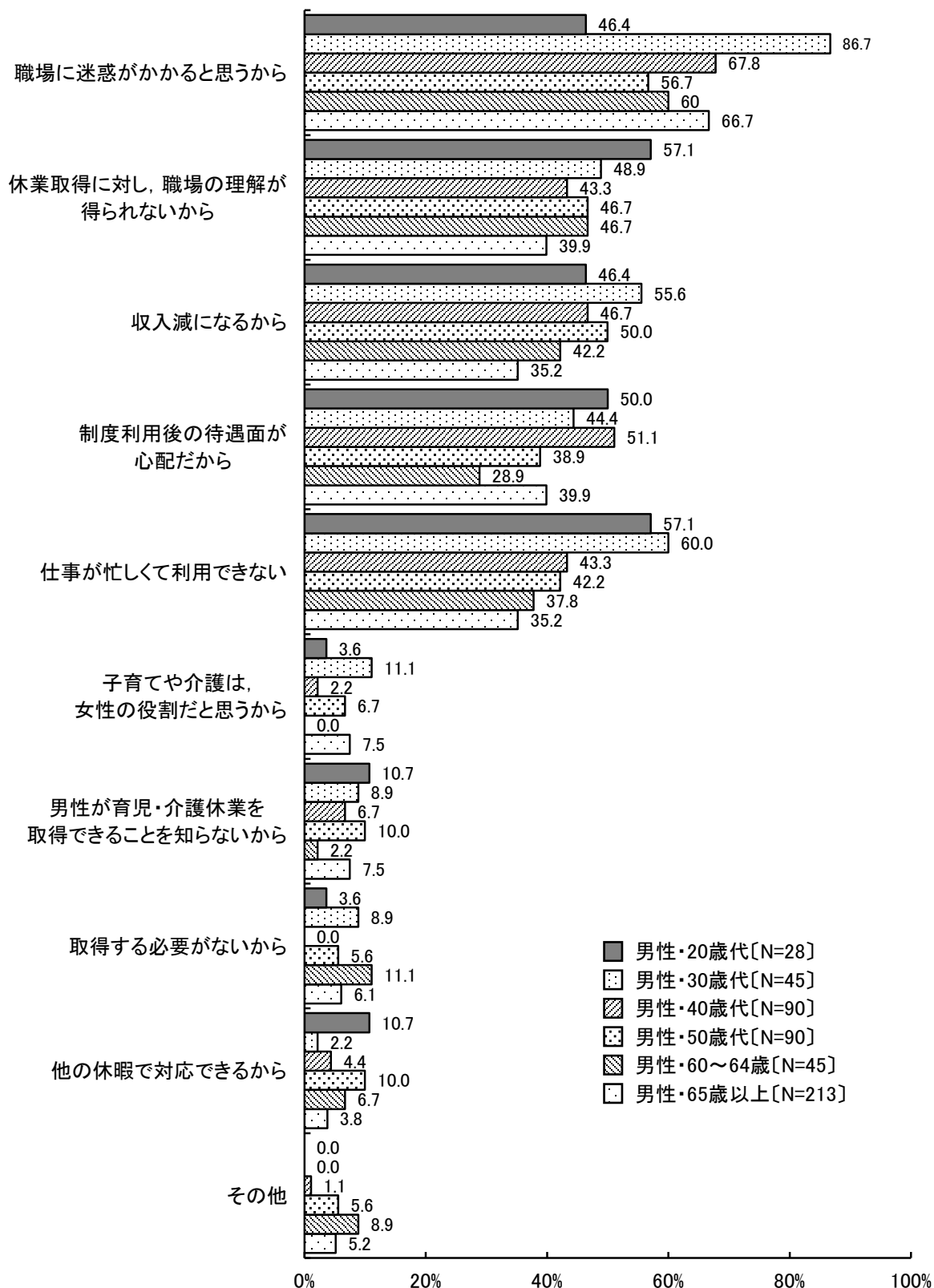
7-2図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔年代別〕



【男性・年代別】

男性30歳代は、「職場に迷惑がかかると思うから」が86.7%で他の年代に比べ目立って高い。
 男性20歳代は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が57.1%で他の年代に比べ高い。
 また、男性20歳代、男性30歳代は「仕事が忙しくて利用できない」がそれぞれ57.1%、60.0%と他の年代に比べ高くなっている。

7-3図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔男性・年代別〕

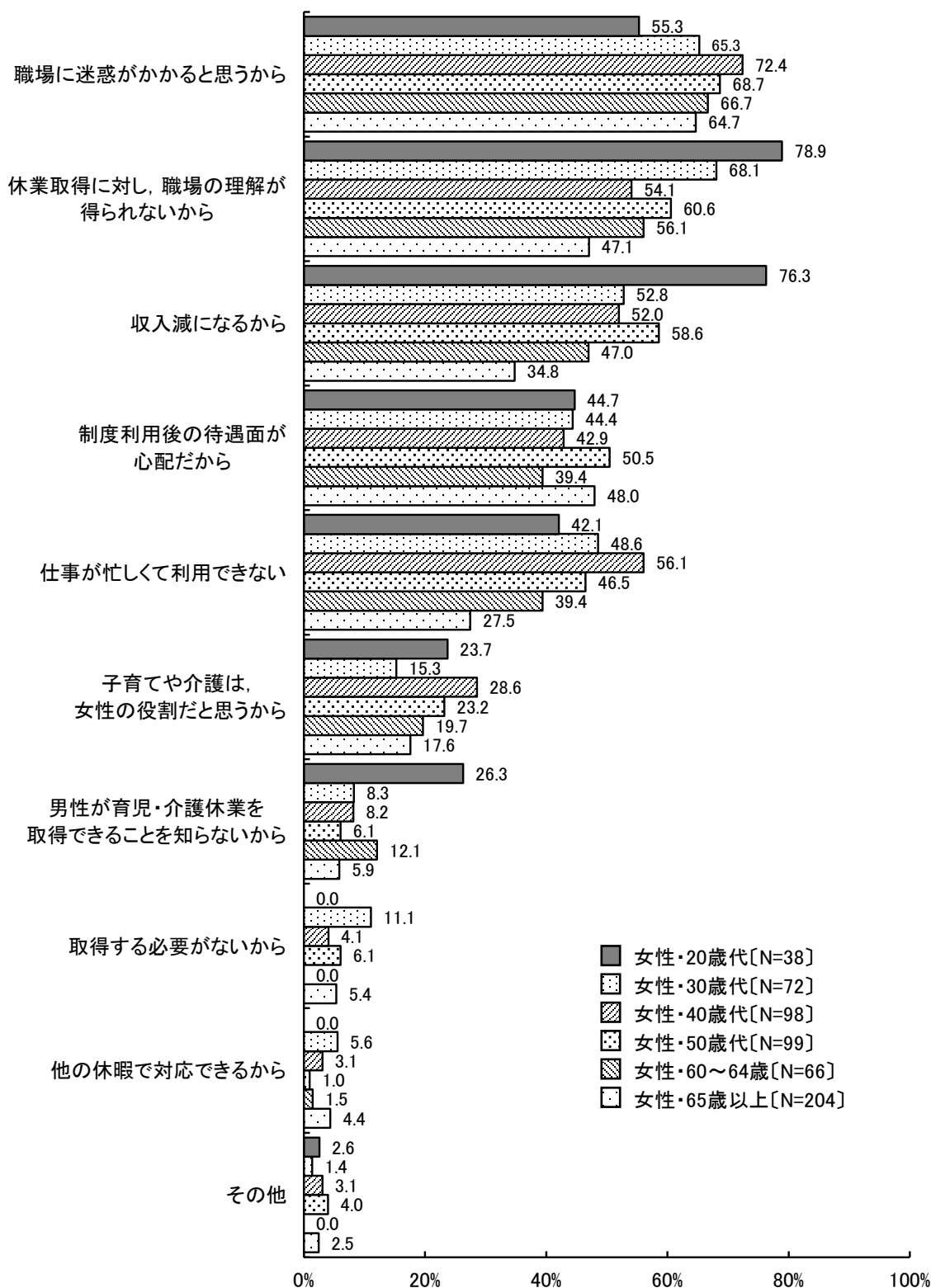


【女性・年代別】

女性20歳代は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が78.9%、「収入減になるから」が76.3%、「男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから」が26.3%で他の年代より高い。

女性40歳代は、「職場に迷惑がかかると思うから」が72.4%、「仕事が忙しくて利用できない」が56.1%と他の年代に比べて高い。

7-4図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔女性・年代別〕



(8) 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔複数回答〕

問8 男女がともに仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。○は3つまで

「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」	51.0%
「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」	43.2%
「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」	34.9%
「経営者や管理職の意識を改革すること」	32.0%

【全体】

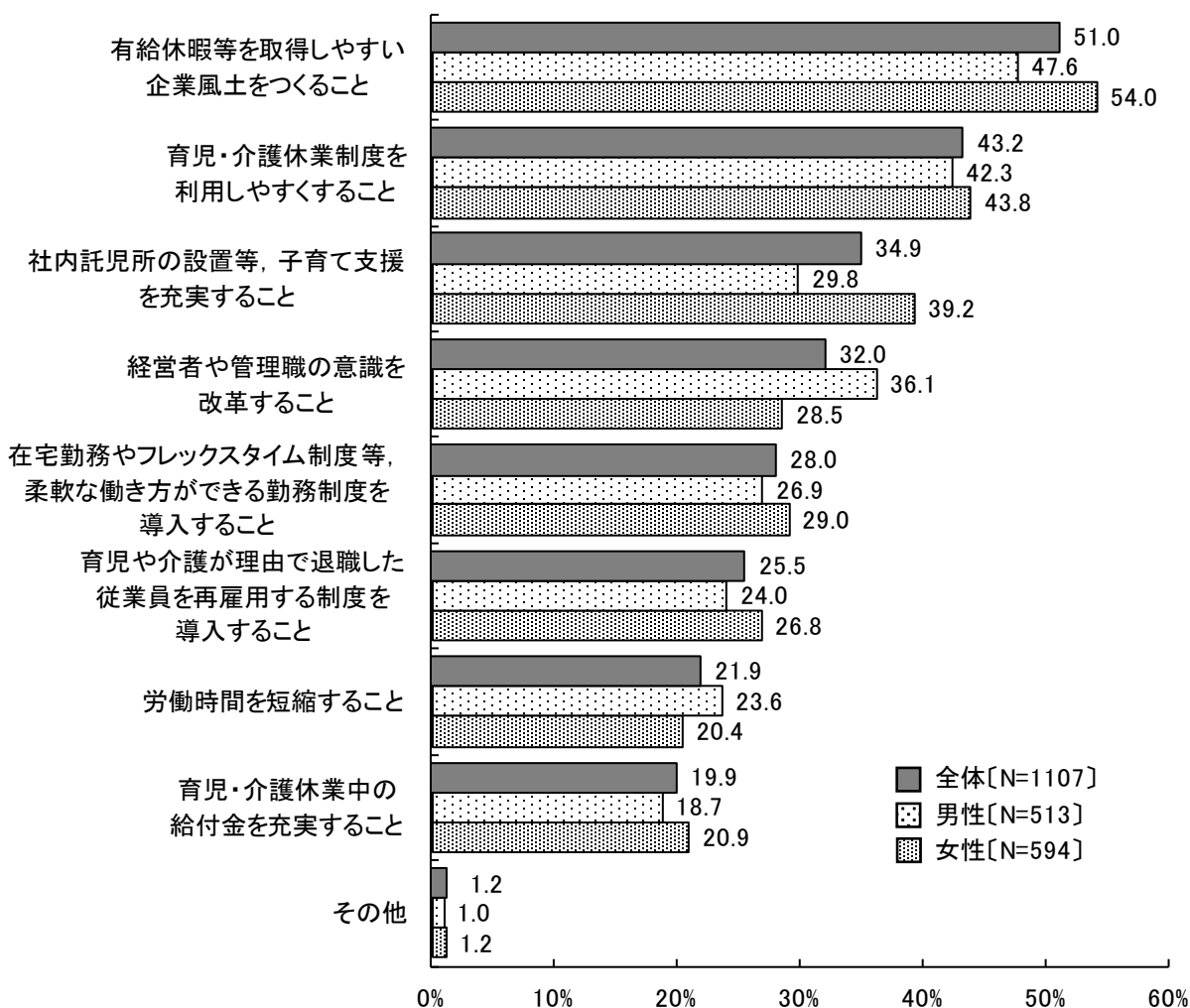
「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」が51.0%と最も高く、「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」が43.2%、「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が34.9%、「経営者や管理職の意識を改革すること」が32.0%で続いている。

【性別】

男性は、「経営者や管理職の意識を改革すること」が36.1%で女性の28.5%より7.6ポイント高い。

女性は、「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が39.2%で男性の29.8%より9.4ポイント高い。

8-1図 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔全体・性別〕

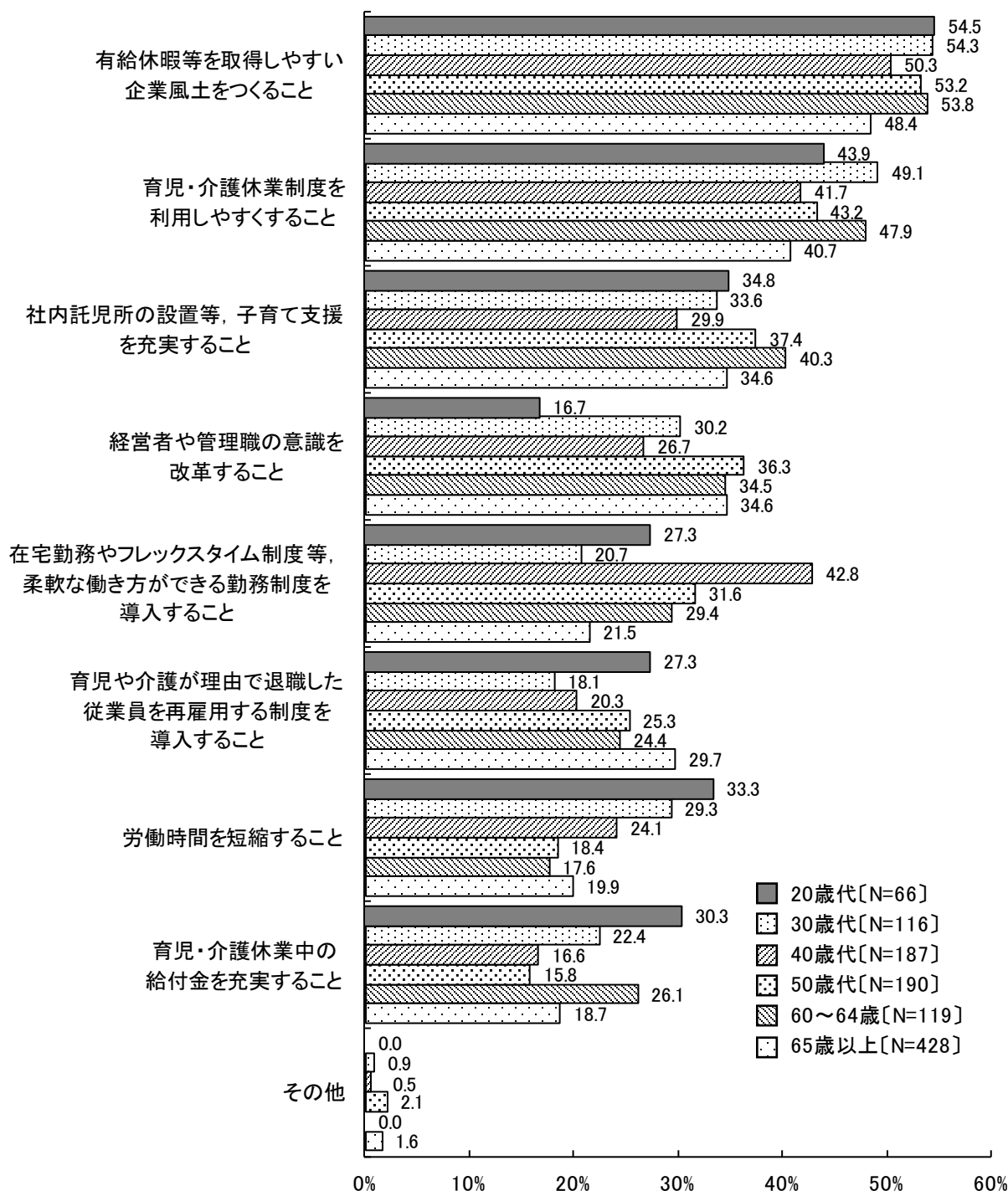


【年代別】

40歳代は、「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること」が42.8%で他の年代に比べて高い。

20歳代は、「労働時間を短縮すること」が33.3%、「育児・介護休業中の給付金を充実すること」が30.3%と他の年代に比べて高く、「経営者や管理職の意識を改革すること」が16.7%で他の年代に比べて低い。

8-2図 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔年代別〕



3. 地域活動，市民活動における男女共同参画について

(9-1) 地域活動や市民活動への参加状況について

問9-1 あなたは，地域活動や市民活動に現在参加していますか。○は1つだけ

「参加している」34.6%，「参加していない」65.4%
⇒「参加していない」が30.8ポイント高い

【全体・過去調査との比較】

「参加している」が34.6%，「参加していない」が65.4%で「参加していない」が30.8ポイント高い。

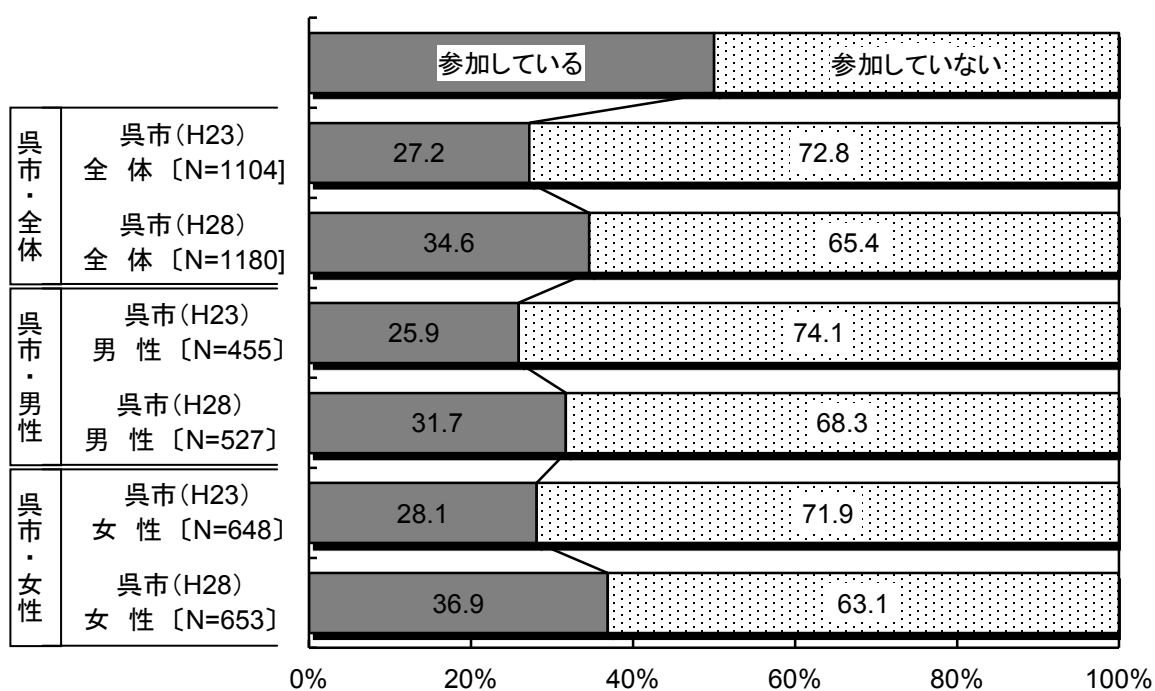
平成23年実施の呉市調査結果との比較では，「参加している」が7.4ポイント増加している。

【性別・過去調査との比較】

性別では特に大きな差異はない。

平成23年実施の呉市調査結果と比較では，「参加している」が男性は5.8ポイント，女性は8.8ポイント増加し，男女とも地域活動への参加が増加している。

9(1)-1図 地域活動，市民活動の参加について 【全体・性別・過去調査との比較】

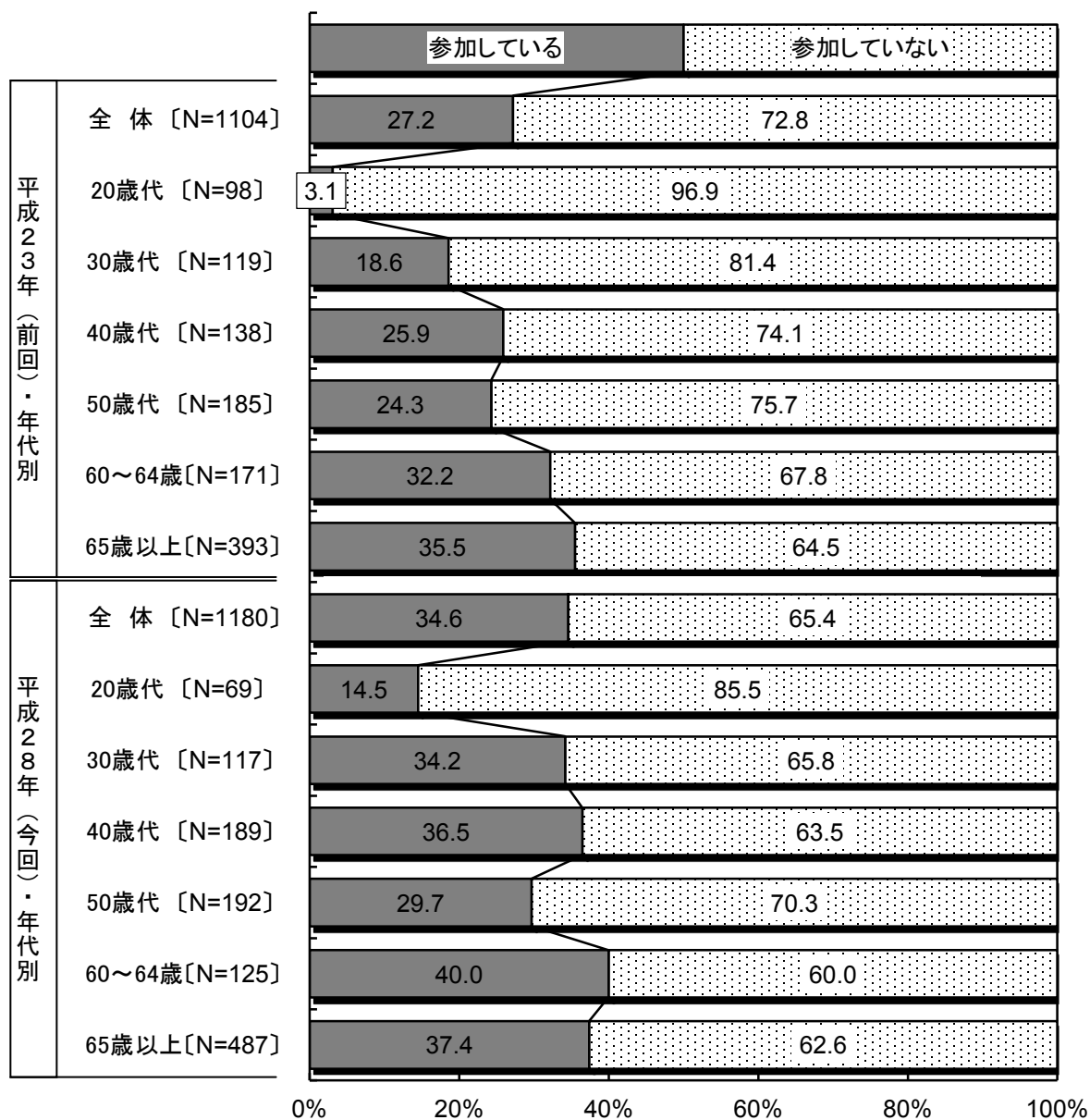


【年代別・過去調査との比較】

20歳代は「参加している」が14.5%で最も低い。

平成23年実施の呉市調査結果との比較では、65歳以上については平成23年調査の「参加している」が35.5%、今回調査は37.4%と差は1.9ポイントに留まっているが、他の年代では5.4ポイントから15.6ポイント増加しており、前回調査と比較してすべての年代の地域活動への参加が増加している。

9(1)-2図 地域活動，市民活動の参加について 【年代別・過去調査との比較】

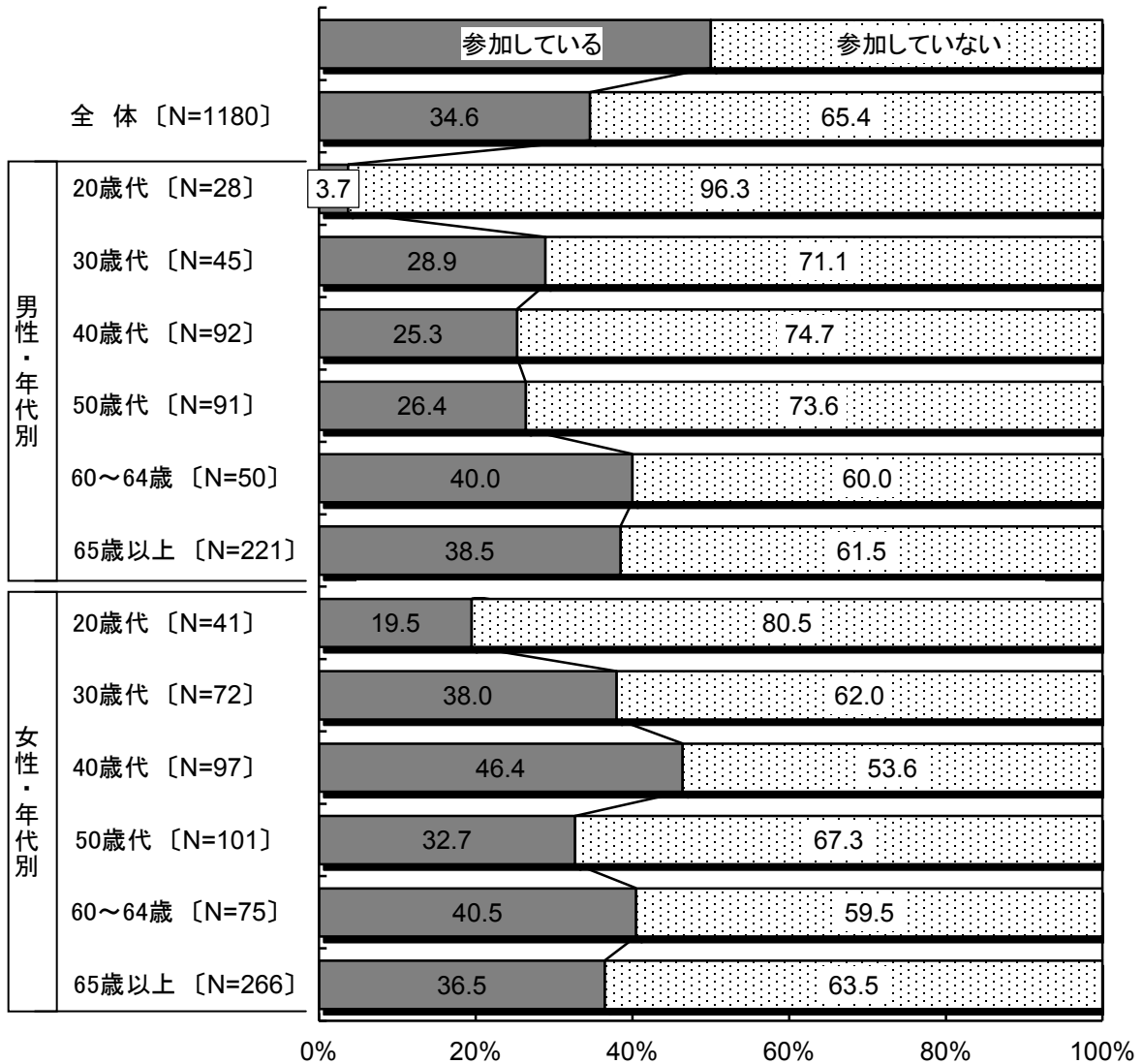


【性・年代別】

男性60～64歳，男性65歳以上は，「参加している」がそれぞれ40.0%，38.5%と他の男性の年代に比べて高い。また，男性20歳代は，「参加している」が3.7%と最も低い。

女性40歳代は，「参加している」が46.4%と最も高い。女性の20歳代は「参加している」が19.5%で，女性の年代の中では最も低いだが，男性20歳代に比べて15.8ポイント高い。

9(1)-3 図 地域活動，市民活動の参加について〔性・年代別〕

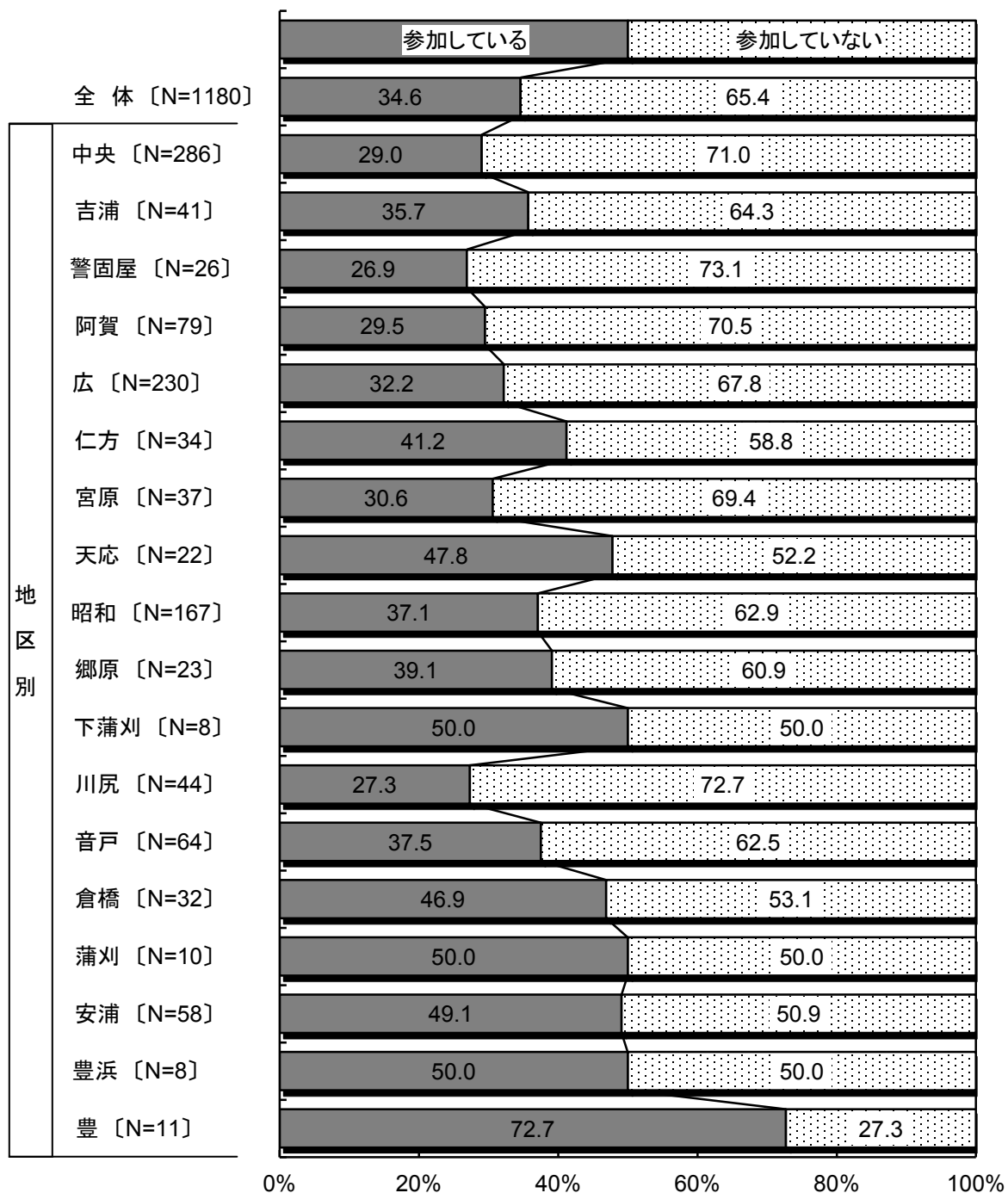


【地区別】

豊地区は、「参加している」が72.7%と最も高い。蒲刈地区が50.0%、安浦地区が49.1%、天応地区が47.8%、倉橋地区が46.9%、仁方地区が41.2%で、「参加している」が40%を超えている。

※下蒲刈、豊浜地区は標本数が少ないので参考掲載。

9(1)-4図 地域活動、市民活動の参加について〔地区別〕



(9-2) 活動に参加していない理由について〔複数回答〕

問9-2 あなたが、現在、活動に参加していない理由は何ですか。○はいくつでも

「きっかけがないから」	37.6%
「忙しく、時間がとれないから」	35.6%
「関心がないから」	27.8%

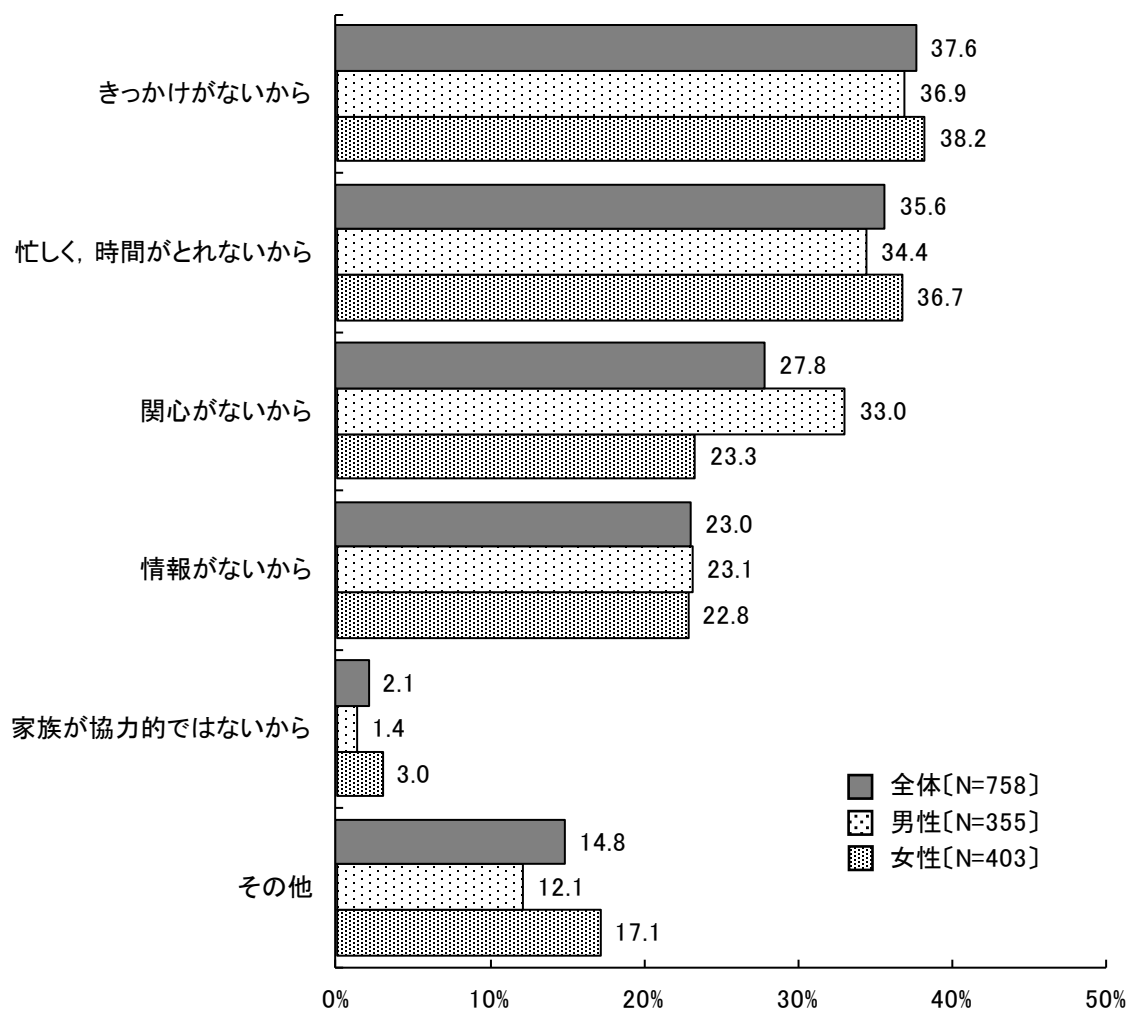
【全体】

「きっかけがないから」が37.6%と最も高く、「忙しく、時間がとれないから」が35.6%、「関心がないから」が27.8%と続いている。

【性別】

「関心がないから」は、男性が33.0%で、女性の23.3%より9.7ポイント高い。

9(2)-1 図 活動に参加していない理由について〔全体・性別〕

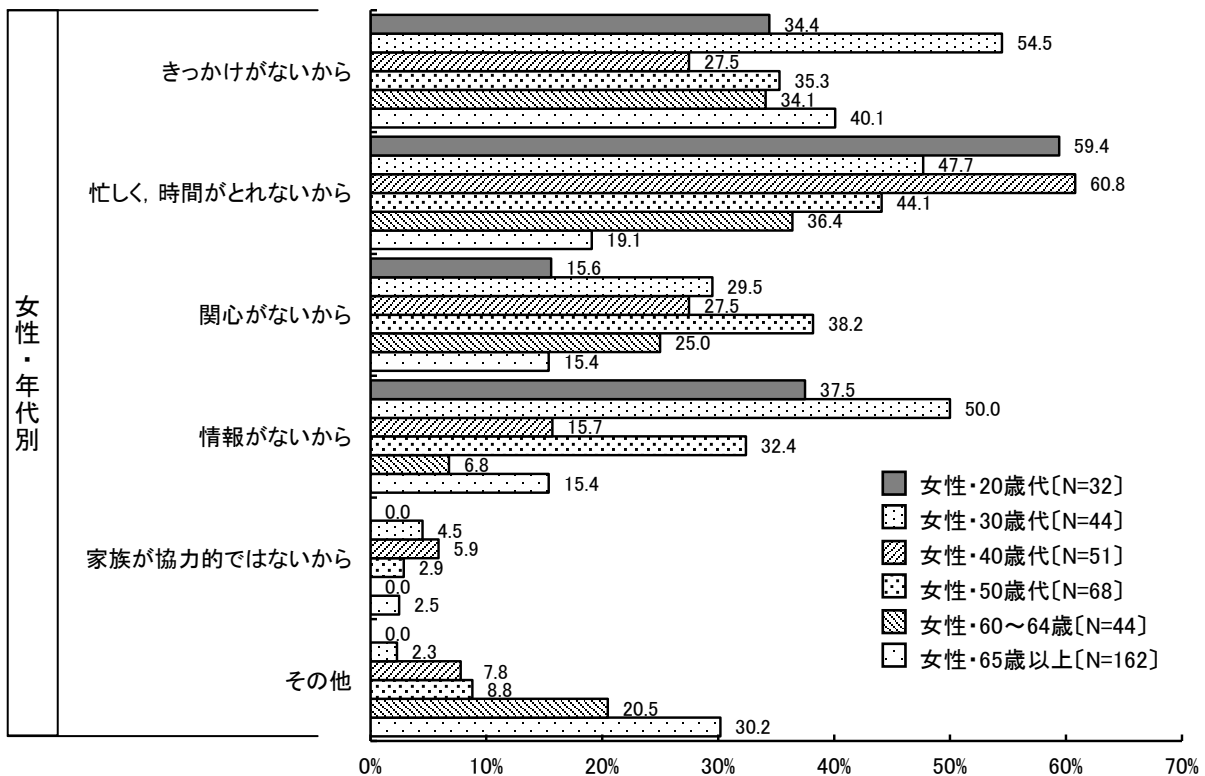
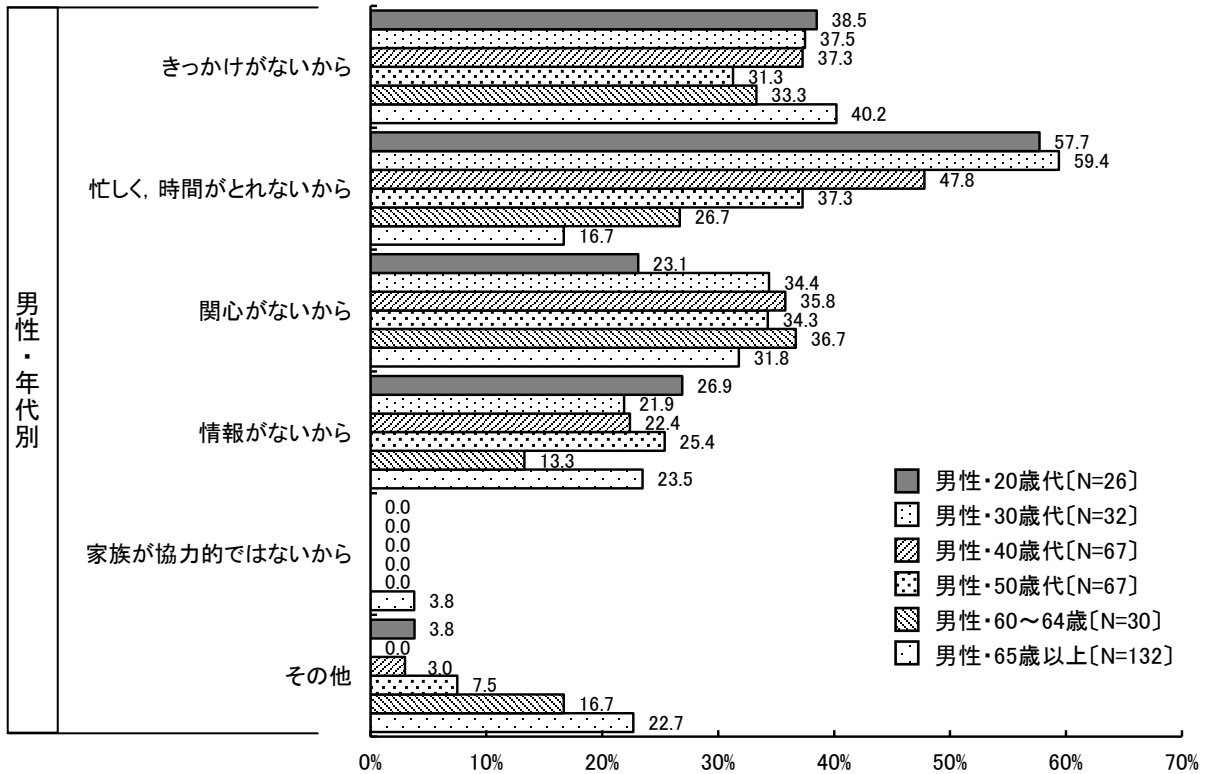


【性・年代別】

男性20歳代，男性30歳代，女性20歳代，女性40歳代は，「忙しく，時間がとれないから」が他の年代に比べて高い。

女性30歳代は，「きっかけがないから」，「情報がないから」が他の年代に比べて高い。

9(2)-2図 活動に参加していない理由について〔性・年代別〕



(10) 地域活動等の現状について〔複数回答〕

問10 あなたは、地域活動等の現状についてどのように思いますか。○はいくつでも

「男性の参加が少ない」	31.8%
「男女が平等に活動している」	25.4%
「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある」	23.7%

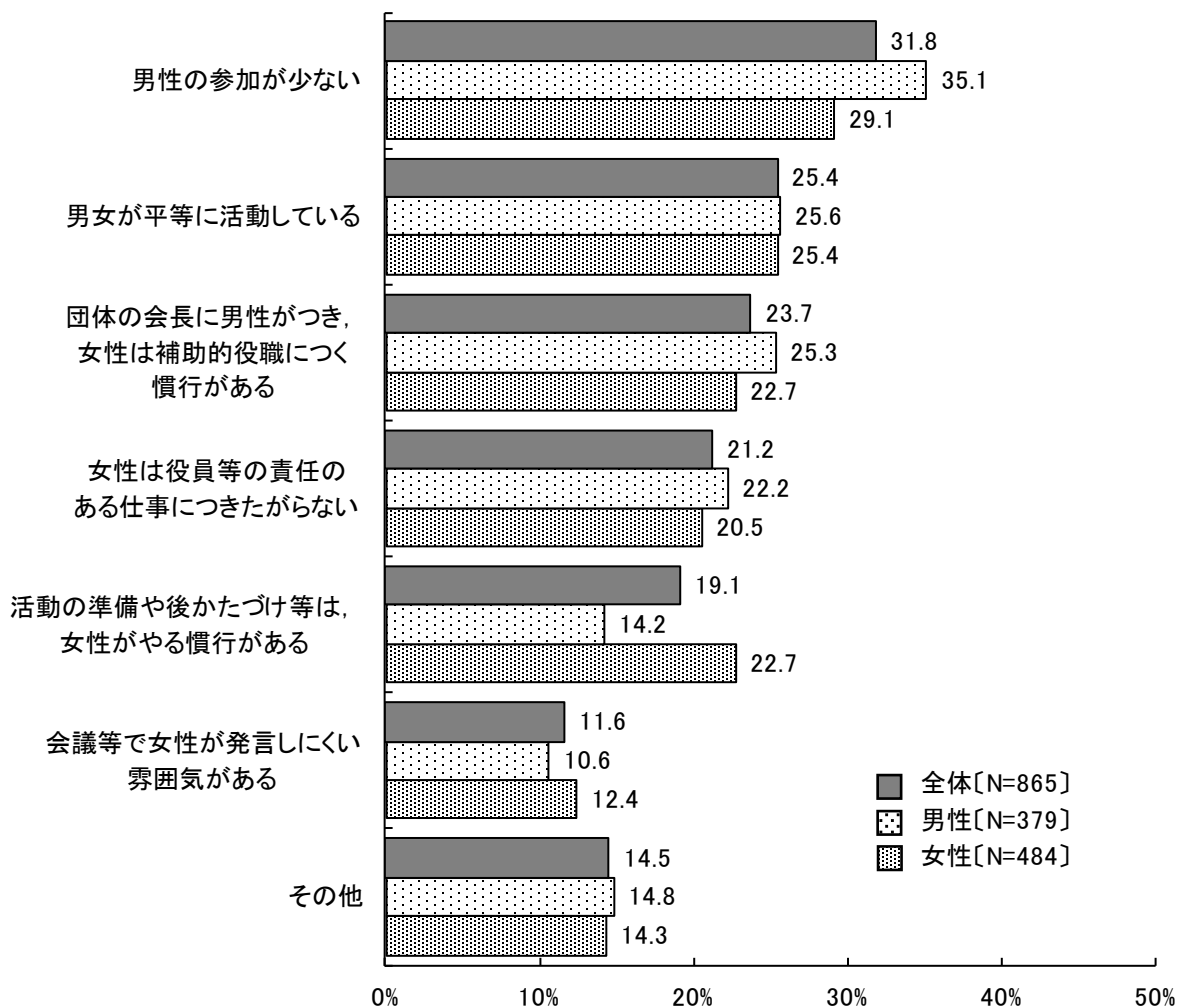
【全体】

「男性の参加が少ない」が31.8%と最も高く、「男女が平等に活動している」が25.4%、「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある」が23.7%、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」が21.2%で続いている。

【性別】

女性は、「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある」が22.7%で男性の14.2%より8.5ポイント高い。

10-1図 地域活動等の現状について〔全体・性別〕

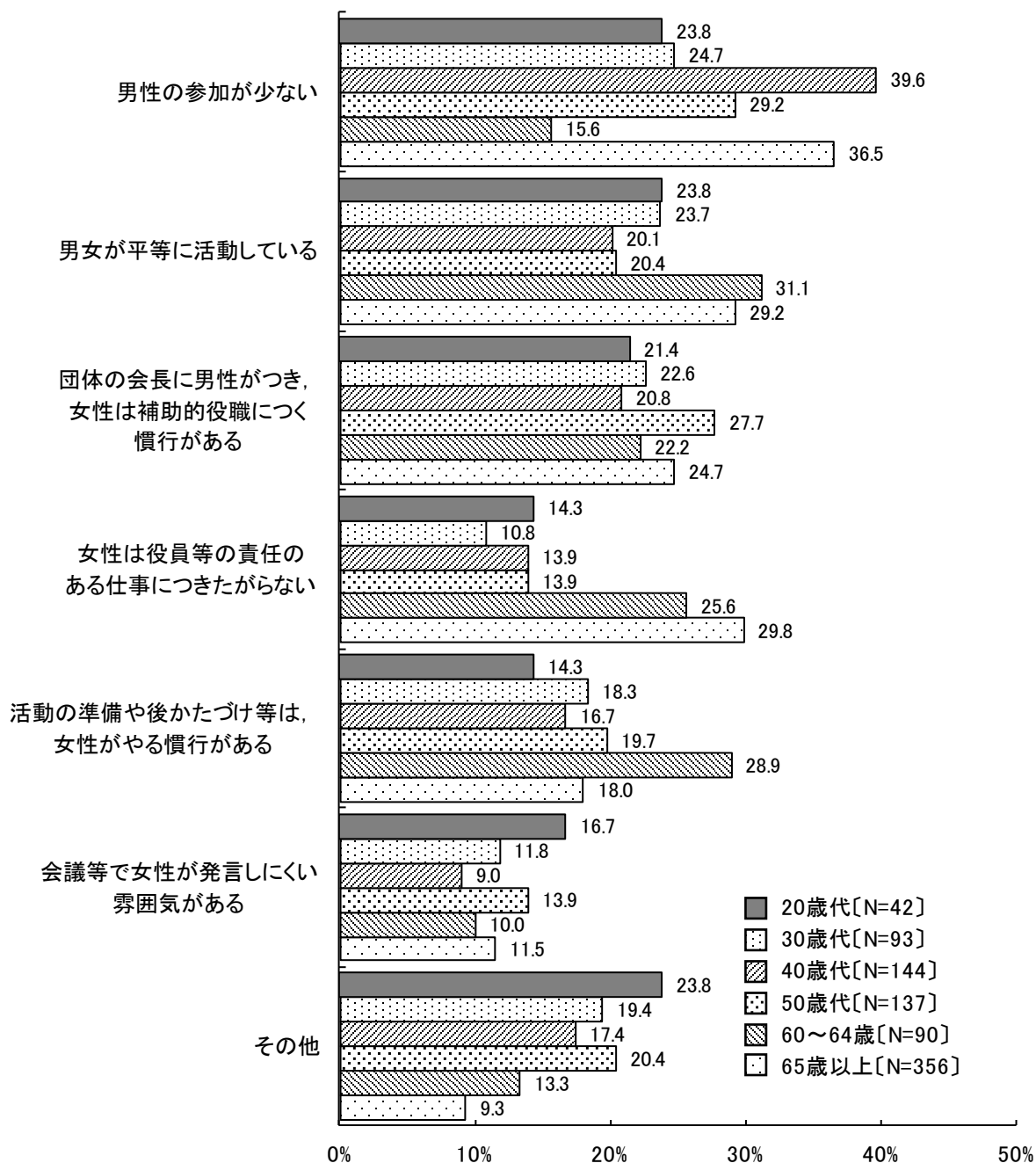


【年代別】

「男性の参加が少ない」は40歳代が39.6%，65歳以上が36.5%で他の年代に比べて高い。

「男女が平等に活動している」と、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」は60～64歳，65歳以上が他の年代に比べて高い。また，60～64歳は「活動の準備や後かたづけ等は，女性がやる慣行がある」についても28.9%で他の年代に比べて高い。

10-2図 地域活動等の現状について〔年代別〕



4. 仕事と家庭生活，地域活動・市民活動の両立について

(11) 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて

問11 あなたの生活における優先度について，あなたの**現実**と**理想**がいちばん近いものを，次の中から選んでください。**現実**と**理想**それぞれについて1～5のいずれかに○

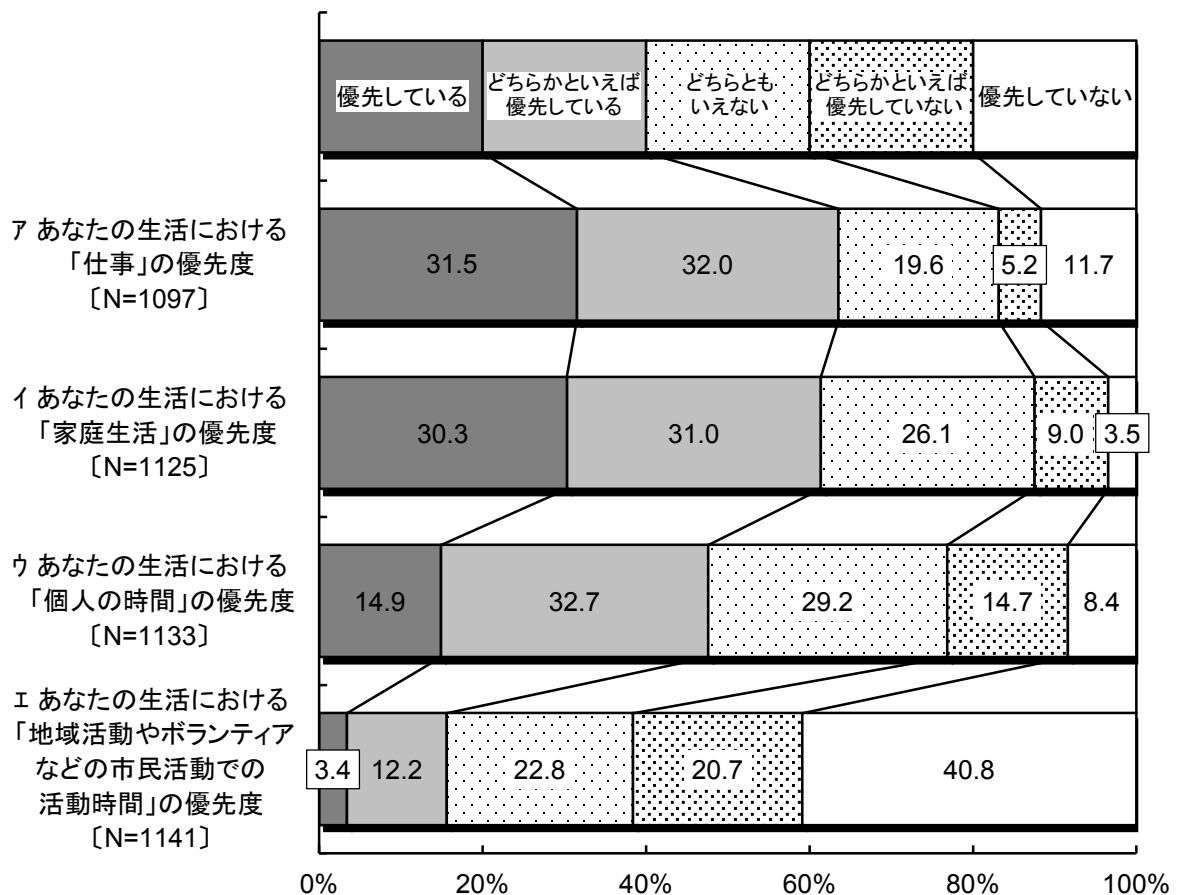
「仕事」「家庭生活」「個人の時間」
 ⇒『優先している』が『優先していない』より高い
 「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」
 ⇒『優先していない』が『優先している』より高い

【生活における**現実**の優先度】

■優先度	『優先している』	『優先していない』
ア 「仕事」の優先度	63.5%	16.9%
イ 「家庭生活」の優先度	61.3%	12.5%
ウ 「個人の時間」の優先度	47.6%	23.1%
エ 「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度	15.6%	61.5%

※「優先している」と「どちらかといえば優先している」を合わせて『優先している』，
 「優先していない」と「どちらかといえば優先していない」を合わせて『優先していない』とする。

11-1図 生活における<現実>の優先度〔全体〕

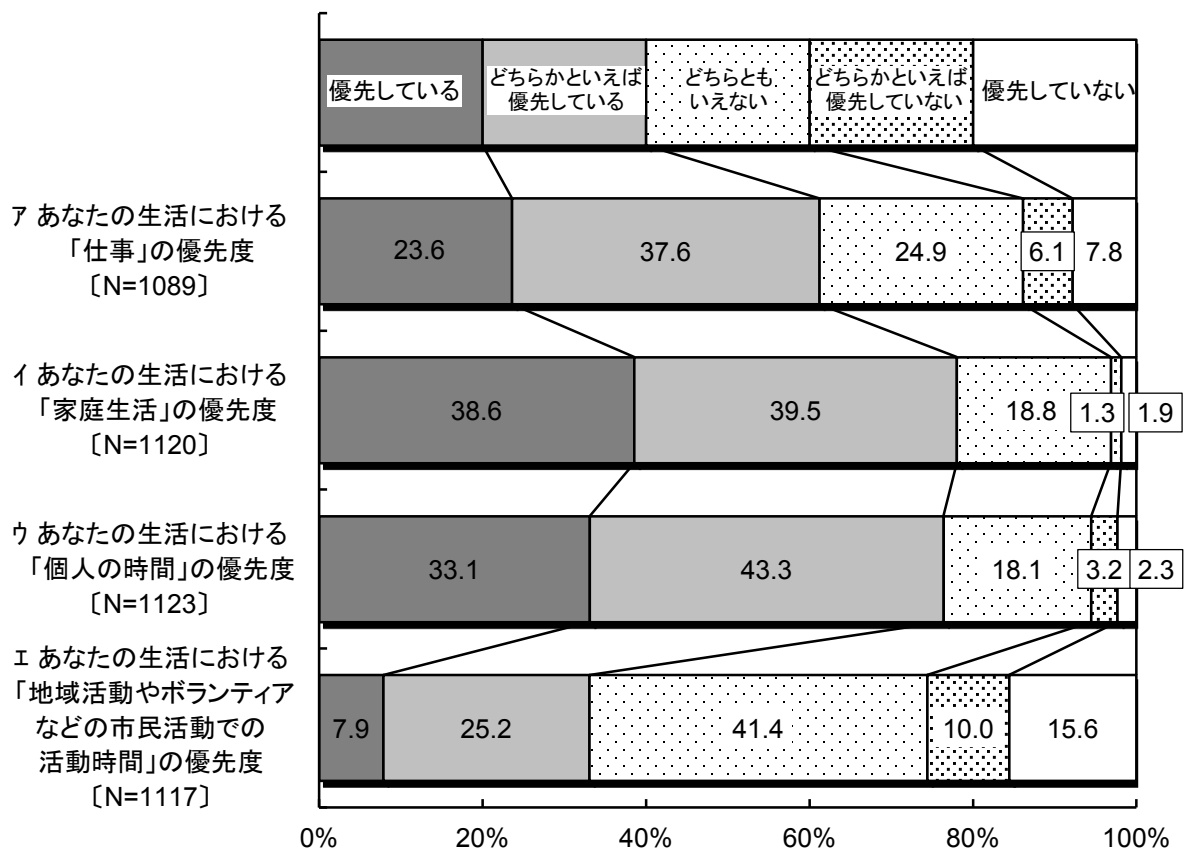


【生活における理想の優先度】

■優先度	『優先する』	『優先しない』
ア 「仕事」の優先度	61.2%	13.9%
イ 「家庭生活」の優先度	78.1%	3.2%
ウ 「個人の時間」の優先度	76.4%	5.5%
エ 「地域活動やボランティアなどの 市民活動での活動時間」の優先度	33.1%	25.6%

※「優先している」と「どちらかといえば優先している」を合わせて『優先する』、
「優先していない」と「どちらかといえば優先していない」を合わせて『優先しない』とする。

11-2図 生活における<理想>の優先度〔全体〕



ア あなたの生活における「仕事」の優先度（現実）

『優先している』は 63.5%

【全体】

「優先している」が31.5%、「どちらかといえば優先している」が32.0%で『優先している』は63.5%、「優先していない」が11.7%、「どちらかといえば優先していない」が5.2%で『優先していない』は16.9%と、『優先している』が大きく上回っている。

【性別】

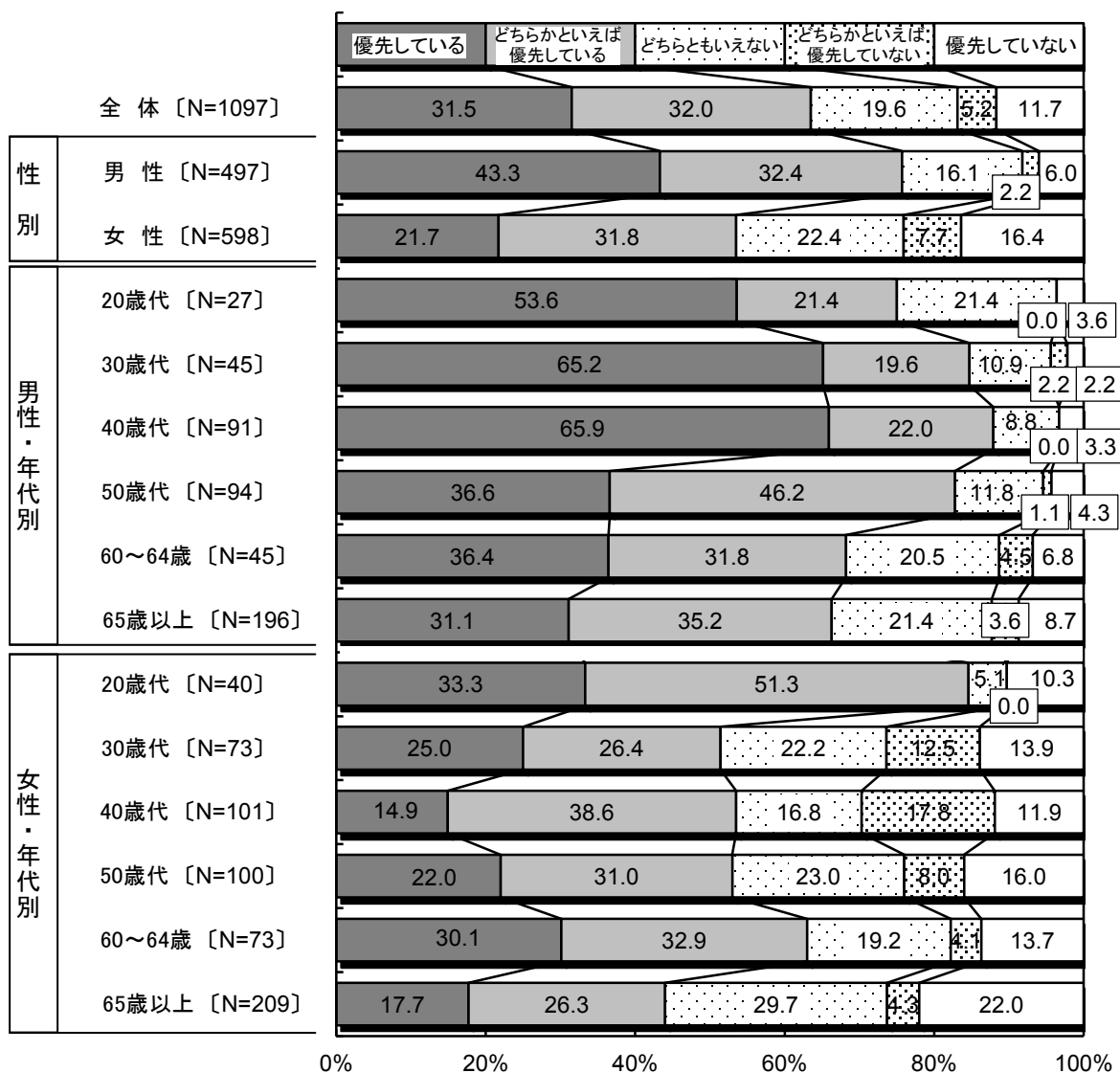
男性は、『優先している』が75.7%で女性の53.5%より22.2ポイント高い。

【性・年代別】

男性30歳代、男性40歳代は、「優先している」が65%を超え、他の年代に比べて高い。

女性40歳代は、「優先している」が14.9%、女性65歳以上17.7%で他の年代に比べて低い。

11-3図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（ア あなたの生活における「仕事」の優先度）



イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度（現実）

『優先している』は61.3%

【全体】

「優先している」が30.3%、「どちらかといえば優先している」が31.0%で『優先している』は61.3%、「優先していない」が3.5%、「どちらかといえば優先していない」が9.0%で『優先していない』は12.5%と、『優先している』が大きく上回っている。

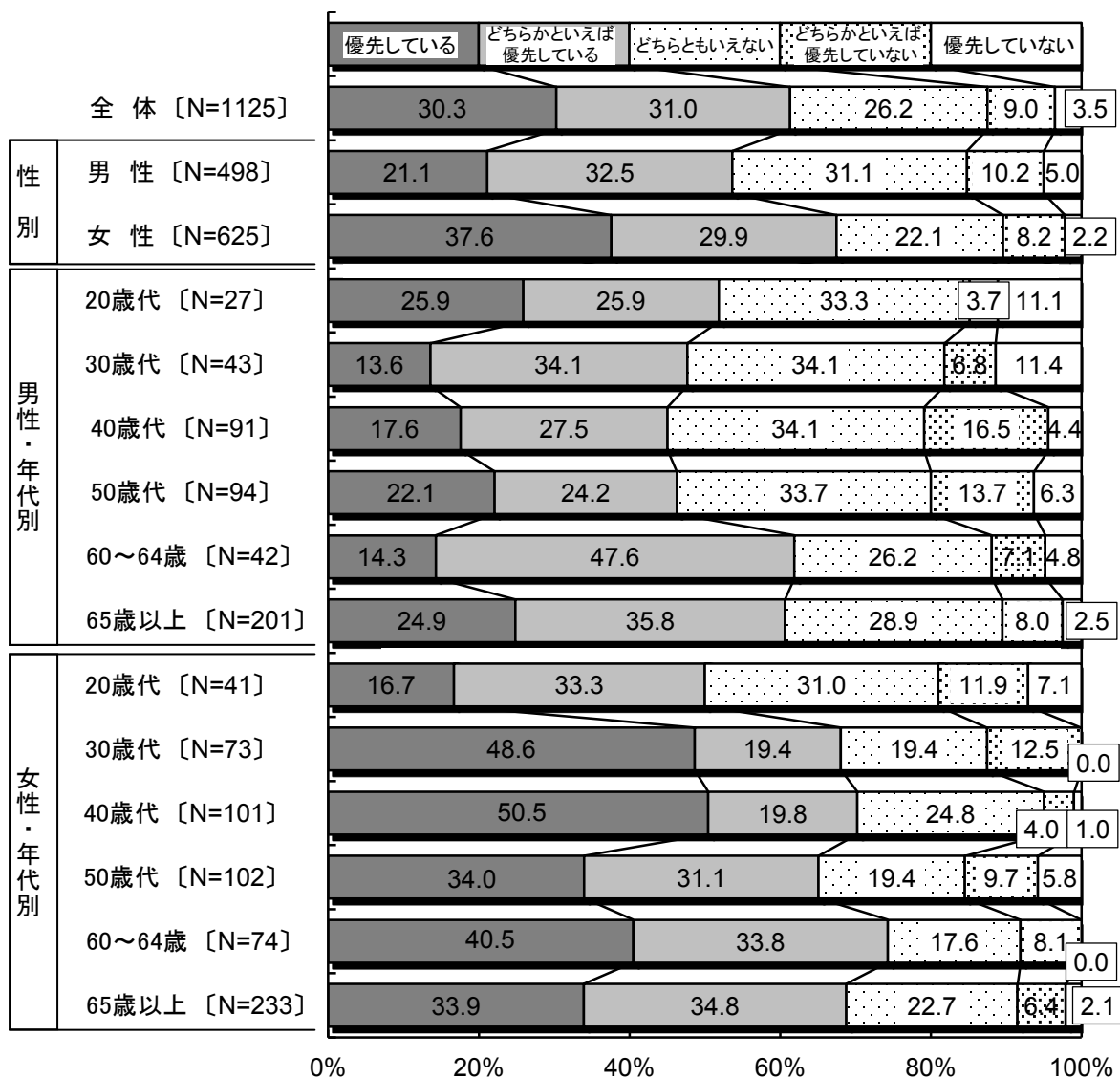
【性別】

男性は、『優先している』が53.6%、女性は67.5%で、『優先していない』を上回っている。女性は、『優先している』が男性より13.9ポイント高い。

【性・年代別】

男性30歳代、男性40歳代、男性50歳代、女性20歳代は、『優先している』が50.0%以下で他の年代に比べて低い。また、男性30歳代は、「優先している」が13.6%で他の年代に比べて低い。

11-4図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度）



ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度（現実）

『優先している』は47.6%

【全体】

「優先している」が14.9%、「どちらかといえば優先している」が32.7%で『優先している』は47.6%、「優先していない」が8.4%、「どちらかといえば優先していない」が14.8%で『優先していない』は23.2%と『優先している』が大きく上回っている。

【性別】

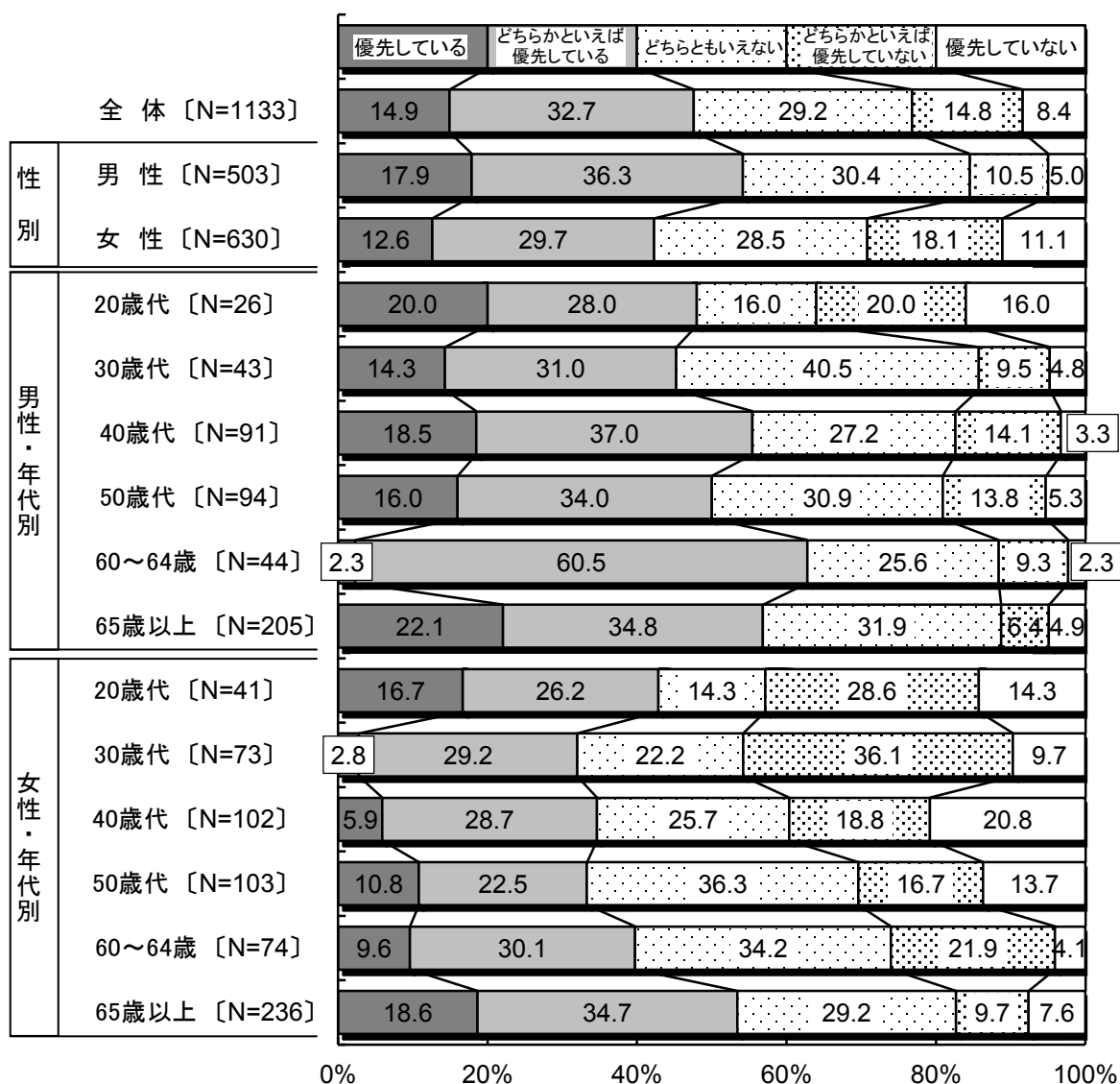
男性は、『優先している』が54.2%、女性は42.3%で、『優先していない』を大きく上回っている。男性は、『優先している』が女性より11.9ポイント高い。

【性・年代別】

男性60～64歳は、『優先している』が62.8%で他の年代より高い。

女性30歳代、女性50歳代は、『優先している』がそれぞれ32.0%、33.3%で他の年代に比べて低い。

11-5図 生活における優先度で現実にいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度）



エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度（現実）

『優先していない』は61.6%で『優先している』は15.6%

【全体】

「優先している」が3.4%、「どちらかといえば優先している」が12.2%で『優先している』は15.6%、「優先していない」が40.9%、「どちらかといえば優先していない」が20.7%で『優先していない』は61.6%と『優先していない』が大きく上回っている。

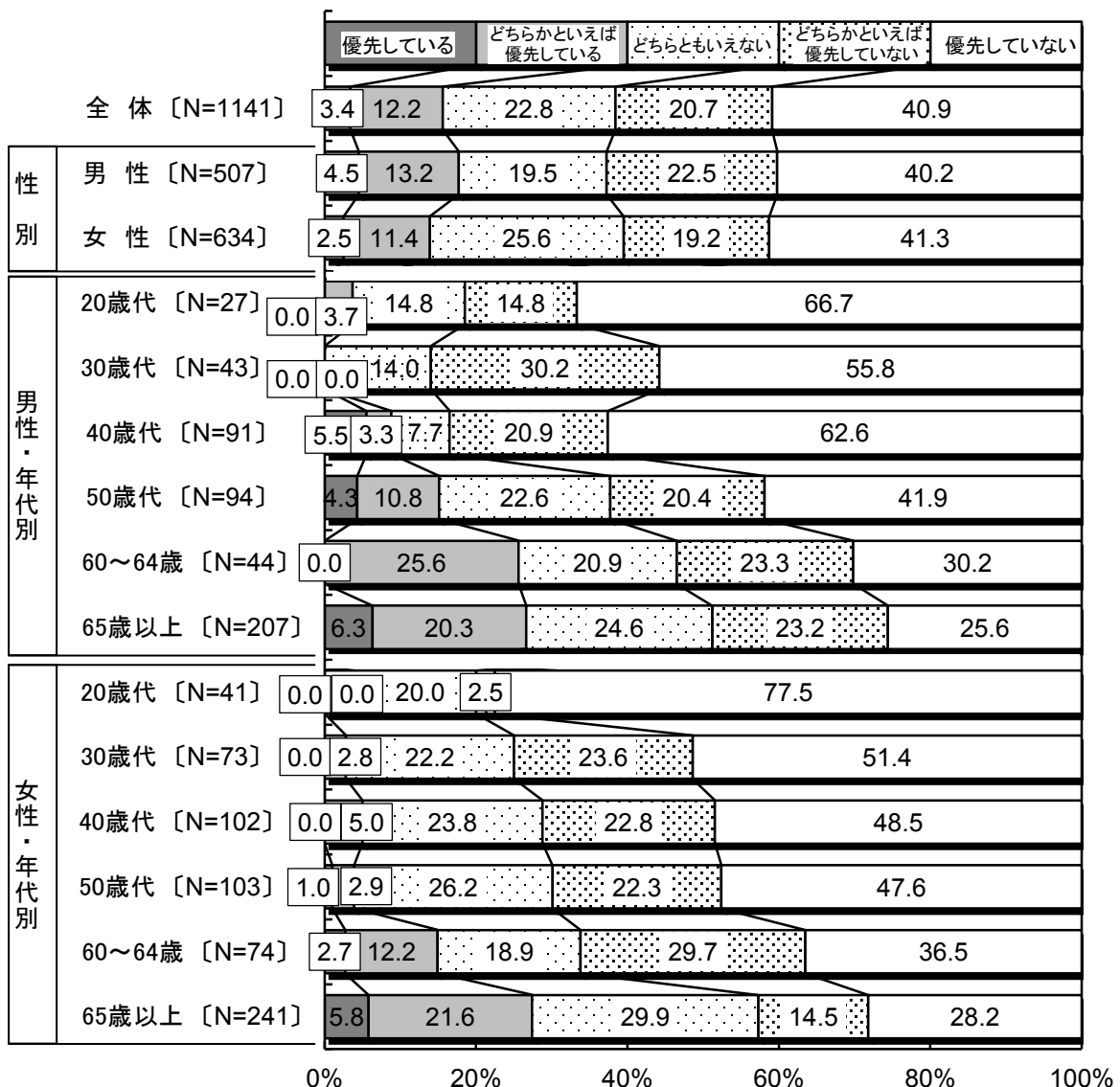
【性別】

男性は、『優先している』が17.7%で、女性の13.9%より3.8ポイント高い。女性は、「どちらともいえない」が25.6%で男性の19.5%より6.1ポイント高い。

【性・年代別】

男性60～64歳，男性65歳以上，女性65歳以上は、『優先している』が他の年代に比べて高く，男性20歳代，女性20歳代，男性30歳代，男性40歳代は、『優先していない』が80%以上で他の年代に比べて高い。

11-6図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
 (エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度)



ア あなたの生活における「仕事」の優先度（理想）

『優先する』は61.2%

【全体】

「優先する」が23.6%、「どちらかといえば優先する」が37.6%で『優先する』は61.2%、「優先しない」が7.8%、「どちらかといえば優先しない」が6.1%で『優先しない』は13.9%と『優先する』が大きく上回っている。

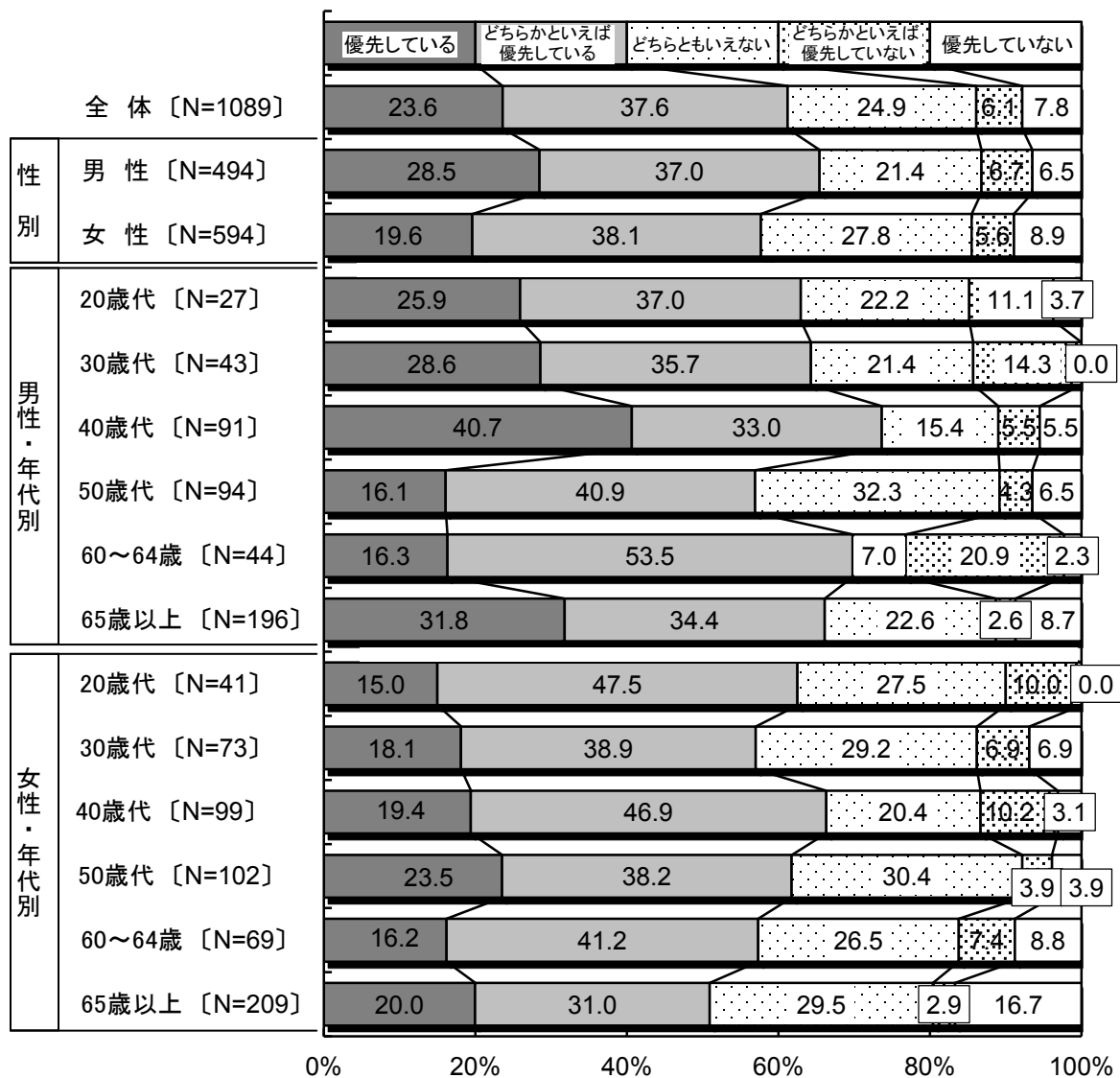
【性別】

男性は、『優先する』が65.5%で女性の57.7%より7.8ポイント高い。

【性・年代別】

男性40歳代は、『優先する』が73.7%で他の年代に比べて高い。また、「優先する」が40.7%で他の年代に比べ高い。

11-7図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
(ア あなたの生活における「仕事」の優先度)



イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度（理想）

『優先する』は 78.1%

【全体】

「優先する」が38.6%、「どちらかといえば優先する」が39.5%で『優先する』は78.1%、「優先しない」が1.9%、「どちらかといえば優先しない」が1.3%で『優先しない』は3.2%で『優先する』が大きく上回っている。

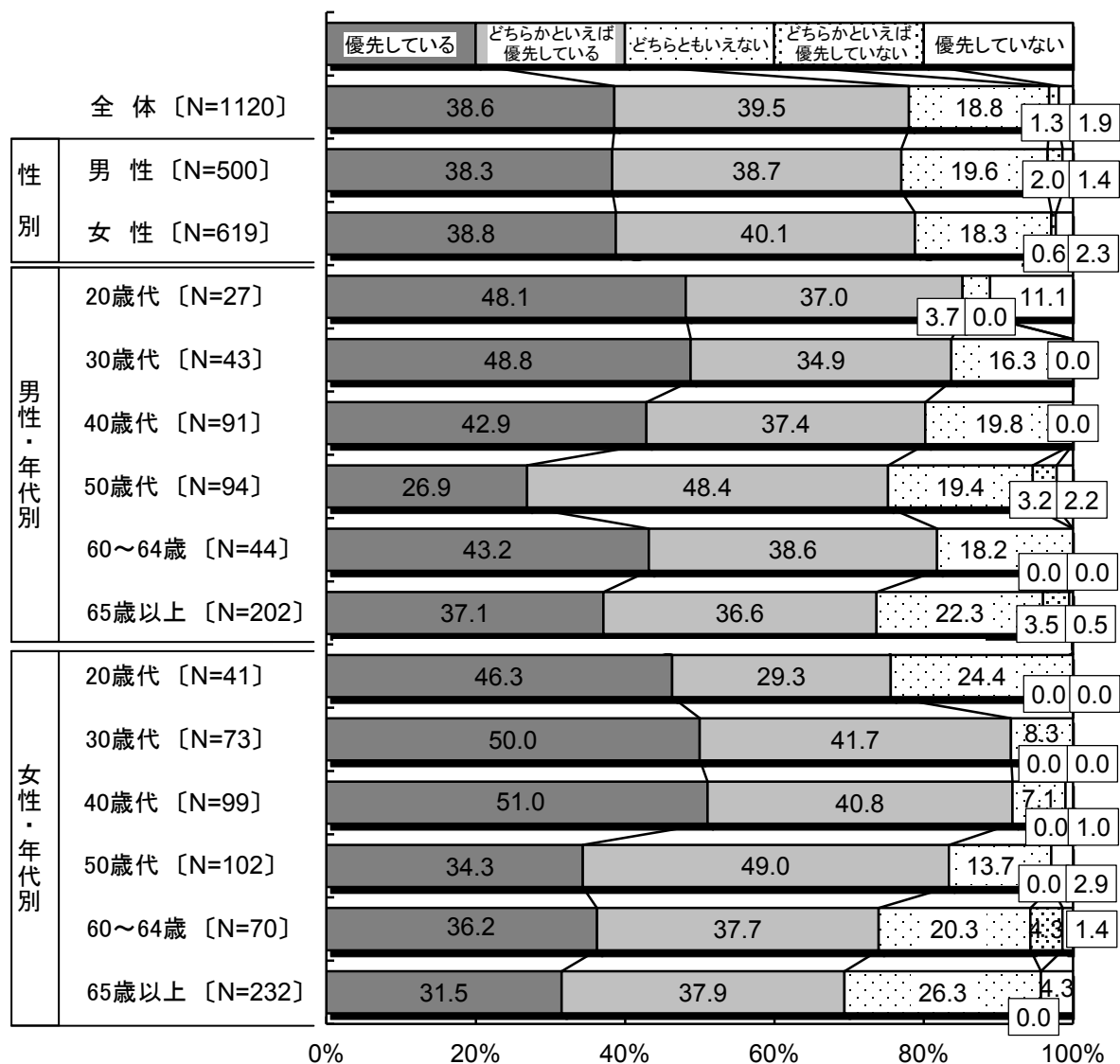
【性別】

特に大きな差異はない。

【性・年代別】

女性30歳代、女性40歳代は、『優先する』が90%程度で他の年代に比べて高い。また、男性50歳代は、「優先する」が26.9%で他の年代に比べて低い。

11-8図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度）



ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度（理想）

『優先する』は76.4%

【全体】

「優先する」が33.1%、「どちらかといえば優先する」が43.3%で『優先する』は76.4%、「優先しない」が2.3%、「どちらかといえば優先しない」が3.2%で『優先しない』は5.5%と『優先する』が大きく上回っている。

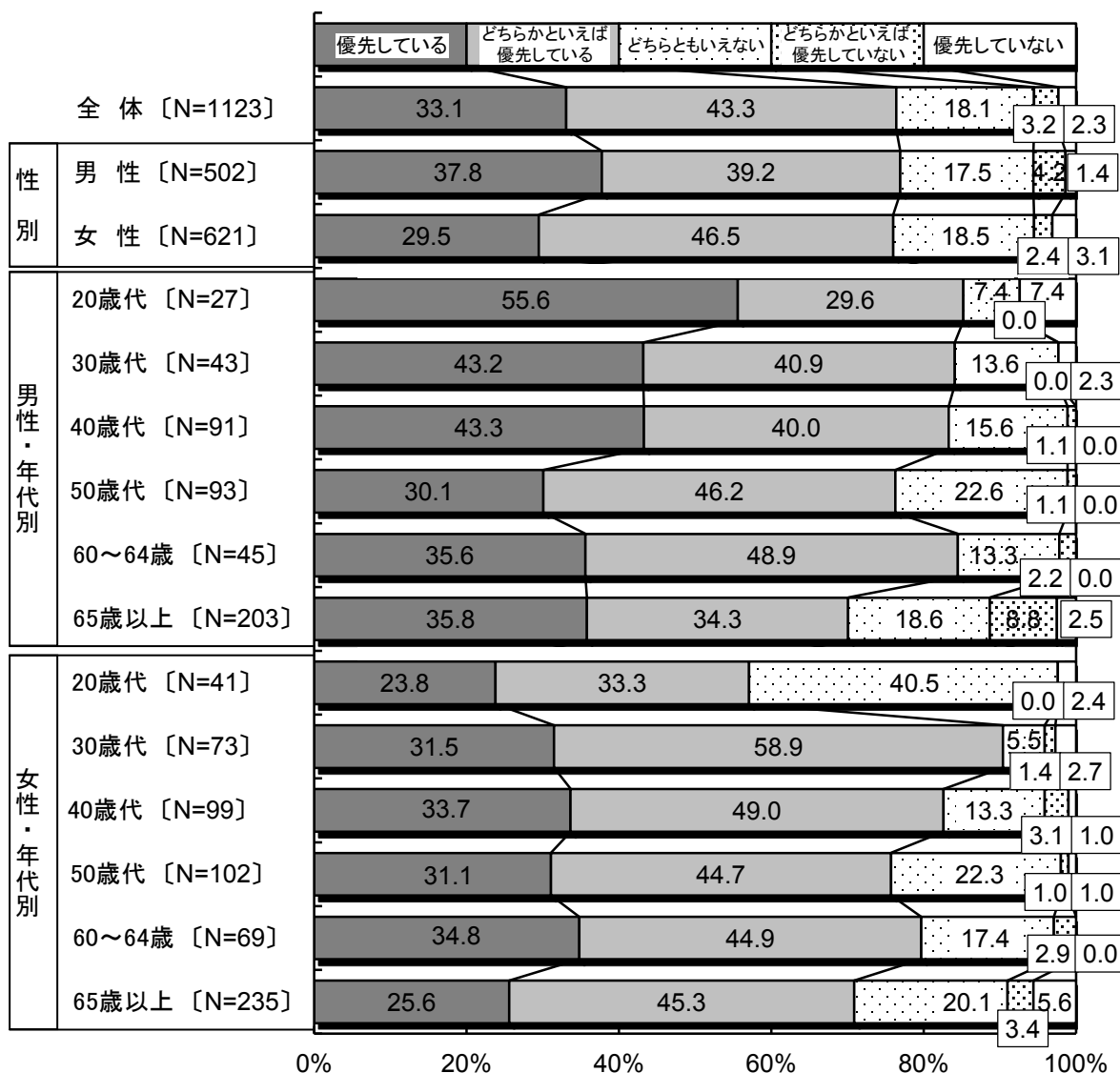
【性別】

男性は、「優先する」が37.8%で女性の29.5%より8.3ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代は、「優先する」が55.6%で他の年代に比べて高く、『優先する』は女性30歳代が90.4%で他の年代に比べて高い。

11-9図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
（ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度）



エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度（理想）

『優先する』は33.1% 「どちらともいえない」が41.3%

【全体】

「どちらともいえない」が41.3%と最も高く、『優先する』は33.1%、『優先しない』は25.6%。

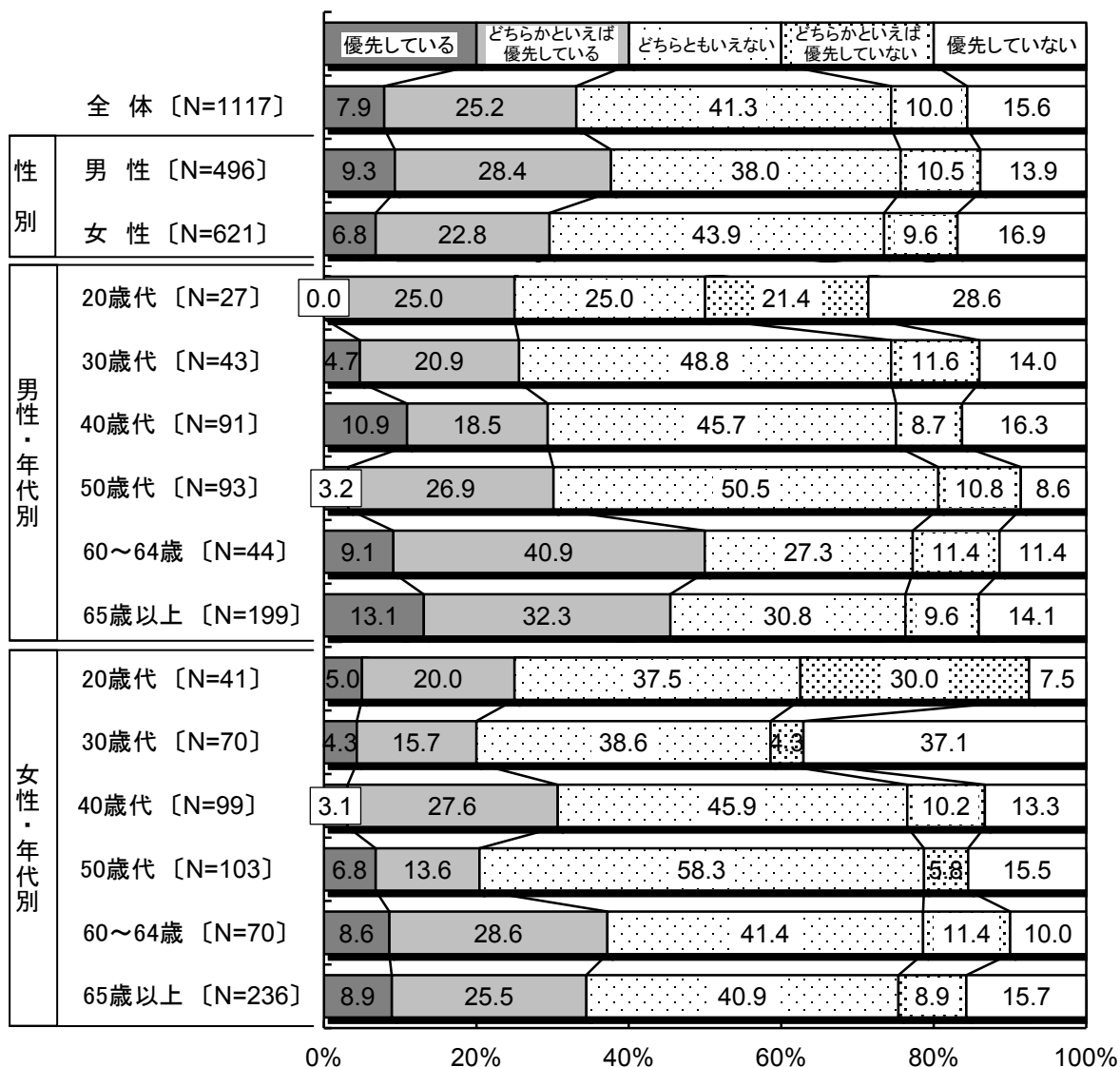
【性別】

男性は、『優先する』が37.7%で女性の29.6%より8.1ポイント高い。

【性・年代別】

男性60～64歳は、『優先する』が50.0%で他の年代に比べて高い。『優先しない』は男性20歳代が50%で最も高く、「優先しない」は女性30歳代が37.1%で最も高い。

11-10図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性・年代別〕
 (エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度)



■生活における優先度で現実と理想の比較について

【全体】

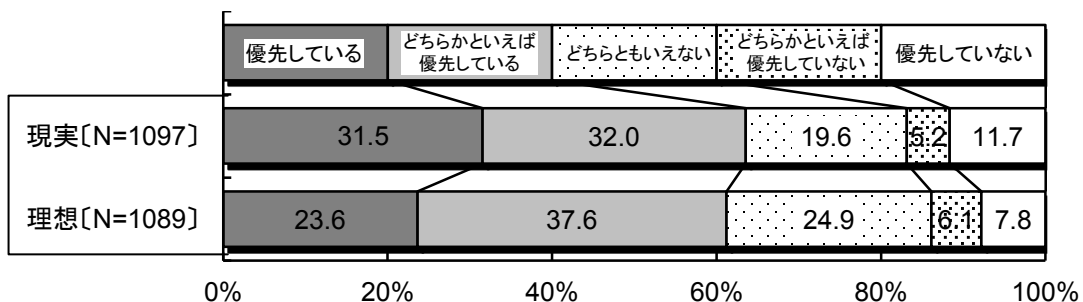
優先度で現実と理想の差が最も大きいのは、『個人の時間』で、「理想」が76.4%に対し、「現実」は47.6%で28.8ポイントの差がある。

次いで差が大きいのは『市民活動での活動時間』で、「理想」が33.1%に対し、「現実」は15.6%で17.5ポイントの差がある。『家庭生活』についても「理想」が78.1%に対し、「現実」は61.3%で16.8ポイントの差がある。

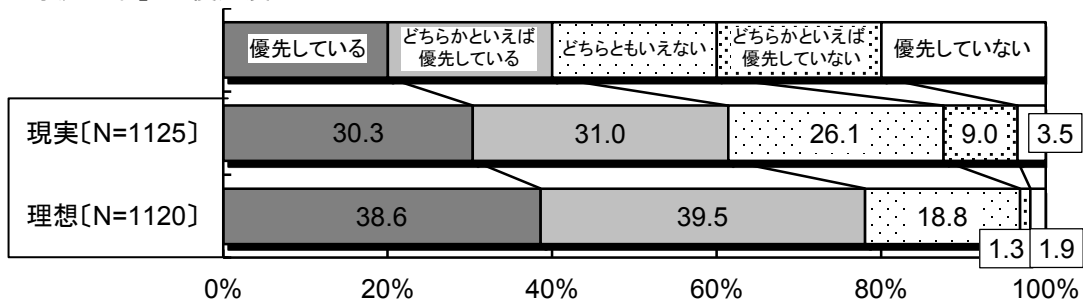
※「優先する」は現実では「優先している」、「優先しない」は現実では「優先していない」。

11-11図 生活における優先順位で現実と理想の比較について〔全体〕

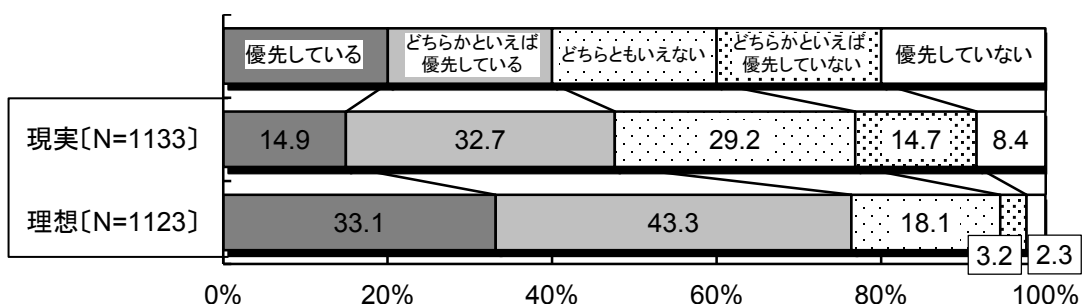
ア「仕事」の優先度



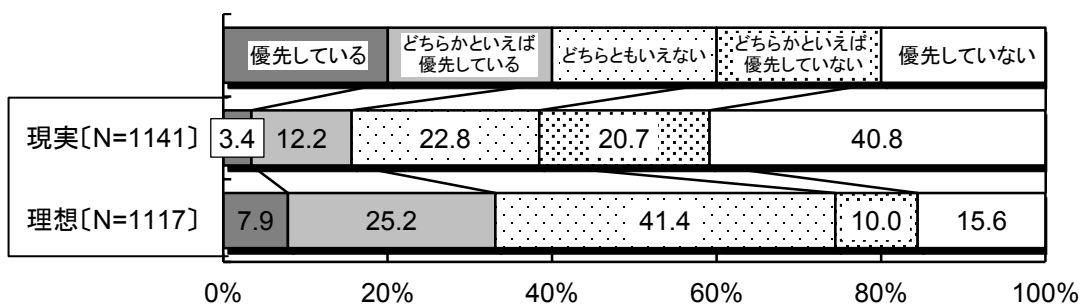
イ「家庭生活」の優先度



ウ「個人の時間」の優先度



エ「市民活動での活動時間」の優先度



(12) 男性が家事,育児,介護等に参加していくために必要なことについて〔複数回答〕

問12 あなたは、今後、男性が女性とともに、家事、育児、介護、地域活動やボランティアなどの市民活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
○は3つまで

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」	45.8%
「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」	37.3%
「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」	34.2%

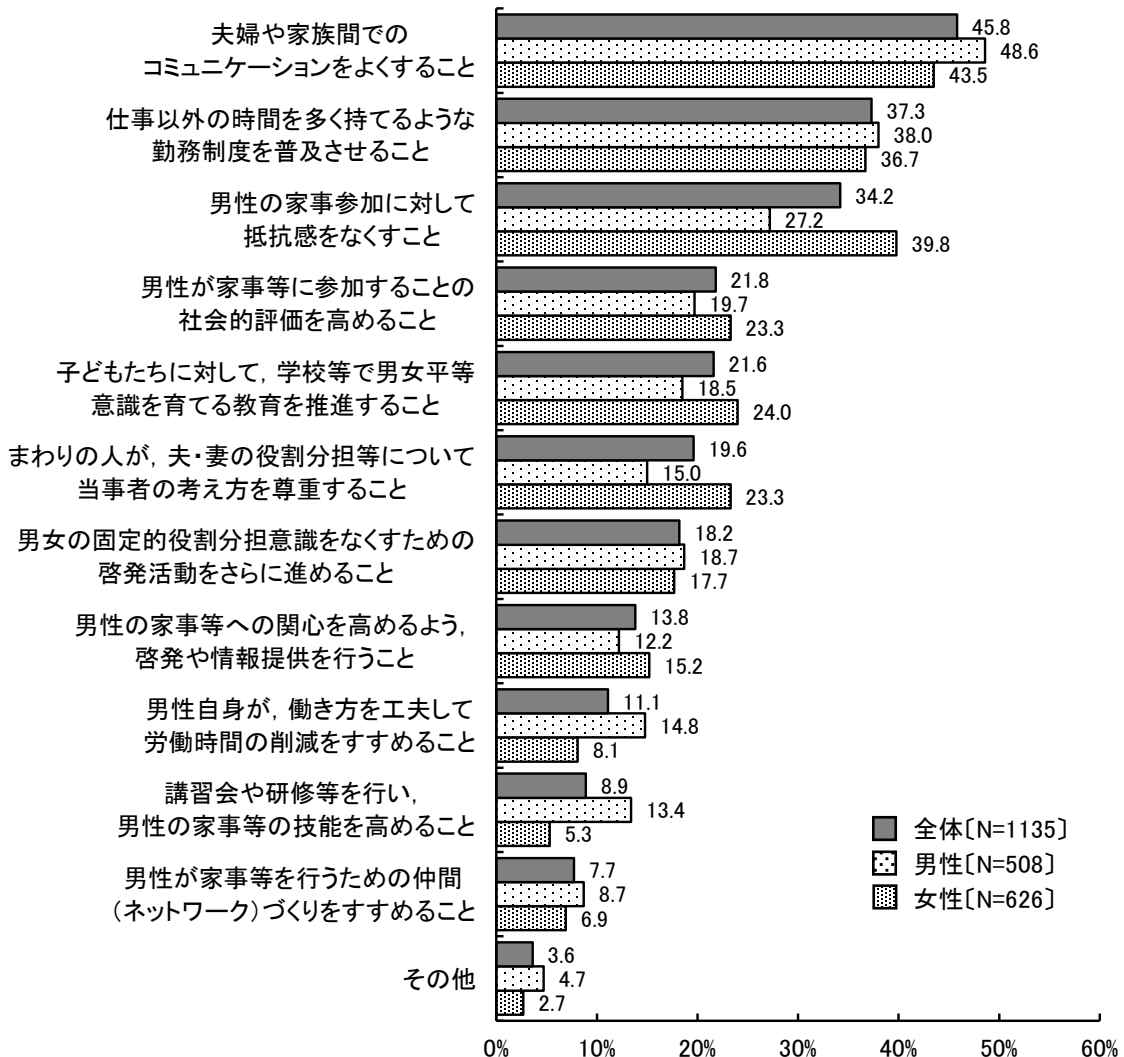
【全体】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が45.8%と最も高く、「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」が37.3%、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が34.2%で続いている。

【性別】

男性は、「講習会や研修等を行い、男性の家事等の技能を高めること」が13.4%、「男性自身が働き方を工夫して労働時間の削減をすすめること」が14.8%で女性に比べて高い。女性は、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が39.8%、「まわりの人が、夫・妻の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」が23.3%で男性に比べて高い。

12-1図 男性が家事,育児,介護等に参加していくために必要なことについて〔全体・性別〕

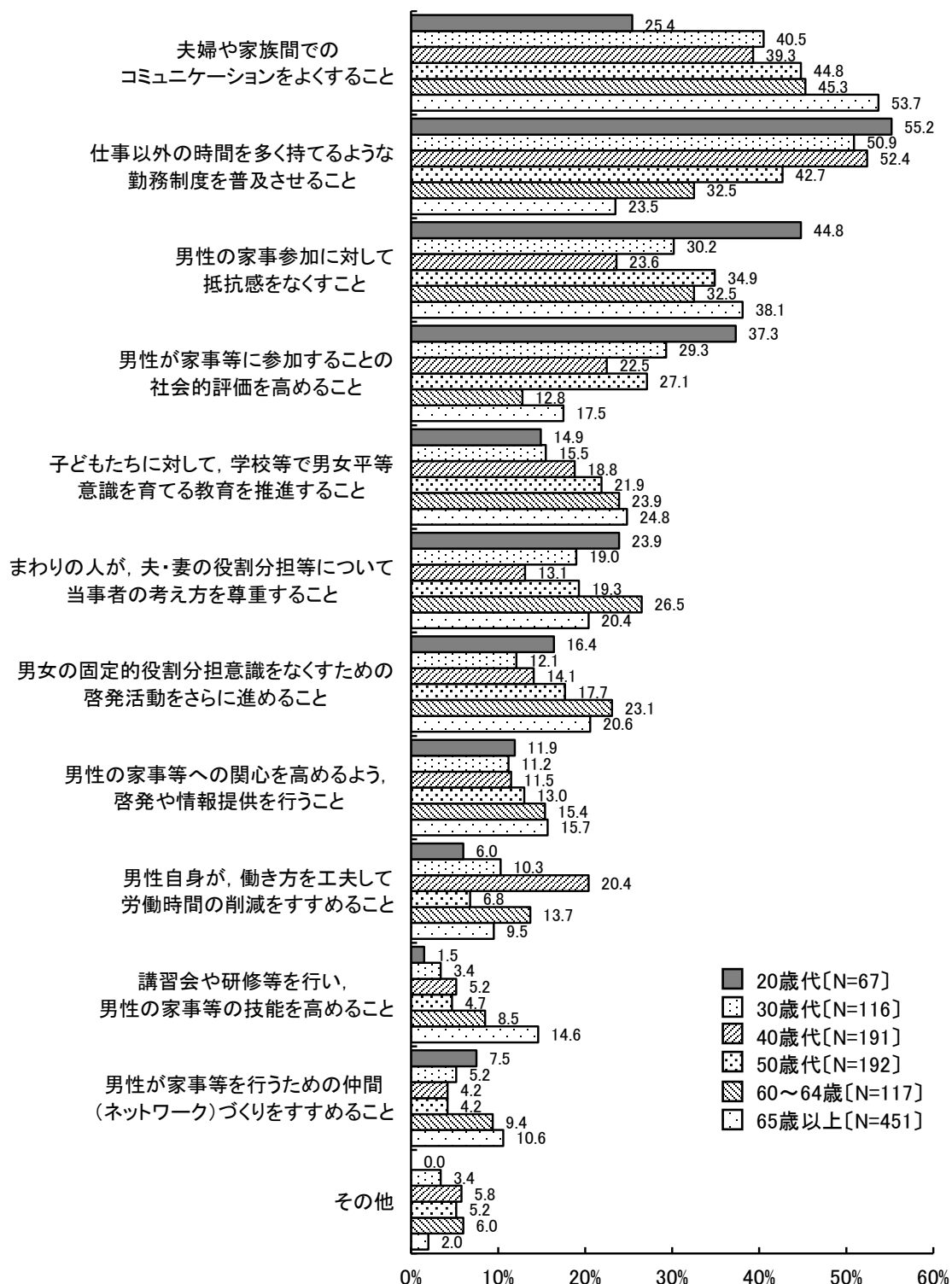


【年代別】

65歳以上は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が53.7%で他の年代に比べて高い。20歳代は、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が44.8%で他の年代に比べて高い。20歳代、30歳代、40歳代は「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」が50%以上で他の年代に比べて高い。

また、40歳代は、「男性自身が働き方を工夫して労働時間の削減をすすめること」が20.4%で、他の年代に比べて高い。

12-2図 男性が家事, 育児, 介護等に参加していくために必要なことについて〔年代別〕



5. 子育てについて

(13) 子どもの育て方について

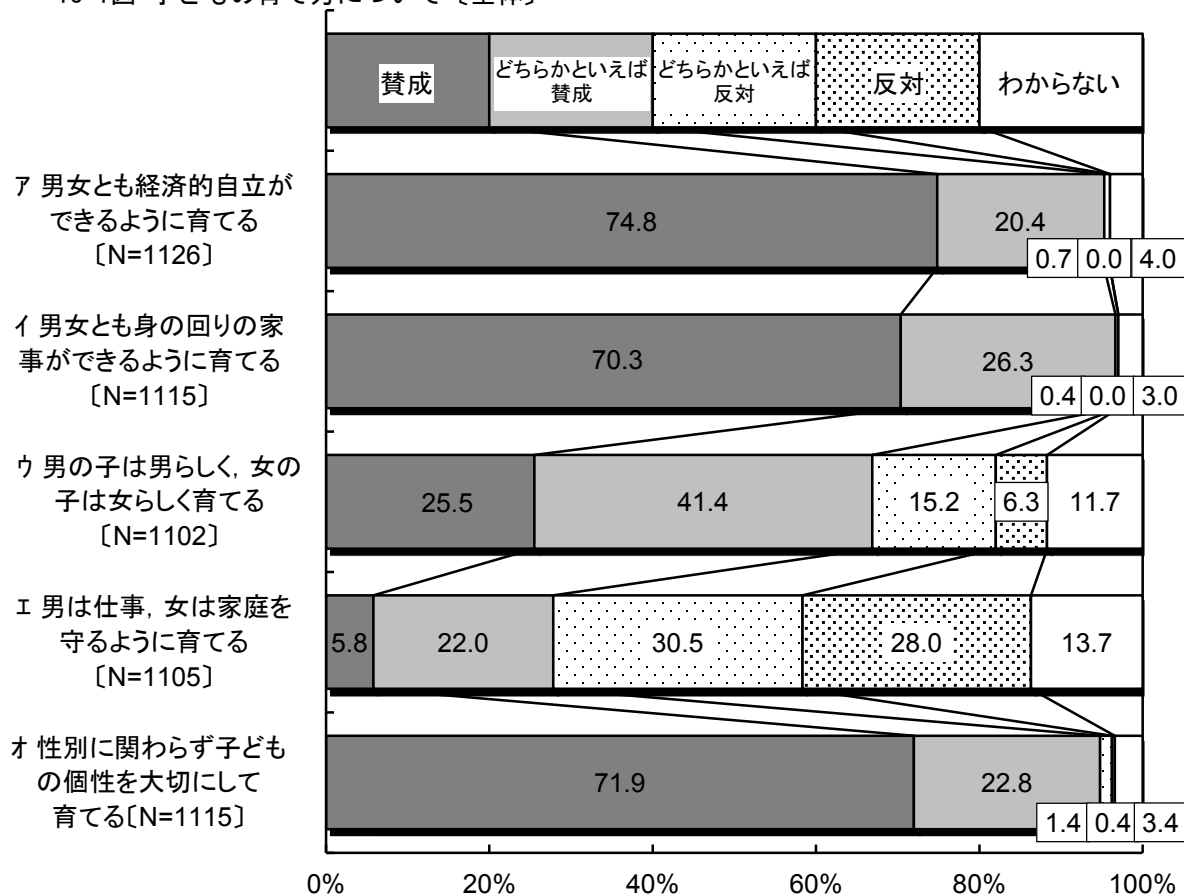
問13 あなたは、子どもの育て方に関する次のような方針について、どのように考えていますか。

「男女とも身の回りの家事ができるように育てる」	『賛成派』 96.6%
「男女とも経済的自立ができるように育てる」	『賛成派』 95.2%
「性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる」	『賛成派』 94.7%
「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」	『賛成派』 66.9%
⇒ 『賛成派』が『反対派』より高い	
「男は仕事、女は家庭を守るように育てる」	『反対派』 58.5%
⇒ 『反対派』が『賛成派』より高い	

※「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて『賛成派』、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせて『反対派』とする。

■ 『賛成派』と『反対派』	『賛成派』	『反対派』
ア 「男女とも経済的自立ができるように育てる」	95.2%	0.7%
イ 「男女とも身の回りの家事ができるように育てる」	96.6%	0.4%
ウ 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」	66.9%	21.5%
エ 「男は仕事、女は家庭を守るように育てる」	27.8%	58.5%
オ 「性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる」	94.7%	1.8%

13-1図 子どもの育て方について〔全体〕



ア 男女とも経済的自立ができるように育てる

『賛成派』 95.2%, 『反対派』 0.7% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

「賛成」が74.8%, 「どちらかといえば賛成」が20.4%で『賛成派』は95.2%, 「反対」が0.0%, 「どちらかといえば反対」が0.7%で『反対派』は0.7%と、『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

女性は、「賛成」が77.9%で男性の70.8%より7.1ポイント高い。

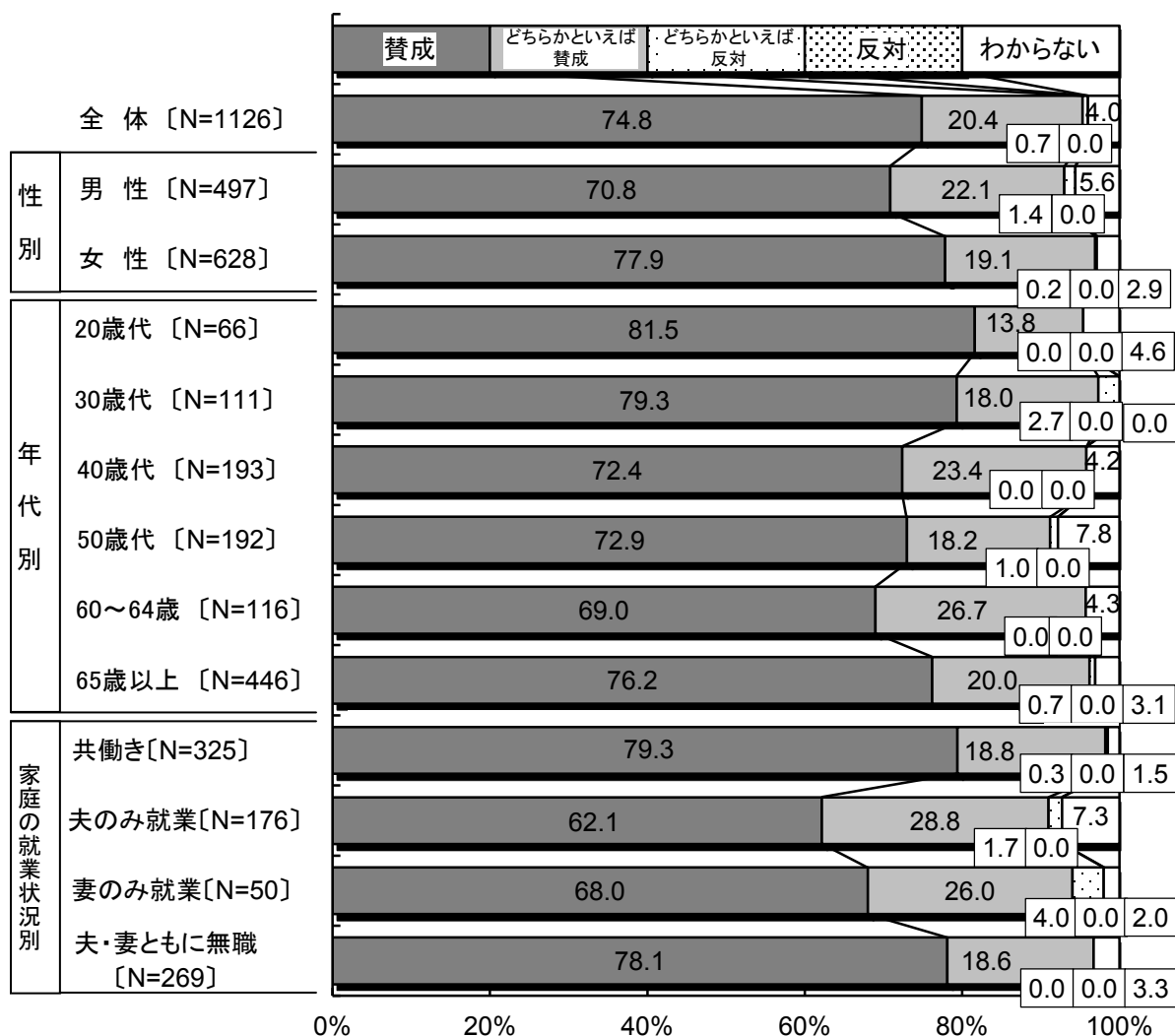
【年代別】

特に大きな差異はない。

【家庭の就業状況別】

夫のみ就業家庭と妻のみ就業家庭は、「賛成」が、それぞれ62.1%, 68.0%と他の就業家庭より低い。

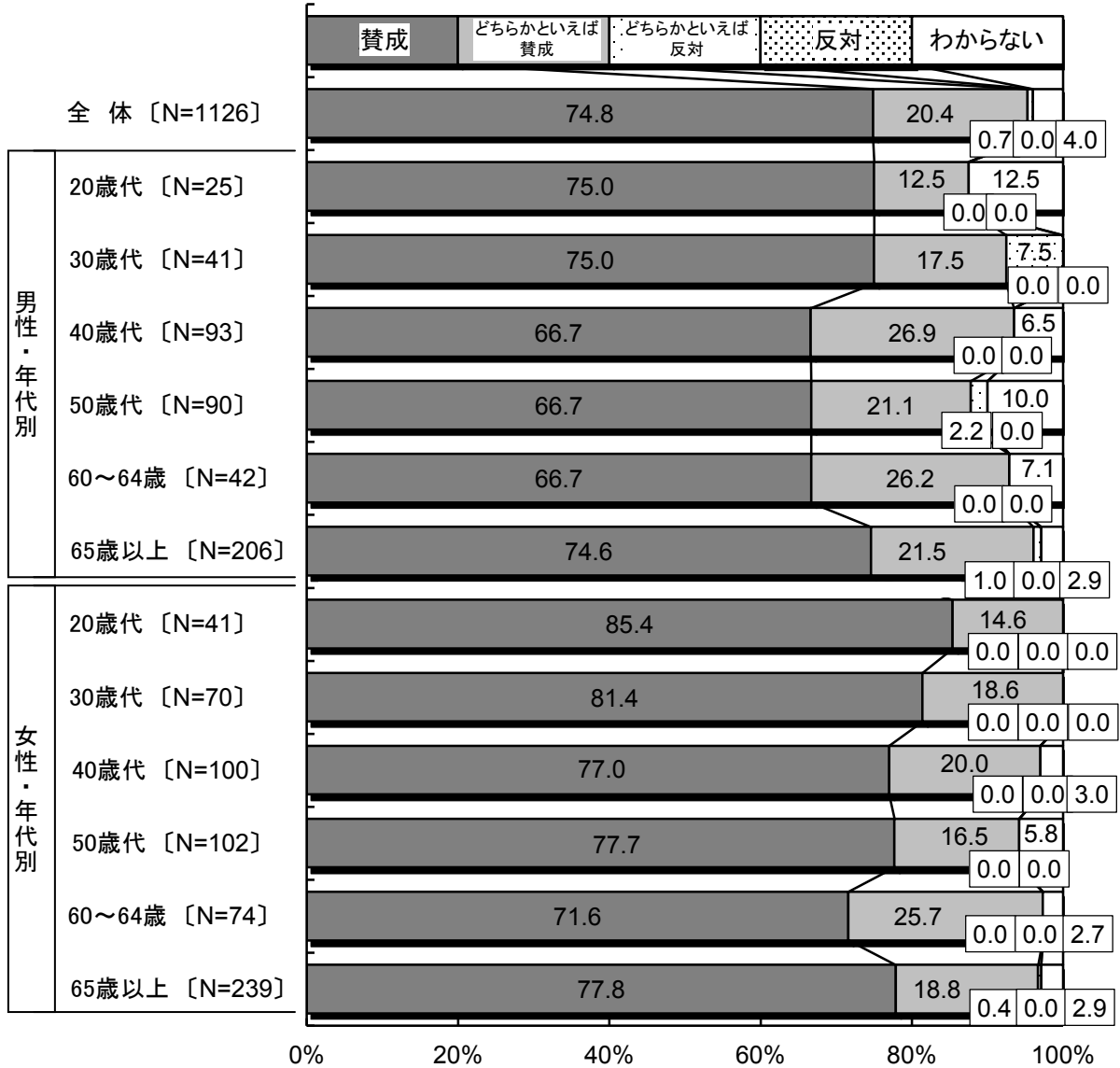
13-2図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(7 男女とも経済的自立ができるように育てる)



【性・年代別】

『賛成派』は、特に大きな差異はないが、女性20歳代は、「賛成」が85.4%と他の年代に比べて高い。

13-3図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
(ア 男女とも経済的自立ができるように育てる)



イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる

『賛成派』96.7%, 『反対派』0.4% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

「賛成」が70.4%, 「どちらかといえば賛成」が26.3%で『賛成派』が96.7%, 「反対」はなく, 「どちらかといえば反対」が0.4%で『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

女性は, 「賛成」が74.4%で男性の65.1%より9.3ポイント高い。

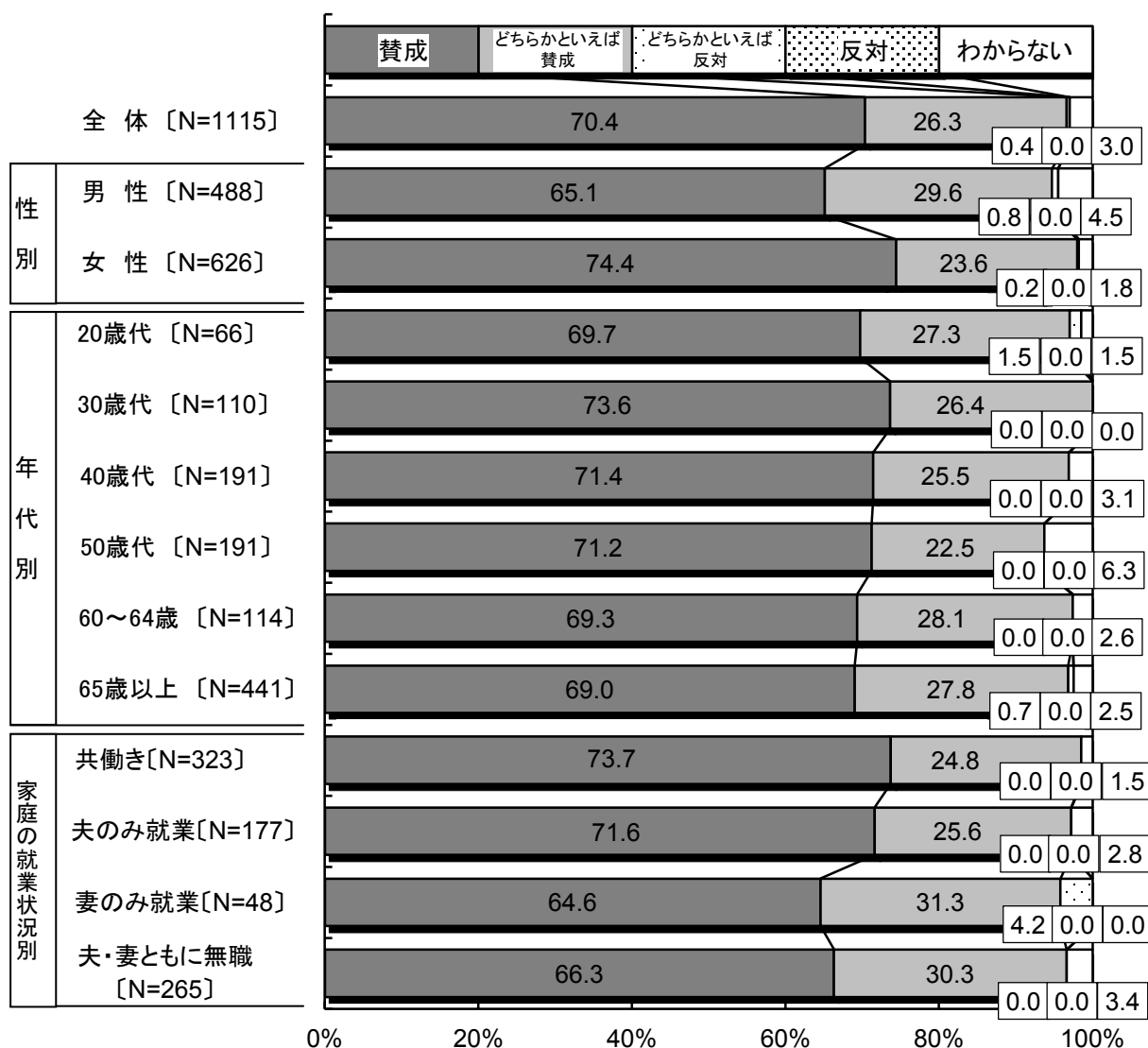
【年代別】

特に大きな差異はない。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭, 夫・妻ともに無職家庭は, 「賛成」が60%台で, 共働き家庭, 夫のみ就業家庭と比べて低い。

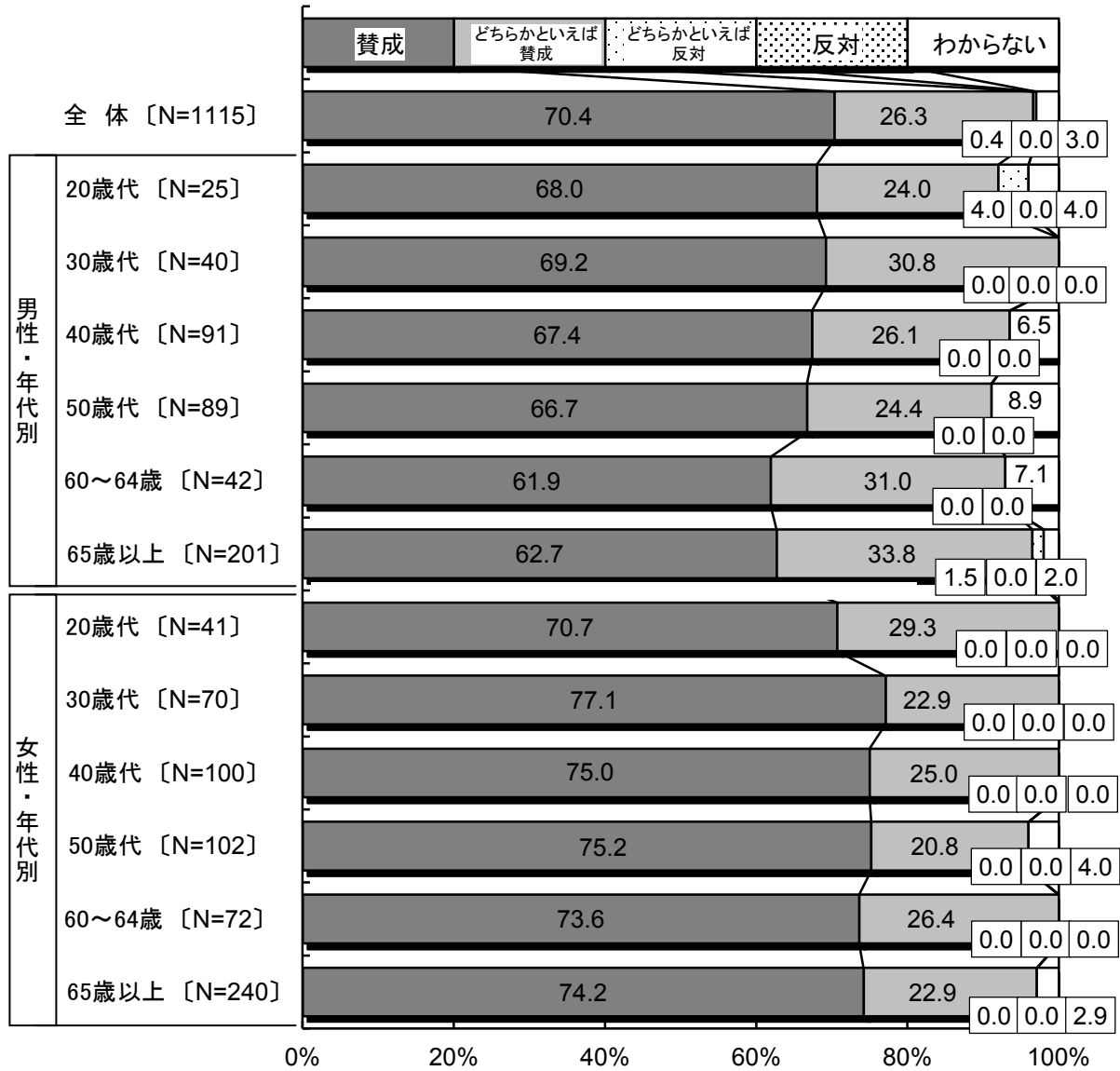
13-4図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる)



【性・年代別】

特に大きな差異はない。

13-5図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
 (イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる)



ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

『賛成派』 66.9%, 『反対派』 21.5% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

「賛成」が25.5%、「どちらかといえば賛成」が41.4%で『賛成派』は66.9%、「反対」が6.3%、「どちらかといえば反対」が15.2%で『反対派』は21.5%と、『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

男性は、「賛成」が30.3%で女性の21.6%より8.7ポイント高い。

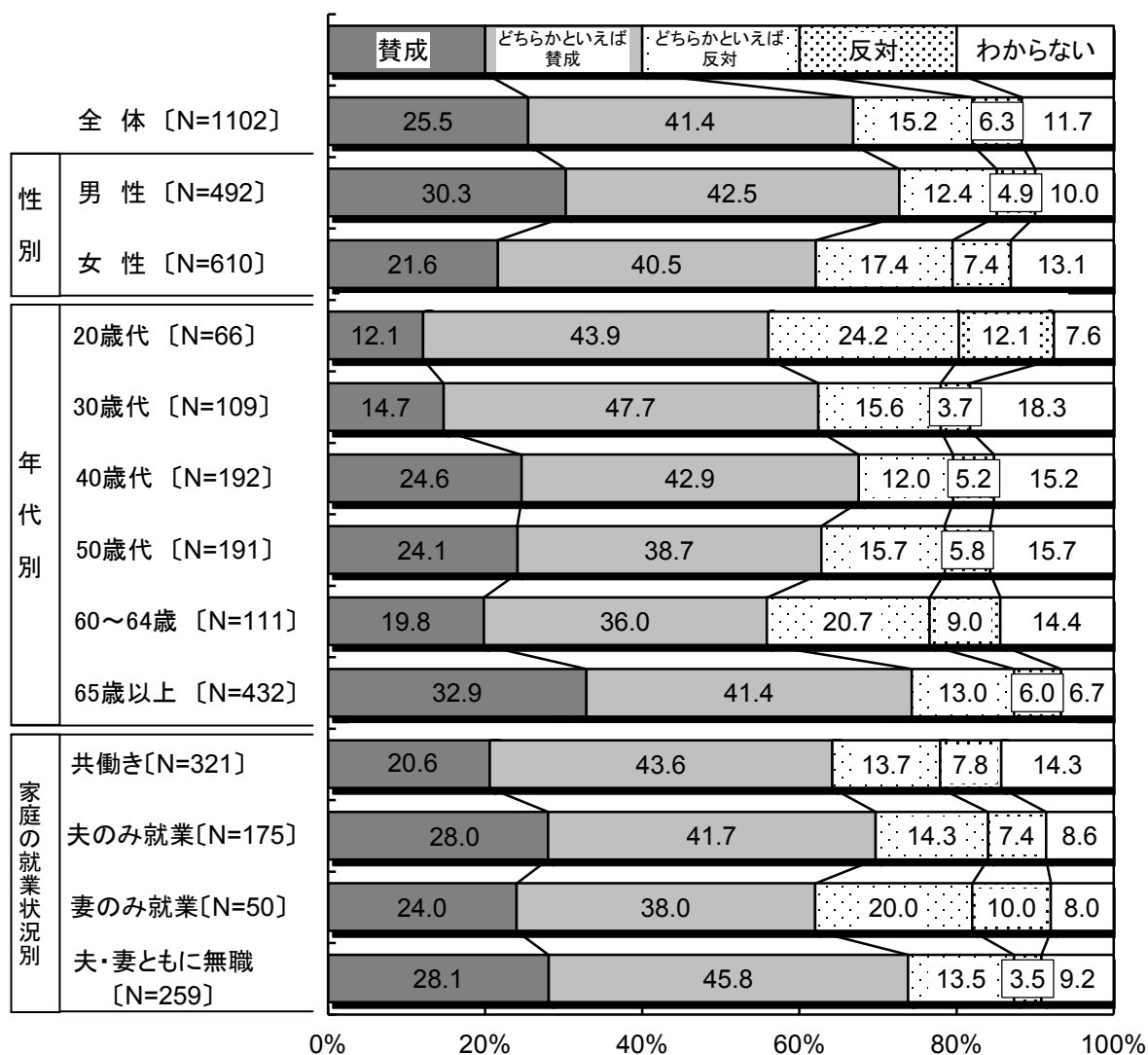
【年代別】

65歳以上は、「賛成」が32.9%、「どちらかといえば賛成」41.4%で、『賛成派』が74.3%と他の年代と比べて高い。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「反対」が10.0%、「どちらかといえば反対」が20.0%で『反対派』は30.0%と、他の就業家庭より『反対派』が高い。

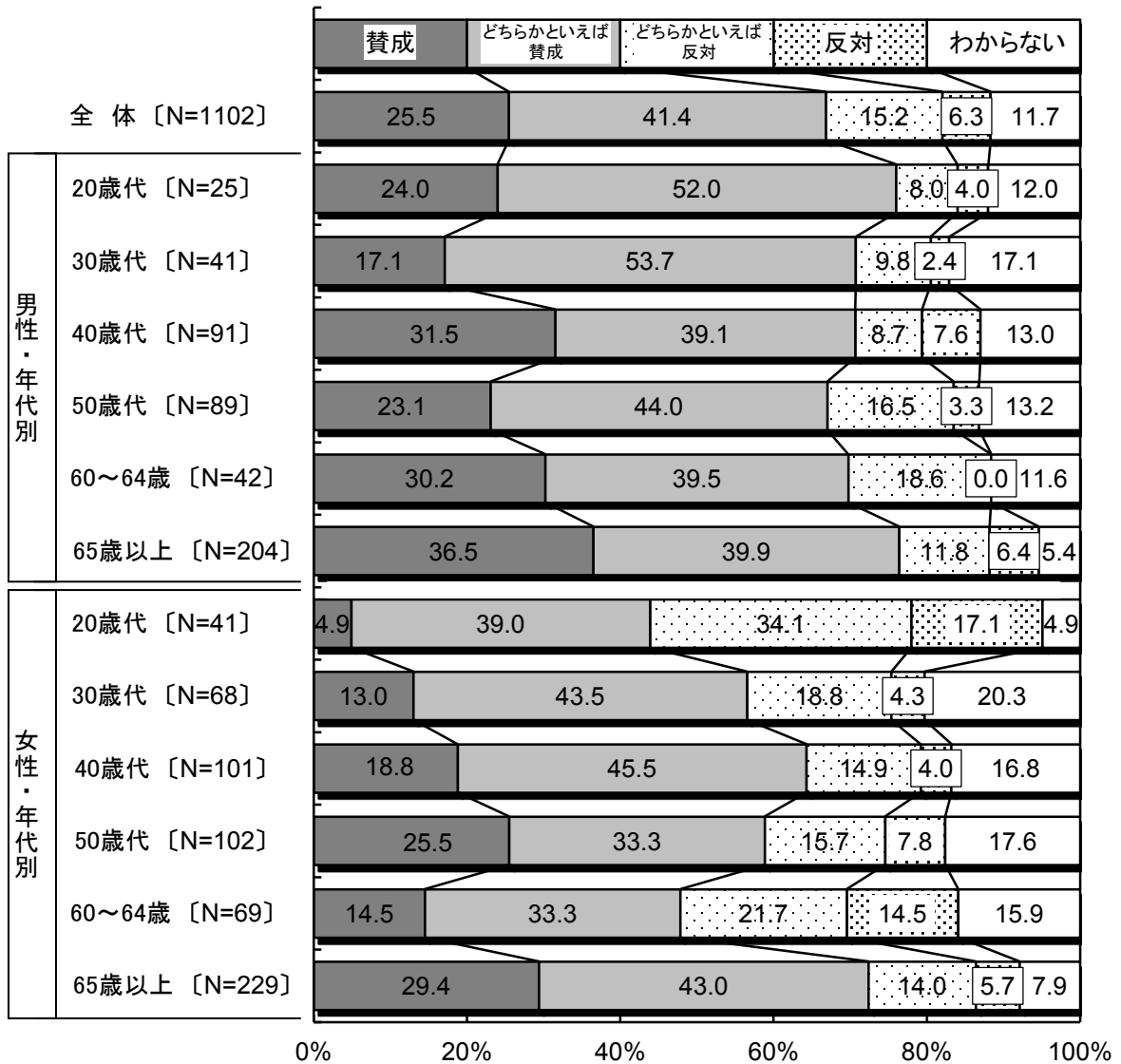
13-6図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる)



【性・年代別】

男性の『賛成派』は特に大きな差異はないが、女性の『賛成派』は、20歳代が43.9%、60～64歳が47.8%と低い。特に女性20歳代は、「賛成」が4.9%と目立って低く、「どちらかといえば反対」が34.1%、「反対」が17.1%と他の年代より高い。

13-7図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
(ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる)



エ 男は仕事，女は家庭を守るように育てる

『賛成派』 27.8%，『反対派』 58.5% ⇒ 『反対派』が高い

【全体】

「賛成」が5.8%，「どちらかといえば賛成」が22.0%で『賛成派』は27.8%，「反対」が28.0%，「どちらかといえば反対」が30.5%で『反対派』は58.5%と、『反対派』が30.7ポイント上回っている。

【性別】

女性は、「反対」が31.5%で男性の23.7%より7.8ポイント高い。

【年代別】

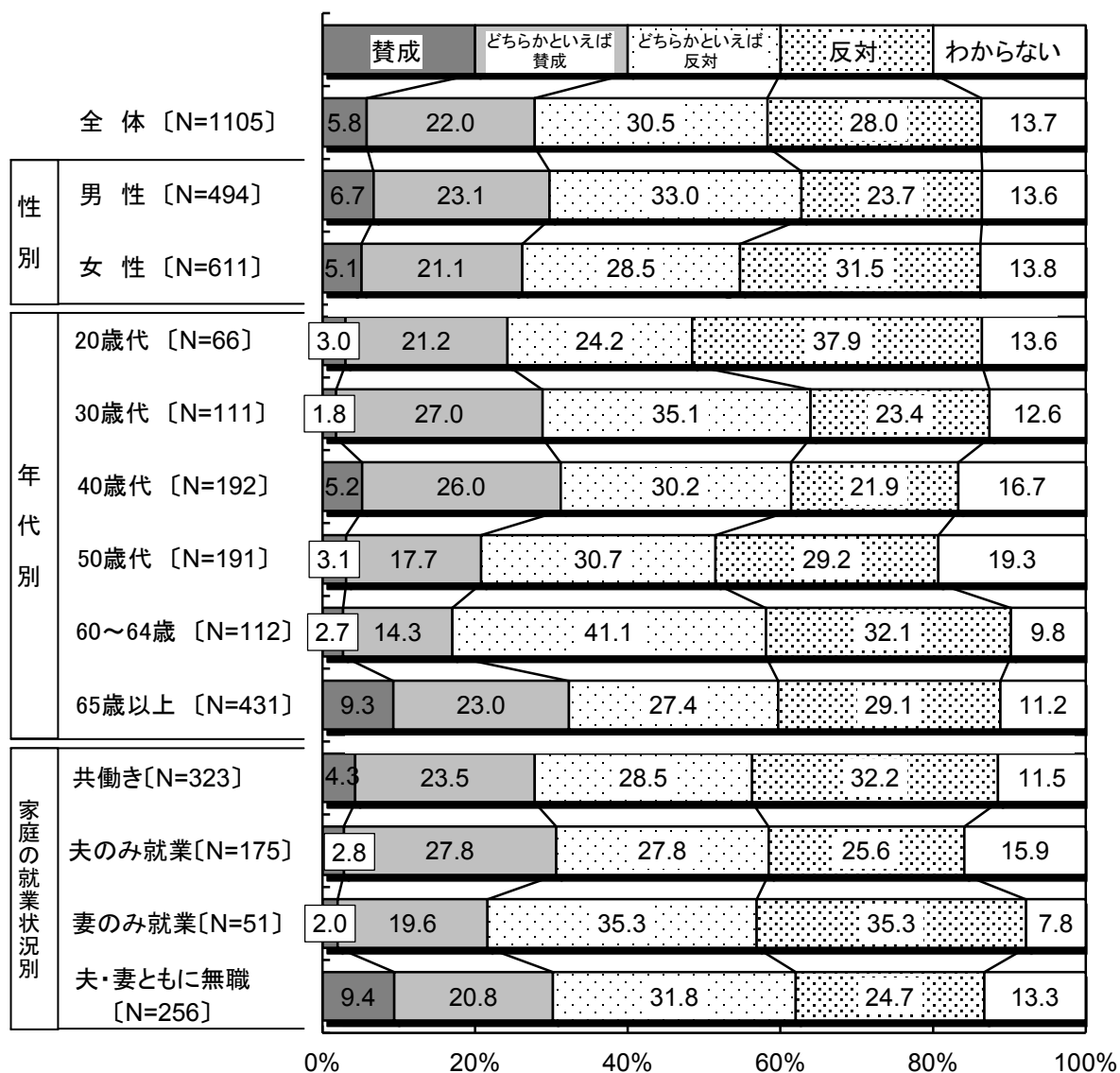
60～64歳は、『賛成派』が17.0%，『反対派』が73.2%で『反対派』が他の年代と比べて高い

【夫婦の就業状況別】

妻のみ就業家庭では、「反対」が35.3%，「どちらかといえば反対」が35.3%と『反対派』が70.6%で，他の就業家庭に比べて高い。

13-8図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕

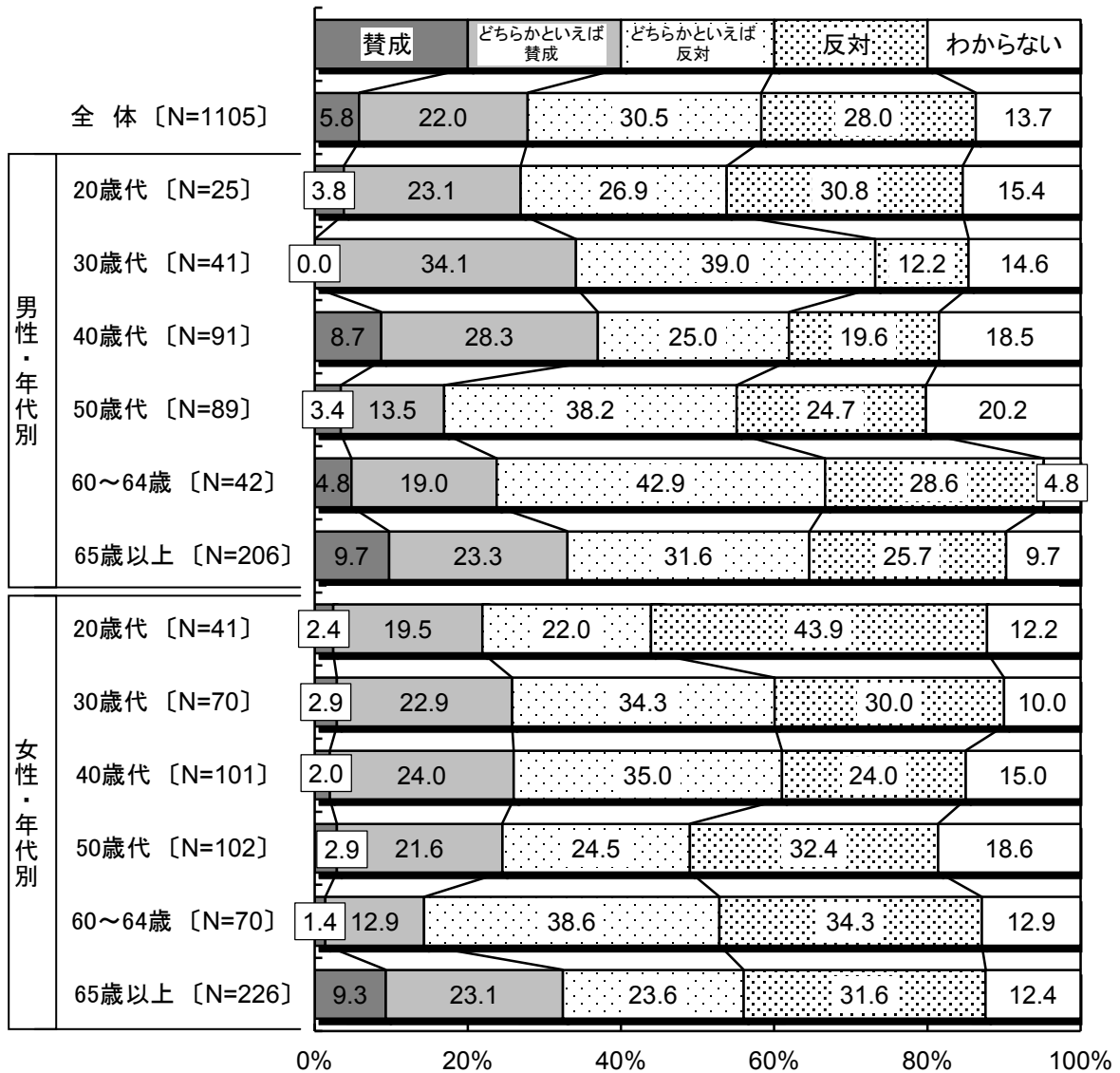
(イ 男は仕事，女は家庭を守るように育てる)



【性・年代別】

『賛成派』は男性50歳代が16.9%，女性60～64歳が14.3%で他の年代に比べて低い。
 男性40歳代，男性65歳以上，女性65歳以上で「賛成」が若干高い。
 女性20歳代は，「反対」が43.9%で他の年代に比べて高い。

13-9図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
 (E 男は仕事，女は家庭を守るように育てる)



オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる

『賛成派』94.8%, 『反対派』1.8% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

「賛成」が72.0%、「どちらかといえば賛成」が22.8%で『賛成派』は94.8%、「反対」が0.4%、「どちらかといえば反対」が1.4%で『反対派』は1.8%と、『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

女性は、「賛成」が76.5%で男性の66.0%より10.5ポイント高い。

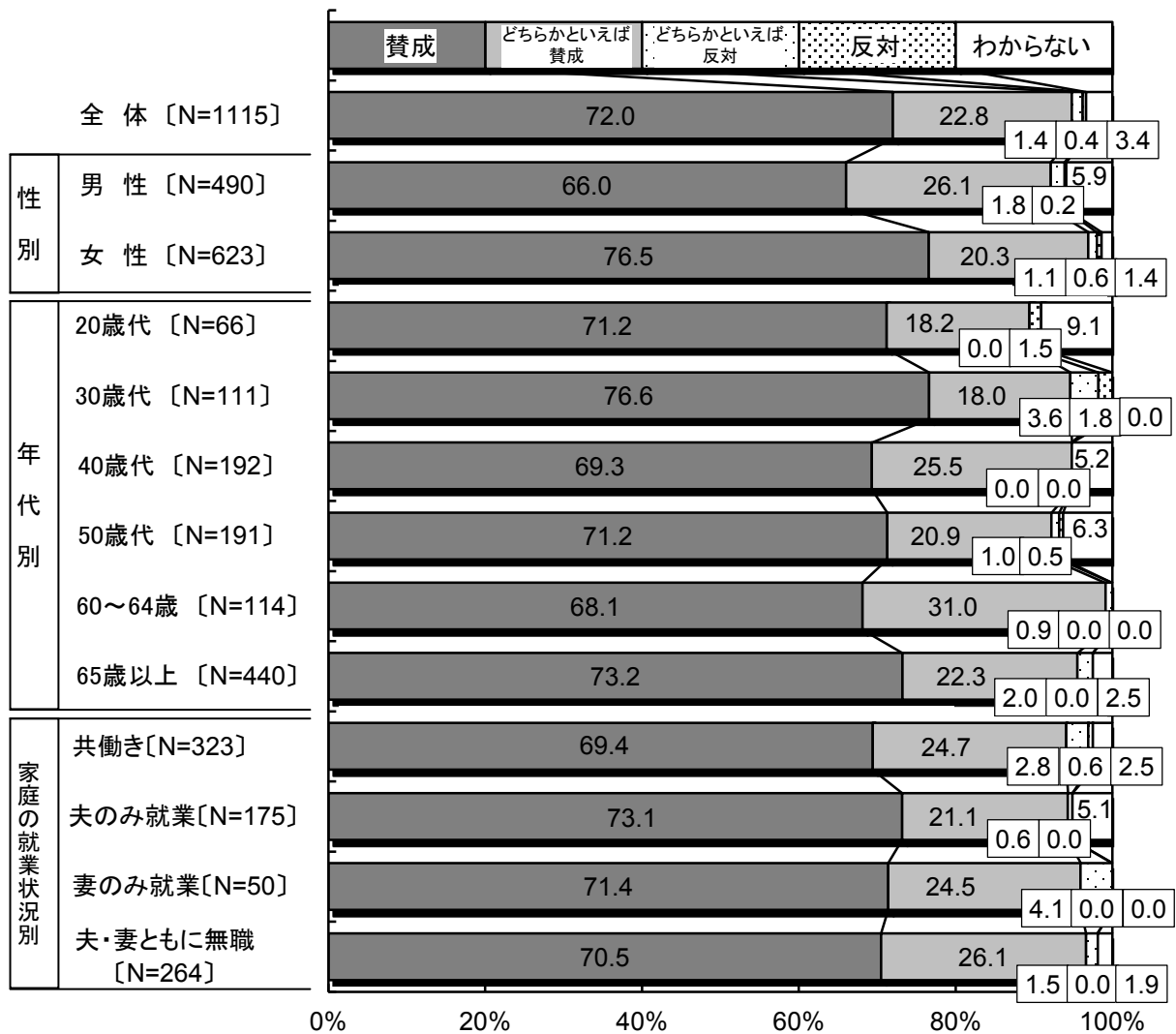
【年代別】

特に大きな差異はない。

【夫婦の就業状況別】

特に大きな差異はない。

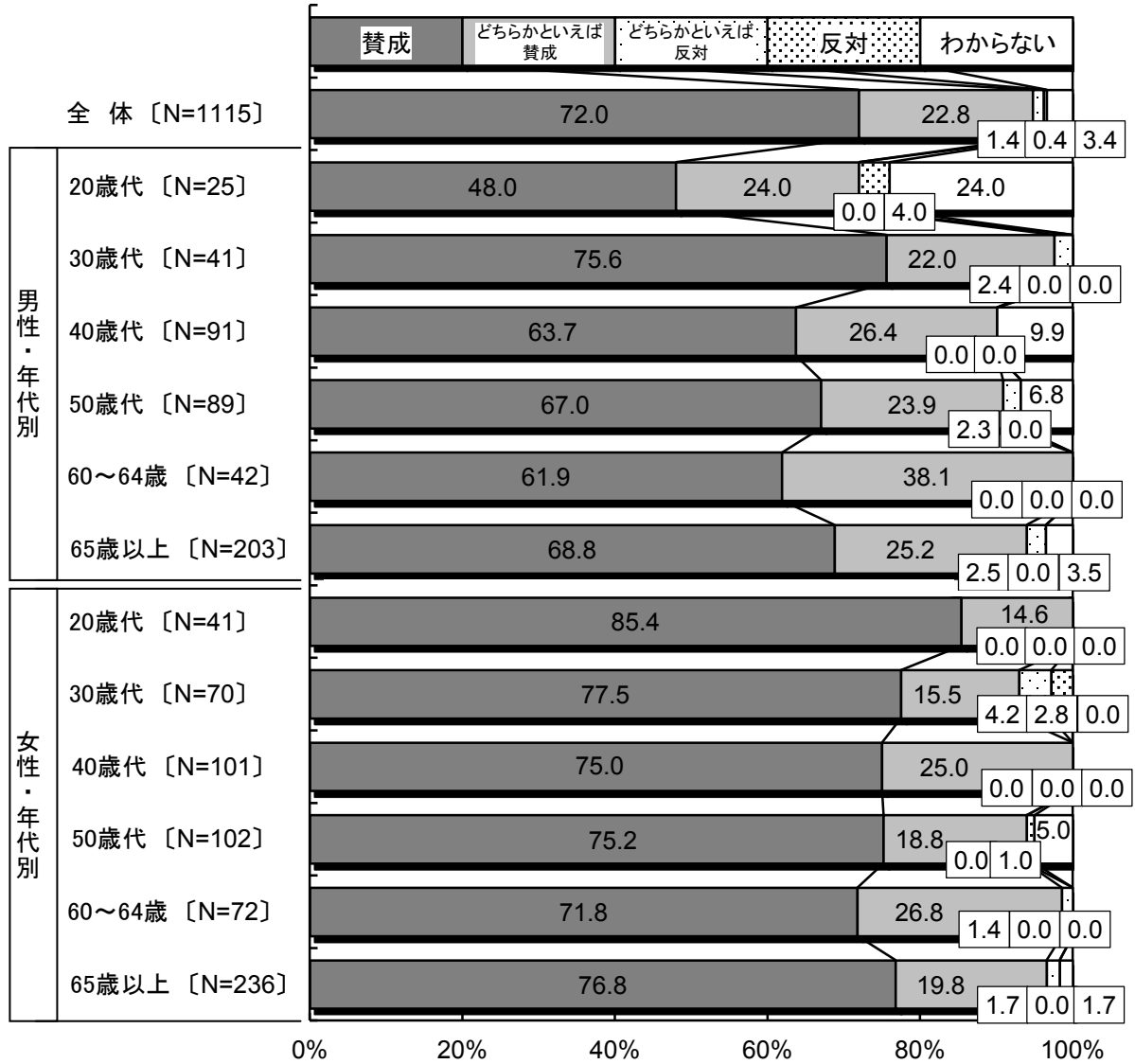
13-10図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる)



【性・年代別】

男性20歳代は、「賛成」が48.0%と他の年代に比べて低く、『賛成派』が72.0%と最も低い。また、「わからない」が24.0%と高い。

13-11図 子どもの育て方について〔性・年代別〕
(オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる)



(14) 子どもに受けさせたい教育(最終学歴)について

問14 お子さまの有無に関わらず、自分の子どもに受けさせたい教育（最終学歴）についてあてはまるものに○をつけてください。○はそれぞれ1つずつ

<男の子の場合> 「大学」73.6%, 「短期大学, 各種学校, 専修学校」 8.3%
 <女の子の場合> 「大学」59.7%, 「短期大学, 各種学校, 専修学校」 23.4%

【全体】

子どもが男の子の場合、「大学」が73.6%と最も高く、「短期大学, 各種学校, 専修学校」が8.3%で続いている。

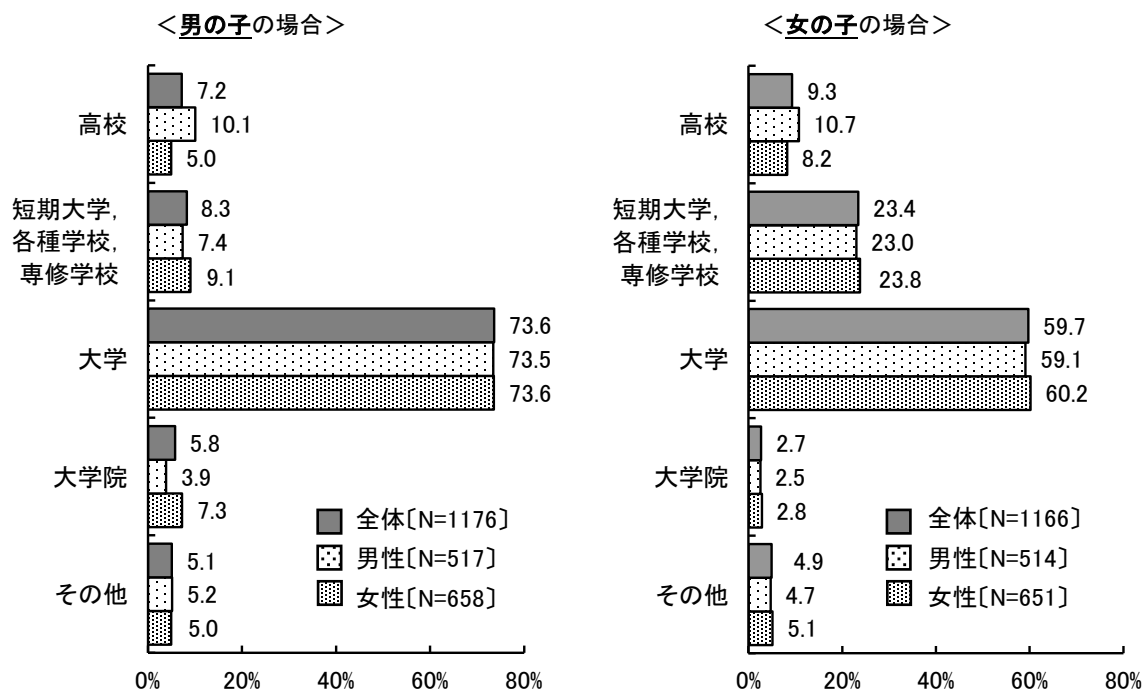
子どもが女の子の場合、「大学」が59.7%と最も高く、「短期大学, 各種学校, 専修学校」が23.4%で続いている。

「大学」は、子どもが男の子の場合は、女の子の場合より13.9ポイント高い。

【性別】

特に大きな差異はない。

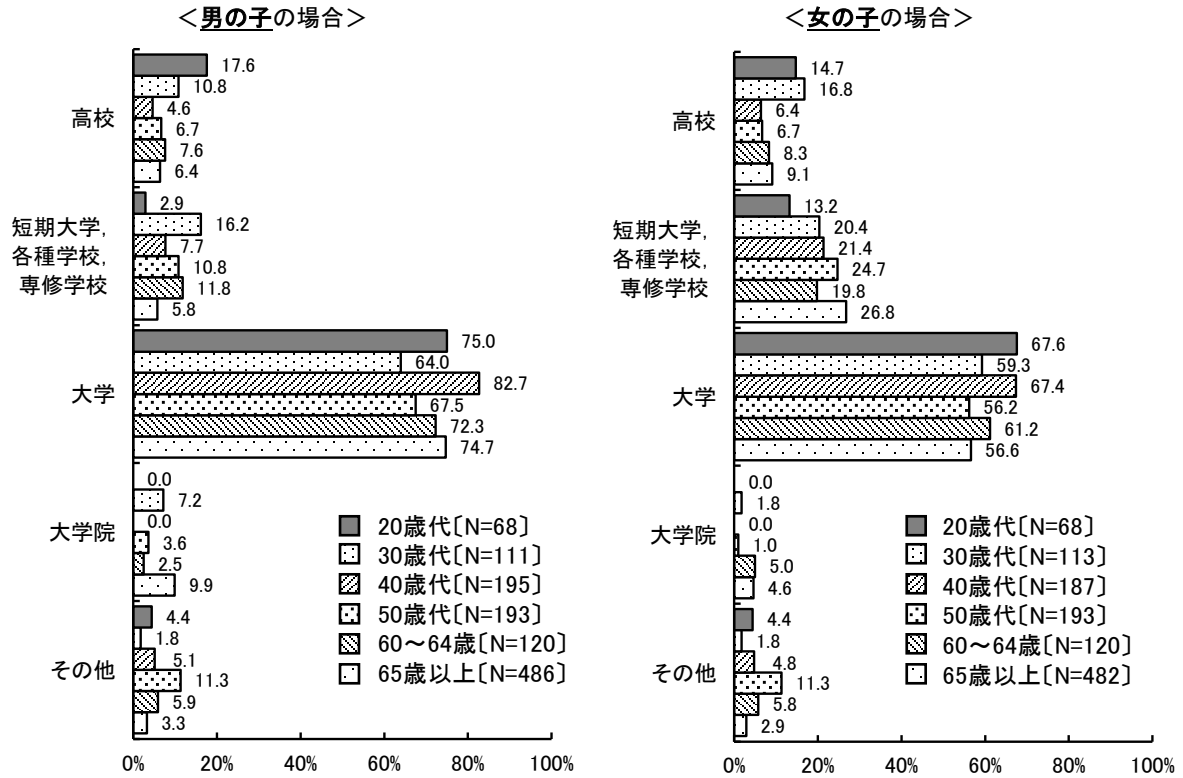
14-1図 子どもに望む最終学歴〔全体・性別〕



【年代別】

子どもが男の子の場合と女の子の場合の差を年代別で比較すると、65歳以上は、「短期大学, 各種学校, 専修学校」において、「女の子の場合 (26.8%)」が「男の子の場合 (5.8%)」より21ポイント高く、「大学」は「男の子の場合 (74.7%)」が「女の子の場合 (56.6%)」より18.1ポイント高く、差が大きい。他の年代では、40歳代の「大学」で、「男の子の場合 (82.7%)」が「女の子の場合 (67.4%)」より15.3ポイント高くなっている。

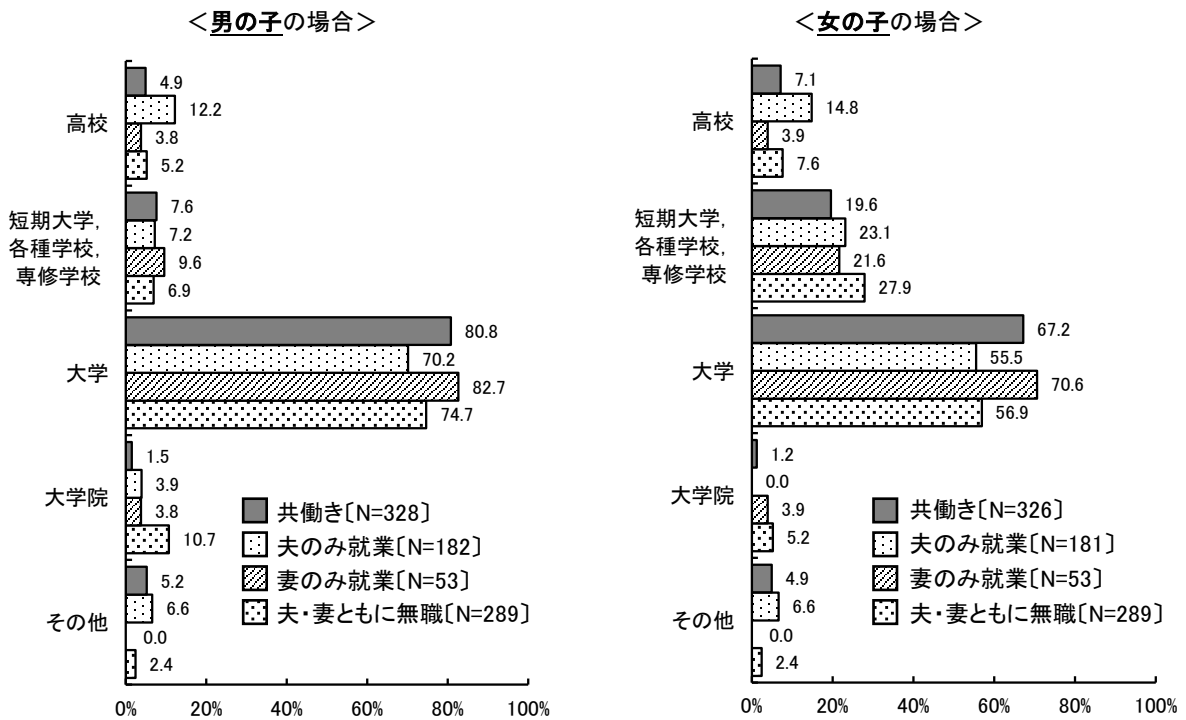
14-2図 子どもに望む最終学歴〔年代別〕



【家庭の就業状況別】

共働き家庭、妻のみ就業家庭は子どもが男子の場合、女子の場合とも「大学」が他の家庭に比べて高い。

14-3図 子どもに望む最終学歴〔夫婦の就業状況別〕



(15) 父親が子育てに関わることについて〔複数回答〕

問15 父親が子育てに関わることについてどのように考えますか。○はいくつでも

「父親も育児を行うことは当然だ」	70.9%
「子どもに良い影響を与える」	68.1%
「父親自身に良い影響を与える」	56.6%

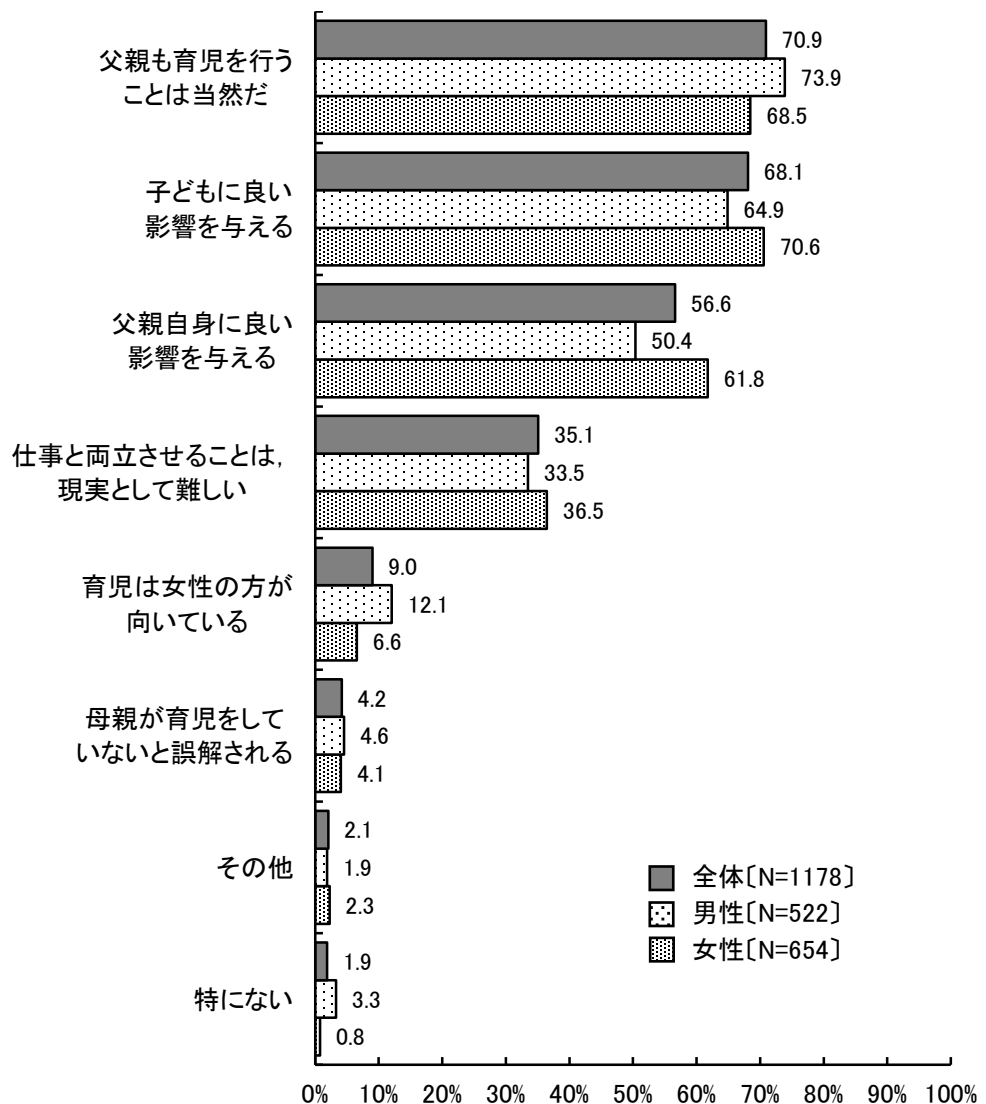
【全体】

「父親も育児を行うことは当然だ」が70.9%と最も高く、「子どもに良い影響を与える」が68.1%「父親自身に良い影響を与える」が56.6%、で続いている。

【性別】

女性は、「子どもに良い影響を与える」が70.6%、「父親自身に良い影響を与える」が61.8%で男性に比べて高い。

15-1図 父親が子育てに関わることについて〔年代別〕

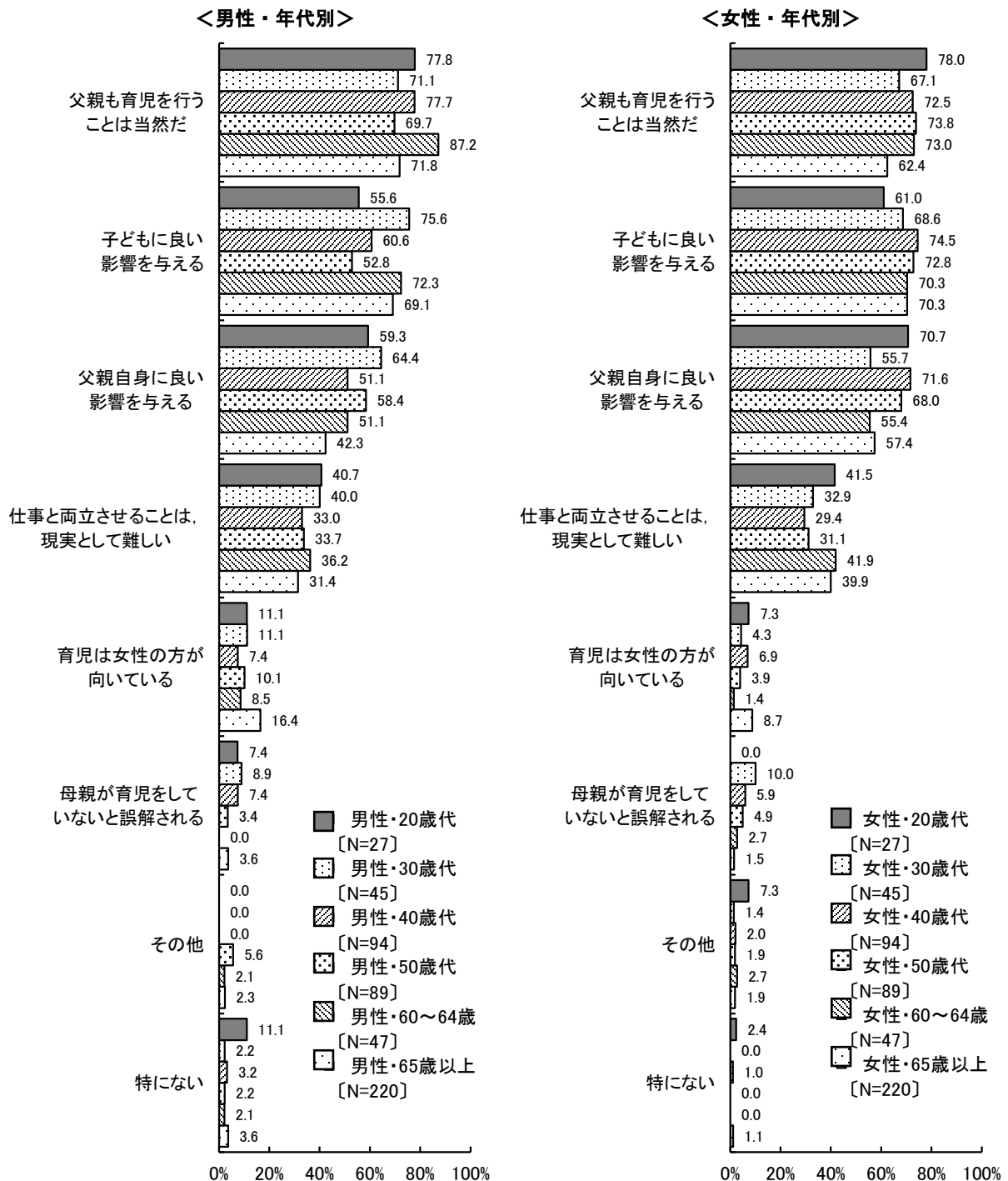


【性・年代別】

60～64歳男性は、「父親も育児を行うことは当然だ」が87.2%で他の年代に比べて最も高い。

30歳代男性と男性60～64歳は、「子どもに良い影響を与える」が70%以上で他の男性の年代に比べて高い。

15-2図 父親が子育てに関わることについて〔性・年代別〕



6. 男女の人権の尊重について

(16) 男女の地位について

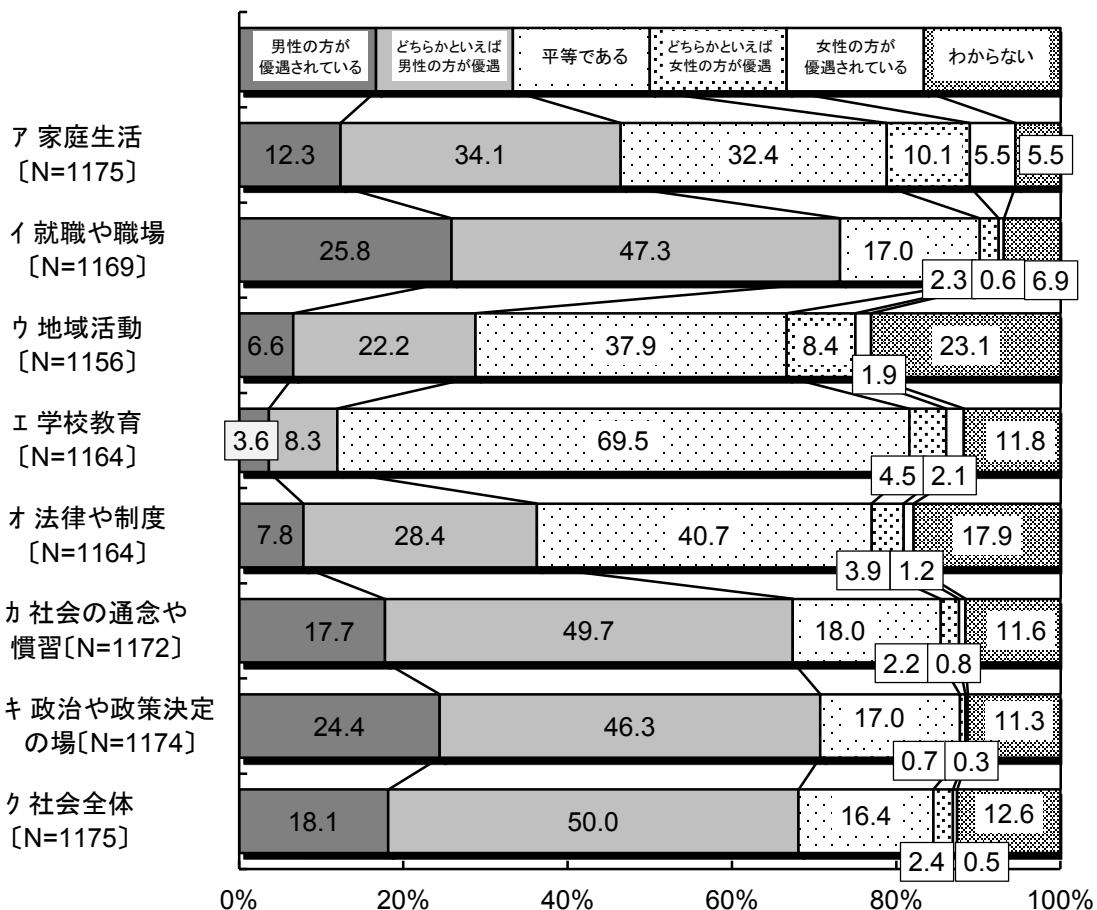
問16 あなたは、次のような事柄における男女の地位について、どのように感じますか。
それぞれについて1～6のいずれかに○

『男性優遇』⇒「家庭生活」「就職や職場」「社会の通念や慣習」
「政治や政策決定の場」「社会全体」
『女性優遇』⇒「地域活動」「学校教育」「法律や制度」

※「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』，
「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』
とする。

男女の地位	『男性優遇』	平等	『女性優遇』
ア 家庭生活	46.4%	32.4%	15.6%
イ 就職や職場	73.1%	17.0%	2.9%
ウ 地域活動	28.8%	37.9%	10.3%
エ 学校教育	11.9%	69.5%	6.6%
オ 法律や制度	36.2%	40.7%	5.1%
カ 社会の通念や慣習	67.4%	18.0%	3.0%
キ 政治や政策決定の場	70.7%	17.0%	1.0%
ク 社会全体	68.1%	16.4%	2.9%

16-1図 男女の地位について〔全体〕



ア 家庭生活

『男性優遇』46.4%、「平等である」32.4%、『女性優遇』15.6%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が12.3%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が34.1%で『男性優遇』は46.4%となっている。

「女性の方が優遇されている」が5.5%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が10.1%で『女性優遇』は15.6%と『男性優遇』が大きく上回っている。

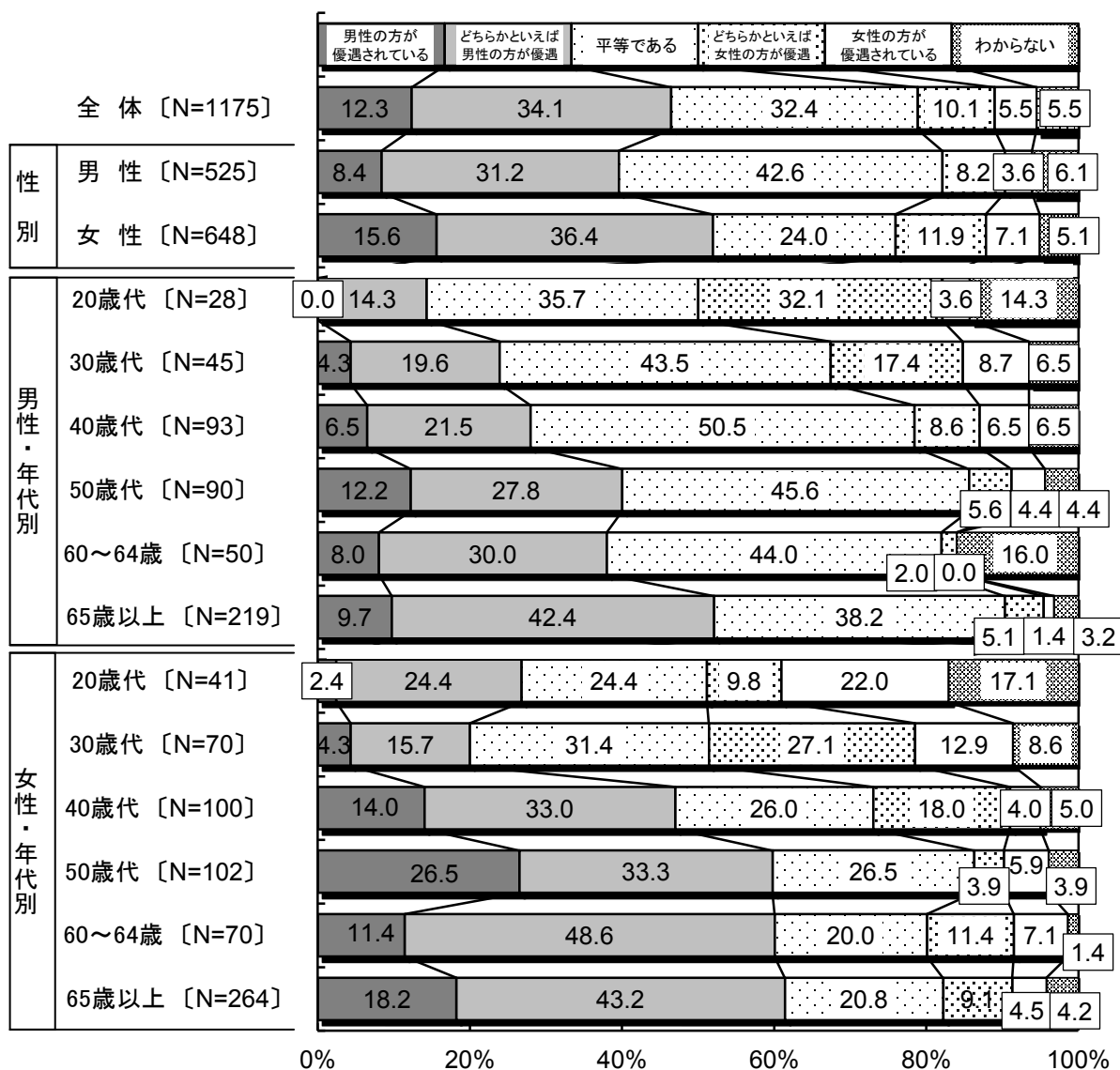
【性別】

女性は、『男性優遇』が52.0%で男性の39.6%より12.4ポイント高い。男性は、「平等である」が42.6%で女性の24.0%より18.6ポイント高い。

【性・年代別】

女性50歳代、60～64歳、65歳以上は、『男性優遇』が約6割で他の年代に比べて高い。また、女性50歳代は「男性の方が優遇されている」が26.5%で他の年代に比べ目立って高い。

16-2図 男女の地位について(ア 家庭生活)〔全体・性別・性・年代別〕



イ 就職や職場

『男性優遇』73.1%、「平等である」17.0%、『女性優遇』2.9%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が25.8%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が47.3%で『男性優遇』は73.1%となっている。

「女性の方が優遇されている」が0.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が2.3%で『女性優遇』は2.9%と『男性優遇』が大きく上回っている。

【性別】

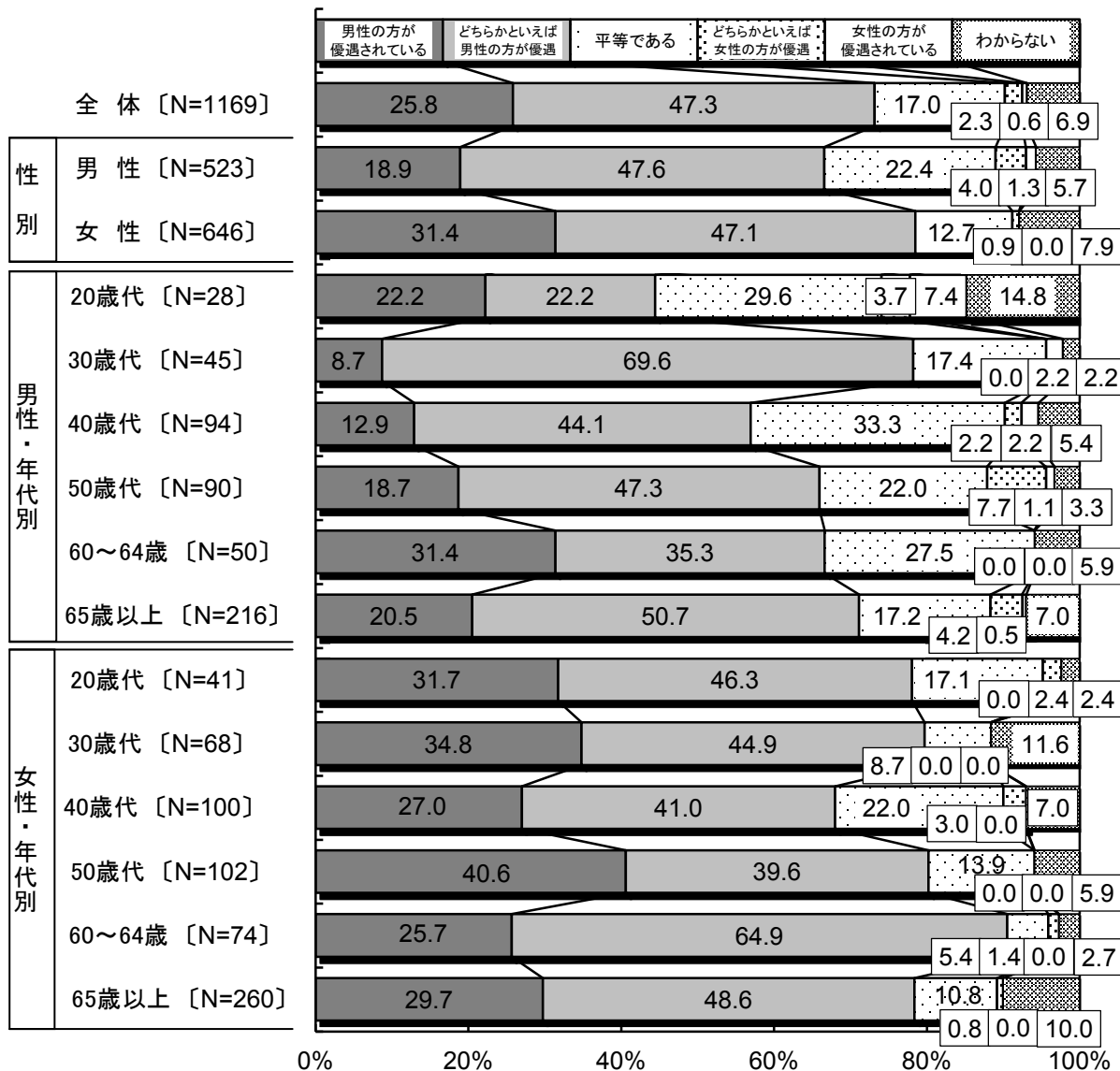
女性は、『男性優遇』が78.5%で男性の66.5%より12ポイント高い。男性は、「平等である」が22.4%で女性の12.7%より9.7ポイント高い。

【性・年代別】

女性60～64歳は、『男性優遇』が90.6%で他の年代に比べて高い。また、女性50歳代は、「男性の方が優遇されている」が40.6%で他の年代に比べ高い。

男性40歳代は、「平等である」が33.3%で他の年代に比べて高い。

16-3図 男女の地位について(イ 就職や職場)〔全体・性別・性・年代別〕



ウ 地域活動

『男性優遇』 28.8%, 「平等である」 37.9%, 『女性優遇』 10.3%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が6.6%, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が22.2%で『男性優遇』は28.8%となっている。

「女性の方が優遇されている」が1.9%, 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が8.4%で『女性優遇』は10.3%と『男性優遇』が大きく上回っている。

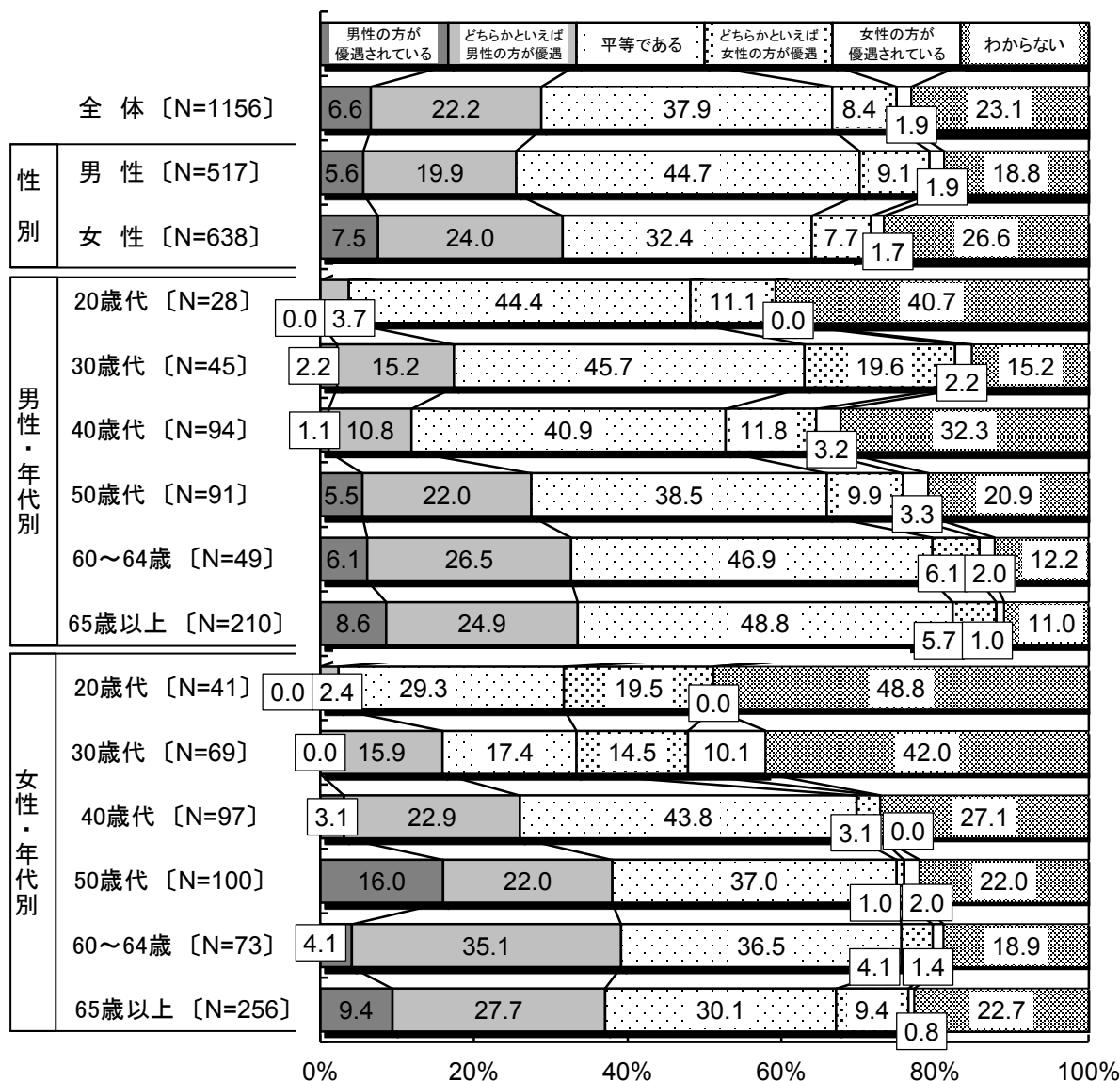
【性別】

女性は、『男性優遇』が31.5%で男性の25.5%より6ポイント高い。男性は、「平等である」が44.7%で女性の32.4%より12.3ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代, 女性20歳代は、『男性優遇』がそれぞれ3.7%, 2.4%と他の年代に比べて低い。男性の全年代, 女性40歳代は「平等である」が最も高くなっている。

16-4図 男女の地位について(ウ 地域活動) [全体・性別・性・年代別]



エ 学校教育

「平等である」69.6%, 『男性優遇』11.9%, 『女性優遇』6.7%

【全体】

「平等である」が69.6%で最も高い。「男性の方が優遇されている」が3.6%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が8.3%で『男性優遇』は11.9%、「女性の方が優遇されている」が2.2%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が4.5%で『女性優遇』は6.7%と続いている。

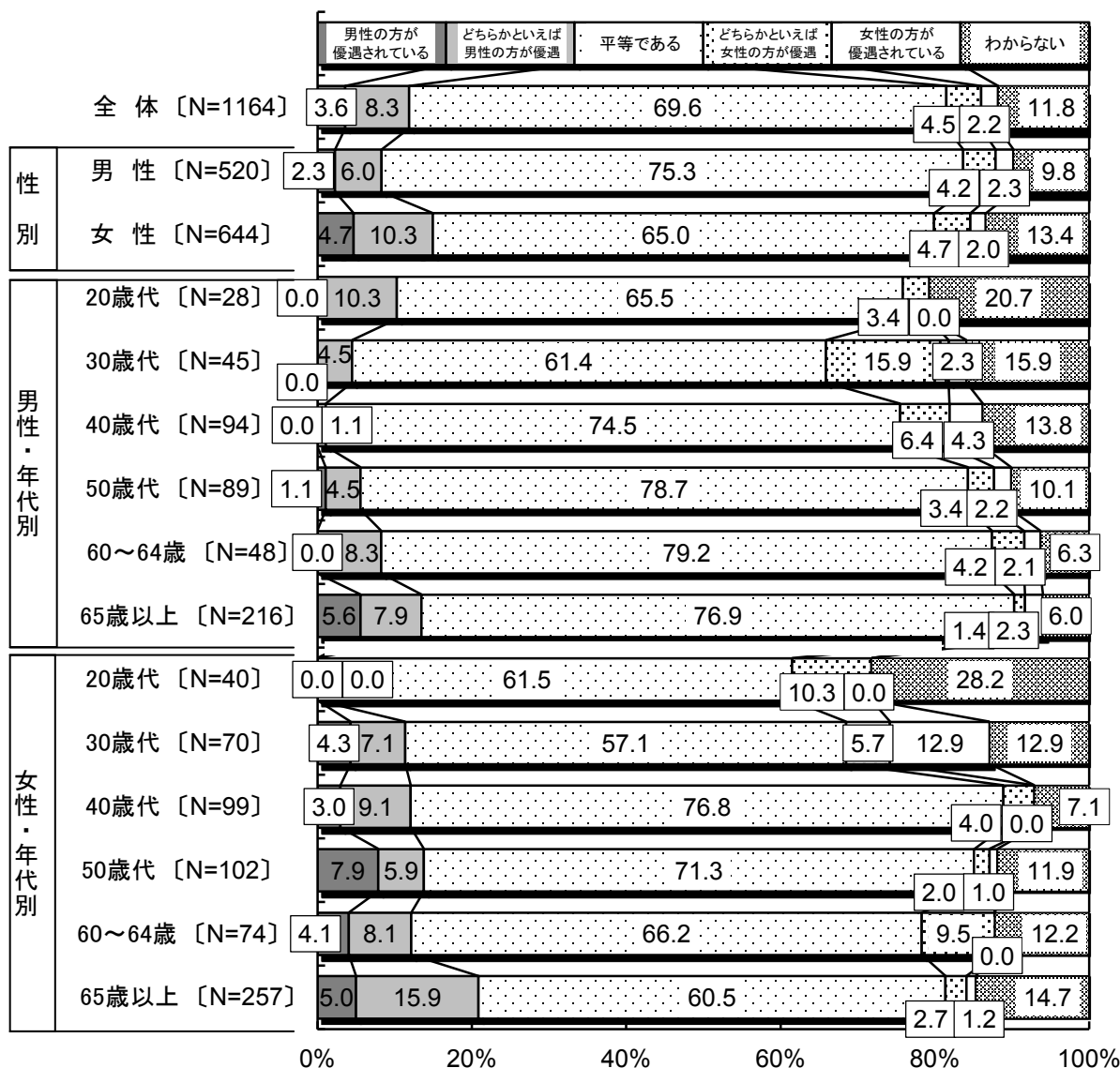
【性別】

男性は、「平等である」が75.3%で女性の65.0%より10.3ポイント高い。女性は、『男性優遇』が15.0%で男性の8.3%より6.7ポイント高い。

【性・年代別】

すべての年代で「平等である」が最も高いが、女性65歳以上は『男性優遇』が20.9%で他の年代に比べて高い。

16-5図 男女の地位について(エ 学校教育)〔全体・性別・性・年代別〕



オ 法律や制度

「平等である」40.7%, 『男性優遇』36.2%, 『女性優遇』5.1%

【全体】

「平等である」が40.7%で最も高い。「男性の方が優遇されている」が7.8%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が28.4%で『男性優遇』は36.2%、「女性の方が優遇されている」が1.2%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は3.9%で『女性優遇』が5.1%と続いている。

【性別】

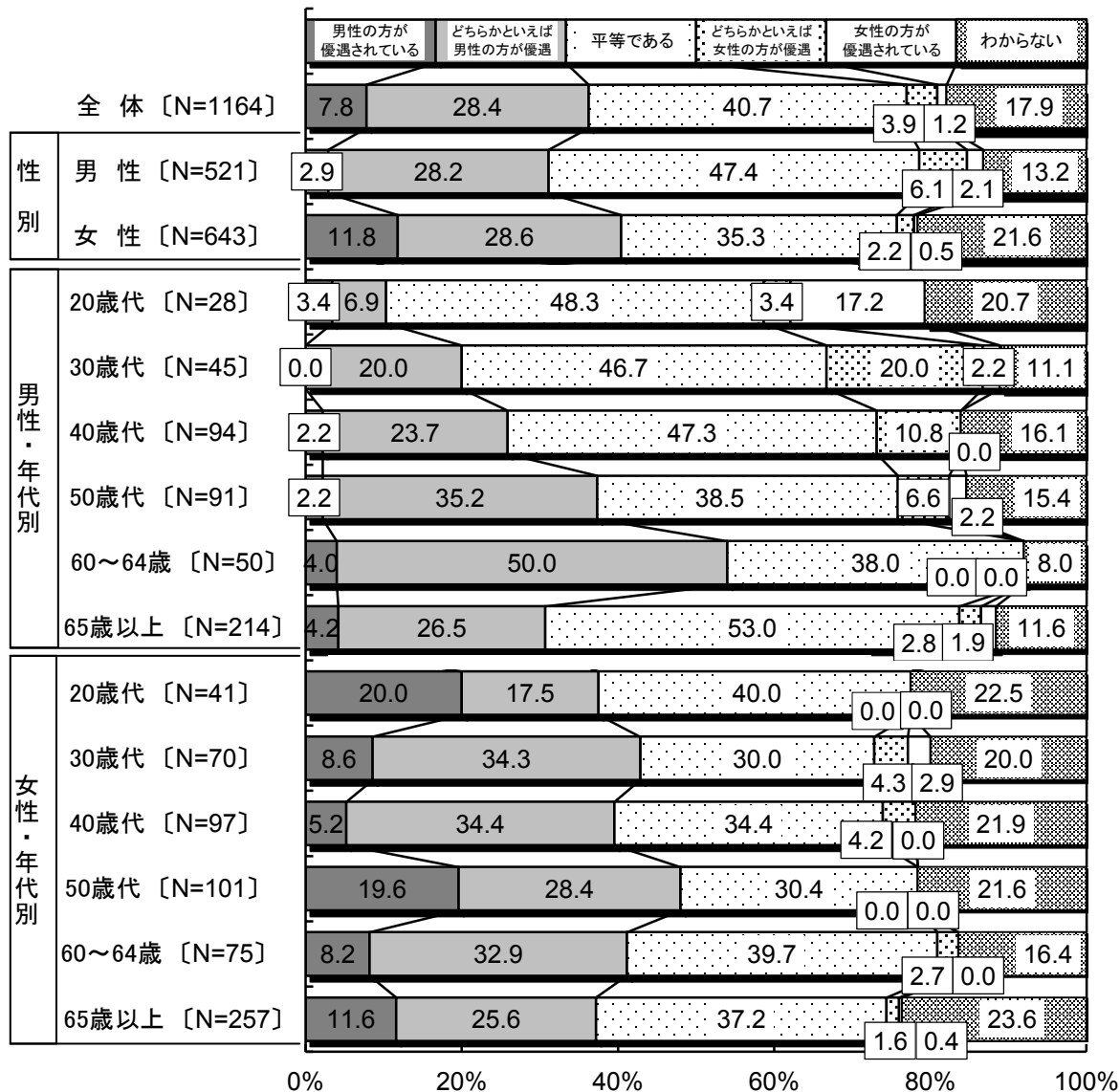
女性は、『男性優遇』が40.4%で男性の31.1%より9.3ポイント高い。男性は、「平等である」が47.4%で女性の35.3%より12.1ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代は、『男性優遇』が10.3%、『女性優遇』が20.6%で、『女性優遇』が10.3ポイント上回っている。男性65歳以上は、「平等である」が53.0%で他の年代に比べて高い。

女性は、どの年代も『男性優遇』が『女性優遇』を上回っている。

16-6図 男女の地位について(オ 法律や制度)〔全体・性別・性・年代別〕



カ 社会の通念や慣習

『男性優遇』 67.4%, 「平等である」 18.0%, 『女性優遇』 3.0%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が17.7%, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.7%で『男性優遇』は67.4%となっている。

「女性の方が優遇されている」が0.8%, 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が2.2%で『女性優遇』は3.0%と『男性優遇』が大きく上回っている。

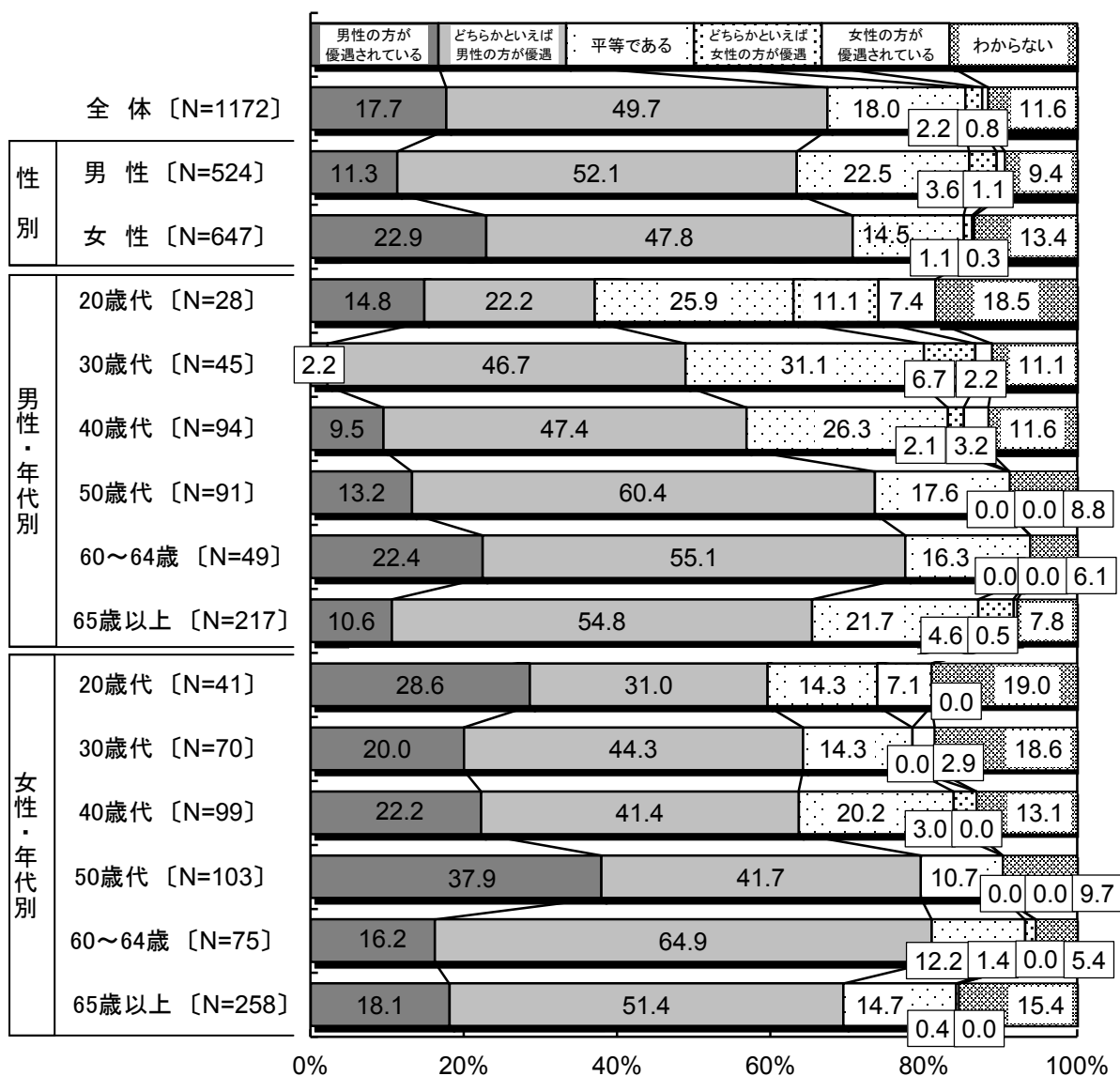
【性別】

女性は、『男性優遇』が70.7%で男性の63.4%より7.3ポイント高い。男性は、「平等である」が22.5%で女性の14.5%より8.0ポイント高い。

【性・年代別】

女性50歳代, 男性・女性60~64歳は『男性優遇』が約80%で他の年代に比べて高い。また, 女性50歳代は, 「男性の方が優遇されている」が37.9%で他の年代に比べ高い。

16-7図 男女の地位について(カ 社会の通念や慣習) [全体・性別・性・年代別]



キ 政治や政策決定の場

『男性優遇』70.7%, 「平等である」17.0%, 『女性優遇』1.0%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が24.4%, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.3%で『男性優遇』は70.7%となっている。

「女性の方が優遇されている」が0.3%, 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が0.7%で『女性優遇』は1.0%と『男性優遇』が大きく上回っている。

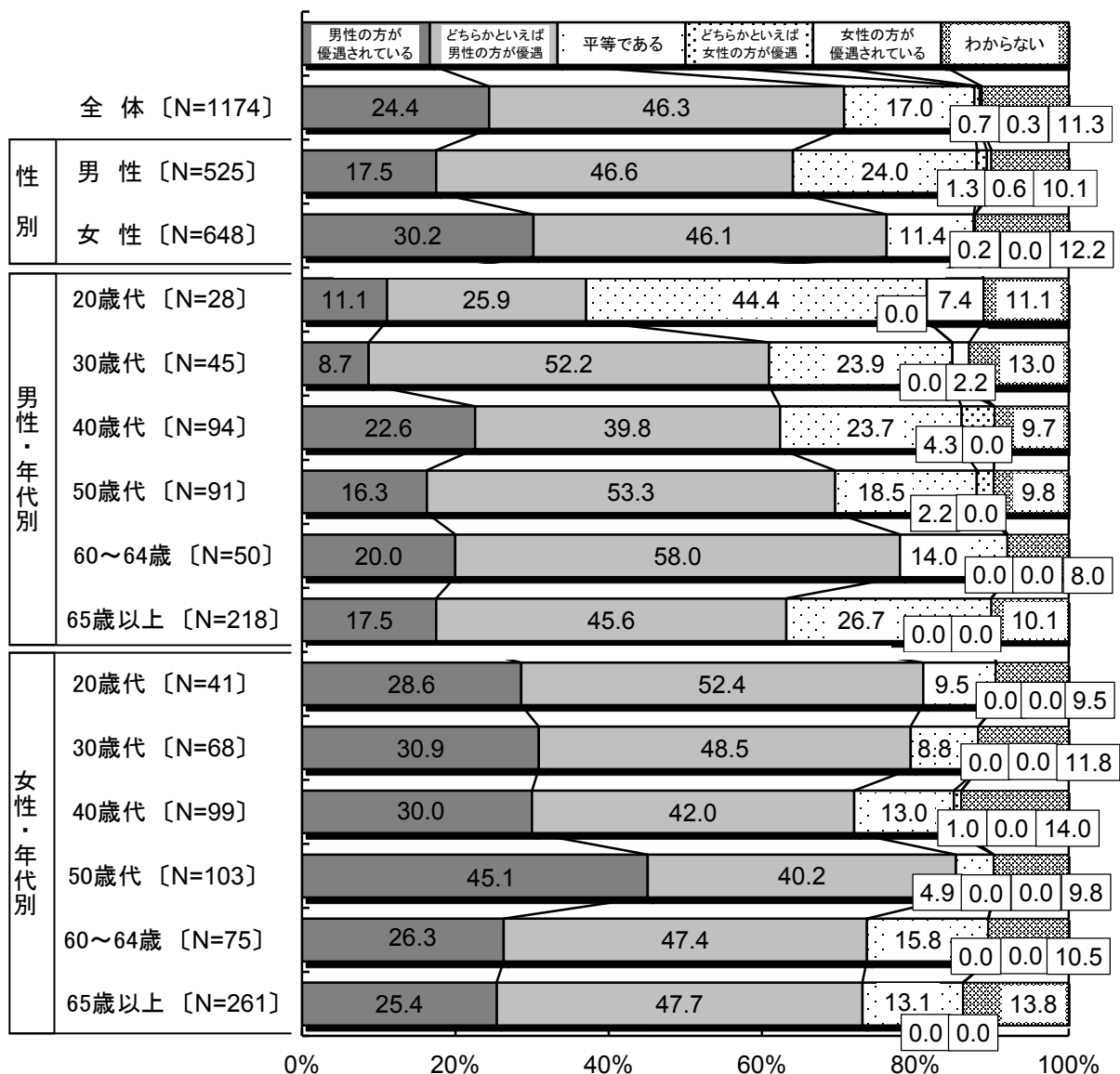
【性別】

女性は、『男性優遇』が76.3%で男性の64.1%より12.2ポイント高い。男性は、「平等である」が24.0%で女性の11.4%より12.6ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代は、「平等である」が44.4%で他の年代に比べて高い。女性50歳代は『男性優遇』が85.3%で他の年代に比べて高い。また、「男性の方が優遇されている」が45.1%で他の年代に比べて高い。

16-8図 男女の地位について(キ 政治や政策決定の場) [全体・性別・性・年代別]



ク 社会全体

『男性優遇』68.1%、「平等である」16.4%、『女性優遇』2.9%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が18.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が50.0%で『男性優遇』は68.1%、「女性の方が優遇されている」が0.5%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が2.4%で『女性優遇』は2.9%と、『男性優遇』が大きく上回っている。

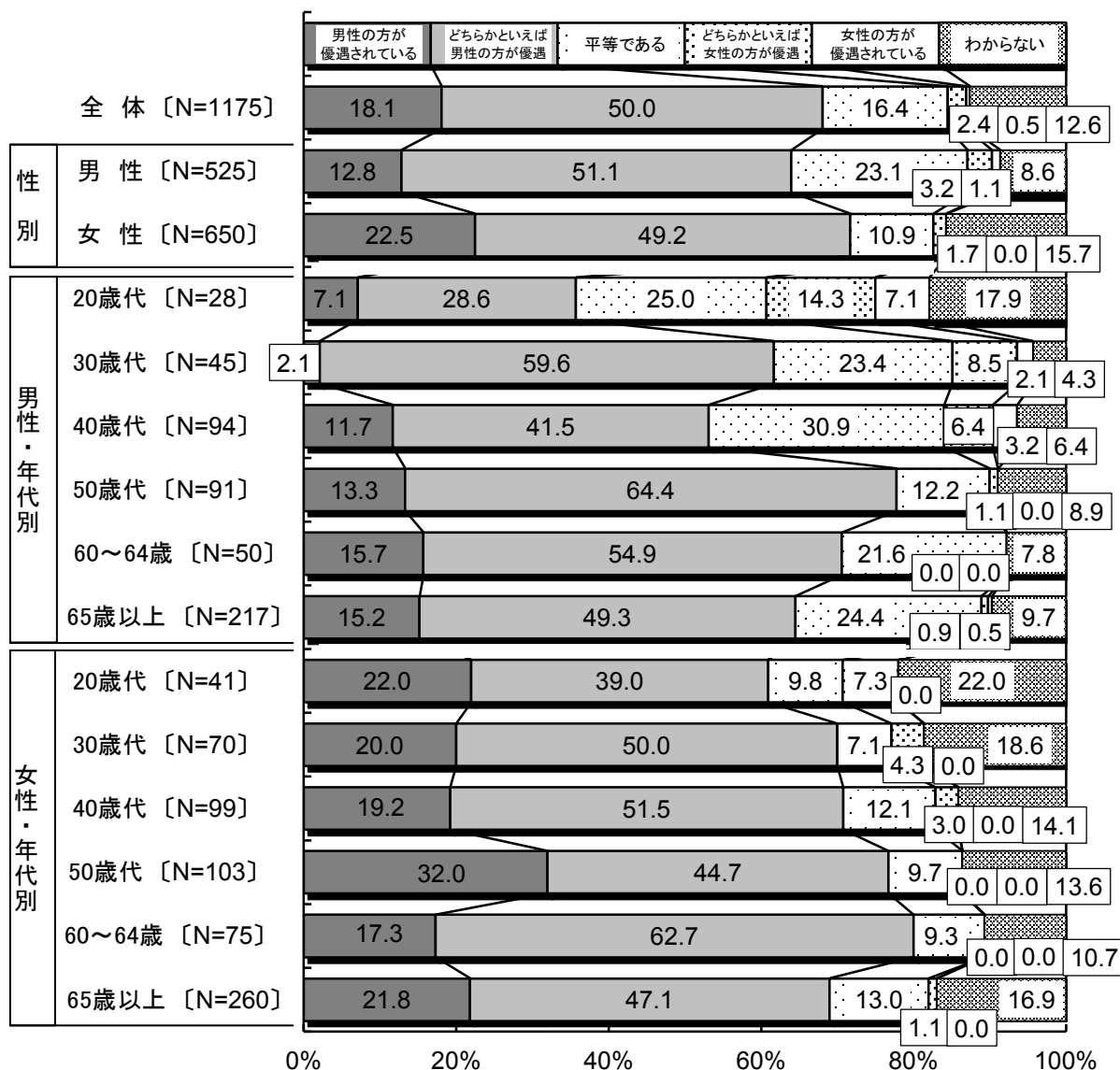
【性別】

女性は、『男性優遇』が71.7%で男性の63.9%より7.8ポイント高い。男性は、「平等である」が23.1%で女性の10.9%より12.2ポイント高い。

【性・年代別】

男性20歳代は、『男性優遇』が35.7%で他の年代に比べて低い。「男性の方が優遇されている」は男性20歳代、男性30歳代がそれぞれ7.1%、2.1%と他の年代に比べて低く、女性50歳代が32.0%と他の年代に比べて高い。

16-9図 男女の地位について(ク 社会全体)〔全体・性別・性・年代別〕



(17) 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思う行為について

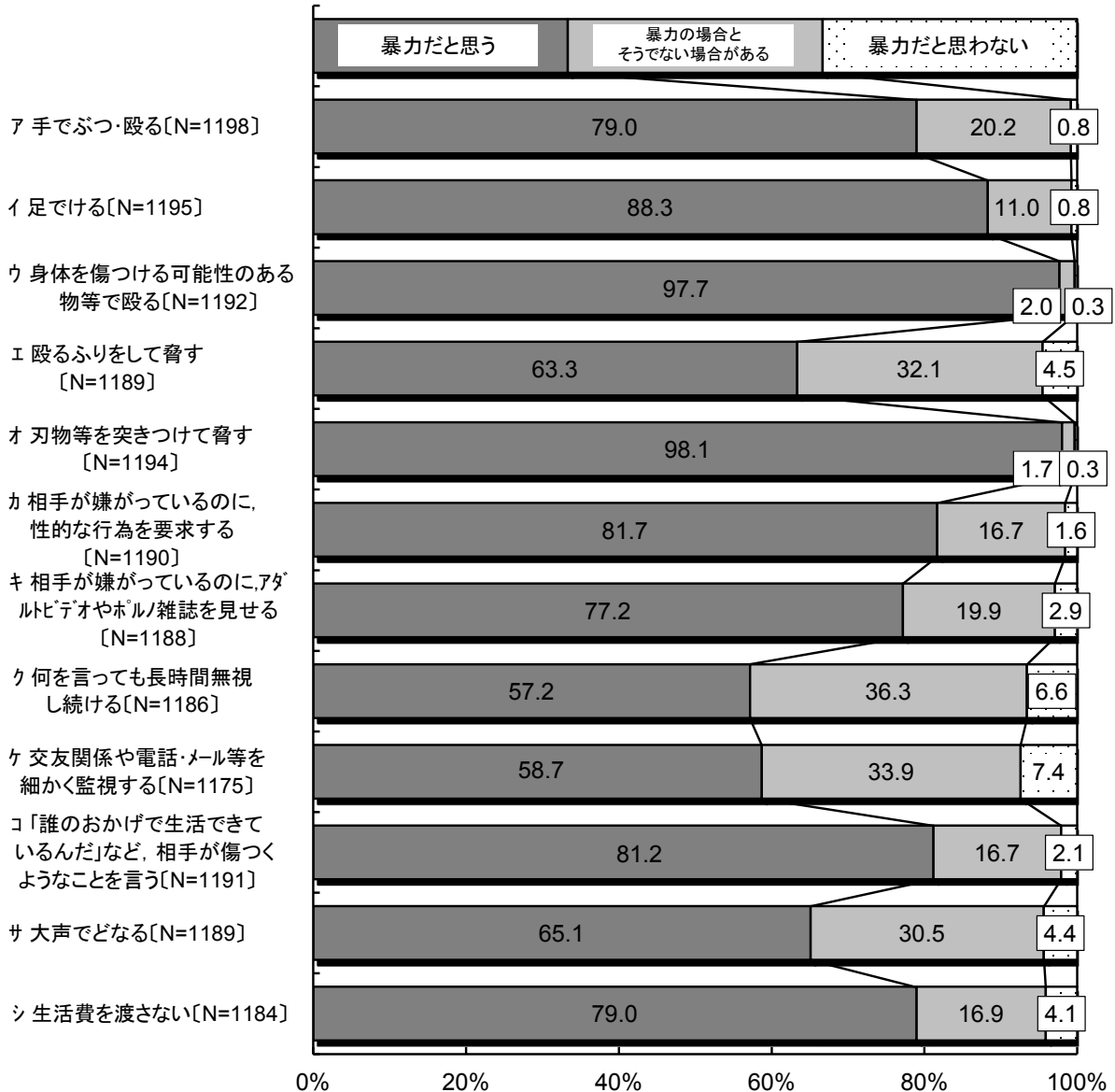
問17 あなたは、配偶者や恋人の間で行われる次のような行為を暴力だと思いますか。
それぞれについて1～3のいずれかに○

「刃物等を突きつけて脅す」	98.1%
「身体を傷つける可能性のある物等で殴る」	97.7%
「足でける」	88.3%

■「暴力だと思う」が70%以上 高い順

オ 刃物等を突きつけて脅す	98.1%
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	97.7%
イ 足でける	88.3%
カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	81.7%
コ 「誰のおかげで生活できているんだ」など、相手が傷つくようなことを言う	81.2%
ア 手でぶつ・殴る	79.0%
シ 生活費を渡さない	79.0%
キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	77.2%

17-1図 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思う行為について〔全体〕



ア 手でぶつ・殴る

「暴力だと思う」が79.0%、「暴力の場合とそうでない場合がある」20.2%

【全体】

「暴力だと思う」が79.0%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が20.2%、「暴力だと思わない」は0.8%である。

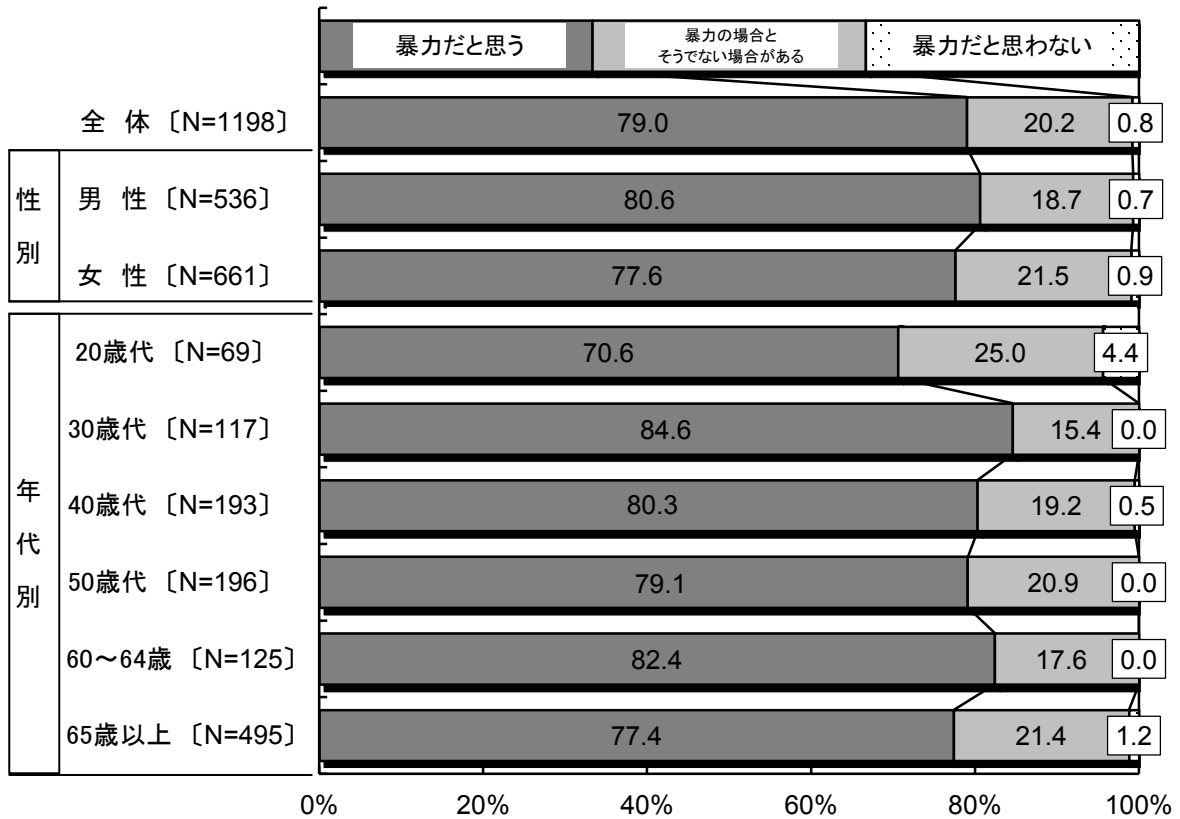
【性別】

20歳代は、「暴力だと思う」が70.6%で他の年代より低い。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-2図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(ア 手でぶつ・殴る)



イ 足でける

「暴力だと思う」が88.3%、「暴力の場合とそうでない場合がある」11.0%

【全体】

「暴力だと思う」が88.3%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が11.0%、「暴力だと思わない」は0.8%である。

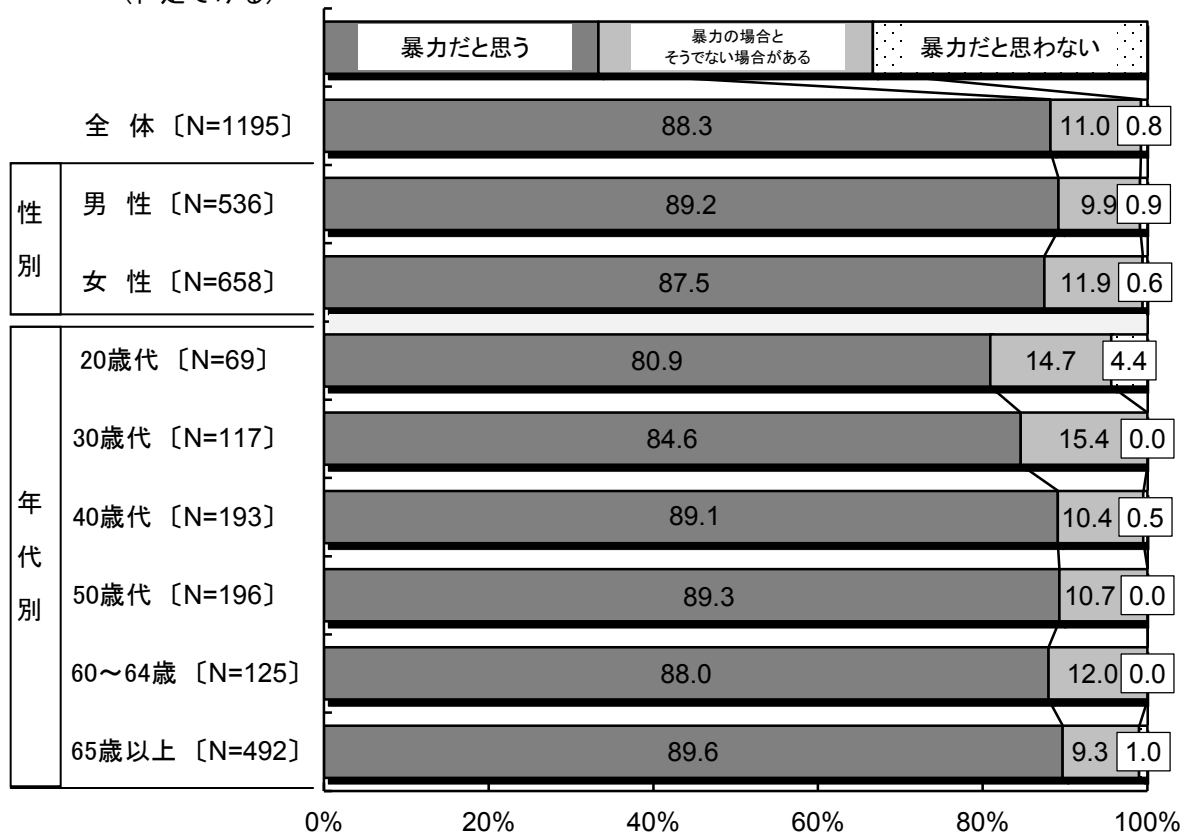
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-3図 暴力だと思う行為について【全体・性別・年代別】
(イ 足でける)



ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る

「暴力だと思う」が97.7%

【全体】

「暴力だと思う」が97.7%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が2.0%、「暴力だと思わない」は0.3%である。

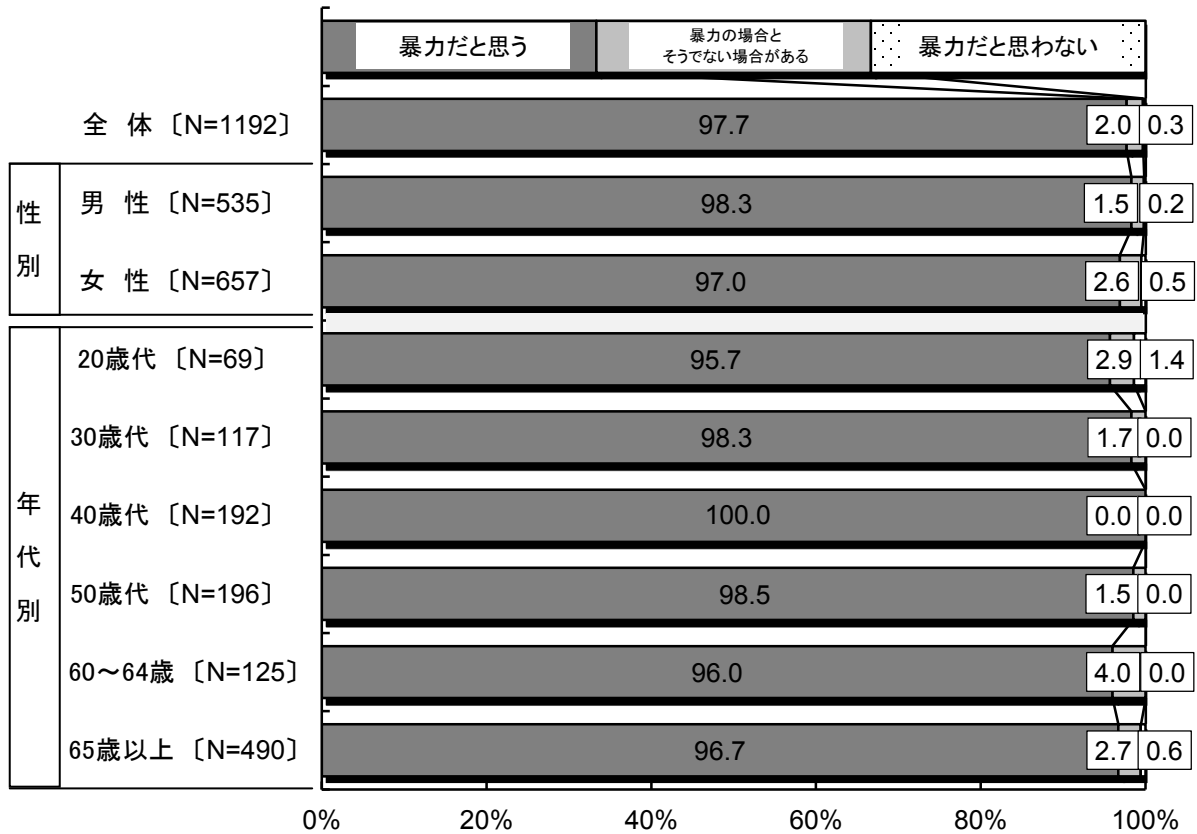
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-4図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る)



エ 殴るふりをして脅す

「暴力だと思う」63.3%、「暴力の場合とそうでない場合がある」32.1%

【全体】

「暴力だと思う」が63.3%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が32.1%、「暴力だと思わない」は4.5%である。

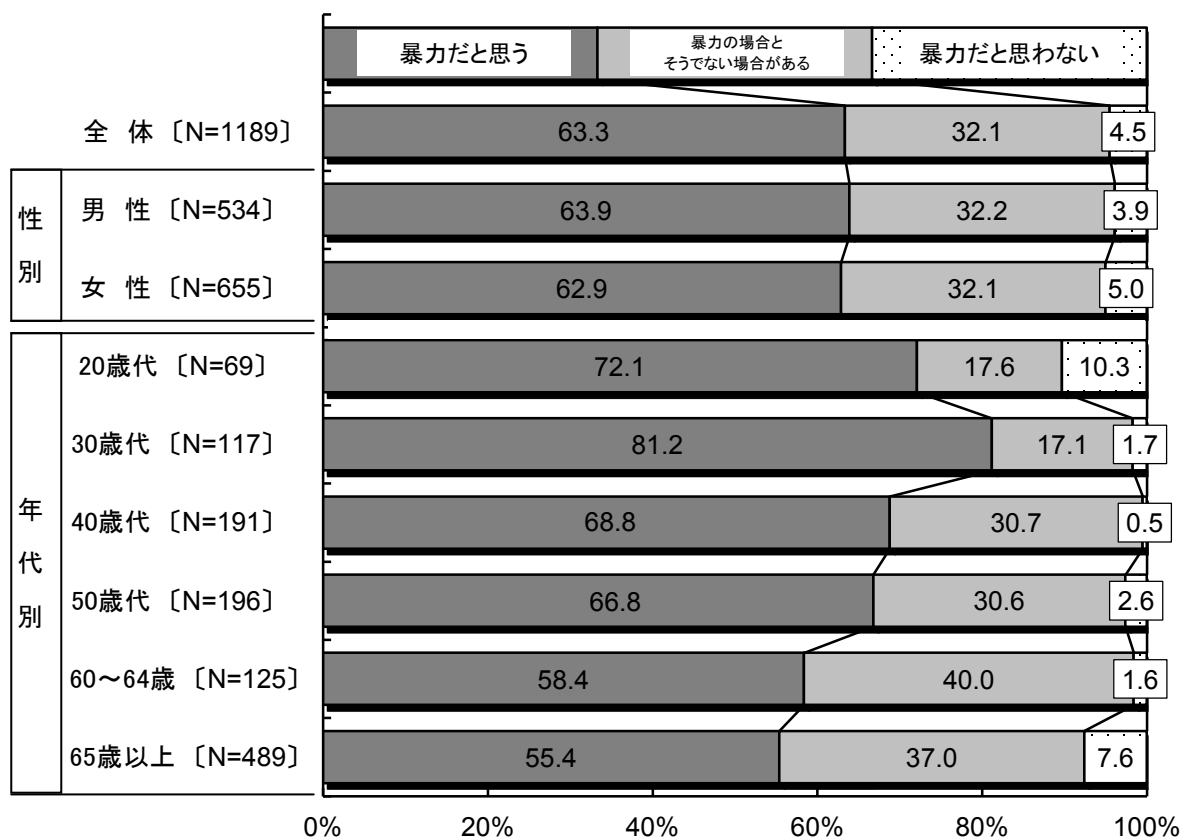
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

30歳代は、「暴力だと思う」が81.2%で他の年代に比べて高い。年代が上がるにつれて「暴力だと思う」は低くなり、「暴力の場合とそうでない場合がある」が高くなっている。

17-5図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(エ 殴るふりをして脅す)



オ 刃物等を突きつけて脅す

「暴力だと思う」が98.0%

【全体】

「暴力だと思う」が98.0%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」は1.7%、「暴力だと思わない」は0.3%である。

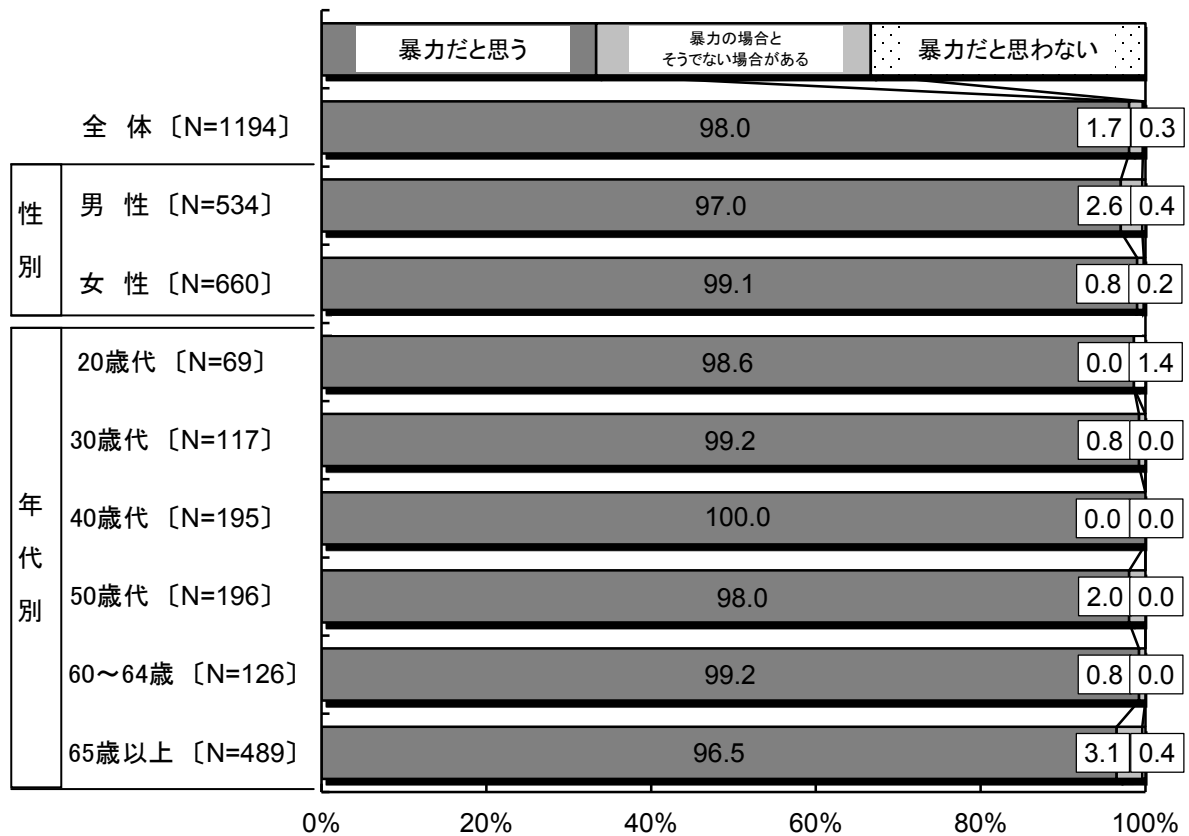
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-6図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(オ 刃物等を突きつけて脅す)



カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する

「暴力だと思う」が81.7%、「暴力の場合とそうでない場合がある」16.7%

【全体】

「暴力だと思う」が81.7%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が16.7%、「暴力だと思わない」は1.6%である。

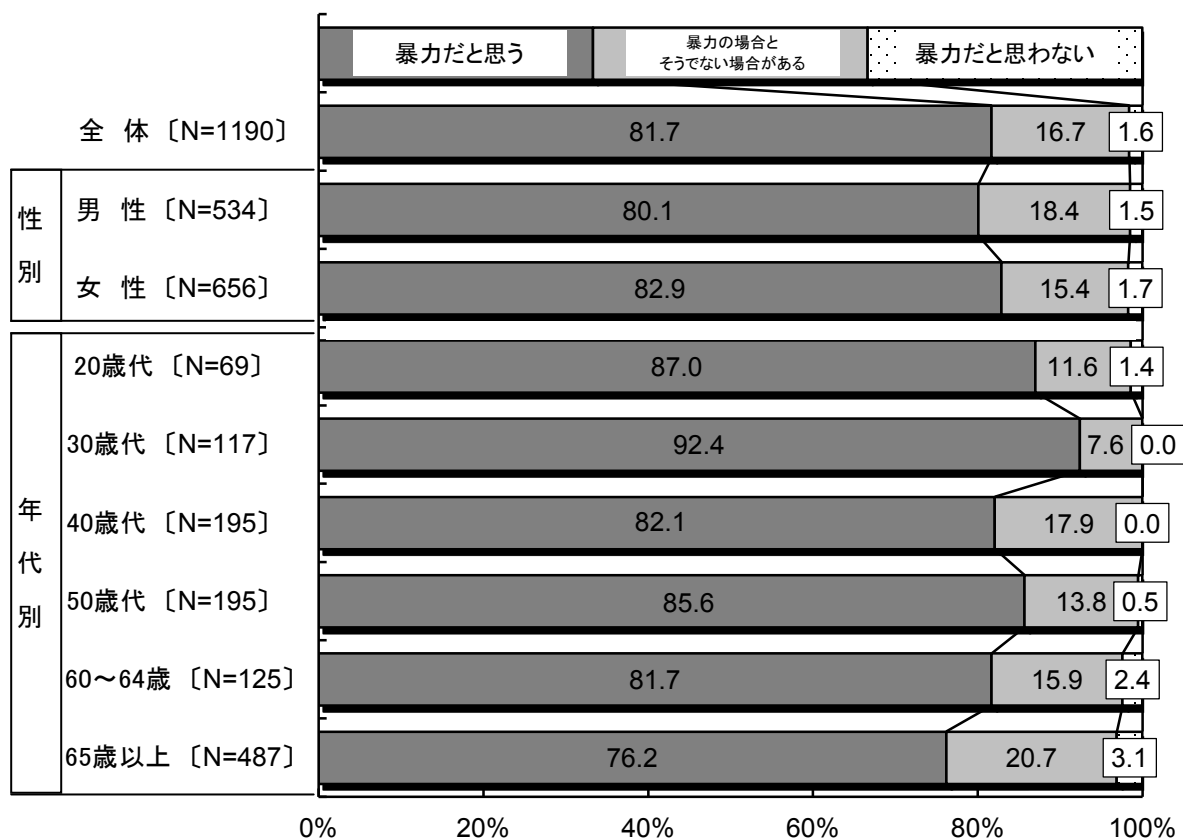
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

65歳以上は、「暴力だと思う」が76.2%で他の年代に比べて低い。

17-7図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する)



キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

「暴力だと思う」が77.2%、「暴力の場合とそうでない場合がある」19.9%

【全体】

「暴力だと思う」が77.2%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が19.9%、「暴力だと思わない」は2.9%である。

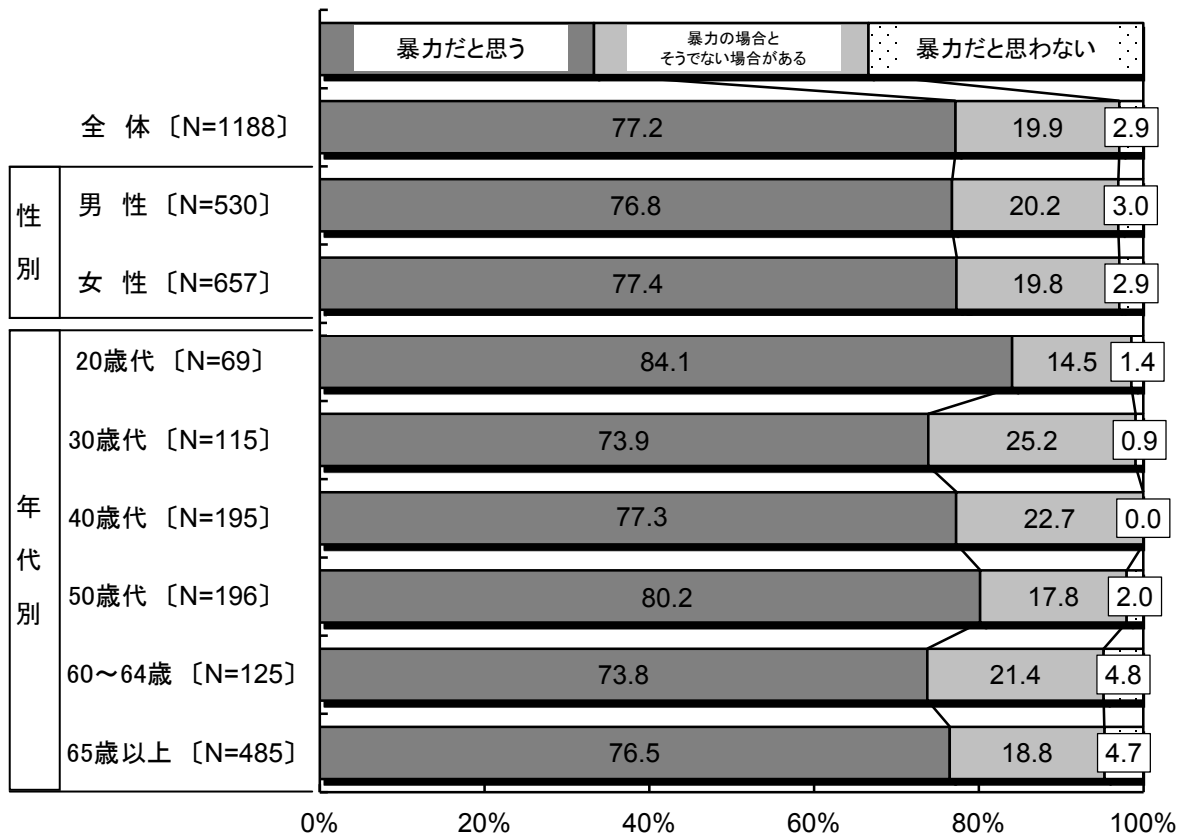
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代は「暴力だと思う」が84.1%と他の年代より若干高い。

17-8図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる)



ク 何を言っても長時間無視し続ける

「暴力だと思う」57.2%、「暴力の場合とそうでない場合がある」36.3%

【全体】

「暴力だと思う」が57.2%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が36.3%、「暴力だと思わない」は6.6%である。

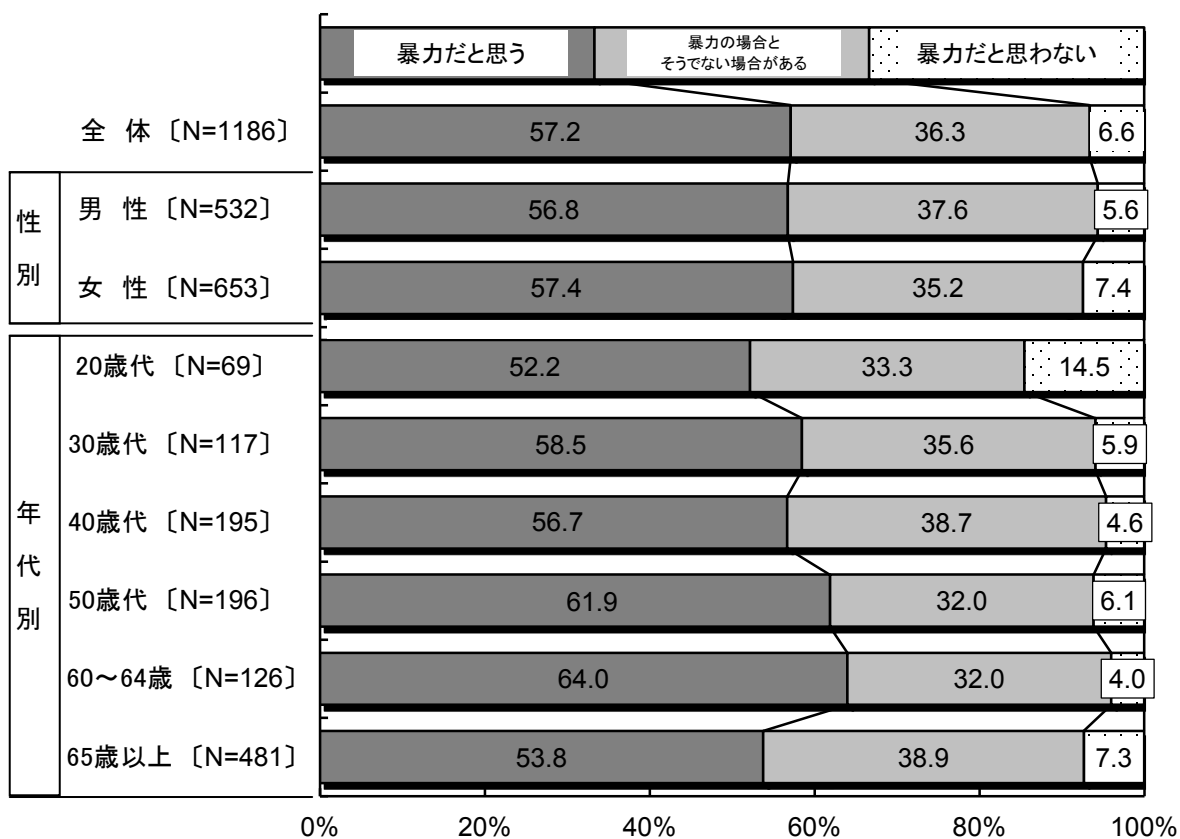
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代は、「暴力だと思わない」が14.5%で他の年代に比べて高い。

17-9図 暴力だと思う行為について【全体・性別・年代別】
(ク 何を言っても長時間無視し続ける)



ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する

「暴力だと思う」58.7%、「暴力の場合とそうでない場合がある」33.9%

【全体】

「暴力だと思う」が58.7%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が33.9%、「暴力だと思わない」は7.4%である。

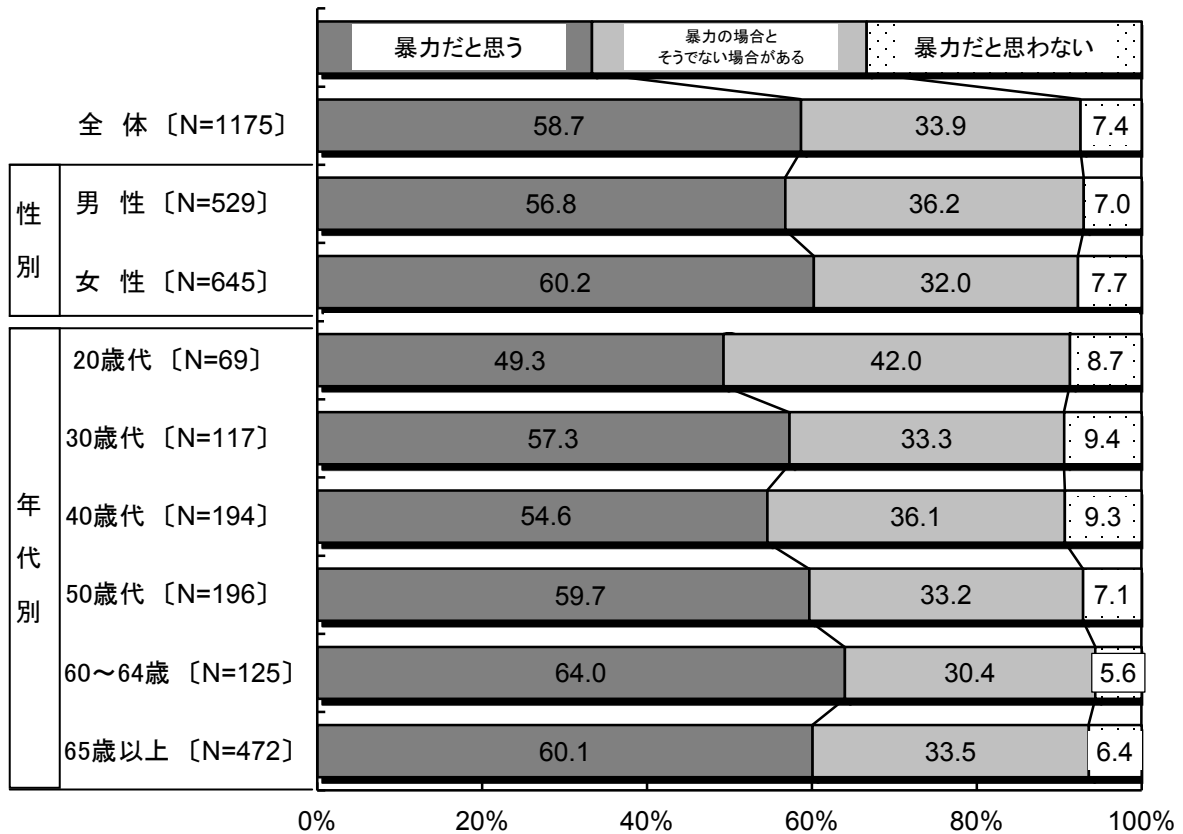
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

50歳代、60～64歳、65歳以上は、「暴力だと思う」が60%前後で他の年代に比べて高い。20歳代は、「暴力だと思う」が49.3%で他の年代に比べて低い。

17-10図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
（ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する）



コ 相手が傷つくようなことを言う

「暴力だと思う」が81.2%、「暴力の場合とそうでない場合がある」16.7%

【全体】

「暴力だと思う」が81.2%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が16.7%、「暴力だと思わない」は2.1%である。

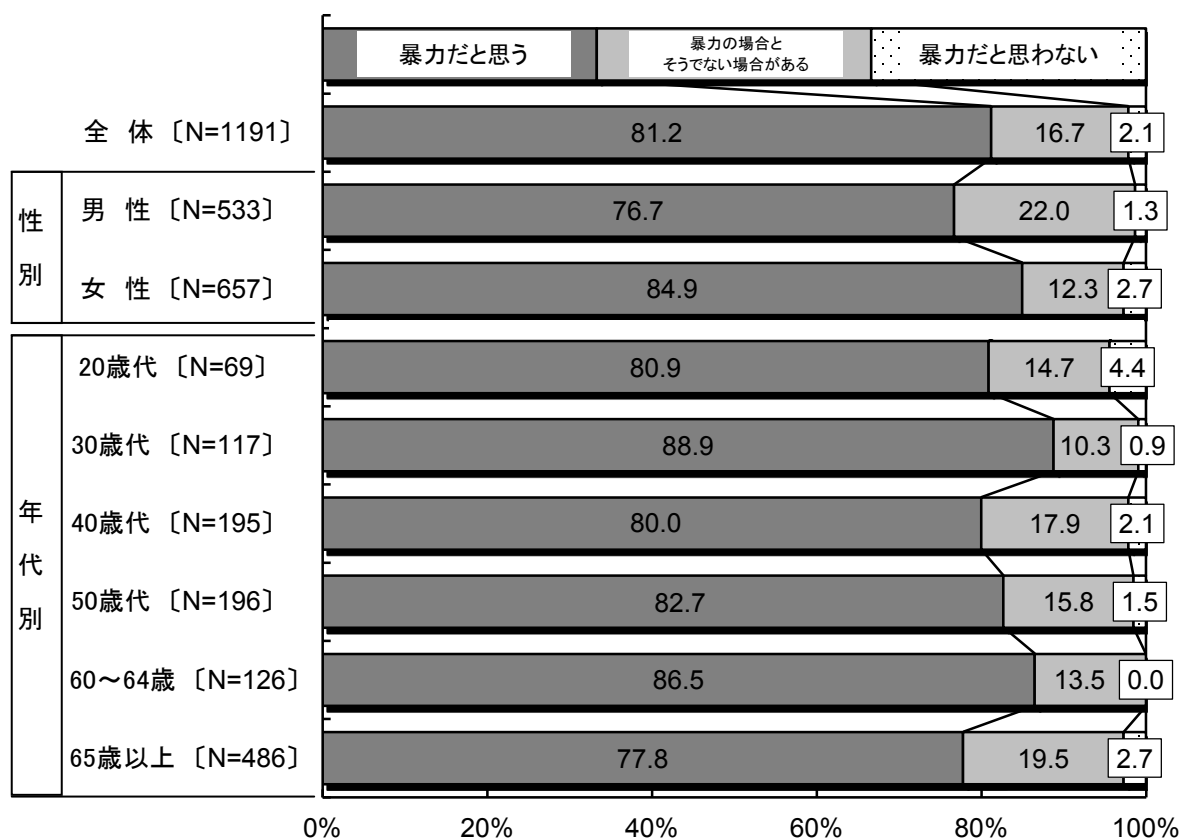
【性別】

「暴力だと思う」は、女性が84.9%で男性の76.7%より8.2ポイント高く、男性は「暴力の場合とそうでない場合がある」が22.0%で女性の12.3%より9.7ポイント高い。

【年代別】

特に大きな差異はない。

17-11図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
 (コ 相手が傷つくようなことを言う)



サ 大声でどなる

「暴力だと思う」65.1%、「暴力の場合とそうでない場合がある」30.5%

【全体】

「暴力だと思う」が65.1%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が30.5%、「暴力だと思わない」は4.4%である。

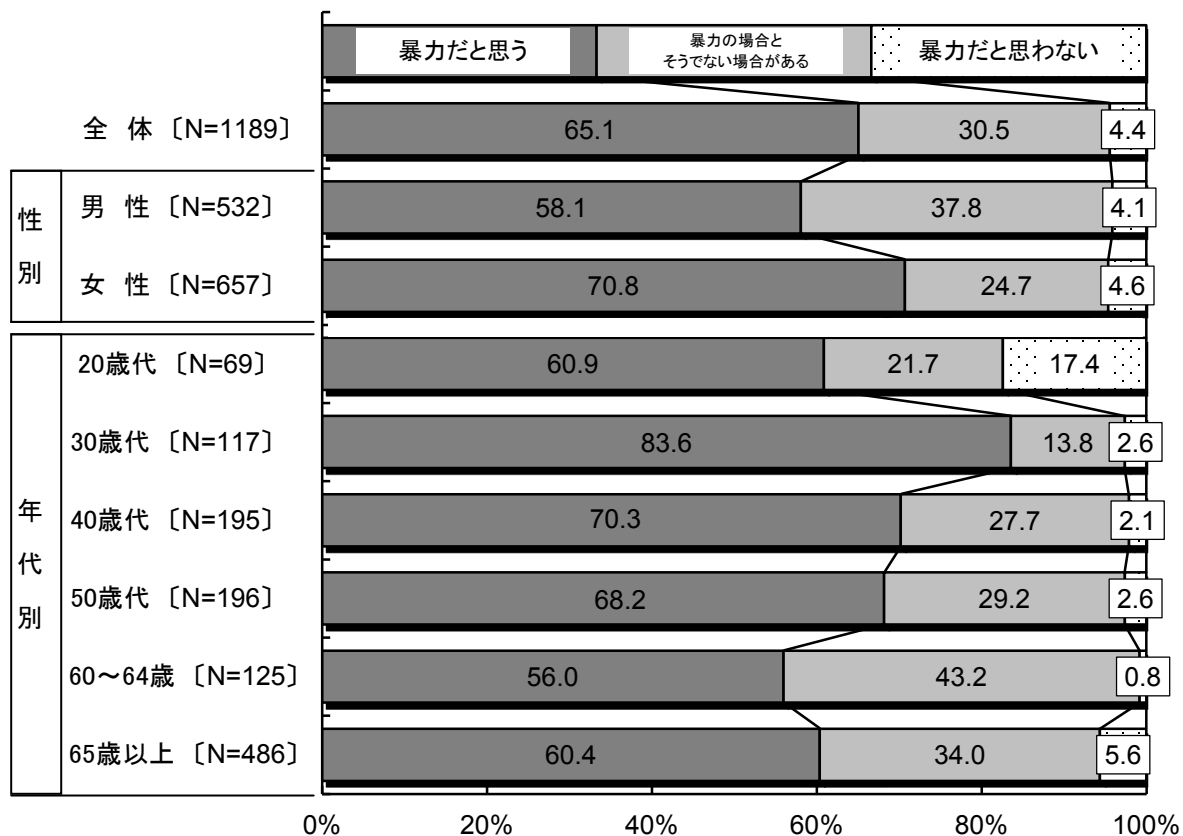
【性別】

「暴力だと思う」は、女性が70.8%で男性の58.1%より12.7ポイント高く、男性は「暴力の場合とそうでない場合がある」が37.8%で女性の24.7%より13.1ポイント高い。

【年代別】

30歳代は、「暴力だと思う」が83.6%で他の年代に比べて高い。60～64歳は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が43.2%と他の年代に比べて高い。

17-12図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(サ 大声でどなる)



シ 生活費を渡さない

「暴力だと思う」が79.0%、「暴力の場合とそうでない場合がある」16.9%

【全体】

「暴力だと思う」が79.0%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が16.9%、「暴力だと思わない」は4.1%である。

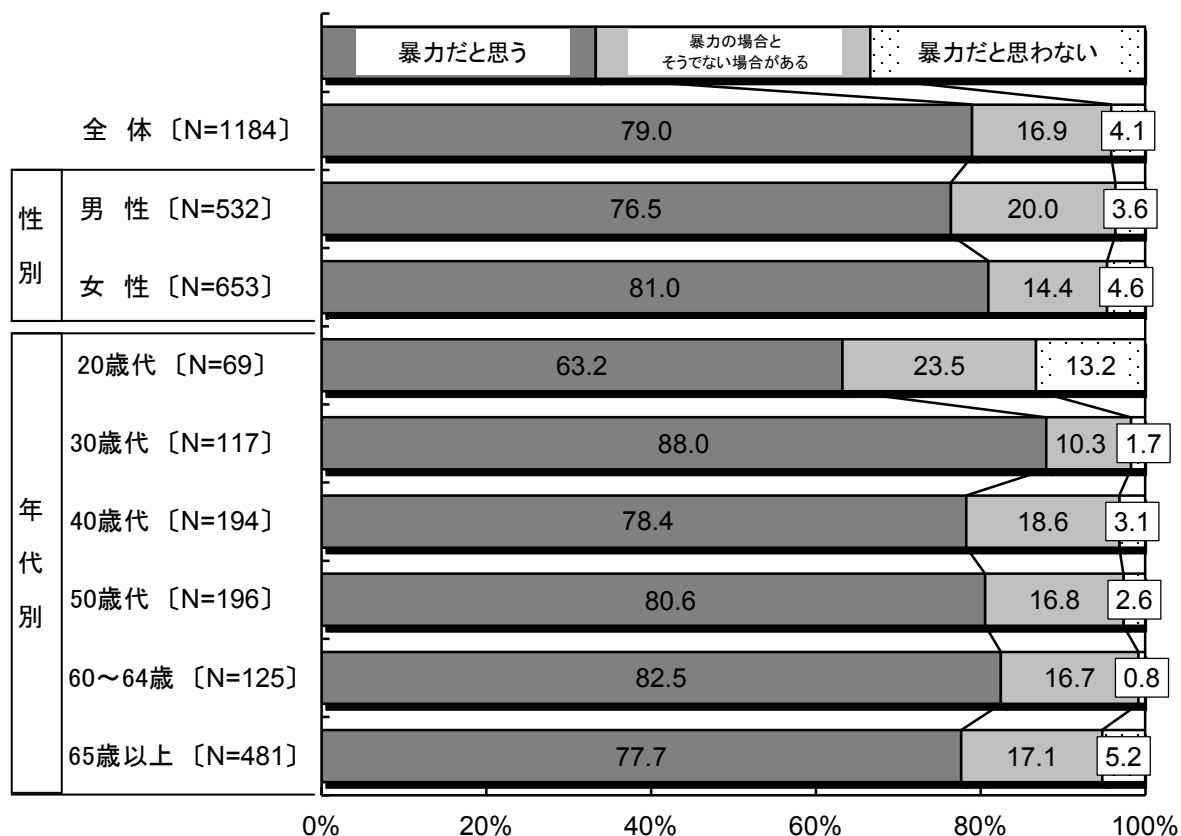
【性別】

男性は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が20.0%で女性の14.4%より5.6ポイント高い。

【年代別】

20歳代は、「暴力だと思う」が63.2%で他の年代に比べて低く、30歳代は「暴力だと思う」が88.0%で他の年代に比べて高い。

17-13図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕
(シ 生活費を渡さない)



(18-1) 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験について

問18-1 あなたは、配偶者や恋人との間で次のような行為を経験したことがありますか。
それぞれについて1～4のいずれかに○

「経験がある」49.4%、「経験はない」50.6% ⇒ 半数近くは経験がある

※配偶者や恋人との間で行われる暴力だと思ふ行為(次頁 ア 手でぶつ・殴る～シ 生活費を渡さない)の項目に「したことがある」「両方」「されたことがある」のいずれか1つでも○がある場合、「経験がある」とする。

【全体】

「経験がある」が49.4%、「経験はない」が50.6%である。

【性別】

特に大きな差異はない。

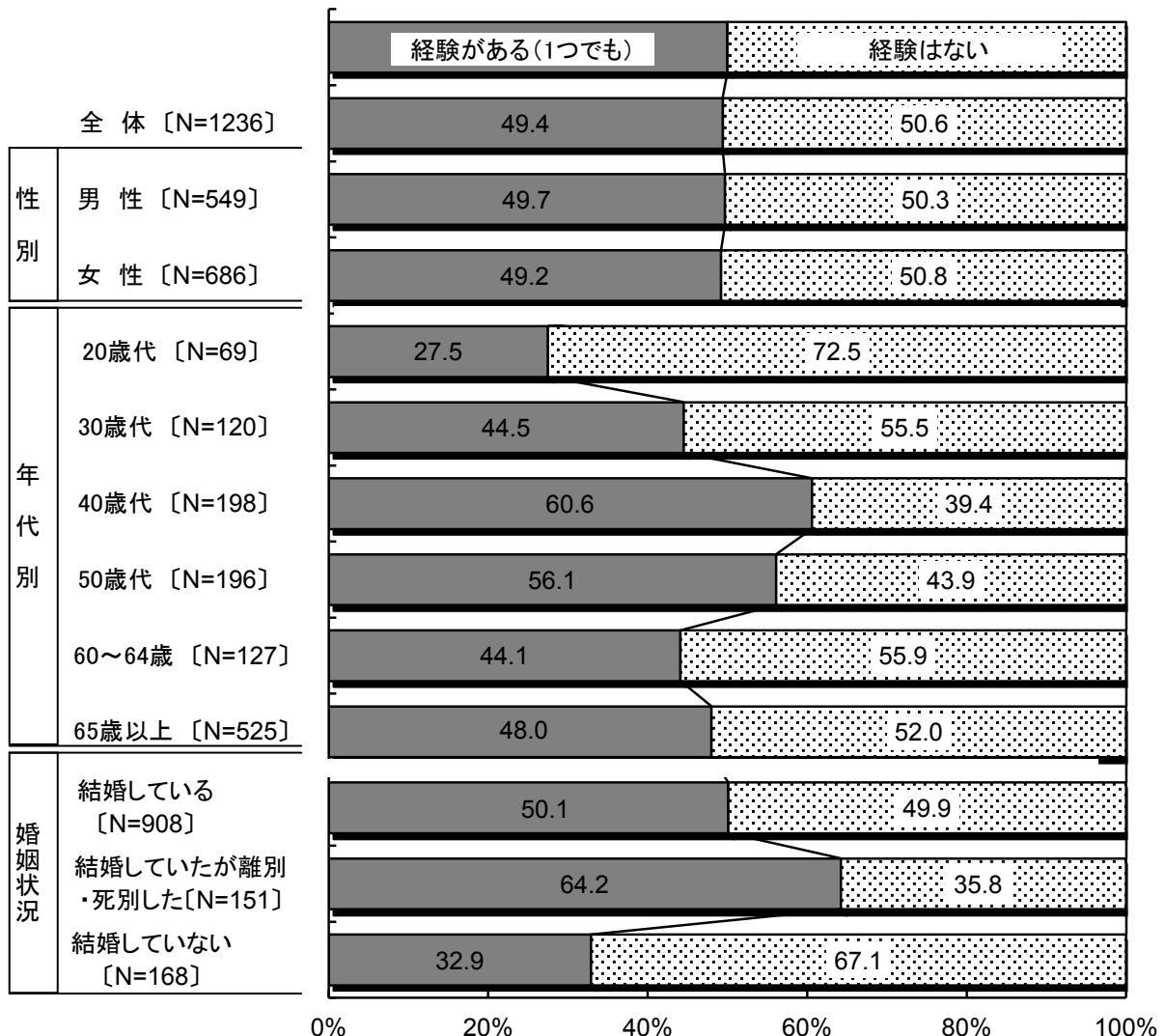
【年代別】

40歳代は「経験がある」が60.6%で最も高く、50歳代が56.1%で続いている。

【婚姻状況】

結婚していたが離別・死別した人は「経験がある」が64.2%と高く、結婚していない人は32.9%と低い。

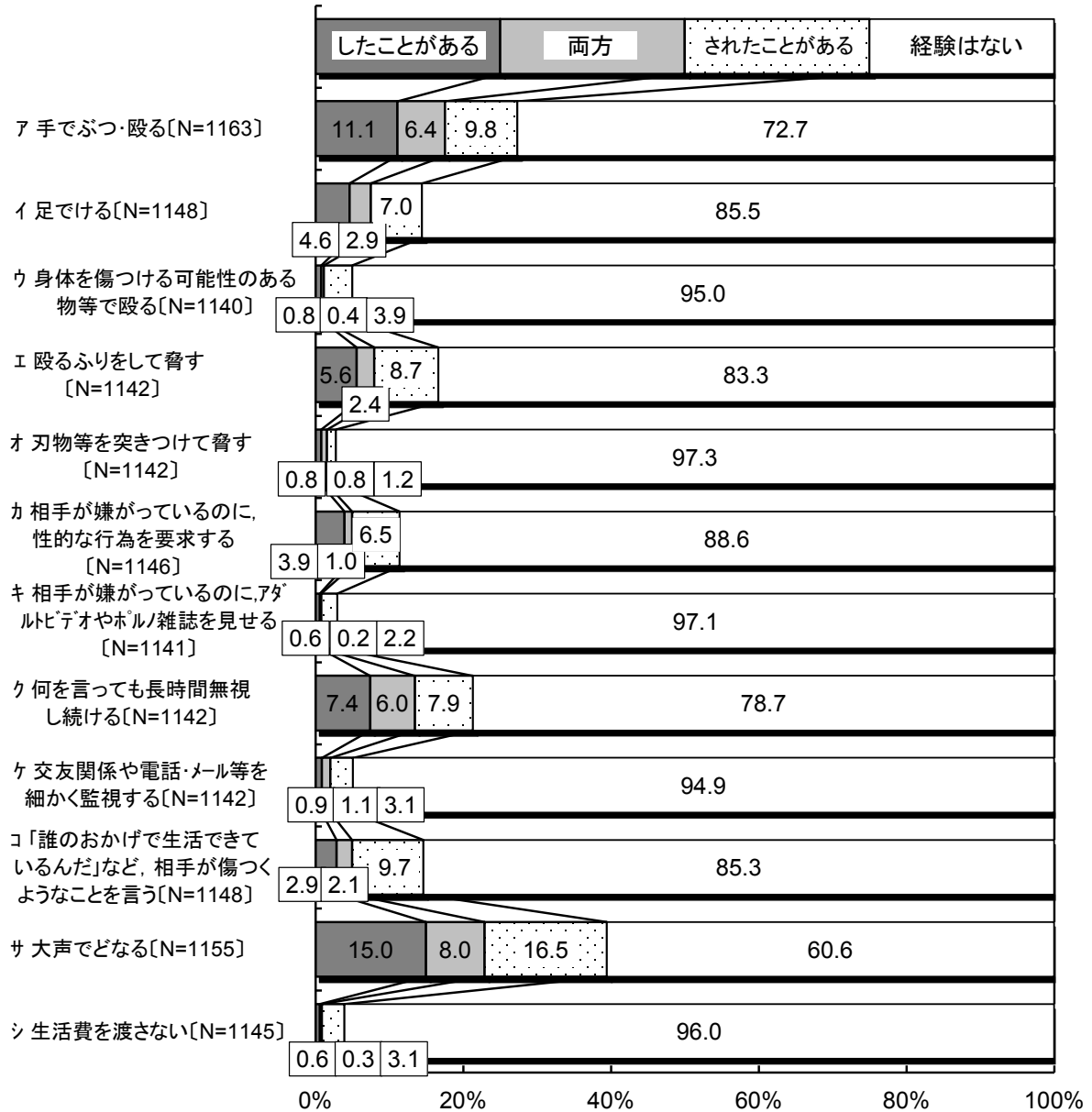
18(1)-1図 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験有無について
〔全体・性別・年代別・婚姻状況別〕



【行為別】

各行為とも「経験はない」が最も多いが、「サ 大声でどなる」が「したことがある (15.0%)」「されたことがある (16.5%)」「両方 (8.0%)」とも各行為の中で最も高く、ついで「ア 手でぶつ・殴る」が「したことがある (11.1%)」「されたことがある (9.8%)」「両方 (6.4%)」と高い。

18(1)-2図 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験有無について〔行為別〕



【性別】

全体では、いずれかの行為を「したことがある」は男性209人、女性88人、「されたことがある」は男性64人、女性275人で「したことがある」は男性が多く、「されたことがある」は女性が多い。

行為別に「経験がある」の実数では、「シ 大声でどなる」は男性203人、女性252人で男性、女性共に「経験がある」の実数が最も多く、ついで「ア 手でぶつ・殴る」が男性145人、女性173人、「ク 何を言っても長時間無視し続ける」が男性115人、女性128人と続く。

また、「サ 大声でどなる」は、女性が「されたことがある」が最も多いのに対し、男性は「したことがある」が最も多い。

18(1)-1表 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思う行為の経験有無について(実数・%)〔男性〕

行為別	人数	したことがある	両方	されたことがある	経験がある	経験がある(%)
ア 手でぶつ・殴る	517	89	41	15	145	28.0
イ 足でける	514	32	20	18	70	13.6
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	510	5	2	6	13	2.5
エ 殴るふりをして脅す	512	53	14	15	82	16.0
オ 刃物等を突きつけて脅す	512	6	1	2	9	1.8
カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	515	41	5	3	49	9.5
キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	511	6	1	1	8	1.6
ク 何を言っても長時間無視し続ける	511	54	39	22	115	22.5
ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する	510	6	5	11	22	4.3
コ 「誰のおかげで生活できているんだ」とか「かいしょうなし」など、相手が傷つくようなことを言う	510	21	16	14	51	10.0
サ 大声でどなる	514	137	51	15	203	39.5
シ 生活費を渡さない	514	5	2	2	9	1.8
全体	549	209	109	64	273	49.7

18(1)-2表 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思う行為の経験有無について(実数・%)〔女性〕

行為別	人数	したことがある	両方	されたことがある	経験がある	経験がある(%)
ア 手でぶつ・殴る	645	40	34	99	173	26.8
イ 足でける	634	21	13	62	96	15.1
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	630	3	2	38	43	6.8
エ 殴るふりをして脅す	630	12	13	84	109	17.3
オ 刃物等を突きつけて脅す	630	3	8	12	23	3.7
カ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	631	4	6	70	80	12.7
キ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	630	0	1	23	24	3.8
ク 何を言っても長時間無視し続ける	631	31	30	67	128	20.3
ケ 交友関係や電話・メール等を細かく監視する	631	4	8	24	36	5.7
コ 「誰のおかげで生活できているんだ」とか「かいしょうなし」など、相手が傷つくようなことを言う	638	12	8	97	117	18.3
サ 大声でどなる	641	36	41	175	252	39.3
シ 生活費を渡さない	630	3	1	32	36	5.7
全体	686	88	94	275	337	49.2

(18-2) 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔複数回答〕

問18-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。○はいくつでも

「どこ(だれ)にも相談しなかった」	67.2%
「友人・知人に相談した」	20.1%
「親族に相談した」	19.0%

【全体】

「どこ(だれ)にも相談しなかった」が67.2%と最も高く、「友人・知人に相談した」が20.1%、「親族に相談した」が19.0%で続いている。

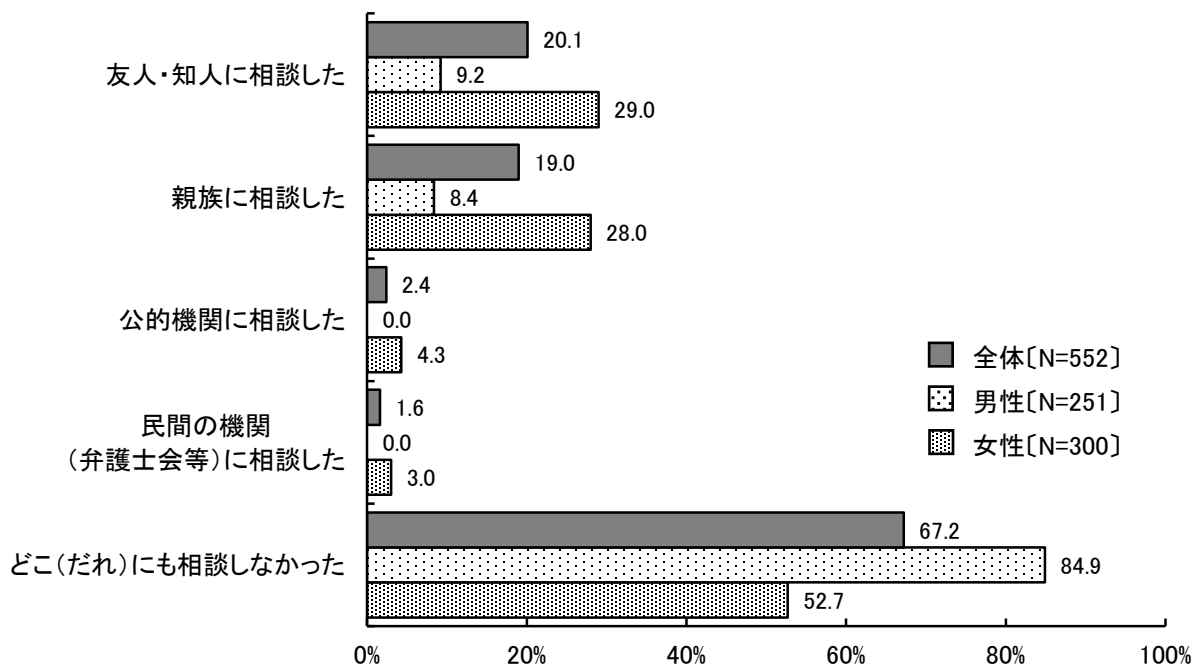
「公的機関に相談した」は、2.4%と少ない。

【性別】

男性は、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が84.9%で、女性の52.7%に比べて32.2ポイント高い。女性は、「友人・知人に相談した」が29.0%、「親族に相談した」が28.0%でいずれも男性（それぞれ9.2%、8.4%）に比べて高い。

問18-1で「したことがある」、「両方」、「されたことがある」と回答した方のみ

18(2)-1図 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔全体・性別〕



(19-1) 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験について

問19-1 あなたは、これまでに、職場・学校・地域で、次のような経験をしたことがありますか。

「経験がある」30.3%、「経験はない」69.7% ⇒ 全体の約3割は経験がある

※配偶者や恋人との間で行われる行為(次頁 ア 嫌がっているのに卑猥な話を聞かされた～サ その他)の項目に「職場」「学校」「地域」のいずれか1つでも○がある場合、「経験がある」とする。

【全体】

「経験がある」が30.3%、「経験はない」が69.7%である。

【性別】

女性は「経験がある」が36.7%で男性の22.4%に比べて14.3ポイント高い。

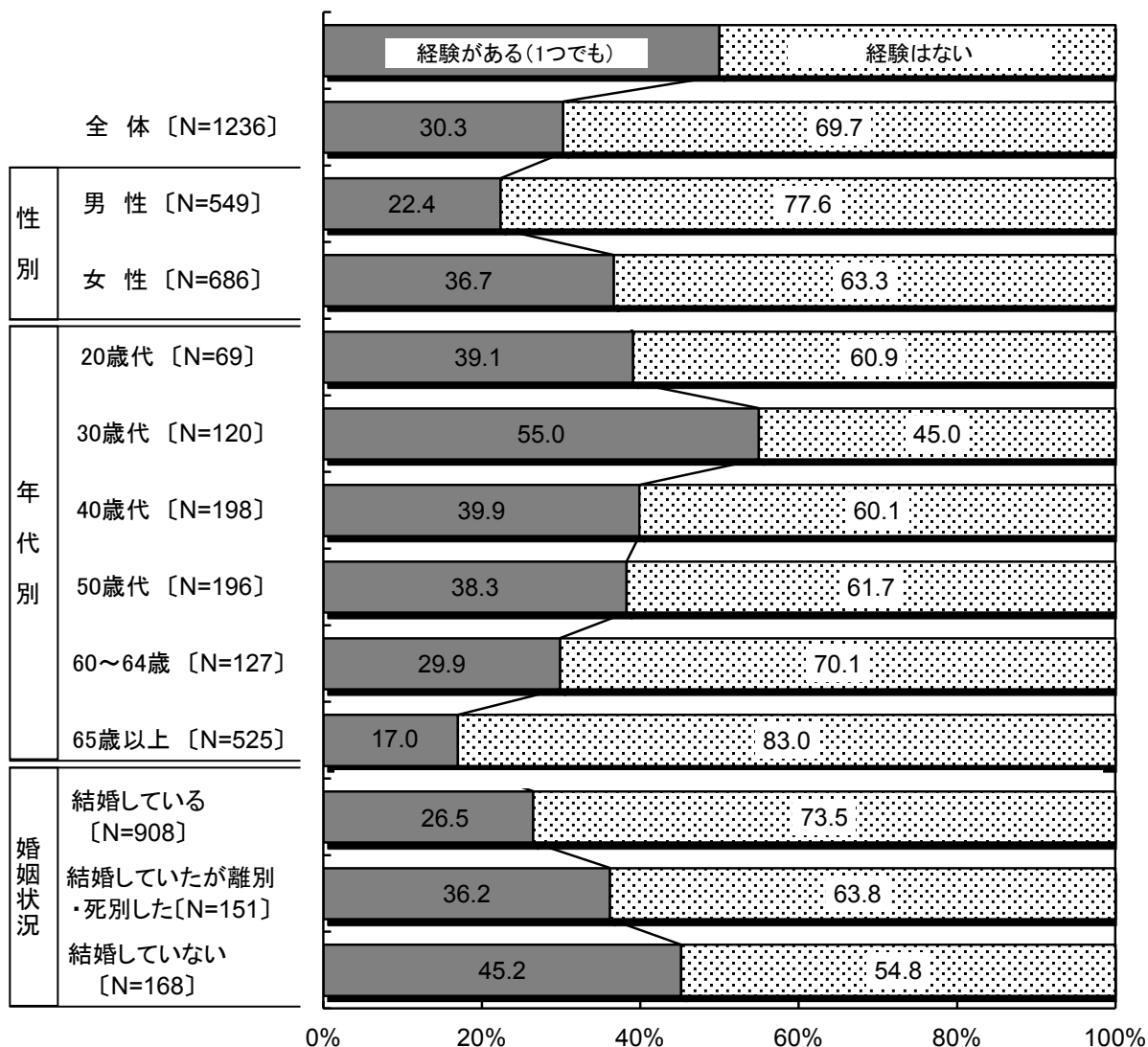
【年代別】

30歳代は「経験がある」が55.0%で最も高い。

【婚姻状況】

結婚していない人は「経験がある」が45.2%と結婚している人の26.5%に比べて18.7ポイント高い。

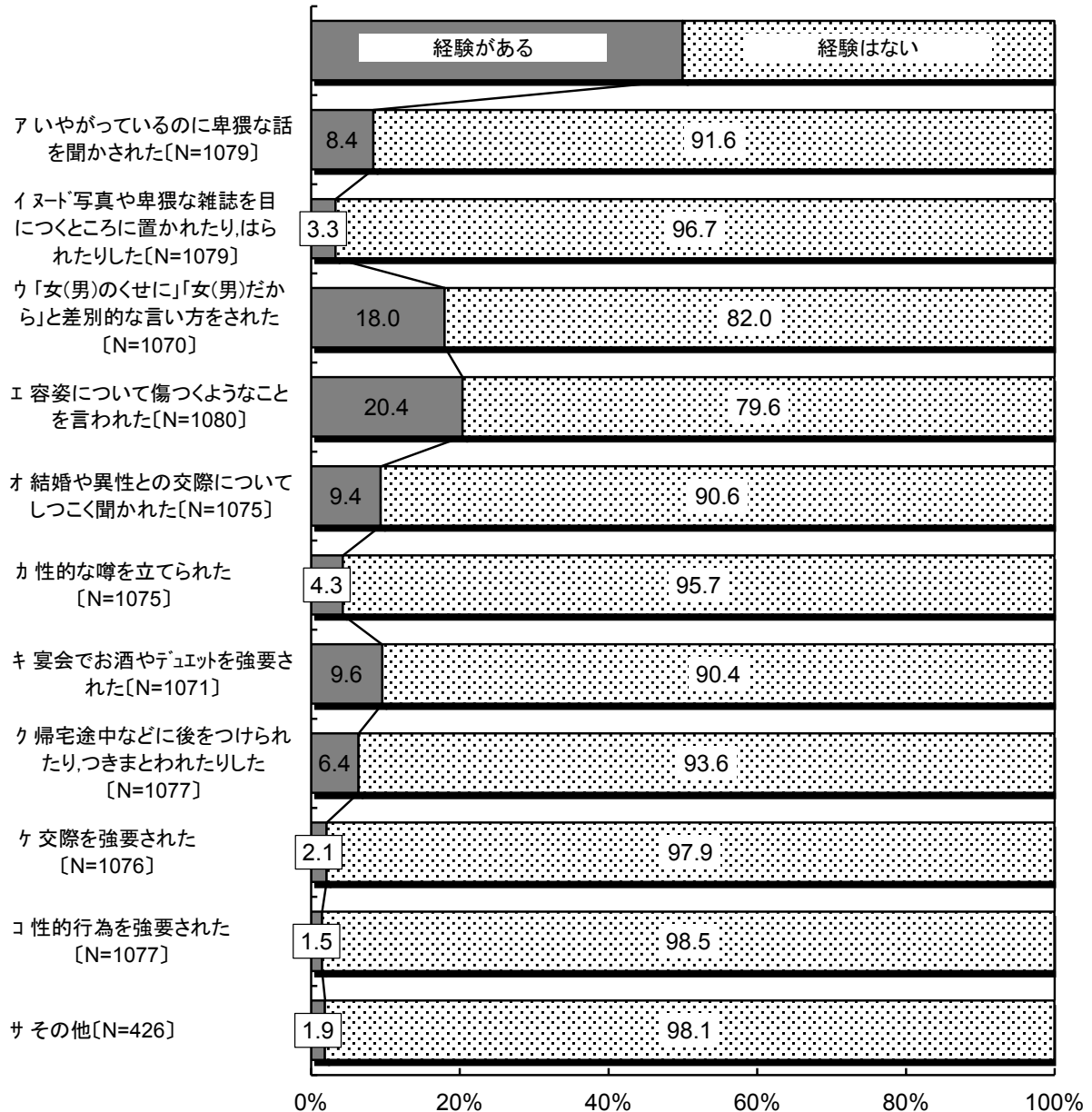
19(1)-1図 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について
〔全体・性別・年代別〕



【行為別】

各行為とも「経験はない」が「経験がある」より高いが、「エ 容姿について傷つくようなことを言われた」が20.4%で、「経験がある」が最も高い。ついで「ウ「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が18.0%、「キ 宴会でお酒やデュエットを強要された」が9.6%と高くなっている。

19(1)-2図 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について〔行為別〕



【性別】

男性、女性とも「経験がある」の実数では、「エ 容姿について傷つくようなことを言われた」が男性77人、女性142人で最も多く、ついで「ウ「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が男性61人、女性131人と多い。

19(1)-1表 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について

(実数・%)〔男性〕

行為別	人数	受けた場所			経験の有無		経験の有無(%)	
		職場	学校	地域	ある	ない	ある	ない
ア いやがっているのに卑猥な話を聞かされた	475	21	12	5	34	441	7.2	92.8
イ ノード写真や卑猥な雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	472	11	9	1	17	455	3.6	96.4
ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	472	36	23	15	61	411	12.9	87.1
エ 容姿について傷つくようなことを言われた	473	40	41	10	77	396	16.3	83.7
オ 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	471	28	11	7	39	432	8.3	91.7
カ 性的な噂を立てられた	472	12	1	5	17	455	3.6	96.4
キ 宴会でお酒やデュエットを強要された	470	22	5	8	32	438	6.8	93.2
ク 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	472	4	1	3	8	464	9.4	90.6
ケ 交際を強要された	472	2	0	2	4	468	0.8	99.2
コ 性的行為を強要された	471	0	0	1	1	470	0.2	99.8
全体	549	87	52	34	123	426	22.4	77.6

19(1)-2表 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について

(実数・%)〔女性〕

行為別	人数	受けた場所			経験の有無		経験の有無(%)	
		職場	学校	地域	ある	ない	ある	ない
ア いやがっているのに卑猥な話を聞かされた	604	45	4	12	57	547	9.4	90.6
イ ノード写真や卑猥な雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	606	10	0	9	19	587	3.1	96.9
ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	597	80	39	40	131	466	21.9	78.1
エ 容姿について傷つくようなことを言われた	606	71	75	24	142	464	23.4	76.6
オ 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	604	45	14	20	63	541	10.4	89.6
カ 性的な噂を立てられた	603	11	10	12	29	574	4.8	95.2
キ 宴会でお酒やデュエットを強要された	601	60	2	9	71	530	11.8	88.2
ク 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	605	14	5	42	61	544	9.4	90.6
ケ 交際を強要された	604	13	4	4	19	585	3.1	96.9
コ 性的行為を強要された	605	8	1	7	14	591	2.3	97.7
全体	686	155	97	114	252	434	36.7	63.3

(19-2) 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントされた場合の相談状況について

[複数回答]

問19-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
○はいくつでも

「どこ(だれ)にも相談していない」	51.3%
「友人・知人に相談した」	30.8%
「親族に相談した」	22.9%

【全体】

「どこ(だれ)にも相談していない」が51.3%と最も高く、「友人・知人に相談した」が30.8%、「親族に相談した」が22.9%で続いている。

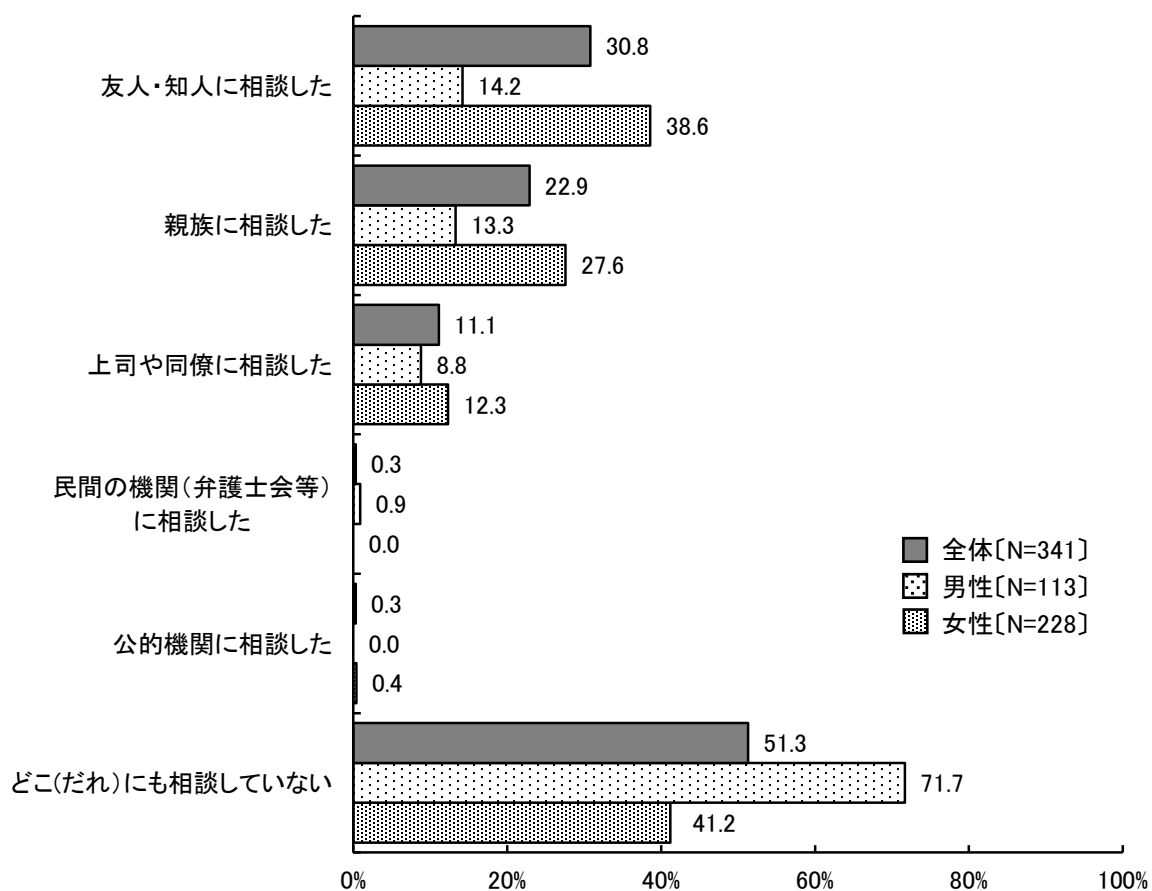
「公的機関に相談した」は、0.3%と少ない。

【性別】

男性は、「どこ(だれ)にも相談していない」が71.7%で、女性の41.2%に比べて30.5ポイント高い。女性は、「友人・知人に相談した」が38.6%、「親族に相談した」が27.6%でいずれも男性(それぞれ14.2%、13.3%)に比べて高い。

問19-1で「職場」、「学校」、「地域」と回答した方のみ

19(2)-1図 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントをされた場合の相談状況について [全体・性別]



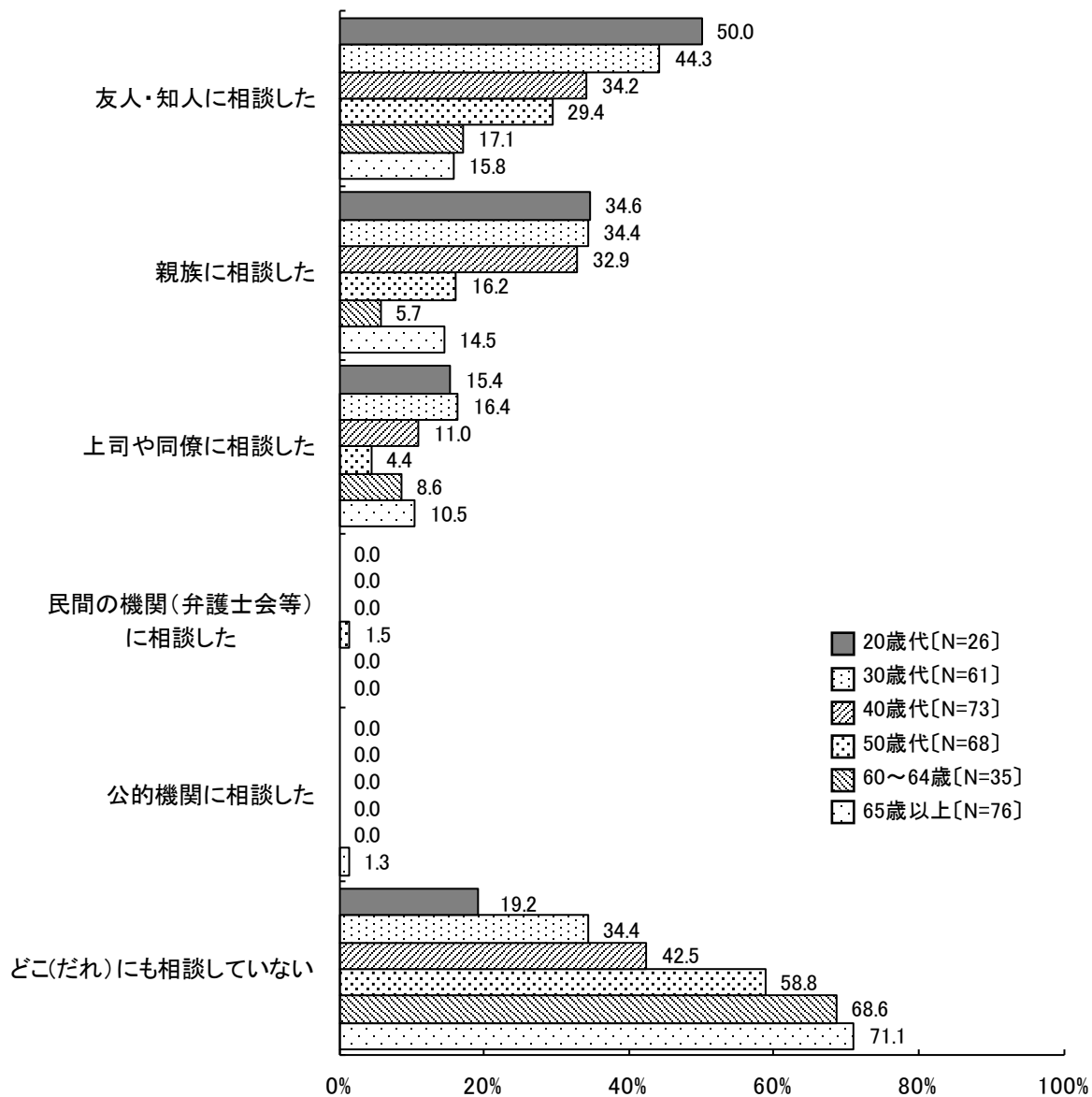
【年代別】

20歳代は、「友人・知人に相談した」が50.0%で他の年代に比べて高い。

「どこ（だれ）にも相談していない」は20歳代が19.2%に対し65歳以上は71.1%と高く、年代に比例して高くなっている。

問19-1で「職場」、「学校」、「地域」と回答した方のみ

19(2)-2図 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントをされた場合の相談状況について〔年代別〕



7. 男女共同参画の取り組みについて

(20) 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について

問20 あなたは、次の言葉や法律を知っていますか。それぞれについて1～3のいずれかに○

『知っている』（認知度が高い）順

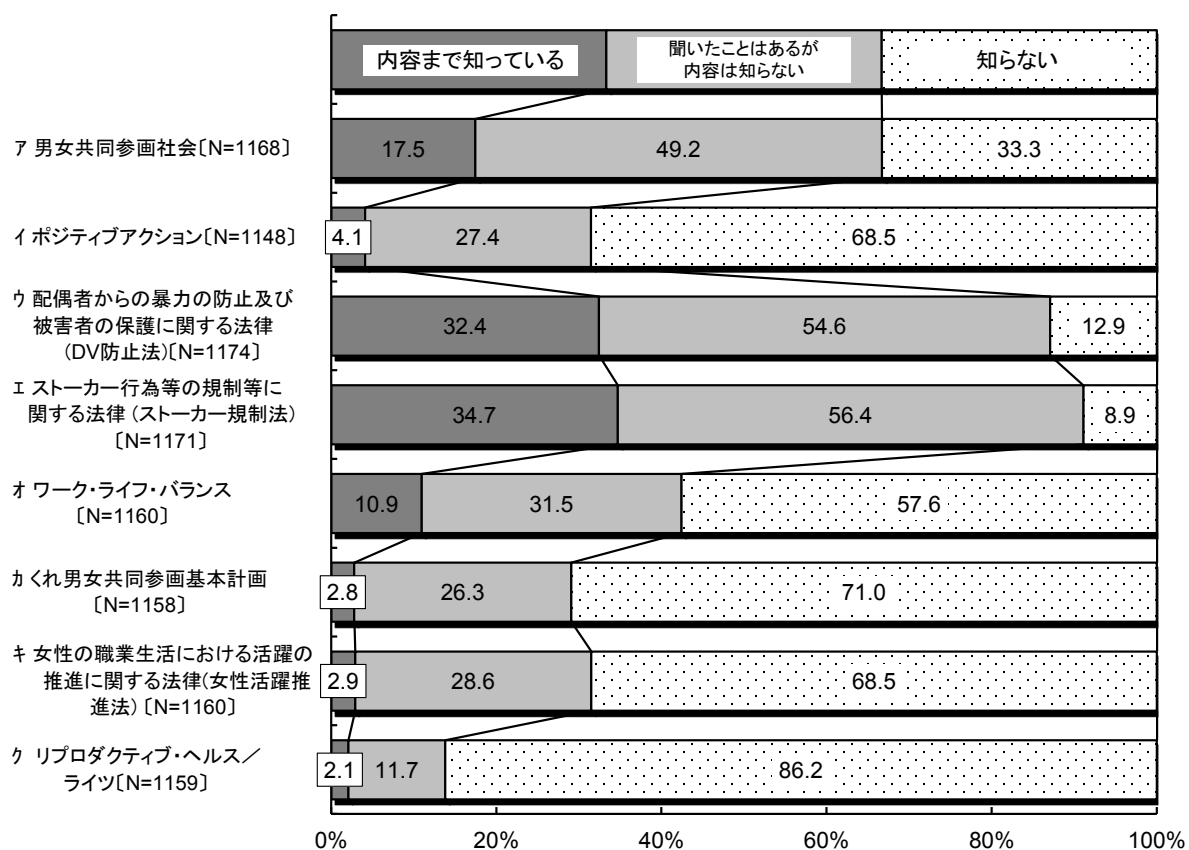
「ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）」	91.1%
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」	87.0%
「男女共同参画社会」	66.7%

※「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせて『知っている』とする。

■認知度が高い順

エ ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）	91.1%
ウ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	87.0%
ア 男女共同参画社会	66.7%
オ ワーク・ライフ・バランス	42.4%
イ ポジティブアクション <small>（社会的・構造的な差別によって不利益を被っている女性等に対して、実質的な機会均等を実現するための暫定的な措置）</small>	31.5%
キ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	31.5%
カ くれ男女共同参画基本計画	29.1%
ク リプロダクティブ・ヘルス／ライツ <small>（性と生殖に関する安全と健康を享受し、子どもを持つか持たないか、また、子どもの数や出産時期について決める自由を持つこと）</small>	13.8%

20-1図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体〕



ア 男女共同参画社会

『知っている』66.7%, 「知らない」33.3% ⇒ 『知っている』が33.4ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が49.2%と最も高く、「内容まで知っている」が17.5%で合わせて『知っている』が66.7%となっている。

『知っている』は、「知らない」33.3%より33.4ポイント高い。

【性別】

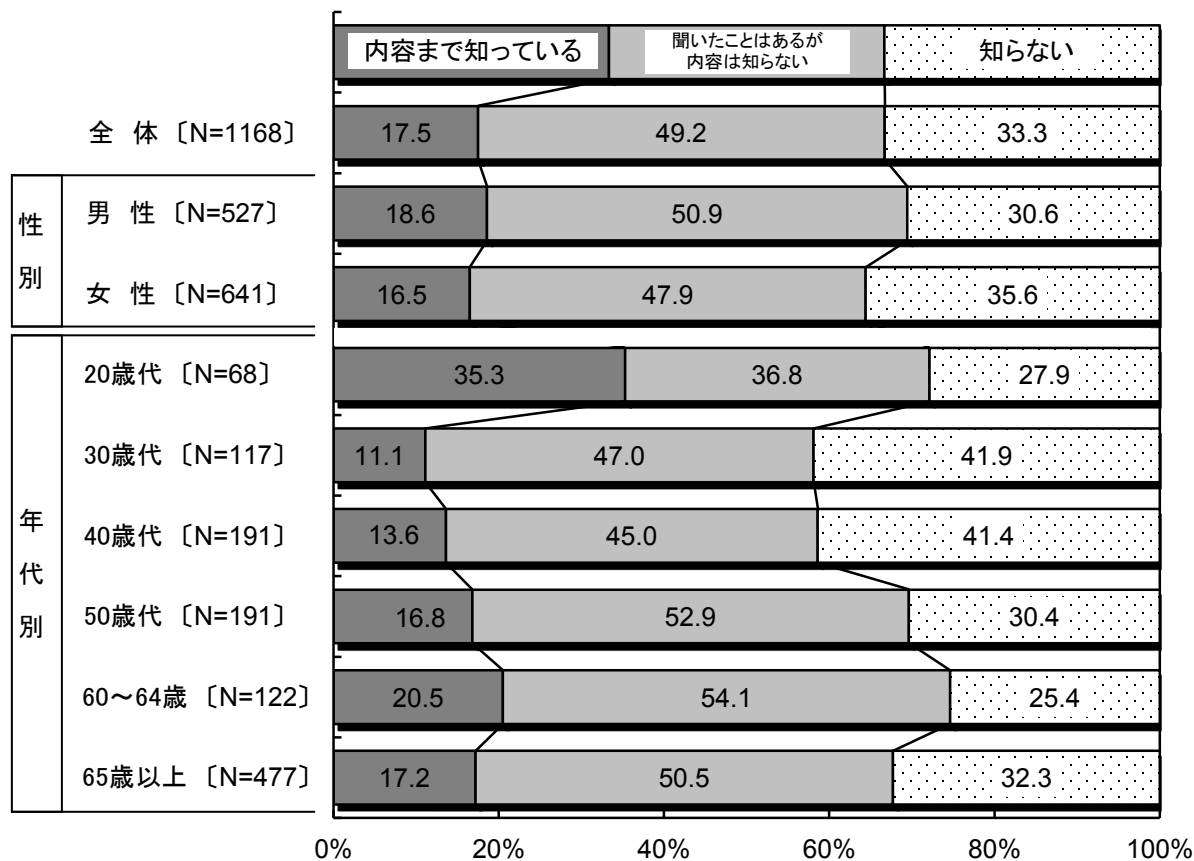
女性は「知らない」が35.6%で、男性の30.6%に比べて5.0ポイント高い。

【年代別】

20歳代は、「内容まで知っている」が35.3%で他の年代に比べて最も高い。

30歳代、40歳代は、「知らない」が40%を超えており、他の年代に比べて若干高い。

20-2図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(ア 男女共同参画社会)



イ ポジティブアクション

(社会的・構造的な差別によって不利益を被っている女性等に対して、実質的な機会均等を実現するための暫定的な措置)

『知っている』31.5%, 「知らない」68.5% ⇒ 「知らない」が37.0ポイント高い

【全体】

「知らない」が68.5%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が27.4%、「内容まで知っている」が4.1%で合わせて『知っている』が31.5%となっている。

「知らない」は、『知っている』を大きく上回っている。

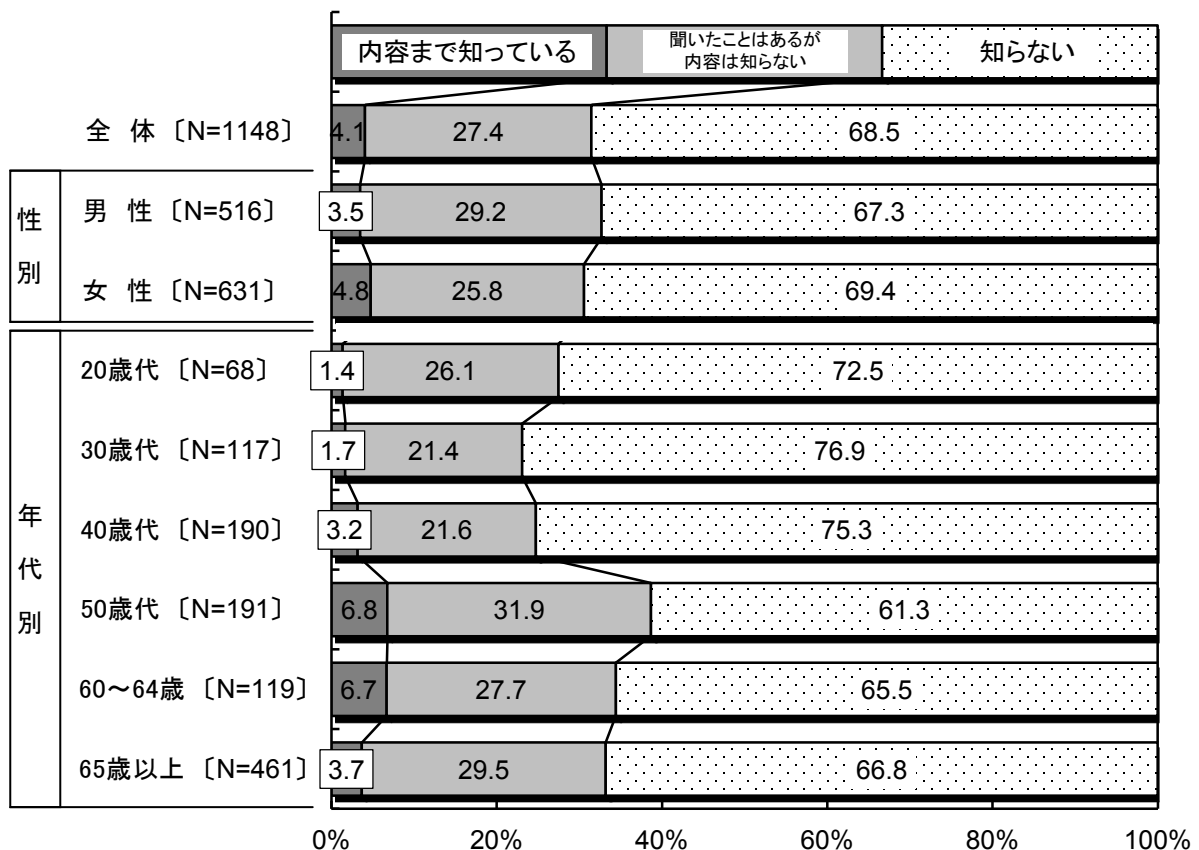
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

50歳代, 60~64歳, 65歳以上は、「聞いたことがあるが内容は知らない」がそれぞれ31.9%, 27.7%, 29.5%で若い年代に比べて高い。

20-3図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(イ ポジティブアクション)



ウ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)

『知っている』87.0%, 「知らない」12.9% ⇒ 『知っている』が74.1ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が54.6%と最も高く、「内容まで知っている」が32.4%で合わせて『知っている』が87.0%となっている。

『知っている』は、「知らない」12.9%より74.1ポイント高い。

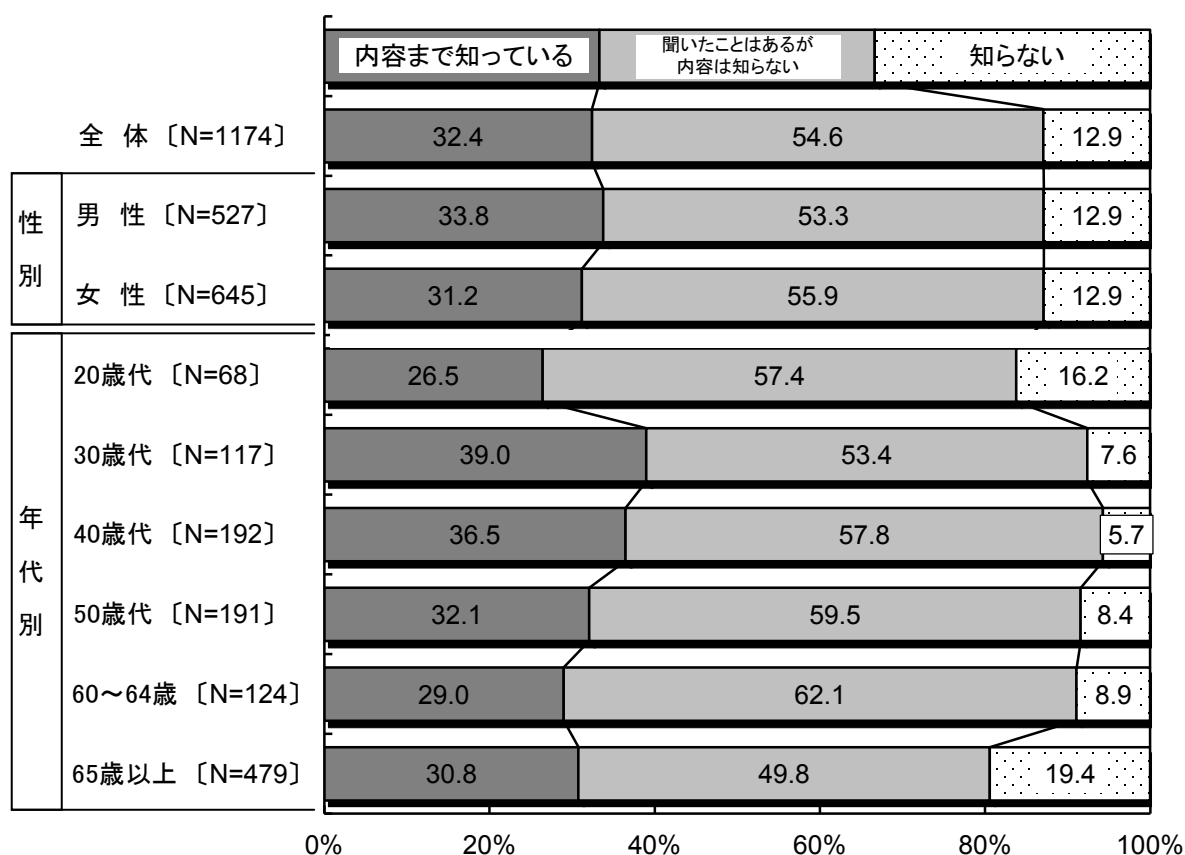
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代, 65歳以上は, 「知らない」がそれぞれ16.2%, 19.4%で他の年代に比べて高い。

20-4図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(ウ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法))



エ ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）

『知っている』 91.1%, 「知らない」 8.9% ⇒ 「知っている」が82.2ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が56.4%と最も高く、「内容まで知っている」が34.7%で合わせて『知っている』が91.1%となっており、『知っている』が「知らない」の8.9%を大きく上回っている。

【性別】

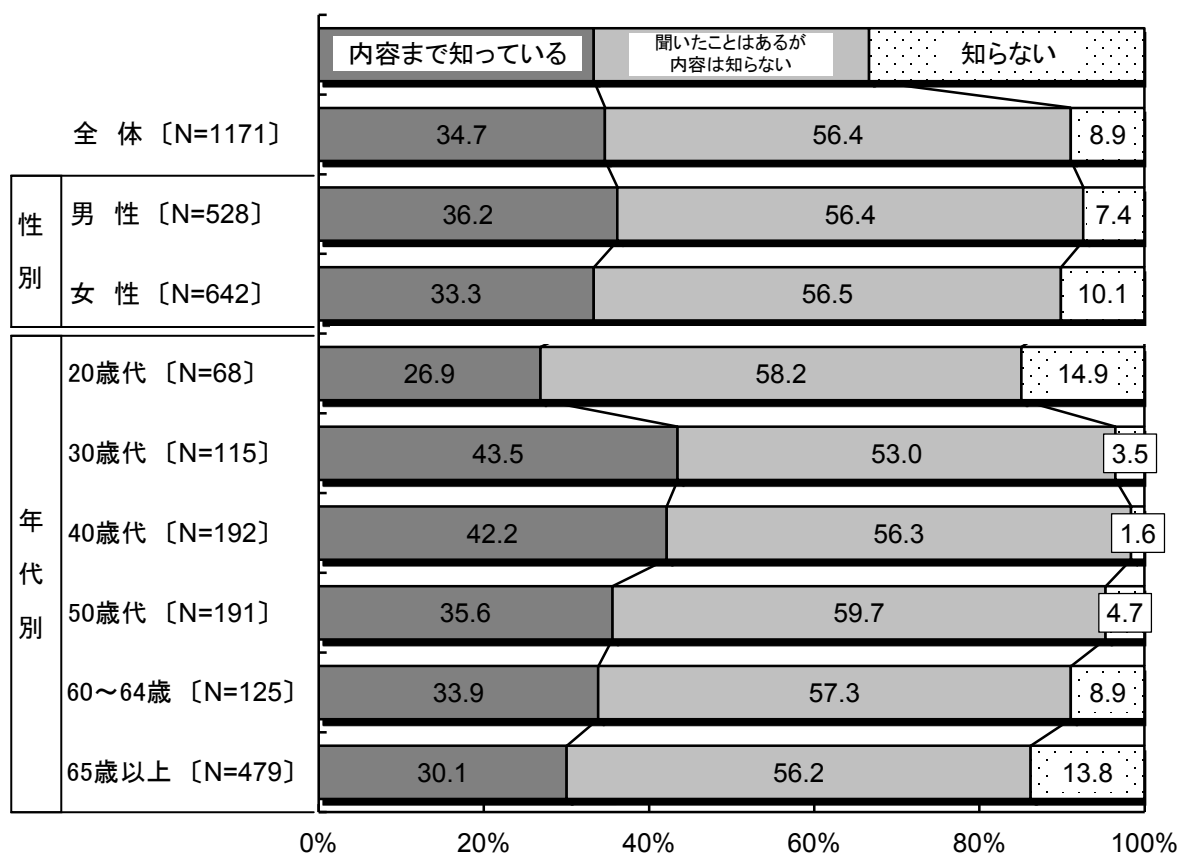
特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代は「内容まで知っている」が26.9%と他の年代より低い。

20歳代, 65歳以上は, 「知らない」がそれぞれ14.9%, 13.8%で他の年代に比べて高い。

20-5図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
（エ ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法））



オ ワーク・ライフ・バランス

『知っている』42.4%, 「知らない」57.6% ⇒ 「知らない」が15.2ポイント高い

【全体】

「知らない」が57.6%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が31.5%、「内容まで知っている」が10.9%で合わせて『知っている』が42.4%となっており、「知らない」が15.2ポイント高い。

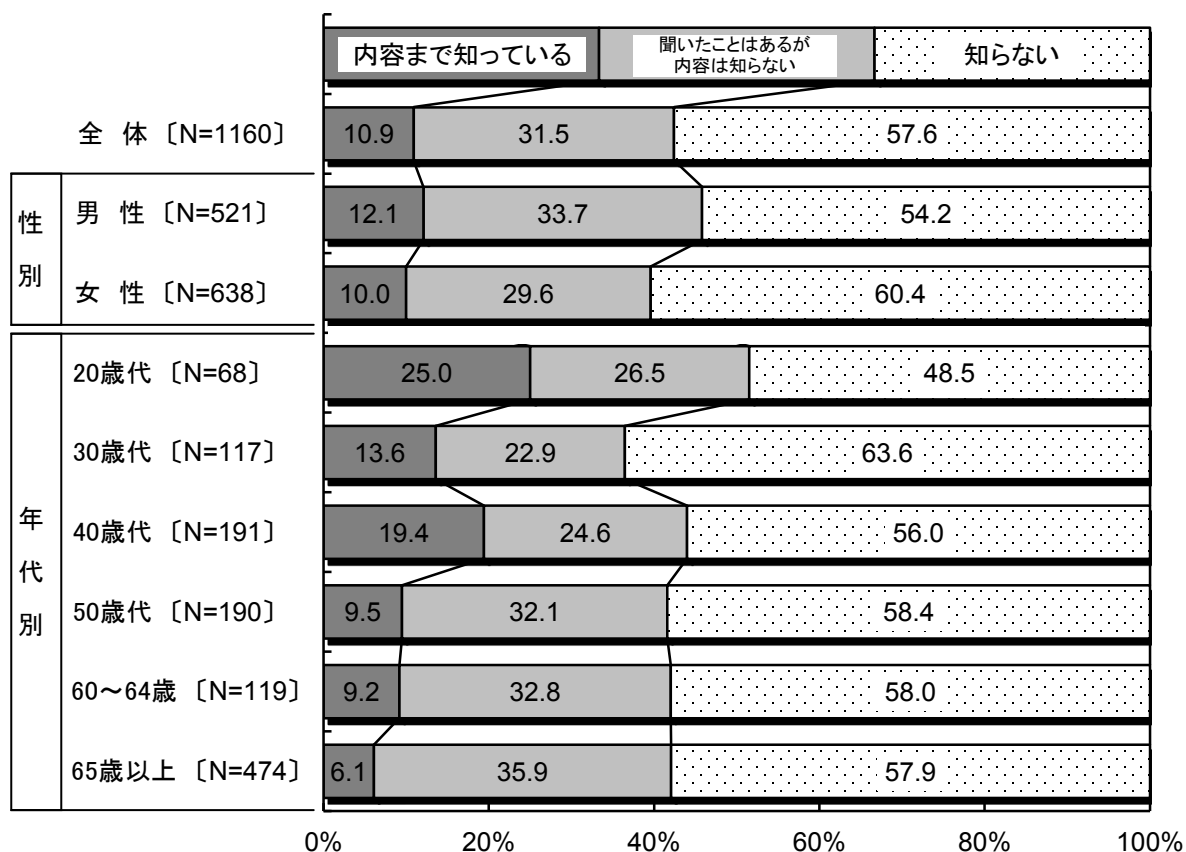
【性別】

女性は「知らない」が60.4%と男性の54.2%より6.2ポイント高い。

【年代別】

20歳代は「内容まで知っている」が25.0%と他の年代に比べて高く、「知らない」が48.5%で他の年代に比べて低い。

20-6図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(オ ワーク・ライフ・バランス)



カ くれ男女共同参画基本計画

『知っている』 29.1%, 「知らない」 71.0% ⇒ 「知らない」 が41.9ポイント高い

【全体】

「知らない」が71.0%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が26.3%、「内容まで知っている」が2.8%で合わせて『知っている』が29.1%となっており、「知らない」が41.9ポイント高い。

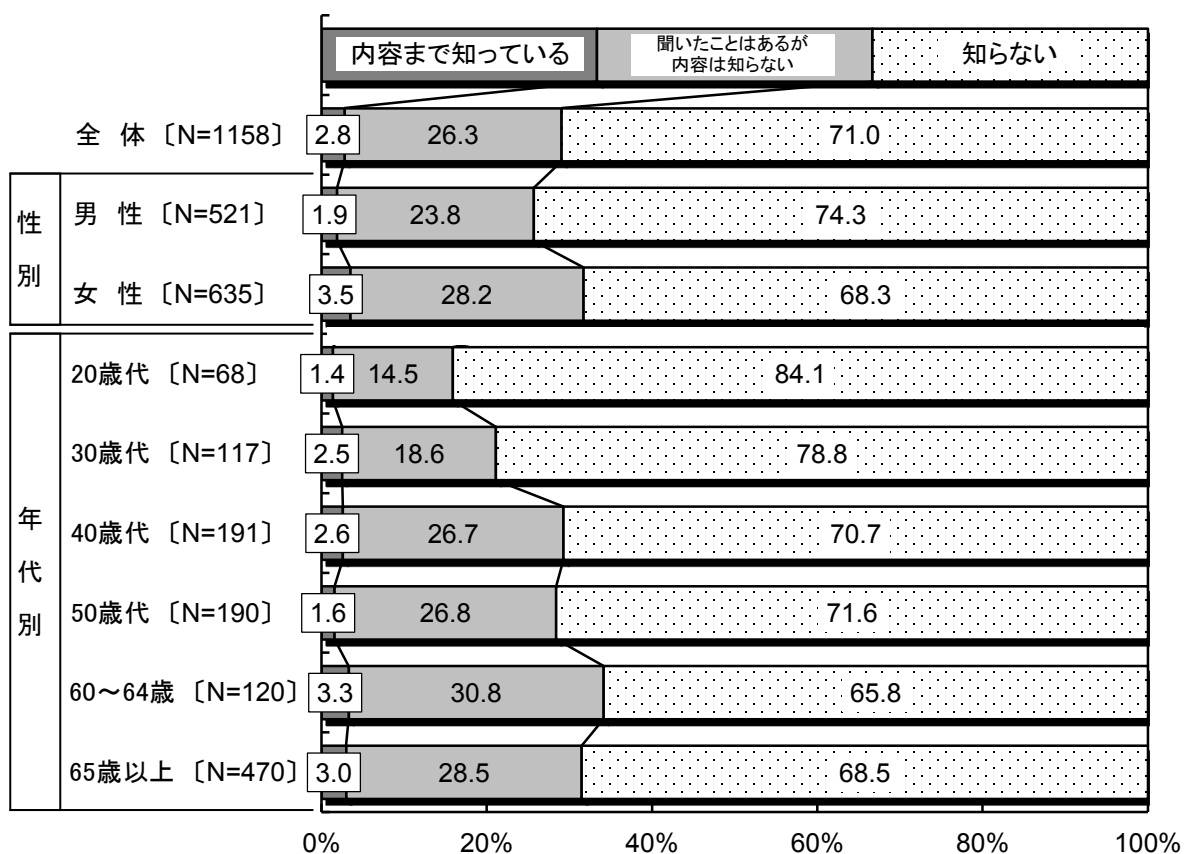
【性別】

男性は「知らない」が74.3%と女性の68.3%より6.0ポイント高い。

【年代別】

20歳代は、「知らない」が84.1%で他の年代に比べて高い。

20-7図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(カ くれ男女共同参画基本計画)



キ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

『知っている』 31.5%, 「知らない」 68.5% ⇒ 「知らない」が37.0ポイント高い

【全体】

「知らない」が68.5%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が28.6%、「内容まで知っている」が2.9%で合わせて『知っている』が31.5%となっており、「知らない」が37.0ポイント高い。

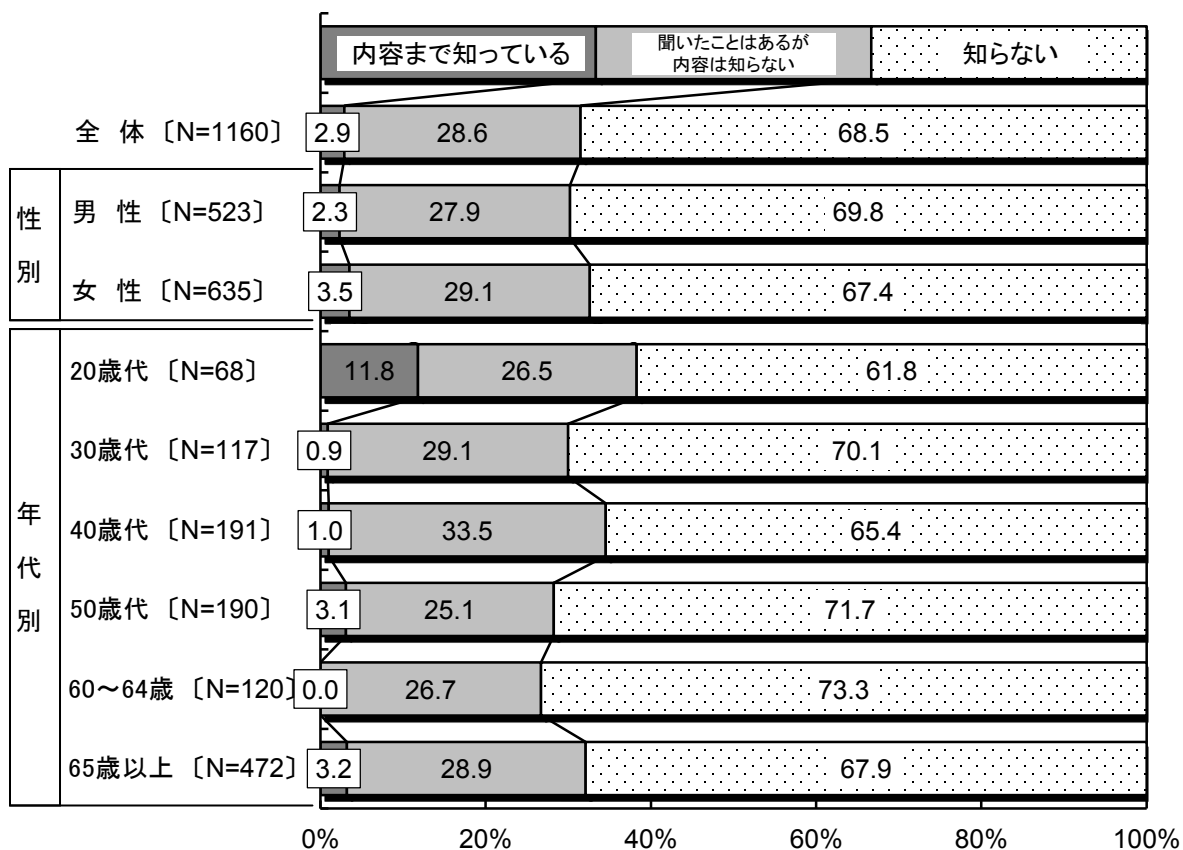
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代は、「内容まで知っている」が11.8%で他の年代に比べて高い。

20-8図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
（キ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法））



ク リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

(性と生殖に関する安全と健康を享受し、子どもを持つか持たないか、また、子どもの数や出産時期について決める自由を持つこと)

『知っている』13.8%, 「知らない」86.2% ⇒ 「知らない」が72.4ポイント高い

【全体】

「知らない」が86.2%と最も高く、「聞いたことがあるが内容は知らない」が11.7%、「内容まで知っている」が2.1%で合わせて『知っている』が13.8%となっており、「知らない」が72.4ポイント高い。

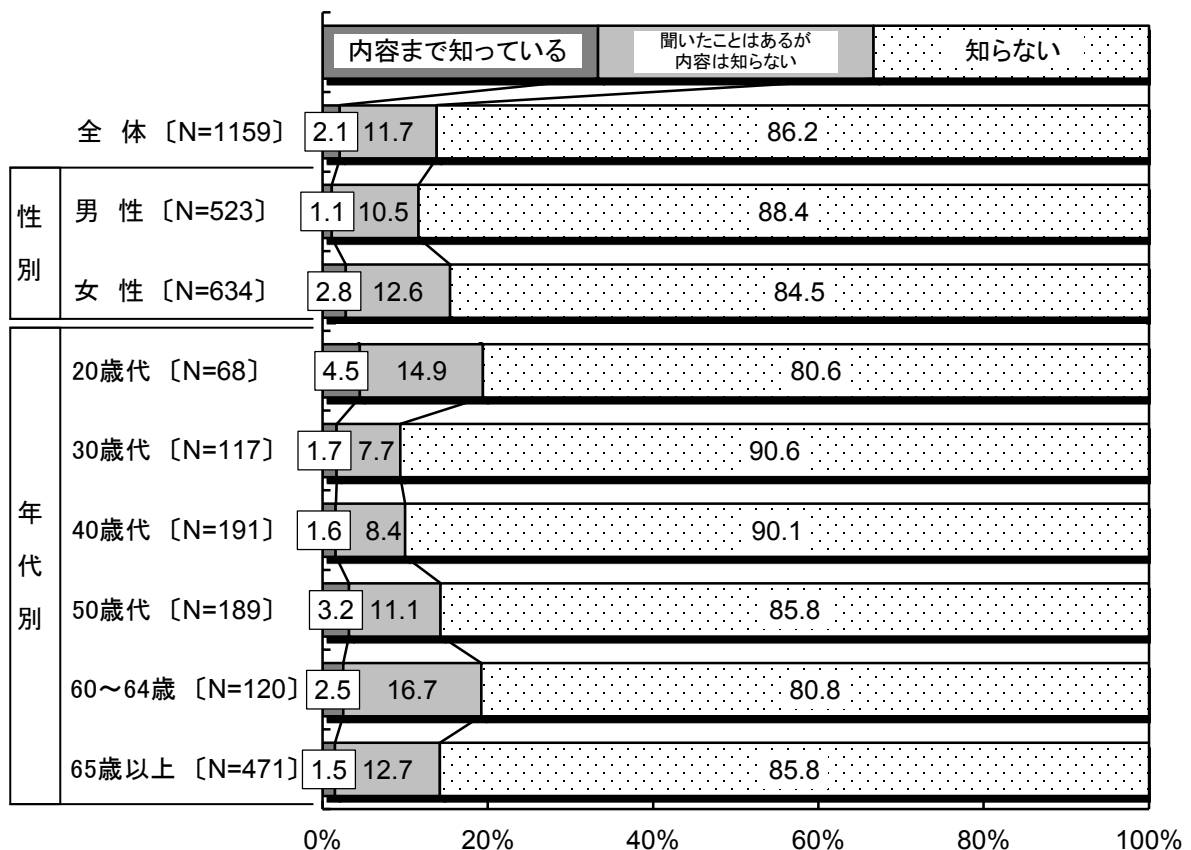
【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

20歳代、60～64歳は、「内容まで知っている」「聞いたことがあるが内容は知らない」を合わせた『知っている』がそれぞれ19.4%、19.2%で他の年代に比べて高い。

20-9図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(ク リプロダクティブ・ヘルス／ライツ)



(21) 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔複数回答〕

問 21 呉市が男女共同参画を推進する上で、どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。○はいくつでも

1位	「子育て支援の充実」	58.9%
2位	「男女共同参画に関する情報の提供」	49.7%
2位	「高齢者支援の充実」	49.4%

※「男女共同参画に関する情報の提供」の49.7%と「高齢者支援の充実」の49.4%は、回答比率の差が信頼区間未満のため共に2位としている。

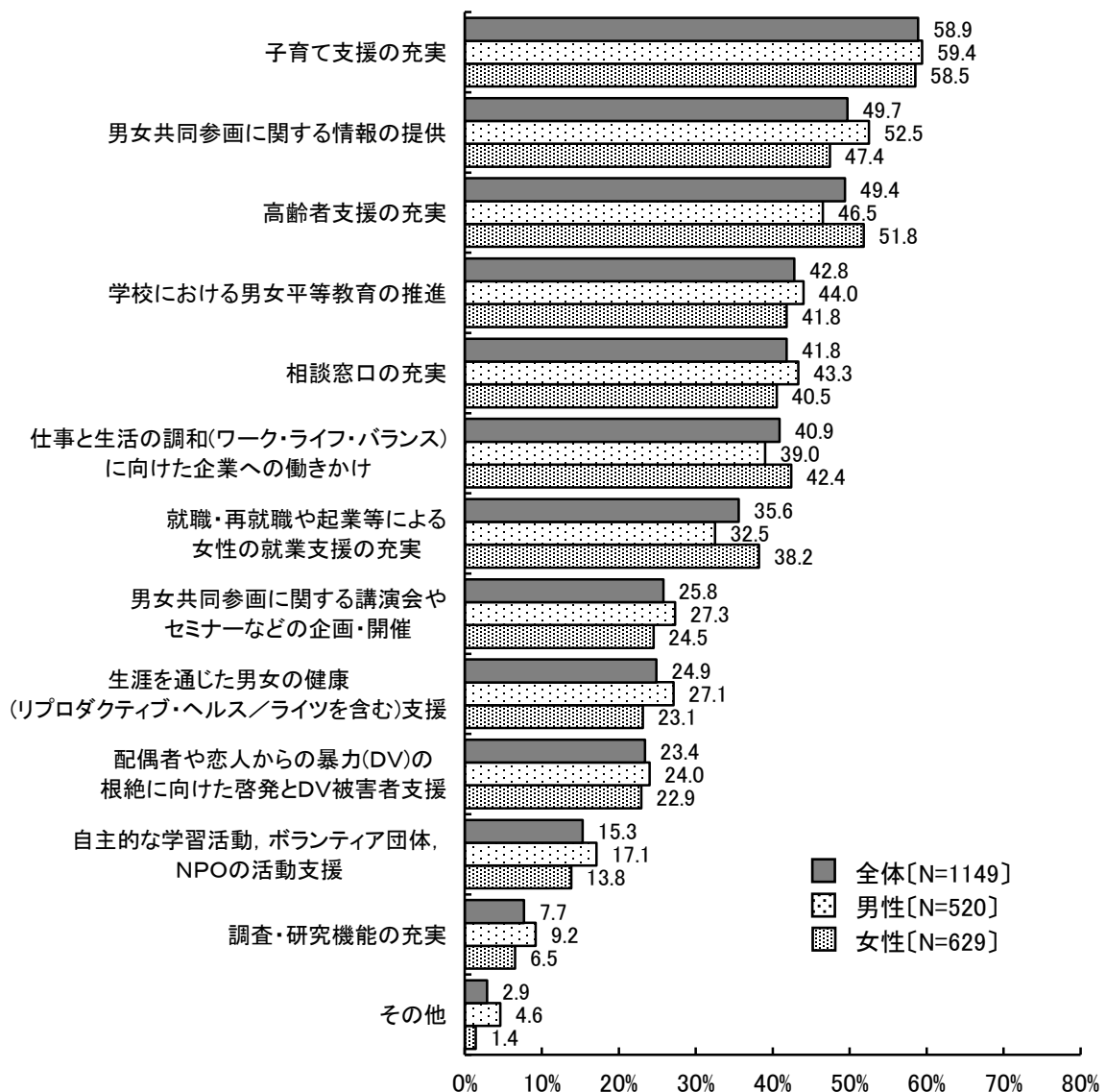
【全体】

「子育て支援の充実」が58.9%と最も高く、「男女共同参画に関する情報の提供」が49.7%、「高齢者支援の充実」が49.4%、「学校における男女平等教育の推進」が42.8%で続いている。

【性別】

女性は「高齢者支援の充実」が51.8%、「仕事と生活の調和に向けた企業への働きかけ」が42.4%、「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実」が38.2%で男性より高い。

21-1図 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔全体・性別〕



【年代別】

20歳代、30歳代は、「子育て支援の充実」がそれぞれ76.9%、77.8%で他の年代に比べて高い。

また20歳代は、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に向けた企業への働きかけ」が63.1%で他の年代に比べて高い。

20歳代は、「男女共同参画に関する情報の提供」が32.3%で他の年代に比べて低い。

65歳以上は、「高齢者支援の充実」が61.3%で他の年代に比べて高い。

21-2図 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔年代別〕
(上位10項目)

